



2024年度版

# 東洋大学 ボランティア支援室年報

TOYO University  
Volunteer Support Office  
2024 Annual Report



東洋大学

## 富士樹海清掃ボランティア



——認定 NPO 法人「富士山クラブ」と共に青木ヶ原樹海で清掃活動を実施し、総計 130kg 超のごみを回収しました。



少しでもごみが落ちていると、「捨てていいんだ」という気持ちになってしまう人間の心理を知った。



今回少しのエリアを掃除するだけで 130kg ものゴミが集まったことに驚いた。自然を守るためには人間の意識を変えることがまず大切だと思った。



タイヤや毛布など「なぜこんなものまで？」と思わず疑問を抱いてしまうような、通常この場所にあるはずのないゴミも落ちていました。それだけではなく、シカが落ととしていった角が落ちていたり、青木ヶ原樹海が見せる自然を感じる場面もありました。

## 赤羽台団地まつり



——今年で第56回を迎えたお祭りは、団地在住者に加え、近隣の方々も巻き込んで大規模に開催されました。



積極的に盛り上げていこうと思い行動することが、成功に繋がると実感しました。



このようなお祭りを続けていくためには、ボランティアや自治会の後継者が必要であると身に染みて感じました。



私は、ヨーヨーのブースを担当したのですが、家族や友達と動画を撮りながらみんなでヨーヨーを楽しむ様子がとても微笑ましく、素敵な空間を共有出来たことが嬉しかったです。

## <2024> 夏季能登半島地震ボランティア



——震災から半年以上経っても未だ課題が山積みである現状を目にし、引き続き全 20 クール、総勢 111 名によるボランティア活動を行いました。



活動を通して、自分も誰かの助けになれたと自信を持てた。少しでも力になればと参加したこの活動が、私に強い力と元気を与えてくれた。



家電配達や側溝の泥除去作業を通じて、復興が進まない現状や人手不足の深刻さを痛感し、継続的な支援の重要性を強く感じました。



どこへ行っても「来てくれてありがとう」と言っていたことで、大学生として少しでも何かの役に立てたのかもしれないと感じた。今後も能登を気にかけてながら、災害後に現地に赴く重要性を伝え続けていきたいと思う。

## ワークキャンプセンタープログラム 益子コース



——3日間の里山保全活動を通じて、里山の大切さや自然との共生について考えを巡らせ、充実した三日間を過ごすことができた。



今まで他人事のように感じていた竹や害獣、森林保護という社会課題を身近に、そして自分事として捉えるようになった。



初日は体力が持たずただ疲れ果てた活動も徐々に慣れていき、竹の伐採という活動を経て、森林保護の重要性を自分自身で発見出来た。



普段生活している中では関わることの無いような方々と活動を共にし、とても刺激を受け、濃く充実した3日間を送ることが出来ました。

# 東洋大学ボランティア支援室開設8年目の活動について

ボランティア支援室長 高山 直樹

スウェーデンのウプサラ紛争データプログラム (UCDP) では、2023年の国家規模の紛争は前年比3件増の59件となり、第2次世界大戦後最も多くなりました。ウクライナをはじめ、アフリカ・アジアなどで紛争が長期化し、24年も増加基調である。米国のトランプ政権下による人権が脅かされる政策と自国主義での関税で衝突、また国連の機能不全が深まるなか、これらの暴力の連鎖をどう止めるかが問われています。国内においても、多くの社会問題が山積しています。超少子化、虐待、子どもの貧困、8050・9060問題、闇バイト、災害の激甚化等、枚挙にいとまがありません。そこに関連している国および人々、自然、環境、宗教、文化等を理解していく視点やそこに関わりをもつ「わたし」が自分事としてとらえ、いかに考え、どのように行動するのかが問われています。しかし国内外の現実はいまだ「いまだけ・ここだけ」そして「わたしのことだけ」を考えているのではないのでしょうか。またこれらのニュースに多くの人々は辟易しつつも、そこにいる「わたし」は、「しかたがない」という言葉であきらめてしまっている現実があります。

東洋大学の創始者井上円了は、「諸学の基礎は学問にあり」として、各分野の学問が、人間にとって社会にとってどのような意味を持つのか。なぜ学ぶのかという学問の本質的な原理原則を探求する哲学こそが、学問の基礎をなすと考え、1887(明治20)年に東洋大学の前身である「哲学館」を創立しました。その直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育や第二部(イブニングコース)へと継承してきました。さらに「主体的に社会の課題に取り組む」ことを基盤とし、特に「他者のために自己を磨く」という教育理念を具現化するために社会貢献を柱の一つとし、人材育成をしてきました。

それは、今、混迷のなかにある国内外の問題を自分ごととし、社会の幸せの在り方を発信していくことが東洋大学の使命といえます。そのためには、積極的な社会貢献を進めることになります。東洋本学は、3万人超の学生を擁し、17大学院研究科、14学部を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を必要としている人たちや地域に届ける方法の一つが、ボランティア活動であります。

東洋大学では、さまざまなボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ他の活動は、多岐にわたります。これらの活動を一元的に把握し、特に学生がボランティア活動をするための情報提供、活動支援、助言等をおこなっているのがボランティア支援室です。具体的には、これらの活動を実施するために専門のスタッフ(ボランティアコーディネーター)を配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、ボランティア支援室では、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。またボランティ

ア支援室に設置した専門部会や運営委員会の教職員を中心に常に検討を重ねてきています。

2024年1月1日の16時10分、能登半島地震が起きました。そして復興が新たな段階を迎える一方で、9月21日には、令和6年奥能登豪雨により、心が折れる被害となりました。東洋大学は、震災直後から、学生のSDGsアンバサダーを中心に、4つのキャンパスで募金活動がなされ、多くの学生や教職員が募金に思いを込めました。また支援の組織やあり方に関して、社会貢献センターを中心に検討を開始し、数回における視察を行い、現地の方々との関係を構築してきました。被災地に迷惑がかからないボランティア等の活動の可能性、そのための連携先、宿泊先の確保の調査等を行いました。3月の春季休暇に石川県志賀町で学生と教職員の協働チーム（延べ12人）が先遣隊として、主に被災者の自宅に伺い、がれきの撤去や家の中の整理といった活動を行いました。5月の連休には輪島市門前町での活動、8月には、輪島市、珠洲市、志賀町での瓦礫撤去や子ども支援、11月には豪雨による汚泥の処理、2、3月には、被災者宅の片付け、雪掻き、仮設住宅の居住者のニーズ調査を行ってきました。学生、教職員の参加人数は209名となりました。また参加学生を中心に継続的な支援を行うために「青いビブス」という名称の団体を組織化しました。

散乱した家の数々の思い出がある生活用品を一つひとつ家主の方と相談・確認をしながら、廃棄していく過程に寄り添えたこと、能登の「キリコ祭り」や食事等、能登の文化を体感したことから、家族や地域の大切さを「自分事」とにできたとともに、東洋大学が能登の支援に継続的にかかわる必要があると確信しました。今後は、東洋大学の学部、学科等の教育・研究を還元していく支援をオール東洋で展開していきます。

ここに、2024年度ボランティア支援室の報告書をお届けいたします。ぜひお読みいただき、ご指導・ご助言をいただきたくお願い申し上げます。



東洋大学能登復興支援団体「青いビブス」

# 目次

■ 東洋大学ボランティア支援室開設8年目の活動について	5
■ 目次	7
■ 2024年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況	9
■ 活動内容・各企画概要	
① 東洋大学SDGsアンバサダー新歓説明会	24
② TOYO 1Day ボランティアプログラム「カンボジアフェスティバル2024」運営ボランティア活動	26
③ b-lab見学ツアー	29
④ 「とびこめ!ボランティアの森～ボランティア団体合同新歓2024 in 白山～」	31
⑤ あじさい祭り	33
⑥ パラスポーツ(ブラインドサッカー・ゴールボール)体験	35
⑦ 東洋大学SDGsアンバサダー認定式・顔合わせ式	37
⑧ 防災備蓄品食料配布プロジェクト	39
⑨ 「ボランティア入門講座2024 in 赤羽台」	42
⑩ 「そなエリア東京」フィールドワーク(「防災クイズ&ゲームDay2024」実施に合わせて)	44
⑪ 火災臨場VR体験	47
⑫ あなたの中にモヤモヤはありますか?「月経理解は異文化理解」	49
⑬ 「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」(赤羽台)	51
⑭ 「トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”」(白山)	53
⑮ 「SDGsカフェ～にじいろ編～」	55
⑯ 赤羽台団地まつり	57
⑰ 「クールアースフェア2024」出展	59
⑱ 株式会社ドミノ・ピザ CSRスタディーツアー	61
⑲ Toyo 1day ボランティアプログラム「『根津神社祭礼 町内神輿 <sup>とぎよ</sup> 渡御』ボランティア活動」	63
⑳ 「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO2024」への出展	66
㉑ 赤羽地域交流企画「盆踊り」	70
㉒ Toyo 1day ボランティアプログラム 「ビーチクリーンアップ in YUIGAHAMA Beach～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～」	72
㉓ 秋季能登半島募金	75
㉔ SDGsアンバサダーボランティア支援室ツアー	77
㉕ TUEP主催赤羽台祭イルミネーション企画	78
㉖ 本回収から子どもたちの笑顔に～「夢の本箱」 in 赤羽台祭～	79
㉗ 2024白山祭 SDGsアンバサダー出展	81
㉘ Toyo-MeW プロジェクトによる白山祭出展	83
㉙ 「bon×bon festa AKABANEDAI」	85
㉚ おにぎりアクション2024 in 東洋	87
㉛ 緊急連絡訓練くじイベント	89
㉜ 災害救援ボランティア講座	91
㉝ 学生団体見本市 フミキャン2024	93
㉞ 「SDGs Weeks EXPO 2024(エコプロ2024)」への出展	95

35 東洋大学SDGsアンバサダー×学ボラ×Salamat 3団体交流会	97
36 生理痛体験イベント～あなたが知らない私の痛み～	101
37 SDGsカフェ「私たちは生きづらいのか～若年層の生きづらさを考えてみよう～」	103
38 小学生のためのオープンキャンパスin東洋大学白山キャンパス	107
39 Toyo 1day ボランティアプログラム 「その木はどこから来てどこへいくのか?～子ども向け環境教育ワークショップを企画し、実行しよう～」	110
40 いのちを守る安心なトイレプロジェクト～災害時、トイレのせいで大切な命をなくさないために～	112
41 ゼロからぼら活!～一緒に探そう、あなたの一歩～	114
42 東洋大学ボランティアカフェ「シゴトにつながる?まちづくりボランティア! ～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう!～」	115
43 東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」	117
44 文京区「文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ」	119
45 SDGsカフェ「ワークショップで学ぶSDGsの概念理解」	121
46 SDGsワークショップ「障がい学生と作るインクルーシブキャンパス～ゼロから学ぶソーシャルサポート～」	124
47 樹海清掃ボランティア	127
48 被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー	129
49 「里親子デイキャンプ」	130
50 合宿型ボランティアプログラム「2024ワークキャンププログラム田人コース / 福島県いわき市」	133
51 「能登半島地震の経験から、首都圏における大規模災害にどう備える? ～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊サバイバル体験～」	135
52 「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」	138
53 被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー(春)	140
54 NICE 東洋大学ワークキャンプ@栃木2025	142
55 東洋大学SDGs Weeks 2024 × 「里親月間」特別企画	145
56 子ども・若者の生きづらさと居場所支援～支援現場からみた公的支援の課題～	146
57 CSR論公開講義「企業と人権」	147
58 学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割	148
■ 能登半島地震ボランティア活動記録	149
■ 2024年度 ボランティア支援室 各企画資料	161
■ 2024年度 ボランティア支援室 資料・記録	182
ボランティア支援室 ガイダンスの実施	182
東洋大学ボランティア支援室要項	183
ボランティア支援室運営委員会委員名簿	185
2024年度 ボランティア支援室運営委員会・専門部会活動記録	187
2024年度東洋大学ボランティア支援室に対する内部評価結果	189

# 2024年度 ボランティア支援室 活動内容・利用状況

## ボランティア支援室における活動を振り返って

開設8年目を迎えた東洋大学ボランティア支援室（以下、支援室）は、年間を通じて以下の取り組みを重点的に進めました。

### 【主な取り組み】

#### 1. 「令和6年能登半島地震」「令和6年9月能登半島豪雨」ボランティア活動

2024年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」ならびに、9月に発生した豪雨災害で被災した石川県能登半島の各地域に、夏季24クール、春季9クールでのべ160人の学生ボランティアの送り出しを行い、被災した地域の復興を支援する取り組みに注力しました。

この取り組みに関連して、9月には夏季能登半島地震ボランティア活動報告会、3月には映画「凧が灯るころ」上映会を開催しました。また、夏季ボランティア活動をきっかけに、学生団体「NOTO×TOYO 青いピブス」が発足し、引き続き能登に寄り添っていくための足がかりができました。

#### 2. ボランティア等情報の全学生への発信

東洋大学ボランティア支援室学内情報サイトを通じて、学外から寄せられたボランティア募集情報や、ボランティア支援室主催事業等の情報を全キャンパスの学生に配信しました。

また今年度は、ボランティア支援室学生サポートスタッフ（以下、学生サポートスタッフ）や、SDGsアンバサダーがそれぞれ公式Instagramアカウントを開設し、学生ボランティアによる学生目線のボランティア関連情報の発信というチャンネルが創設されたことが、取り組みとして特筆されます。

その他、東洋大学アプリ内の機能の一つ「Discover」への情報発信を行い、学生がスマートフォンから手軽に活動参加へのきっかけを提供できるように注力しました。

#### 3. ボランティア活動相談等への対応

引き続き、2名のボランティア・コーディネーターによるボランティア活動相談体制を確保し、学生からのボランティア相談対応や、地域団体からの学生ボランティア受け入れの相談対応を行いました。

今年度新たな試みとして、1月には学生サポートスタッフが「学生サポートスタッフによる、ボランティア相談会」を白山キャンパス、赤羽台キャンパスにおいて開催。事前にボランティアコーディネーションに関する研修を経て、期間中4件の本学学生からのボランティア相談に対応しました。「就職活動とボランティア活動の両立は可能か？」という学生からの相談に対し、学生サポートスタッフは自分たちの経験を踏まえて学生のニーズに寄り添って対応することができ、学生サポートスタッフの有用性を再確認できた事例ともなりました。

#### 4. ボランティア活動促進のための講座、イベント等の実施

ボランティア活動や社会参加のための活動への「はじめの一步」を後押しすることを目的とした「Toyo 1day ボランティアプログラム」は、計5プログラムを実施しました。

今年度は新たに、ボランティアサークル「学ボラ」との協働のもと、文京区蓬莱町会の方々の受け入れによる、根津神社祭礼への神輿渡御への参加をプログラム化しました。例年「学ボラ」は、蓬莱町会のさまざまな行事にボランティアとして参加し、信頼関係を築いてきましたが、部内に留まらずより広範な東洋大生に参加の機会を提供したいということ、また蓬莱町会としても、会員の高齢化に伴っ

てマンパワーを必要としていたというニーズがあり、コーディネーター・学生・町会の三者で意見交換を重ねながら、参加学生が単に人手として必要とされるのではなく、地域の伝統文化や町会の有用性について考え、学ぶ機会を創出していくことを確認し、実施に至りました。どちらかというボランティア支援室ではこれまで個々の社会課題を軸にした「テーマ型」のプログラムが多かった中、今回のプログラムは特定の地域に根差した「地縁型」で、結果としてボランティア支援室としても大学周辺地域との地縁を強めるきっかけとなりました。

ほか、今年度も東洋大学学生課外活動育成会の支援を受け、実施されたプログラム7つを含めると、これらはいずれも単発型のプログラムとして実施されたものとなります。昨今の「エピソード・ボランティア\*1」志向の高まりに照らし合わせると、活動者（学生側）のニーズに対応していると見るべきなのか、「社会参加・参画」に結びつけていくためにもう一步踏み込んだ、イベント実施だけでない働きかけが必要となるのか、分析が必要となりそうです。

## 5. 授業におけるボランティアセミナー等の実施

ボランティア支援室のボランティア・コーディネーターが授業に登壇し、ボランティア活動に関する入門的な講義・ワークショップやコメントーションなどを計12回実施しました。授業の形式は対面またはオンライン（リアルタイム）の両方ありましたが、これらとは別にオンデマンド教材を提供した科目が1コマありました。今年度は赤羽台キャンパスにおいて、健康スポーツ科学部と連携することができ、1年生向けにガイダンスおよび見学を実施しました。

また、コーディネーターの登壇とは別に、学生サポートスタッフに登壇依頼があった授業が1コマありました。

これまでボランティア支援室を知らなかった学生が、授業をきっかけに来室することにつながるなど、今年度も学生の支援室への来室から、社会参加につながるきっかけづくりとして機能しました。

## 6. 支援室学生スタッフ（サポートスタッフ）の育成

学生のボランティア活動や社会貢献活動に関する理解を深めリーダーシップの涵養を図ることと、ボランティア支援室の活動の学生へのアプローチ力を高めるための試みとして、サポートスタッフによる活動展開が継続されています。今年度は計25名で活動を行いました。

今年度は、メンバー数が増えたことにより「班」を組織し、役割分担を明確にしながら取り組みを進めていきました。主にボランティアサークル間のネットワークをすすめる「コミュニティ班」、ボランティア活動に関する知識を積み重ねるための「勉強会」の検討を進める班、そして新たに学生サポートスタッフが学生のボランティア活動相談に対応していくための「コーディネート班」に分かれ、より学生主体の活動として、新たな試みも多数生まれました。

また、7月と11月には研修を実施。大学ボランティアセンターとそこで活動する学生スタッフのあり方について体系的に学び、ボランティア相談対応のための技術を学ぶためのロールプレイを行うなど、今後の活動の基盤を築く機会となりました。

## 7. SDGsに関する取り組み

「東洋大学SDGsアンバサダー」（以下、SDGsアンバサダー）を中心とした学生主体的なSDGs活動の展開と、それに対するサポートが4年目となりました。今年度は、昨年度からの継続者34名と新規登録者59名を含め、今年度に全学計93名の学生がSDGsアンバサダーとして活動しました。

昨年度までの活動の振り返りを踏まえて、「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ&インクルージョン」の3チームを編成し、白山・赤羽台・川越・朝霞の4キャンパスでの活動もさら

なる活発化を図りました。そのなか、東洋大学ウォーターサーバープロジェクト (SPRING) が結成され、カーボンニュートラルの視点から大学内におけるウォーターサーバーの設置と利用の推進活動を行いました。また、「広報局」による広報誌の作成やSNSアカウントの開設など、より学内外に向けて活動の情報発信を意識した取り組みが行われていました。他には、大学祭や「エコプロ\*2」をきっかけに、他大学や企業など学外とのつながりも広がり、さらに多様な視点から学ぶ・考えるSDGsに関するイベント・取り組みを企画しました。

## 8. 他機関・地域・他大学等との連携

文京区内の地域交流活動に関する大学間連携の一環として、学生支援担当者連絡会 (通称「地域ニーズの会」) の会合に、引き続き出席しました。今年度は、文京区社会福祉協議会の呼びかけのもと、2ヶ月に一度のペースで会合が開かれ、各大学における地域交流活動の取り組みの共有から連携・協力の可能性を模索しました。

3月には、年1回実施している文京区内大学の学生による地域交流活動報告会が、今年は日本女子大学を会場として行われ、本学からも学生サポートスタッフと、学生ボランティアサークル (学ボラ) が発表者として参加するための調整を行いました。

また、赤羽台分室が開設2年目として、所在地の北区との連携をより進めました。特に、赤羽圏域内の地域包括支援センター・高齢者あんしんセンターとの連携のもと、赤羽台キャンパス所属の学生と地域の住民が話し合いを重ね、「盆踊りイベント」を企画しました。12月に、その振り返りや今後の地域連携の課題に関する意見交換として、「赤羽圏域地域包括ケア連絡会」に出席しました。

## 9. その他

各事業の実施については、ボランティア支援室だけではなく、学生部等学内の関係部署・団体との連携・協働を図り、さまざまな活動や事業のスムーズな実施を心がけました。特筆すべきこととして、障がい学生に関する理解と支援のワークショップの企画では、はじめて学生支援課・ウェルネスセンターとの連携を実現することができ、大きな協力が得られました。

-----  
\*1: 「エピソード・ボランティア」とは、2000年代以降に見出されるようになった、新たな方法で人々がつながる機会を提供しているNPOやボランティアの活動を指す。具体的には「組織にはしぼられたくない／組織として関係者をしぼりたくない」「濃い人間関係は苦手」「自分の都合のいいときだけ (不定期に)、好きな方法で参加したい」「責任を負う立場を好まない」「誰かを支援しているつもりはない。自分がしたいからしている」「表立っての主義・主張も積極的にはしない方が多い」といった特徴があるという。(渡戸一郎「変化するNPO・ボランティアと中間支援組織のあり方を考える」一般社団法人多文化社会専門職機構 WEBコラム<18>より)

\*2: 日本経済新聞社が主催する、企業・団体・教育機関等が、自団体の環境・SDGsへの取り組みを企業や学生に直接PRすることを目的として開催される大規模展示会。

ボランティア・コーディネーター

日比野 勲

陶 嘉禱

## 2024年度 東洋大学ボランティア支援室学生サポートスタッフの取り組み

東洋大学ボランティア支援室のような大学ボランティアセンターは、1995年の阪神・淡路大震災を皮切りに全国の大学に設置されるようになり、2022年度時点でおよそ170\*のセンターが各キャンパスに設置されるに至っています。このうち、先進的な実践を積み重ねている大学ボランティアセンターでは、学生スタッフ（または学生コーディネーター）を設置する動きが見られ、学生目線によるボランティア活動推進のための取り組みが進められています。

本学においては、「ボランティア支援室学生サポートスタッフ（以下、サポートスタッフと表記）」が、2019年度の結成後活動を継続しています。

本稿では、サポートスタッフの2024年度の取り組みについてまとめます。

### 【概括】

2024年度は4年生7名、3年生5名、2年生6名、1年生4名の計24名で活動を行いました。

昨年度から引き続き、「今よりもっとボランティアが応援される社会」をビジョン（目指す社会像）に掲げ、「学生目線でボランティアの知識や魅力を発信する」取り組みを行うことをミッション（役割）として掲げて活動しました。

今年度の大きな特徴は、サポートスタッフ内で「班」に分かれて活動したことです。その主なきっかけは、夏合宿中に参加した「KAGAVOCO\*<sup>1</sup>ボランティアセンターEXPO2024」だと考えます。そこでは全国各地の大学ボランティアセンター学生スタッフの取り組みを学び、多くの活動事例を吸収することができました。その後行った「サポートスタッフ研修」にて、自分たちに足りていない部分や今後実践していきたい部分を明確にしていきました。具体的には「広報班\*<sup>2</sup>」「コミュニティ班\*<sup>3</sup>」「コーディネート班」「ボラカフェ（ボランティアカフェ）班」「勉強会班」「合宿班」「サポスタ研修班」に分かれ、今までにはなかった広報やボランティアコーディネートにも幅を広げ、下半期は活動を行いました。

また、学内ボランティアサークル同士の繋がりの強化にも継続して取り組みました。昨年度から実施している「ボランティア団体合同新歓」に加え、「東洋大学ボランティアコレクション」を開催し、各団体の1年間の活動を報告しあうことで、今まで詳しく知ることのなかったお互いの活動を知る機会をつくることができました。

このように、今年度はこれまで以上に組織的、かつ多角的なアプローチで活動を行うことができました。

### 【2024年度のサポートスタッフの取り組み】

サポートスタッフは、2024年度現在以下の3つの軸に沿って活動を行っています。

#### 1 「学ぶ」：ボランティアを学ぶ活動、ボランティアから学ぶ活動

- (1) ボランティア勉強会、サポートスタッフ研修
- (2) その他、学内外のボランティア研修等への参加・参画

#### 2 「伝える」：ボランティアの魅力を発信する活動

- (1) 「東洋大学ボランティアカフェ」の企画運営
- (2) 授業等における登壇
- (3) 大学近隣の地域交流活動への参画

#### 3 「つくる」：学生が社会問題に関わるきっかけをつくる

- (1) 学内外の団体と、ボランティアプログラムの共同企画運営
- (2) その他の、ボランティア支援室主催事業への参画

以下、3つの軸に対応した具体的な取り組みについて述べていきます。

## 1 「学ぶ」：ボランティアを学ぶ活動、ボランティアから学ぶ活動

### (1) ボランティア活動の本質的理解のための勉強会

#### ○概要

勉強会では、ボランティア活動における多様な「葛藤」の共有と分析を起点とし、活動の動機や、ボランティア活動の有償・無償の境界線、災害ボランティア活動における学生の役割と心構えへと議論を深めることができました。

参加者の実体験に基づき、活動前の不安から活動中の迷い、他者との関係における内面的な葛藤を考察。有償性の議論では金銭的報酬だけでなく、「私欲」や活動の質への影響も探求しました。

災害ボランティアに関しては、ニーズ把握と支援フェーズに応じた活動、被災者への寄り添いの重要性について理解しました。

#### ○年間を通じての気づき

気づきとして、ボランティア活動が個人の内面的葛藤や成長に関わる点、社会との関わりを深く考察する機会を提供する点です。

「葛藤」は活動の動機や倫理観を問い直し、より思慮深い行動へ繋がる重要な要素として認識し、災害ボランティアの議論では支援者の想いと被災地のニーズとのギャップを理解し、共感と継続的支援体制の重要性が明確になりました。

有償性の議論は、ボランティアの本質を多角的に捉え直す必要性について考えることになりました。

### (2) サポートスタッフ研修

今年度は初の試みとして、「大学ボランティアセンターの学生スタッフ」として、知っておくべき知識や技能を学ぶ機会として、「サポートスタッフ研修」を位置付け、7月と11月の計2回実施しました。

#### ①第1回研修

- ・日程：2024年7月6日（土）10:00～17:00
- ・会場：白山キャンパス 雨水会館1階学習室

研修は2部構成で進め、前半は「大学ボランティアセンターと学生スタッフ」に関する基礎知識を学ぶことについて、後半は「東洋大学ボランティア支援室をよく知るためのセミナー」と題して実施しました。両セッションともに、以下のディスカッションテーマを設定し、設問ごとに進行役をサポートスタッフの中から選出する形で進めました。

#### 【第1部:「大学ボランティアセンターと学生スタッフ」】

- 1：そもそも「ボランティアセンター」とは何をすることでか？
- 2：日本の大学ボランティアセンターの設置数は？～設置形態の違い～
- 3：大学生がボランティア活動をする動機とは？
- 4：大学はなぜ、ボランティア活動を「推す」のか？
- 5：ボランティア活動4原則の1つ「自発性」を深掘りしてみる

#### 【第2部:「東洋大学ボランティア支援室をよく知るためのセミナー」】

- 1：東洋大学ボランティア支援室設立のきっかけ～どのような社会的できごとが背景となったか～  
含：「学生運営型ボランティアセンター」としての「東洋大学学生ボランティアセンター（現「学ボラ」について）
- 2：東洋大学ボランティア支援室の行っている取り組みについて
- 3：授業におけるサポートスタッフ登壇依頼の、背景にあるニーズとは
- 4：サポートスタッフの組織的特色～「制度化」との関係～
- 5：私が目指す「サポスタ像」って？

今年度の研修は研修チームが担当し、内容や進行方法について議論を重ねたうえで実施しました。第1回の研修では、「サポートスタッフが知りたかったことを知る」ことを目的に開催しました。

「自分の所属する組織について聞かれたときに自信を持って答えたい」「ぶれない指針がほしい」といった声を受け、今回は基礎的な知識を固めることを重視した内容としました。

研修では、基礎的な情報を日比野さんからご講義いただくとともに、学生自身が考え、意見を交わす時間を大切にしました。日比野さんから提示された10個の問いに対して、まずは個々で考えたうえで話し合い、その後全体で共有・振り返りを行うという構成を取りました。問いごとに進行役を交代しながらディスカッションを行ったことで、全員が積極的に発言しやすい雰囲気づくりにもつながりました。

たとえば「大学生がボランティア活動をする動機とは?」という問いでは、参加メンバーがボランティア活動をしている理由やきっかけを共有しました。「ボランティアでしかできない経験が楽しい」「興味のあることの延長線上に活動があった」といった前向きな意見の一方で、学生の中には「何かしたいけれど何をすればよいか分からない」「一人で参加するのが不安」といった人もいるという声もあり、ボランティアへの参入障壁や今後私たちが取り組むべき課題についても可視化できました。

後半では、「ボランティア支援室の設立はいつか?」という問いから始め、「自組織を知る」ことをテーマにディスカッションを行いました。普段の活動(授業登壇等)にはどのようなニーズがあるのかを見つめ直し、私たちの存在意義を改めて確認する機会となりました。また、「制度化せず、リーダーを置かない運営スタイル」の良さについても意見を交わし、リーダーがいなくて理念が反映しやすい、逆に全員がリーダーとして主体的に活動できる、みんなに出番があるという自組織の強みを再認識することができました。

第一回の研修はボランティア支援室や私たち自身の活動について深く考えることができ、自組織と改めて向き合う貴重な時間となりました。

## ②第2回研修

- ・日程：2024年11月7日(木) 10:00~17:00
- ・会場：白山キャンパス甬水会館1階学習室、ならびにボランティア支援室フリースペース

前半は、第1回研修の内容を、夏合宿における「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO 2024」に参加して得た気づきをもとに再度ふりかえり、大学ボランティアセンターの学生スタッフとしてのあり方をより深く理解することを目的に実施しました。

後半は、同じくKAGAVOCOにおいて見聞きした、他大学ボランティアセンター学生スタッフが取り組んでいる「学生スタッフによるボランティアコーディネーション」の事例を、自分たちでも実践していけるようになるための練習として「模擬コーディネーション(以下「模擬コーデ」)を行いました。

第二回研修では、夏休みに参加したKAGAVOCOで得た学びを全体で共有し、今後の活動に還元することを目的に開催しました。まずは、第一回研修で学んだボランティア支援室の役割や自組織のあり方について振り返り、共通理解を深めました。そのうえでKAGAVOCOに参加した各大学の取り組みを比較し、目的意識や組織構造、広報活動などにおける違いを明確化しました。具体的には、リーダー制や班体制を採用している団体、広報活動が活発な団体など、大学ごとに特色ある強みがあることに気づかされ、大きな刺激となりました。

こうした気づきを踏まえ、私たちの団体に取り入れるべき点と、これまでの良さをどう残していくかを丁寧に議論しました。特に広報活動については、「即効性と影響力を高めるにはまず知ってもらうことが重要」との意見が多く出され、課題解決の一手として本格的な取り組みを検討する方向が固まりました。また、班体制の導入により、各メンバーが明確な役割を持って主体的に活動できる体制への移行も提案され、実践への期待が膨らみました。

さらに研修後半では、「学生スタッフとして関わる意義」「活動のモチベーション」「KAGAVOCOを経験して変わったこと」という三点をテーマにグループワークを実施しました。多くのメンバーが他大学の学生と交流する中で刺激を受け、それがモチベーション向上につながったと語っており、従来通りの活動に加えて新たな視点・方法を取り入れるきっかけになったとの評価が寄せられました。

総じて、第二回研修は組織としての自覚を新たにし、具体的な改善策や展望を共有できる非常に有意義な機会となり、今後の活動に大きな弾みをもたらす重要な経験となりました。

## 2 「伝える」：ボランティアの魅力を発信する活動

### (1)「東洋大学ボランティアカフェ」(ボラカフェ)の企画運営

サポートスタッフの中から数名が企画メンバーとなり、運営を行う形で進めました。詳細は、本書115ページからの報告をご覧ください。

### (2)授業等における登壇

ボランティア支援室では、ボランティアコーディネーターを授業に派遣し講義等を行う取り組みを行っていますが、そのうち一部授業において、サポートスタッフも登壇し、ボランティア支援室の活用方法を学生の視点で解説し、自身のボランティア活動体験談を受講生に伝えています。

#### ●2024年度実績

- ・4月19日(金)2限「社会学基礎演習」(社会学部 西野 淑美教授ほか、合同ゼミ)
- ・6月6日(木)4限、6限「社会貢献活動入門/ボランティア活動入門」(社会学部 榊原 圭子教授担当科目)  
※支援室日比野コーディネーター ゲスト講義回に登壇
- ・11月13日(水)5限「非営利組織の経営」(原口 佳典講師担当科目)

以下、登壇した学生からのコメントです。

・発表を通してボランティア活動の意義だけではなく、活動を通じてどう成長できたのかどう楽しかったのかを伝えることが大事なのだと学びました。体験談や想いを交えながら発表を行い、参加者に興味関心を持ってもらえるように工夫を行いました。授業後には多くの質問があり、ボランティア活動に関心に向けてもらうきっかけになったと実感しています。今までは「ボランティア活動をする」機会が多くありましたが、今回「ボランティア活動を伝える」経験を行い、自分自身としても今まで行ってきた活動の意義や価値を再認識することができました。今後も「伝える」力をさらに磨いて、ボランティア活動の魅力を発信していきます。

### (3)大学近隣の地域交流活動への参画

#### ①「文京区の大学に通う学生による 地域活動報告会」における活動報告

2025年3月10日(月)13:00~17:00に日本女子大学において、文京区学生支援担当者連絡会(呼びかけ団体:社会福祉法人文京区社会福祉協議会)が主催となって開催した「文京区の大学に通う学生による、地域活動報告会」において、サポートスタッフが年間の取り組みを「地域活動を通じた成果と課題」という切り口から報告しました。

(本学からは、ボランティアサークル「学ボラ」も報告を行いました)

#### ■サポートスタッフの所感

地域活動報告会は2部に分かれ1部で活動報告、2部では学生同士でディスカッションを行いました。計12団体が発表をし、地域貢献の活動の広さを実感しました。居場所づくりをしている団体、後世に残す活動をする団体、地域の人を招いてイベントを開く団体。各々が地域のつながりをつくりながら活動を展開している様子が印象的でした。

私たちサポスタは団体紹介からはじめ「ボラカフェ」「ボランティアコレクション」「ボランティア相談会・模擬コーディネート」について報告しました。どのような内容で開催しどんな課題が生まれたのかを共有し、今後に向けての展望を話しました。

## 3 「つくる」：学生が社会問題にかかわるきっかけをつくる

### ○ボランティア支援室主催事業への参画

以下のボランティア支援室主催事業にサポートスタッフが参画することで、ボランティアプログラムの目指す社会課題の背景を学ぶとともに、サポートスタッフ以外の学生が社会課題に関わる機会を創出しました。

- ・ Toyo 1dayボランティアプログラム「カンボジアフェスティバル2024 運営ボランティア活動」  
詳細は本書26ページからの報告を参照。
- ・ 「ボランティア入門講座」  
赤羽台キャンパス、白山キャンパスでそれぞれ開催。詳細は本書42ページからの報告を参照。
- ・ 「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」（課外活動育成会支援事業）  
詳細は本書138ページからの報告を参照。

## 4 その他の取り組み

### ①交流企画「ゆる雑▽」の実施

サポートスタッフメンバー発案の自主企画として、都度設定したテーマについてゲストを囲み、雑談のような雰囲気の中でゆるやかに語りながら、ボランティア活動に関わる学生間が「横」につながることを目的として「ゆる雑▽」と名付けられた交流企画（トークイベント）を、計2回実施しました。

#### ● 第1回（テーマ設定なし）

- ・ 日時：2024年6月25日（火）13:00～14:30
- ・ 会場：東洋大学ボランティア支援室 赤羽台分室
- ・ ゲスト：松本 和夫さん（東洋大学SDGsアンバサダー）  
伊藤 楓真さん（東洋大学 学ボラ）

#### ● 第2回「見えない『壁』を見てみよう」

- ・ 日時：2024年12月13日（金）13:00～14:00
- ・ 会場：東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階学習室
- ・ ゲスト：成瀬 響之さん（バリアフリーサークル歩み）  
遠藤 理歩さん（Toyo-MeW プロジェクト）

### ■サポートスタッフの所感

私は今回の「ゆる雑▽」を通して、ボランティアに取り組む者が横の繋がりを大事にすることは大切だと学ぶことができた。

まず本企画は「ゆるく雑談をする」ということをコンセプトに進めてきた。加えて本企画の発端は本学のボランティア団体の繋がりが非常に薄くなっていることである。そのためボランティア団体の連携強化を、本企画の主目的とした。

しかし実際に企画を開催してみると、繋がりを感じることはもちろんのこと団体の垣根を超えて雑談をすることは多くの気づきがあると感じた。企画を通して関係を深めるという主目的を達成することが出来たほか、団体の垣根を超えて会話をするという新しい情報の入れ方があるということも学ぶことが出来た。セミナーやワークショップのような形式ではなく、雑談として場を提供したことで、その場でしか発言されない言葉やリラックスした空間を参加者に提供することができた。固くない雰囲気を提供することの難しさとニーズを理解することができた。

今後も「ゆる雑▽」を通して他団体との繋がりの場を作るとともに、そこから一歩先の相談・共有を他団体間でもおこなえるように今後もさまざまな企画を提供したい。

### ②サポートスタッフ夏合宿

今年度の夏合宿は、大阪公立大学i-siteなんばにおいて開催された、関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク（KAGAVOCO）が主催となり、全国各地の大学ボランティアセンター学生スタッフの取り組みを紹介し合い、今後のボランティアセンター相互の発展に寄与することを目的とした「KAGAVOCOボランティアセンターEXPO2024」に出展するため、大阪をはじめ京阪神地域において実施しました。

「KAGAVOCOボランティアセンターEXPO2024」での出展についての詳細は、本書66ページからの報告を参照。

執筆：

塚原 千晴 (経済学部総合政策学科3年)

宮本 義史 (社会学部社会学科2年)

横山 芽生 (社会学部メディアコミュニケーション学科2年)

奥村 碧斗 (経営学部会計ファイナンス学科2年)

都築 郁昭 (福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年)

日比野 勲 (ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)

- 
- \*1：特定非営利活動法人ユースビジョン「大学ボランティアセンター情報ウェブ」 (<https://www.daigaku-vc.info>) をもとに、編者の持つデータを加え算出。
  - \*2：「関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク」の略称。本書 ページにも関連記事あり。
  - \*3：サポートスタッフの公式Instagramの運用などを中心に担う班。サポートスタッフの公式Instagramアカウントは@toyo.vc.sstaff。
  - \*4：主に東洋大学ボランティア支援室に登録している、学生ボランティアサークル間の横のつながりをつくり、東洋大学の学生ボランティア活動発展のためのコミュニティづくりを目指す班のこと。



## 2024年度 ボランティア支援室活動記録

月	日	種別	業務内容
4月	2日	◆	ガイダンス (授業協力) 2部社会学科 新入生ガイダンス (サポートスタッフ活動紹介)
	3日~5日	★	イベント ボランティアサークル新入生勧誘説明会 (白山)
	3日	★	イベント ボランティアサークル新入生勧誘説明会 (赤羽台)
	4日	●	会議 (書面会議) 第1回 ボランティア支援室運営委員会
	8~12日 19日	★	イベント SDGsアンバサダー新歓説明会 (川越)
	15日~ 5月6日	★	イベント SDGsアンバサダー「ウォーターサーバープロジェクト」事前アンケート
	16日・18日	★	イベント SDGsアンバサダー新歓説明会 (白山・赤羽台)
	19日	★	イベント スペシャルオリムピクス (SO) 東京 活動説明会 (赤羽台)
	19日	◆	ガイダンス (授業協力) 文学部教育学科授業「社会教育実習」[実習向け社会貢献センター紹介] (堀本先生)
	24日	●	会議 (書面会議) 第2回 ボランティア支援室運営委員会・専門部会
	30日	★	イベント 「b-lab見学ツアー」(Toyo 1day ボランティアプログラム)
5月	3日~4日	★	イベント 「カンボジアフェスティバル2023」(Toyo 1day ボランティアプログラム)
	8日	★	イベント SDGsアンバサダー「ウォーターサーバープロジェクト」プレ設置開始 (白山)
	7日~9日	★	イベント とびこめ!ボランティアの森~ボランティア団体合同新歓2024 in 白山~ (白山)
	7日	◆	ガイダンス (授業協力) 福祉社会デザイン学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」① [実施コース:Aコース] (小野先生・古川先生)
	7日	◆	ガイダンス (授業協力) 福祉社会デザイン学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」② [実施コース:Aコース] (高山先生・早坂先生)
	11日	★	イベント 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」
	16日	★	イベント はばたけ!ボランティアの森~赤羽台キャンパス ボランティア合同新歓2024
	17日	◆	ガイダンス (授業協力) 福祉社会デザイン学部社会福祉学科授業「社会福祉学総合演習」[実習向け社会貢献センター紹介] (川原先生)
	20日~6月3日	★	イベント ウォーターサーバーぐるぐるスタンプラリー
	21日	◆	ガイダンス (授業協力) 文学部教育学科授業「大学生として学ぶ」 [実施コース:Aコース] (山本先生)
	21日	◆	ガイダンス (授業協力) 福祉社会デザイン学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」③ [実施コース:Aコース] (加山先生・山本先生)
26日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画 「樹海清掃ボランティア」(春)	
6月	1日	★	イベント 東洋大学 SDGsアンバサダー 就任 (遡及)
	4日	◆	ガイダンス (授業協力) 福祉社会デザイン学部社会福祉学科授業「社会福祉学基礎演習」④ [実施コース:Aコース] (藤林先生・高野先生)
	6日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部社会心理学科授業「ボランティア活動入門」 [実施コース:支援室見学【白山】] 榊原先生)
	7日	◆	ガイダンス (授業協力) 社会学部国際社会学科授業「ダイバーシティ論」 [実施コース:支援室見学【白山】] (井沢先生、高橋先生)

月	日	種別	業務内容
	7日	●	会議 第3回 ボランティア支援室専門部会
	8・9日 15・16日	★	イベント 「あじさい祭り」
	9日	★	イベント TOYO PARASPORTS DAY 第1回 -ブラインドスポーツ編-
	11・12日	★	イベント 文京区フミコムおよび京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会 (白山)
	12・19日	◆	ガイダンス (授業協力) 健康スポーツ科学部健康スポーツ科学科授業「健康スポーツ学基礎演習」 [実施コース:支援室見学【赤羽台】] (竹村先生)
	14日	★	イベント SDGsアンバサダー認定式・顔合わせ式 (白山・川越)
	18日	★	イベント 文京区フミコムおよび京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会 (赤羽台)
	27日	◇	その他 SDGsアンバサダー SNSアカウント作成
7月	4日	★	イベント ボランティア入門講座 IN 赤羽台
	6日	★	イベント 学生サポートスタッフ研修会
	7日	★	イベント 「そなエリア東京」フィールドワーク
	7日	★	イベント TOYO PARASPORTS DAY 第2回 -ブラインドスポーツ編-
	8日	★	イベント 火災臨場VR講座
	10日	★	イベント MeW ワークショップ「あなたの中にモヤモヤはありますか? 「月経理解は異文化理解」」
	16日	★	イベント 公開講演会「トランスジェンダーから見える 世界と共生」(赤羽台)
	16・19日	★	イベント SDGsカフェ〜にじいろ編〜
	19日	★	イベント 公開講演会「トランスジェンダーから見える 世界と共生」(白山)
	23日	★	イベント Smile F LAOS 販売会①
	27・28日	★	イベント 赤羽台団地まつり
	30日	◇	その他 東洋大学川原ゼミ「プリズンサークル」映画上映会
	3日	★	イベント 文京区フミコムおよび京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会 (川越)
	17日	★	イベント 文京区フミコムおよび京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会 (朝霞)
8月	3日	★	イベント SDGsアンバサダー交流会
	9日	★	イベント 文京区「文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ」
	10日	★	イベント 文京区「クールアースフェア2024」
	12~26日 31日~9月13日	★	イベント 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン (夏)
9月	4・5日	★	イベント SDGsアンバサダー夏合宿
	6日	★	イベント ドミノピザCSRツアー
	10日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画「被災地のまちづくりを考え、発信するスタディーツアー」(夏)
	14・15日	★	イベント 『根津神社祭礼 町内神輿渡御』ボランティア活動
	14~16日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画 合宿型ボランティアプログラム「2024ワークキャンププログラム 田人コース/福島県いわき市」
	17~19日	★	イベント 「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO2024」出展&学生サポートスタッフ夏合宿
	17日	●	会議 第4回 ボランティア支援室運営委員会・専門部会
	28日	★	イベント 赤羽地域交流企画「盆踊り」

月	日	種別	業務内容
	29日	★	イベント ビーチクリーンアップ in YUIGAHAMA Beach～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～
10月	9日	★	イベント Smile F LAOS 販売会②
	14日～ 11月10日	★	イベント 東洋大学SDGsWEEKs 2024
	17日	★	イベント 東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「私たち学生だからこそできること、里親制度や子どもたちとの関わり」(小野先生)
	24日	★	イベント SDGsアンバサダーボランティア支援室ツアー
	26日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画「里親子デイキャンプ」
11月	2日	★	イベント TUEP主催赤羽台祭イルミネーション
	2～3日	★	イベント SDGsアンバサダー大学祭出展
	2日	★	イベント 本回収から子どもたちの笑顔に～「夢の本箱」in 赤羽台祭～
	10日	★	イベント bon×bon festa AKABANEDAI
	11～14日	★	イベント おにぎりアクション2024in東洋
	14日	★	イベント SDGsカフェ～「ワークショップで学ぶSDGsの概念」～
	15日	★	イベント 第3回文京区内大学サステナビリティ関連取組紹介のための交流・意見交換会プログラム(傍聴)
	19日	★	イベント 東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割」(内田先生)
	21日	★	イベント 緊急連絡訓練くじイベント
	23日	★	イベント 災害救援ボランティア講座
	26日	★	イベント 東洋大学SDGsWEEKs 公開授業「CSR論公開講義「企業と人権」」(小瀬先生)
	30日	★	イベント 学生団体見本市 フミキャン
	12月	2日	★
4～6日		★	イベント SDGs Weeks EXPO 2024 (エコプロ2024)
5日		★	イベント セラピードッグふれあい体験
8日		★	イベント SDGsアンバサダーx学ボラxSalamat 3団体交流会
9日		★	イベント 生理痛体験イベント～あなたが知らない私の痛み～
10日		★	イベント Smile F LAOS 販売会③
11日		★	イベント SDGsワークショップ「障がい学生と作るインクルーシブキャンパス～ゼロから学ぶソーシャルサポート～」
13日		★	イベント 【ゆる雑▽】～見えない『壁』を見てみよう～
16日		★	イベント ボランティア入門講座 IN 白山
17日		★	イベント SDGsカフェ「私たちは生きづらいのか?～若年層の生きづらさを考えてみよう～」
22日		★	イベント 小学生のためのオープンキャンパスin東洋大学白山キャンパス
1月	6～10日	★	イベント ボラ室学生サポートスタッフによる東洋大学ボランティア相談会(白山)
	7・9日 14・16日	★	イベント ボラ室学生サポートスタッフによる東洋大学ボランティア相談会(赤羽台)
	9日	★	イベント スペシャルオリンピックス「パネルディスカッションを通してスペシャルオリンピックスについて学ぼう!」
	10日	★	イベント ボランティアカフェ「シゴトにつながる?まちづくりボランティア!～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう～」
2月	3日	★	イベント サポスタ団体活動報告会「ボランティアコレクション」

月	日	種別	業務内容
	4日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」
	8日	★	イベント その木はどこから来て、どこへ行くのか～子ども向け環境教育ワークショップを企画し、実行しよう!～
	13日	★	イベント いのちを守る安心なトイレプロジェクト「春休みワークショップで防災意識を高めよう!」
	14・15日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画「能登半島地震の経験を経て、首都圏での大規模災害にどう備える?」～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊サバイバル体験～
	16日	★	イベント 冬の体験ボランティア事業「ゼロから ぼら活～一緒にさがそう あなたの一步～」
	16～18日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画 「被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー」(春)
	18～3月4日 3月4日～18日	★	イベント 群馬県甘楽町地域おこし協力隊インターン(春)
	24～26日	☆	イベント ●東洋大学学生課外活動育成会企画 合宿型ボランティアプログラム「2024ワークキャンププログラム 益子コース/栃木県茂木町・益子町」
3月	1日	★	イベント 映画上映会【凧の灯るころ-能登-】
	10日	★	イベント 文京区の大学に通う学生による 地域活動報告会(日本女子大学)
	11日	★	イベント 学生 社会貢献活動表彰式・奨励プロジェクト助成報告会
	21日	★	イベント IKEA CSRツアー

【種別】 ● 会議    ★ イベント(ボランティア支援室企画)    ☆ イベント(東洋大学学生課外活動育成会企画)  
◆ ガイダンス(授業協力)    ◇ その他

## その他ボランティアコーディネーター、 担当職員の外部視察および外部研修等参加

月	日	種別	業務内容
5月	27日	▲	参加 学生支援担当者連絡会:(第1回)
7月	17日	▲	参加 第1回企業地域連携推進ネットワーク会議
7月	29日	▲	参加 学生支援担当者連絡会:(第2回)
9月	24日	▲	参加 学生支援担当者連絡会:(第3回)
11月	18日	▲	参加 学生支援担当者連絡会:(第4回)
1月	27日	▲	参加 学生支援担当者連絡会:(第5回)
2月	20日	▲	参加 第2回企業地域連携推進ネットワーク会議
3月	10日	▲	参加 学生支援担当者連絡会・活動報告会(日本女子大学)

【種別】 △視察    ▲参加

# ボランティア支援室

# 2024年度 利用状況報告

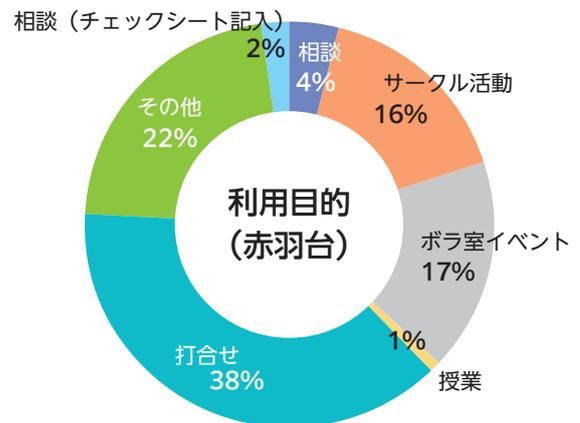
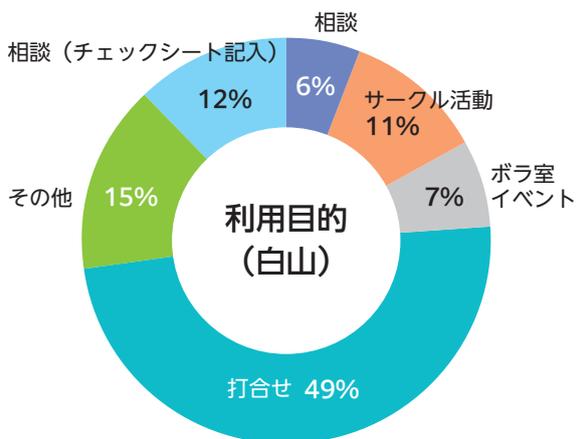
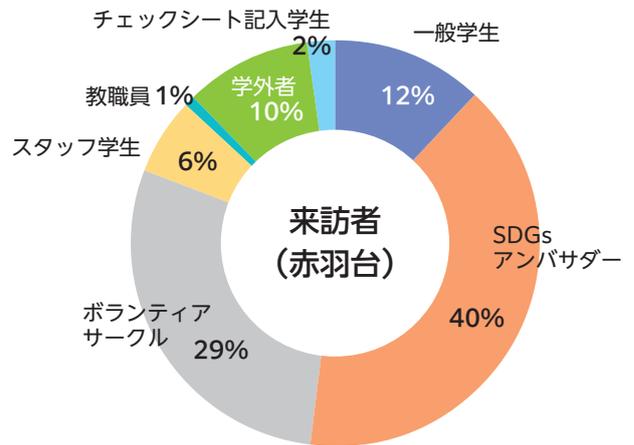
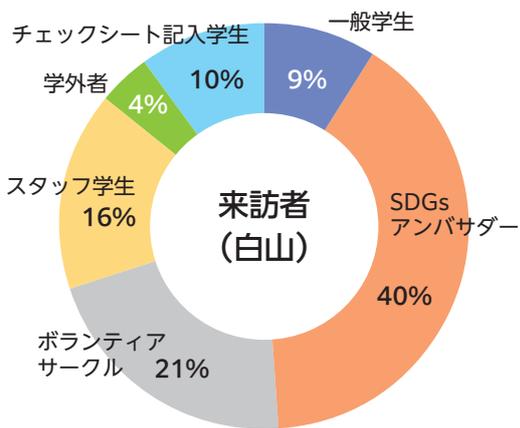
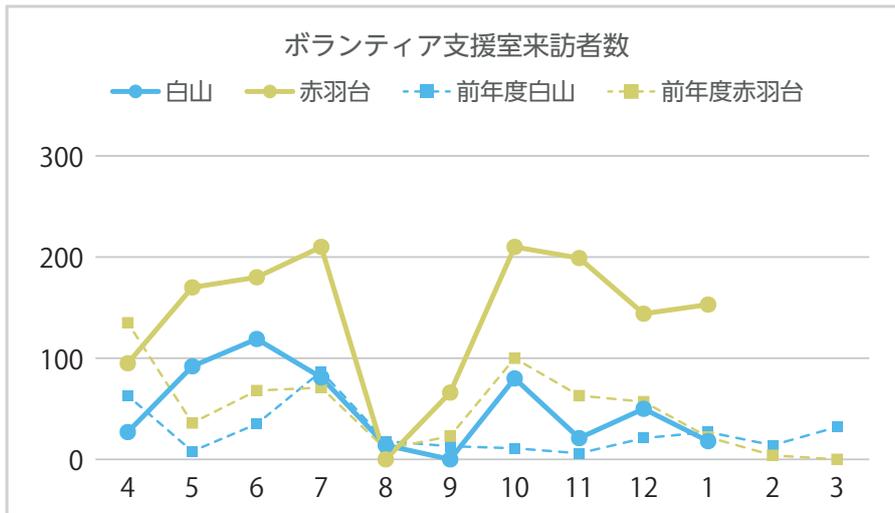
## ボランティア支援室来訪者数 (白山)

キャンパス	学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山	文	1	10	4	2	0	0	0	1	0	3	0	0	21
	経済	1	3	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8
	経営	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	法	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	社会	4	7	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	国際	1	1	3	0	0	0	1	2	0	1	0	0	9
	国際観光	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
赤羽台	情報連携	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	福祉社会デザイン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	健康スポーツ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉	生命科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食環境科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越	理工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チェックシート未記入者		18	70	105	76	14	0	79	18	50	13	0	0	443
月計		27	92	119	81	14	0	80	21	50	18	0	0	502
前年度		63	8	35	87	18	13	11	6	21	27	14	32	335

## ボランティア支援室来訪者数 (赤羽台)

キャンパス	学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山	文	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経済	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経営	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	国際観光	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
赤羽台	情報連携	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	福祉社会デザイン	0	0	0	17	0	1	3	1	0	1	0	0	23
	健康スポーツ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉	生命科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食環境科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越	理工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チェックシート未記入者		95	169	180	193	0	65	207	198	144	152	0	0	1403
月計		95	170	180	210	0	66	210	199	144	153	0	0	1427
前年度		135	36	68	71	10	23	100	63	57	22	4	0	589

# ボランティア支援室来訪者数



# ① 東洋大学SDGsアンバサダー新歓説明会

講師	東洋大学SDGsアンバサダー執行部
開催期間・日時	2024年4月16日(火),18日(木) 12:15~13:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 甬水会館1階 ボランティア支援室・学習室 東洋大学 赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 5F ボランティア支援室分室 オンライン
目的	東洋大学SDGsアンバサダーの新規登録を志す学生にSDGsアンバサダーについて知ってもらう
参加者数	17名(東洋大学SDGsアンバサダー在籍メンバー)
協力	東洋大学エクステンション課・ボランティア支援室

## ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーは年度一度の登録制であり、毎年4月の年度はじめを持って登録期間としている。その中で、各種サークルや学生団体に同じく、新歓活動としてアンバサダーの紹介を行っている。

東洋大学SDGsアンバサダーの説明としては「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」に基づき、SDGs啓発活動等に意欲的な学生・団体を登録し、学長からの称号付与という形を持って活動していること、キャンパスごとの活動とキャンパス間を超えたチームによる活動の2つの軸で活動していることといった組織における特徴に加え、SDGsに従事していくこと、ボランティアや社会貢献活動に参加することを見据え、SDGsアンバサダーとしての心構えや学生として活発に活動に参加していくことの重要さといった内容、具体的に昨年度にSDGsアンバサダーが行ってきた各種活動事例についての紹介を行った。

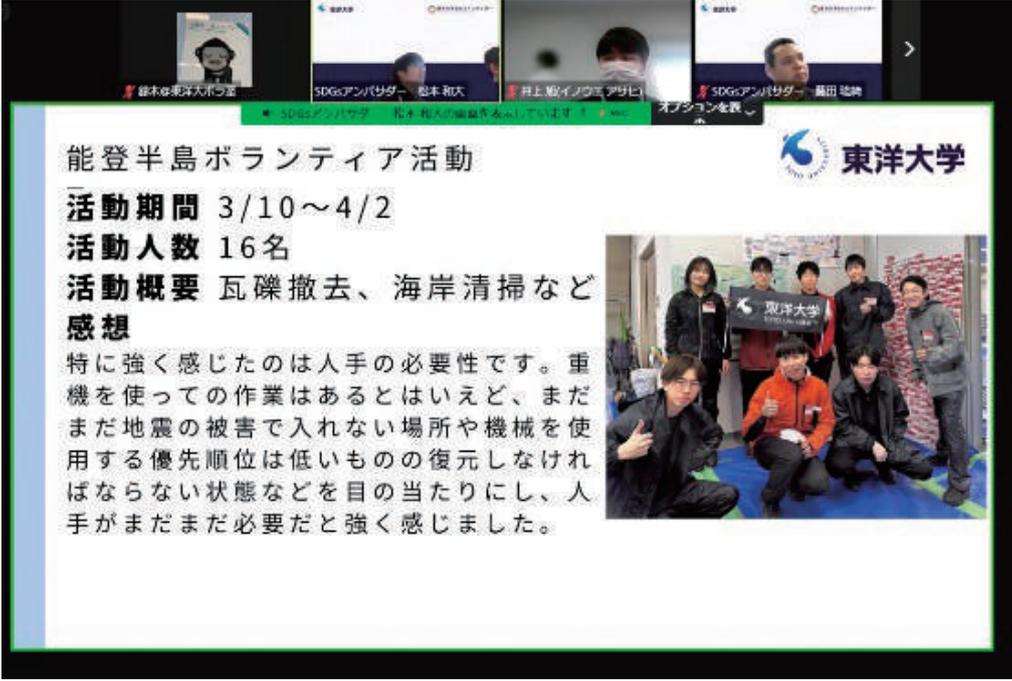
また、対面で説明会に参加してくれた学生に対しては、アンバサダーメンバーとの交流も随時実施し、どういった時にやりがいを感じるか、学業やアルバイトとの両立のコツ、大学生として学生生活を送る上でのコツなどといった会話を楽しみつつ、どのような活動をしてみたいかなどといったことから具体的にSDGsアンバサダーとして活動する姿を思い浮かべてもらえるように交流を行った。

東洋大学SDGsアンバサダーとして組織的な新歓を行ったのはこの2日間が主であり、それ以外は各キャンパスにおける新歓活動をメインとして行っている。しかしながら、59名もの新規認定者を獲得することができたことを鑑みれば、SDGsアンバサダーとしての具体的なイメージを学生に掘んでもらうことに成功したのではないかと振り返る。



SDGsアンバサダーは通年募集を行う団体ではないが、アンバサダーがどういう組織なのかという観点も鑑み、より学生に親しみやすく感じてもらえるよう今後とも邁進する所存である。

(国際学部国際地域学科3年 SDGsアンバサダー 松本 和太)



能登半島ボランティア活動

活動期間 3/10～4/2

活動人数 16名

活動概要 瓦礫撤去、海岸清掃など

感想

特に強く感じたのは人手の必要性です。重機を使っての作業はあるとはいえ、まだまだ地震の被害で入れない場所や機械を使用する優先順位は低いものの復元しなければならない状態などを目の当たりにし、人手がまだまだ必要だと強く感じました。



東洋大学



## ② TOYO 1Day ボランティアプログラム 「カンボジアフェスティバル2024」 運営ボランティア活動

開催日時・会場	<p>【事前学習会 (オリエンテーション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年4月26日 (金) 12:20～12:50</li> <li>会場：東洋大学白山キャンパス雨水会館3階302教室ならびにオンライン会場</li> </ul> <p>【本番】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年5月3日 (金・祝) ～4日 (土・祝) 7:45～20:00</li> <li>会場：代々木公園イベント広場</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創ること。</li> <li>ボランティア活動や社会貢献活動の現場体験を通じて、次の一歩につなげること。</li> <li>ボランティア活動への意識を高め、参加を促進すること。</li> </ul>
参加者数	26名
カウンターパート	松村 裕介さん (カンボジアフェスティバル実行委員会 ボランティアリーダー)
共催	多摩大学学生社会ボランティアコーナー (「多摩大学ボランティア体験プログラム2024」として実施)
プログラム運営サポート	ボランティア支援室サポートスタッフ

### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、ゴールデンウィーク期間中の5月3日・4日両日に代々木公園において開催された「カンボジアフェスティバル2024」の運営ボランティア活動のコーディネートを行いました。

「カンボジアフェスティバル」は、日本とカンボジアの友好による平和の保全や経済発展、多文化共生を推進していくことを目的に、カンボジアフェスティバル実行委員会の主催により開催されています。

本プログラムは、フェスティバル本番の活動日のほか、事前学習会 (オリエンテーション) の機会を設け、顔合わせや情報共有などを事前に行うことによる参加者の不安解消や、ボランティア活動を通じた気づきを学びにつなげるための機会を予め設定しました。

また、多摩大学学生社会ボランティアコーナーの「多摩大学ボランティア体験プログラム」と共同で実施し、集合場所から両大学の参加者の接点をつくることを試みました。このことにより、引き続いて両大学間で交流しながら実施されるボランティアプログラムの足がかりともなりました。

## 【事前学習会 (オリエンテーション)】

事前学習会は、ボランティア支援室サポートスタッフ (以下、サポートスタッフ) が進行を担い、以下の内容で実施しました。

### (1) 顔合わせ

会場参加者、オンライン参加者それぞれ、グループに分かれ、今回のプログラムに参加を決めた動機などについて意見交流をしました。

### (2) 「カンボジアフェスティバル」概要説明

日比野コーディネーターより、フェスティバルの詳細やボランティア活動の概要、当日の集合等に関する事務連絡等を行いました。

### (3) サポートスタッフによる、「カンボジアフェスティバル」ボランティア体験談

「カンボジアフェスティバル2023」ボランティアプログラムに参加したサポートスタッフの学生2名から、昨年の体験談をお話いただきました。

## 【当日】

フェスティバル当日、ボランティアは以下の活動を、時間帯で区切り交代で担当しました。

- 1) 会場や駐車場の案内・管理
- 2) ステージの補助
- 3) 出店ブースの補助
- 4) 来場者等の案内・安全・衛生管理 (感染症対策も含む)
- 5) エコステーション運営
- 6) 準備・後片付け
- 7) 写真/映像撮影
- 8) その他実行委員会が必要と認める事項
- 9) カンボジアフェスティバルをより盛り上げるための施策



「カンボジアフェスティバル2024」のボランティアは、本学ならびに多摩大学で募集を行った学生ボランティアのほか、実行委員会が募集を行い集まった一般ボランティアの方とで活動が行われました。そのため、活動を通じて、キャンパス内に留まっていたは出会う機会のない他大学の学生ボランティアや、社会人のボランティア、カンボジア人のボランティアと出会う機会が創出されることとなりました。

実際、参加学生からは、日頃話す機会の少ない社会人ボランティアと話をし、充実感を感じたという感想が聞かれました。社会人ボランティアの方の中には、東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする他のボランティア活動の経験もある方が参加されており、全体的に非常に良好な雰囲気の中で活動が行われていたと感じられました。そのことは、各ポジションのボランティアリーダーを中心に、活動開始時にボランティアが互いに自己紹介をおこなっていた時から、お互いの存在を受容する雰囲気が醸成されていたことにはじまり、体力的に大変な場面はありながらもおしなべて笑顔で活動していた学生の表情から読み取ることができました。

今回、ボランティア活動者の総数が十分に集まり、時間帯やポジションによってはやや手持ち無沙汰になっていたという声も一部の学生から聞かれましたが、一方こうした「ゆとり」も、ボランティアが気持ちを張り詰めることなく、来場者と「共に楽しむ」ことにつながったのではと考えます。

活動終了後、参加者の内省化の過程として、ふりかえりの機会を設定しました。「今回の活動を通じて、ボランティア活動への印象は変わりましたか?」という問いに対して、「ボランティアはもっと堅苦しいイ

イメージがありましたが、今回は様々な職種、学校からの方とも協力して取り組めたので、楽しく取り組むことができました」、「ボランティアは無償労働ではなく、楽しみながらできる活動だと実感できたから」など、窮屈な印象が変わったという声も複数聞かれました。一方、既にボランティア活動経験のあった参加者からは、「改めてボランティア活動とは、本来は支援する側であるけれど、活動から得られるものがたくさんあって、むしろ私たちが感謝を伝えたいような素晴らしい活動だと感じられたから」などという声が聞かれました。

本プログラムは、ボランティア活動参加の障壁を下げ、参加の機会を提供することを第一義的な目的として掲げていましたが、「ボランティア活動を通じた、先入観の変容」という、ボランティアプログラムを企画する上での重要な要素も含めていましたが、その目的も果たされたのではと考えています。改めて、学生を受け入れてくださったカンボジアフェスティバル実行委員会の皆さまに感謝申し上げます。

(ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)

### 【参加者の所感】

- 活動を通して、他のボランティアの方々もそうですが、カンボジアの人々の優しさを大いに感じる事ができました。休憩時間にベンチに座っていると、隣に座っていたカンボジア人の方が果物をくださったり、後片付けをしていると、椅子を畳んでくれて運ぼうとまでしてくださったり、カンボジアのダンスを踊ったことがない私たちに一生懸命教えてくれたり、カンボジアの人たちはなんでこんなに温かいのだろうと活動していて何度も思いました。
- サポートスタッフの活動を通してボランティアの今までのイメージとはずっと変わり続けてはいるのですが、海外の方との交流を含めてより印象が変わりました。ボランティアは人のためにやるものだという、ただそれだけのイメージが強くありましたが、実際に自分自身が喜びや新しい考え方を得ることが出来て、自分も楽しむボランティアがより身近なものになりました。



### ③ b-lab 見学ツアー

開催期間・日時	2024年4月30日(火) 10:00~11:30
会場	文京区湯島 文京区青少年プラザ b-lab (ビーラボ)
目的	b-labは、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地であり、そんな施設を見学しながら中高生の居場所について考えること。 文京区で活動する施設や団体への理解を深め、学生自らが社会貢献活動に踏み出すきっかけを作ること。
参加者数	23名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生20名、エクステンション課職員3名

#### ■ 活動内容 (概要)

今回のスタディツアーでは、文京区内の社会貢献活動に焦点を当て、特に「初めてボランティアに興味を持つ学生」を対象としていました。文京区で活動する施設や団体への理解を深め、学生自らが社会貢献活動に踏み出すきっかけを作ることが目的でした。b-labは中高生向けの居場所として2015年に開設され、教育とユースワークの拠点として地域に貢献しています。本ツアーでは、館内見学やディスカッションを通じて、b-labの役割や運営に対する理解を深めました。

当日は主に館内見学を行ったほか、質疑応答やディスカッションもありました。館内見学では、b-labの設備や利用状況について職員の案内を受けながら見学を行いました。施設の中高生向けサービスの具体例や日々の運営について知ることができました。質疑応答では、学生から、施設運営の課題や中高生との関わり方に関する質問が挙がりました。b-labの活動内容や地域社会への影響、ユースワークの重要性についての内容が多かったです。そしてディスカッションでは、見学を踏まえ、学生同士で「若者にとっての居場所の意義」について議論しました。多様な意見が共有されました。今回の見学を通じて、文京区内の社会貢献関連施設や活動に関する具体的な知識を得ることで、社会的課題に対する意識を高めることができました。小中学生の居場所支援を見学することで、地域社会で若ものが活躍する意義や大切さを学びました。また、このような施設の見学は初めてでしたが、ディスカッションをすることで様々な考え方に触れてより理解が深まったと実感しています。今回の学びを糧に、今後も地域社会へ興味関心を寄せていきたいと思えます。

(経営学部会計ファイナンス学科2年 SDGsアンバサダー 奥村 碧斗)

#### 【参加者の感想】

B-labは「何かしても、しなくてもいい」という、子どもたちの自由な居場所として開放しているのだと知ることができた。

文京区の大きな施設の一角を使ってこのような取り組みが行われていること自体にとっても魅力を感じた。学生に対して規制もほとんどかけずにやりたいことを行える場所があるのが、とても素敵だった。対象が中高生というあまり支援が行き届きにくい人達にも寄り添える活動はこれから先も重宝されると思うので、何かしらの形で大学生も関わると良いのではないかな。



## 4 「とびこめ! ボランティアの森 ～ボランティア団体合同新歓2024 in 白山～」

開催期間・日時	2024年5月7日(火) 15:00～20:00 (15:00～16:00は出展団体間の交流企画を実施) 2024年5月8日(水)、9日(木) 12:00～17:00
会場	東洋大学白山キャンパス 甫水会館301教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生を主な対象に、ボランティアサークルや、ボランティア団体・NPOなどを通じた、ボランティア活動参加の機会を提供すること。</li> <li>・ボランティア活動にはじめて関わろうとする学生に向け、ボランティア活動相談コーナーを設けることで、活動参加への後押しをすること。</li> <li>・出展団体同士が、お互いの存在を認知し、協力し合える関係を築くこと。</li> <li>・地域のボランティア相談機関にブースを出展いただくことで、本学の学生ボランティア団体を地域資源と結びつけるきっかけとすること。</li> </ul>
参加団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ボラ ・東洋大学IVUSA ・SDGsアンバサダー ・Toyo Mew Project</li> <li>・ベジプロジェクト東洋 ・学生団体おりがみ ・地域づくりインターンの会</li> <li>・NPO法人湘南自然学校 ・NPO法人チャリティーサンタ文京支部</li> <li>・NPO法人Woodsふくろうの部屋</li> <li>・文京区 地域連携ステーション フミコム (社会福祉法人文京区社会福祉協議会)</li> <li>・東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ (以上12団体)</li> </ul>
企画・運営	東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
協力	国際ボランティアサークルSalamat

### ■ 活動内容 (概要)

今回の「とびこめ! ボランティアの森」は、はじめてボランティア活動に関わろうとする新入生に、活動参加のきっかけを提供することを主な目的として実施しました。

例年、この時期にはボランティアサークルの合同新歓企画を、白山キャンパスと赤羽台キャンパスで実施していますが、白山キャンパスでは既に4月に「ボランティアサークル新歓コーナー」として企画を実施しており、ボランティア支援室としてはその時との差別化を図りたいと考えていました。

加えてこの間、いくつかのボランティア団体・NPO等から、本学学生に対し活動を説明する機会を希望する問い合わせを複数いただいていたこともあり、本年は「ボランティア活動への『一歩』を後押しする」ことを主たる目的に据え、企画づくりを進めました。

以下、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

今回は当日参加したサポートスタッフの体験談も踏まえ報告書を執筆しました。今回の合同新歓でボランティア支援室サポートスタッフは、ボランティア自体を知ってもらうための第一ステップとして「話





## 5 あじさい祭り

開催期間・日時	2024年6月8日(土)～16日(日)までの土日 9:00～16:00
会場	文京区 白山神社
目的	大学の所在地である「文京区」にて行われるボランティアに参加をし、地域の取り組みや文化を学ぶとともに、社会貢献活動を行っている団体等を知り、学生自身が興味を持ちながらボランティア参加への「きっかけ」をつかむ。
参加者数	62名 ※社会貢献センターで募集した学生のみ その他には社会学部、学生団体等が参加

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学白山キャンパスの隣にある白山神社にて「第40回 文京あじさいまつり」が開催されました。昨年度より実行委員会からの依頼を受け、社会貢献センターより「運営ボランティア」の送り出しをしております。

当日は授業で地域と関係を持つ社会学部の学生やステージにて活躍するサークルなど、4日間で合計200名を超える東洋大学生が、地元の皆さんのブースに分かれて貴重な経験をさせていただきました。

学生達は商品の販売やチラシ配布などを行い、接客や集客の方法を学びながら、ボランティア活動に臨むみ、空き時間には各自であじさい祭りを楽しみ、文京区の祭事についても触れることができ、文化を体験することもできました。

参加者のうち、今回のボランティアが初めてという学生が多く、「初めてのボランティア」としての体験が今後の活動に繋がるきっかけとなることを期待しています。



### 【参加学生の感想】一部抜粋

- 大変な仕事もありましたが、その分やりがいもあるので多様な経験ができて良かったです。
- 普段出来ない運営側という立場に回っての活動が新鮮で良い経験になったと感じたからです。
- お客様に商品を説明することが難しかった。また円滑に行う大変さを知った。
- 想定外の事態が発生した際に、気を利かせて臨機応変に対応することの重要性を学んだ。
- ボランティアは経験がなくても周りのサポートを受けて頑張ることができる。
- 色々な人と関わりを持つことでコミュニケーション能力の向上に繋がったと思う。
- 当日のみならず、準備期間の会議にも参加してみたいと思う。
- 日本語のわからない外国人をガイドする活動してみたい。
- 自分が受け身で取り組むだけでなく、自分から動いていきたいと思った。
- 今まで地元以外の地域のボランティアはやった事がなかったのですが、これからはやっていきたいです。



## ⑥ パラスポーツ(ブラインドサッカー・ゴールボール)体験

講師	加藤健人さん(ブラインドサッカー選手)・小林裕史さん(ゴールボール選手)
開催期間・日時	2024年6月9日(日) 13:00~15:00
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス 多目的室1
目的	①パラスポーツ(ブラインドサッカー・ゴールボール)を実際に体験したり、選手と交流したりすることにより、競技の面白さ、難しさ、パラスポーツならではの魅力を知る。 ②パラスポーツの大会やイベントに興味をもつ。 ③視覚障害への理解を深める。
参加者数	14名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生14名

### ■ 活動内容(概要)

#### 【前半：競技説明&練習】

- ①ブラインドサッカーの競技説明
- ②アイマスクをつけた状態で体操・じゃんけん列車
- ③加藤さんによる、ドリブルのデモンストレーション
- ④アイマスクをつけた状態で、ペアの指示を聞いて歩いてみる・サッカーボールに触れる

#### 【後半：ゴールボール体験&試合】

- ①ゴールボールの競技説明
- ②多目的室の両端に分かれ、ゴールボールをパスし合う体験
- ③ディフェンスの姿勢の説明
- ④ボールを投げてもらい、ゴールボールのディフェンスの体験
- ⑤アイマスクをつけた状態で、パス・ディフェンスの体験
- ⑥ゴールボールの試合形式の説明・ミニゲーム形式を体験

#### 【参加学生の感想】一部抜粋

- パラスポーツは個人ではなかなか経験しにくいので、このようなイベントに参加できてとても楽しかった。
- ブラインドサッカー、ゴールボールともに体験したことがなかったので、今回その魅力を知れてよかった。また、視覚障害者に対してどう接したらいいのか考える良い機会にもなった。
- 見えないことの恐怖とコミュニケーションの大切さを学んだ。ブラインドスポーツをして、日々の生活で視覚に頼っていることが多いが、見えると言うことは当たり前ではないと実感した。今後は町で困っている人がいたら声をかけてみたい。そして、目が



見えないからこそ言葉での情報が大切で、「あれ、これ、もう少し、」などの言葉は優しくないと教えていただいた。見えるからこそ雑になってしまいがちだが、どんな人と話すときでも伝わる用な言葉選びを心がけたい。

- パラスポーツの体験はほとんど初めてでしたが、視覚障がいの方の景色を知るきっかけにもなりとても有意義な時間となりました。個人的には、もっと試合する時間がほしいなっていました。
- 全てが初めてのことで面白かった。見えない中でのスポーツであり、視覚以外の感覚に頼り行動することは中々なかったので、不思議だったのと大変さを知りました。大体の人が体験したことのないスポーツだと思うので、誰でも始めやすくみんなが平等に楽しめるスポーツだと感じた。
- 大学生になってスポーツをする機会が減っていたので、「体を動かして楽しむ」体験は面白かった。また、見えない世界に没入することも普段ないため、面白かった。



## 7 東洋大学SDGsアンバサダー認定式・顔合わせ式

講師	東洋大学SDGsアンバサダー執行部
開催期間・日時	2024年6月14日(金) 11:40~13:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 甫水会館 301教室 オンライン (Zoom)
目的	新規登録者たるSDGsアンバサダー認定者に対する認定式、顔合わせ
参加者数	16名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】アンバサダー11名、新規認定者5名
協力	東洋大学エクステンション課・ボランティア支援室

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーは毎年6月を持って新規認定者が活動を開始する。今年度においても、新規認定者の活動開始に合わせ、認定式・顔合わせ式を開催し、アンバサダー新規認定者を組織として迎え入れる機会とした。

認定式においては全体統括を始め、各アンバサダーチーム(カーボンニュートラル、ダイバーシティ&インクルージョン、防災・まちづくり)や広報局のリーダー、サブリーダークラスの幹部が登壇し、アンバサダー活動に従事する上での心構えや組織体系の再確認を行ったほか、各チーム・広報局の活動方針や活動事例紹介、アンバサダー関連団体(東洋大学SPRINGウォーターサーバープロジェクト)や開催予定の企画の告知を行った。また、ボランティア支援室よりボランティアコーディネーター、エクステンション課職員による挨拶も賜った。

東洋大学SDGsアンバサダーには学生目線よりSDGs推進・啓発活動を行うことが期待されており、その上ではアンバサダー各位が自発的に楽しみながら活動に参加していくことが特に求められる。その上では、認定式をもって2024年度の東洋大学SDGsアンバサダーの活動が本格的に始動することから、新規認定者のみならず継続認定者各位においても気を引き締めつつ、新しい気持ちで認定式に挑んでいたように思える。

この機会にて感じた心情を忘れることなく、東洋大学SDGsアンバサダーとして日々活発に活動に従事し、SDGsアクションを展開していくべく邁進していく所存である。

(国際学部国際地域学科3年 SDGsアンバサダー 松本 和夫)

2024年度  
新規アンバサダー  
認定式



## 8 防災備蓄品食料配布プロジェクト

期間・日時・会場	2024年6月11日(火)・12日(水) 白山キャンパス 2024年6月18日(火)・20日(木) 赤羽台キャンパス 2024年7月3日(水) 川越キャンパス 2024年7月17日(水) 朝霞キャンパス
目的	文京区・京北中学校・高等学校では、地震・災害の対策のためローリングストックを実施しており、毎年保管されている。そして、保存期限が迫っている防災備蓄品を東洋大学が引き受けることで、食品ロスを減らすことを目的としている。
参加者数	1107名 ※主な内訳は、以下の通り。 白山キャンパス 560 赤羽台キャンパス 528 川越キャンパス 103 朝霞キャンパス 266
協力	文京区フミコム、京北中学校・高等学校

### ■ 活動内容 (概要)

#### 【配布ボランティアの感想等】

- 私は、この食料配布が初めてのボランティアで不安な気持ちがありました。しかし、食料配布をするにつれて段々と不安な気持ちが無くなり、食料品配布をした際に「ありがとうございます。」と言われてボランティアをして良かったと思い、とてもやりがいを感じました。終盤になると、最初の不安が嘘のように無くなり、楽しい気持ちでボランティアに参加することができました。またボランティアに参加したいと思いました。
- この食料配布は、消費期限が近い防災備蓄品を学生に配布することによって、食料廃棄が多い日本で食品ロスを減らすことをできる取り組みとなっている。私は、このボランティアに参加して、食品ロスを減らしつつ、困っている学生に食料を配布するという双方が幸せになれる活動でとてもやりがいを感じた。しかし、予想よりも多くの方が参加して下さったため、予定していた時間よりも早く食料配布が終わった。そのため、もっと計画建てを行うべきであったと反省点を見つけた。

#### 【参加者の感想】

- 食料配布ありがとうございました。食品ロスを減らして学生に配る取り組みは、需要と供給の理にかなっていて、素晴らしい取り組みだと思いました。受け取った時は「こんなに貰っていいのかな？」と思うぐらい種類と量が多くて驚きました。また、当日に食料配布を行っていることを知ったのでエコバッグとかを準備しておけば良かったと、少し後悔しています。
- 私は、一人暮らしをしてお金にあまり余裕がないのでこのような食料配布はとても助かりました。次の機会もあれば、参加したいと思います。ありがとうございました。

【白山キャンパス】



【赤羽台キャンパス】



【川越キャンパス】



【朝霞キャンパス】



**配食料**  
品を  
します

食品ロスをなくそう！  
文京区および京北中学・高等学校からの  
寄附食料品配布会を実施します

**GET**

6/11(水) 12(水)  
12:00~13:30  
→ 白山キャンパス 配布場所変更！  
6/11 1号館1階エレベーターホール  
6/12 5号館地下2階井上円了ホール前

17:00~18:00  
→ 浦水会館1階ボランティア支援室

※なくなり次第終了します

※エコバッグ等を持参してください(2Lペットボトルを2つ必要です)

お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mivolaup@toyo.jp



活動内容・各企画概要

## ⑨「ボランティア入門講座2024 in 赤羽台」

講師	日比野 勲 (ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター) 井上 旭 (情報連携学部情報連携学科4年、ボランティア支援室サポートスタッフ) 岩井 成美 (福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年、ボードゲーム地域交流団体「ぼどのわ」代表) ※司会進行：朝原 優真 (社会学部社会福祉学科4年、ボランティア支援室サポートスタッフ)
開催期間・日時	2024年7月4日 (木) 13:00~14:30
開催方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋大学赤羽台キャンパス ボランティア支援室分室における対面開催</li> <li>Zoomによるオンライン開催</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動に関心はあるが、一歩を踏み出すのに躊躇している学生向けにボランティアとは何か、どのような関わり方があるか等を紹介し、活動参加のための判断材料を提供すること。</li> <li>ボランティア活動への意識を高め、参加を促進すること。</li> </ul>
参加者数	23名 (対面19名、オンライン4名)

### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、初めてボランティア活動に参加する人や、これまでボランティア活動に関わったことがあるものの、そもそも「ボランティア活動とはなにか?」ということを改めて考える機会を提供するため、「ボランティア入門講座」を例年実施しています。

2024年度春学期には、夏休みに先駆け、赤羽台キャンパスで実施しました。

以下、講座運営に携わった、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。

本講座は、「ボランティア活動をしてみたいけど、最初の一歩がなかなか踏み出せていない人の背中を押してあげる様な企画」となることを、目標として実施をしました。また、ボランティアに参加したことがある人も本質的な意味を考える時間となりました。ボランティア支援室サポートスタッフ4年朝原さん進行の下、日比野さん・岩井さん・井上の順番でお話をしました。

まず司会の朝原さんより、5人1組ほどのグループを作り自己紹介と夏の乗り越え方を考えるアイスブレイクを行ないました。このグループで、日比野さんのお話を聴きました。クイズを交えながらボランティアの本質について考える時間となりました。次に、岩井さんにお話をいただきました。岩井さんから、「ぼどのわ」を立ち上げた経緯や、興味のあることを実行に移すことの大切さを教えていただきました。最後に井上が、自身の経験よりボランティアと大学生活というテーマでお話しました。ボランティアのを見つけ方やバイトとの違いについて、伝わっていたら嬉しいです。

今回は、オンライン・対面合わせて過去最多の23人に参加していただきました。秋学期には、白山キャンパスでの実施を予定しています。参加人数の更新し、多くの学生にボランティアの魅力伝える機会を作りたいと考えています。

(情報連携学部情報連携学科4年 ボランティア支援室サポートスタッフ 井上 旭)

## 【参加者の気づき・感想等】

- 日比野さんのボランティア4原則についての話にて、そのうちの先駆性をいつも忘れがちなので改めて知れてよかった。また学生2人の発表では、ボランティアが趣味や好きなことから始まって、ゆくゆくはそれ自体が趣味になるほど楽しんでいる様子が見れて、自分自身も原点回帰することができた。
- ボランティアは結構バラエティ豊かで、動機も様々なんだなと感じました。
- ボランティアは労働ではないというお話がとても印象的でした。自分もSDGsアンバサダーとして、ボランティアの4原則と照らし合わせながら活動したいと思いました。
- ボランティア支援室が基準を設けてボランティアの情報を入れていることやその他にも多くの配慮をしていると知りました。例えば、無給か有給か、受け入れ側はボランティアスタッフを労働者として見てないか、派遣するという言葉は使わないなど、しっかりボランティアのことを基準づけていて、自分も学びになりました。
- 実際にボランティア活動をしている二人の学生の話聞いて、これからどんな活動をどう始めればいいのか、参考にすることができた。特にボードゲーム交流会の代表の方の話は、自分も就活終了後に、同じように地域交流の団体を立ち上げたいと考えているので、立ち上げまでのプロセスや困難を聞いて、具体的にイメージすることができた。
- 「ボランティアの4原則」と言われるものを初めて知った。「ボランティア活動＝奉仕活動」というイメージは間違っていると分かった。岩井さん、井上さんどちらも思いついたことを行動に移せていてすごいと思った。
- 好きをボランティアに出来るということがどれほど良い事に気づくことが出来ました。ぼどのわさんの設立秘話を聞いていると、たしかに難しい場面はあったかもしれないけれど楽しいことの方が多く感じたので、自分も好きを原動力に動きたいと思いました。



## 10 「そなエリア東京」フィールドワーク （「防災クイズ&ゲームDay2024」実施に合わせて）

開催日時・会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年7月7日（日）9：30～15：00</li> <li>会場：東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 首都直下型地震を念頭においた大規模災害発生時の状況をイメージでき、そのための対策として何が必要かということを理解すること。</li> <li>(2) 防災ゲームを通じて気軽に防災・減災に親しみ、アンバサダー学生が自ら関心を持てるようになること。</li> <li>(3) 「防災クイズ&amp;ゲームDay2024」出展団体との関係性を築き、今後の交流につなげること。</li> </ul>
参加者数	9名
ナビゲーター	日比野 勲（ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター）
企画運営	東洋大学SDGsアンバサダー（防災まちづくりチーム）

### ■ 活動内容（概要）

東洋大学SDGsアンバサダー防災・まちづくりチーム（以下、防災・まちづくりチームと表記）は、大規模災害時における本学の学生ボランティアリーダーとしての行動計画策定と、災害時の支え合いに備えた平時からの大学近隣地域との関係性づくりのための地域ボランティア活動などを行うチームとして、その基礎知識を楽しく学べる機会として、首都直下型地震発生の状況を追体験できる「そなエリア東京」の「東京直下72h Tour」への参加と、同日開催された「防災クイズ&ゲームDay2024」（主催：一般社団法人防災教育普及協会、東京臨海広域防災公園管理センター）の参加を含めたフィールドワークを実施しました。

以下、防災・まちづくりチームの学生からの報告です。

#### 「東京直下72hTOUR」

「東京直下72hTOUR」は、マグニチュード7.3、最大震度7を想定した首都直下地震の発生から避難までを擬似体験し、タブレット端末を使用したクイズに答えながら、生き抜く知恵を学ぶ防災体験学習ツアーです。

最初に参加者にタブレット端末が渡され、商業施設を模したエレベーターに乗ります。乗ったエレベーターで地震が発生し緊急停止します。エレベーターの音声の指示にしたがい非常口から避難をします。エレベーターを降りた先には地震によって破壊された街並みが広がっていました。街の数か所にあるAR（拡張現実）コードをタブレット端末で読み取ってクイズに答えます。

私は「東京直下72hTOUR」を体験して、地震について自分ごとのように考えるきっかけになったと感じました。私は今まで地震が発生した時に、どこか他人ごとのように感じてしまい、大丈夫だろうと思っていましたが、今回の「東京直下72hTOUR」を体験したことで、地震はいつ来てもおかしくはないことと、地震が発生した時にどのようなことに注意を払い、どのような行動をすればよいかを学ぶことが出来ま

した。

### 「しぞーか防災かるた」

今回の「防災クイズ&ゲーム Day2024」には、さまざまな組織や団体が開発した防災ゲームが展示されていましたが、中でも印象的だったのが「しぞーか防災かるた」（製作：しぞーか防災かるた委員会）でした。

「しぞーか防災かるた」は、防災と静岡県の郷土を同時に学べるかるたです。ふるさとの良いところを知り、ふるさとのついでに考えるきっかけになります。

2011年の東日本大震災により、自分ごとの防災が見直されていますが、このかるたは家庭や学校、友達同士で遊びながら防災の心得が身につく、もしもの時のことを話し合うきっかけになります。

「しぞーか防災かるた」は、静岡県出身でなくても楽しく遊べる防災かるたであり、静岡県の魅力ある郷土についても同時に学ぶことが出来ました。今回の体験会では子どもからお年寄りまでの、さまざまな年代の人が楽しみながら、防災かるたをしていました。



私が今回このフィールドワークに参加したのは、災害が頻発して起きる日本において、いざとなった時の術を知りたいと思ったからです。地震はいつどこで発生するか分からず、起きた時には困難が生じてしまい普段通りの生活ができないと思われれます。そんな時に、今回体験したことを思い出して行動しなければいけないということを感じました。私は避難所での生活において、障がいを持っている方たちへの配慮や支援が足りていないと感じました。避難所では様々な方が同時に一つの空間で暮らすこととなります。その時に私たちは自分一人だけではないということを改めて考えるきっかけになりました。また、今回の「そなエリア東京フィールドワーク」には多摩大学の学生も参加し、他大学の方と一緒に防災を考える良いきっかけになりました。

（国際学部国際地域学科2年 SDGs アンバサダー 塩澤 尚）

### 【参加者の感想】

- 今回初めてのそなエリアでした。はじめに防災体験学習ツアーである「東京直下72時間ツアー」に参加しました。こちらは1時間毎に行われているイベントです。なぜ72時間かというと、その時間は人命救助のタイムリミットを表しており、一般的に被災後の3日を過ぎると生存率が著しく低下すると言われているからです。この体験はそのシミュレーションを簡易的にしたもので、自分たちが災害発生後に正しい判断ができるようになるために必要な知識が多くありました。今回のそなエリア東京を通して自助、共助、公助について改めて学ぶことができ、大変学びが多いイベントでした。



## 11 火災臨場VR体験

開催期間・日時	2024年7月8日(月) 10:00~14:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 1号館
目的	VRによる火災臨場体験を行うことにより、火災が発生した際の行動をリアルに感じ、自身が取べき行動を学び実際に火災が起きた際に備えて訓練を行う。
参加者数	15名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生、教職員
協力	管財課

### ■ 活動内容 (概要)

管財課とSDGsアンバサダーが協力のもと、VR機器を使用した火災臨場体験を実施した。

申込者を募り、一人30分間のVR体験を行った。当日は受付、VR機器の接続、操作アシスト、説明者の担当を決め、シフト組んで対応を行った。

参加者は、VRを用いたゲーム感覚で体験ができたため、楽しく学ぶことができ、印象にも強く残ったようで、実施の意義が感じられた。

いつ発生するかわからない災害に対して、VRによる事前の臨場体験は有効であり、更に多くの学生や、教職員に体験してもらえるとよいと思う。

### 【参加者アンケート】一部抜粋

- 今回の火災臨場ボランティアは、地震が起きた想定でのVR体験でした。近年、南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくないと言われている中、今回の体験を通じて災害時に落ち着いて行動する事の重要性を再認識させられるとても良い経験でした。

- この災害ボランティアでは、VRを使用するの体験がとても新鮮でした。私は、VRを体験したことがありませんでしたが、アンバサダーの方々丁寧に教えて下さったのでスムーズに進めることができました。また、今回の体験を通じて、いつ起こるかわからない地震への備えをしようと思います。ありがとうございました。

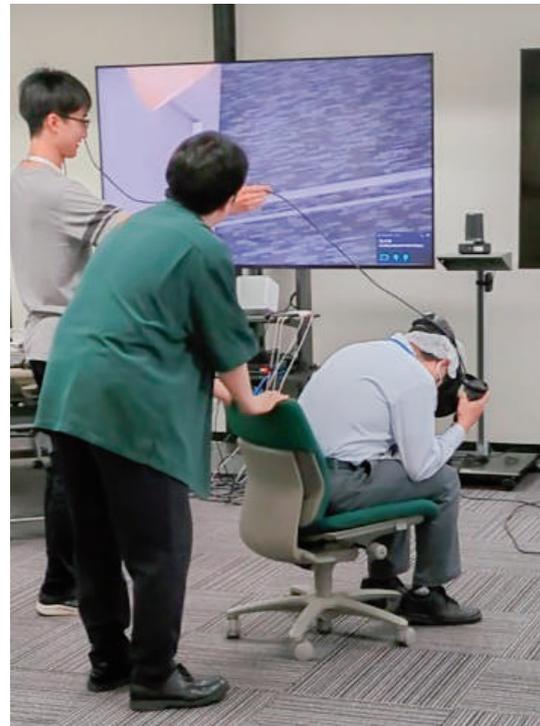


**火災臨場VR体験**

内容:VRで火災体験ができます!  
 日時:7/8(月) 10~14時  
 時間:1人当たり30分想定です  
 場所:白山キャンパス1号館  
 ↓応募URL↓

問い合わせ 東洋大学エクステンション課  
 mlvalsup@toyo.jp

【体験の様子】



## 12 あなたの中にモヤモヤはありますか？ 「月経理解は異文化理解」

講師	中村 香子先生 (国際学部国際地域学科 教授)
開催期間・日時	2024年7月10日 (水) 12:20~14:30
会場	東洋大学 白山キャンパス 甫水会館302教室
目的	月経への異文化理解の促進 月経についてのモヤモヤをオープンに話せる環境作り
参加者数	31人 【内訳】主催側15人
協力	東洋大学SDGsアンバサダー D&Iチーム

### ■ 活動内容 (概要)

私たちToyo-MeWプロジェクトは今回「みなさんの中にモヤモヤはありますか?~月経理解は異文化理解~」ということをテーマにワークショップを実施した。このワークショップは東洋大学SDGsアンバサダーのD&I (Diversity & Inclusion) チームとの共催により実施が実現した企画だ。

本企画は月経や生理に対する心の内に秘めたモヤモヤについて、多くの学生が共有できる場を提供するべく実施した企画だ。近年タブー視されている月経や生理についての正しい理解を周知することにおいても極めて重要な機会になったと言える。男女ともに多くの参加者が見られ、男女の垣根を超えた会話が各所で起こり、良い相互理解の場となったことが伺えた。また、本企画にて実施したワークショップ及び意見交換の場では、すべてでは無いにしても参加者が月経や生理に対して感じていたモヤモヤを共有できる機会となっており、我々Toyo-MeWプロジェクトとしては満足のいくものとなった。

加えて、男女ともに意見が言いやすい雰囲気が出ていたことは今後の活動の自信に繋がり、ひいては事後に控える京北高校へのワークショップにおける弾みになったと考えられる。また、本企画がToyo-MeWプロジェクトに入ったばかりのメンバーの発表の場として機能できたことは、今後の活動の幅を広げることに大いに役に立ったと考えられる。

運営としては動線の確保や進行の確認、総括(仕切り)の徹底等に関してまだまだ改善の余地が見られたものの、多くを学べた企画であったと言える。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 都築 郁昭)

Toyo-MeWプロジェクトが2022年に始動して以降初めてのイベントを開いた。私は生理用品無償配布をしている時に生理用品の補充を行っていた。そこで学生に生理用品の需要があることがわかった。また、アンケート調査を行った際にも目では見えない心身の不調と向き合いながら生活していることがわかった。それにより、「もっと多くの学生に月経について、生理痛の症状のリアルについて伝えたい、1人で抱え込まないでほしい、月経についてオープンに話しても良いという環境を作りたい」と思い、誰にでもわかりやすく、気軽に参加しやすいようにこのイベントを企画した。生理用品を触って、使い

方を一緒に学び、どの場面でどのくらいの枚数を使うのかなどの実例をもとに紹介した。参加者も学部学年問わず参加していただき、意見交換が活発に行われた。このように、月経について学ぶことは異文化を理解するにあたりとても大切な姿勢だということを伝えることができた。

(国際学部国際地域学科3年 Toyo-MeWプロジェクト 遠藤 理歩)



## 13 「トランスジェンダーから見える “世界”と“共生”」(赤羽台)

講師	勝又 栄政 さん
開催期間・日時	2024年7月16日(火) 14:45~16:15
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 20502教室 およびWEB配信
目的	トランスジェンダーの当事者の方からの体験談を聞き、「LGBTQ」に関する知識や当事者の方の心境や周りの社会がどのような状況だったことを知り、自分たちは「支援をするには何をしたらよいのか」を考えるきっかけとする。
参加者数	91名 ※アンケート及び受講レポート提出者より
協力	福祉社会デザイン学部 高山直樹教授「ソーシャルワークの基盤と専門職A/社会福祉の基礎/ソーシャルワークの基盤と専門職I」

### ■ 活動内容 (概要)

本学の卒業生であり、現在宮城教育大学および立命館大学大学院にて教育・研究を行われている勝又 栄政さんをお迎えし、「LGBTQに関する基礎知識や当事者体験談を通して「当事者が語る、率直な思い」、「ソーシャルワークへの期待」と題して福祉社会デザイン学部高山先生の授業「ソーシャルワークの基盤と専門職A/社会福祉の基礎/ソーシャルワークの基盤と専門職I」にて公開授業形式で行った。

「トランスジェンダー」であるご本人自らのお話を幼いころから現在男性として過ごしていくまでに体験された半生と社会や法制度に対して対峙してきたことを率直にお話いただいた。

一方で、研究者として統計データや資料を用いて客観的に「社会的マイノリティ」の方々に対する社会の状況についてもお話しいただきました。

普段当たり前に「男性」「女性」と2つに分けて考えてしまう意識や、そうではないの方々に対してソーシャルワーカーとして私たちが「どのような意識をもって支援をしたらよいのか」などを考えさせられる時間となった。

実名で活動をされている方が少ない中で、勝又さんが後輩のためにお話しいただいたことは、聴講者においても貴重な体験となった。

### 【受講者アンケート 抜粋】

- 今までSNS上で頻繁に目にするのがあり、自分から積極的に知識を得ようと見たり調べたりしたことがあったので、実際に当事者の方の生の声で聞くことができよかったです。カミングアウトは難しいものですが、もし相談される側になったら今回の講義を思い出し、少しでも気持ちを楽にできるような行動、言動をしたいと思います。
- 本日の講義ではトランスジェンダーの方の悩みや講師の方の体験したこと、思ったことを聞くことができ、とても勉強になりました。私は日本でのLGBTQの割合が10人に1人という数だと知り驚

きました。これからは特に些細な日時の会話などでも相手を傷つけない言葉選びをしたいと思いました。

- LGBTQの授業は中学校や高校でも少し学びましたが、当事者の方に直接お話ししていただくことは初めてだったので、とても学びになりました。自分自身の言動を今一度気をつけて一人一人の気持ちに寄り添える人になりたいと思いました。勝又さんが仰っていたように、今回の講義を勉強で終わらずにこれからの生活に繋げていけるようにしたいです。
- お昼休みの交流会も含め、勝又さんから深いお話を聞くことができ嬉しかった。当事者の方のリアルな声を聞くことができとても貴重な体験になったし、改めて考えさせられることが沢山あった。相手の立場に立ち、適切な知識を持ってコミュニケーションをとることはLGBTQに関してだけでなく、日常にも使えると思う。これから活かしていきたい。
- 私はトランスジェンダーと聞いてもそういった方がいるのだなと思うだけでしたが、講師の方が受けた言葉などを聞くと認識の違いだけでここまで対応が変わってしまうのかと驚きました。講師の方が(思わず)カミングアウトをしまわなかったら、どうなっていたのだろうと怖くなりました。「たった一人のたった一言で人生は変わる」その言葉が胸に響き、自分からは打ち明けられない悩みを少しでも気づいてあげることが本人にとってすごく助けになるということを学ぶことができました。

#### 【SDGsカフェ】



#### 【勝又氏 講演会】



## 14 「トランスジェンダーから見える “世界”と“共生”」(白山)

講師	勝又 栄政 さん
開催期間・日時	2024年7月19日(金) 13:00~14:30
会場	東洋大学 白山キャンパス 6101教室 およびWEB配信
目的	トランスジェンダーの当事者の方からの体験談を聞き、「LGBTQ」に関する知識や当事者の方の心境や周りの社会がどのような状況だったことを知り、自分たちの周りで「当たり前にある」ことを認識する。
参加者数	117名 ※アンケート提出者より
協力	社会学部 高橋典史教授「社会文化システム概論B/ダイバーシティ概論」

### ■ 活動内容 (概要)

本学の卒業生であり、現在宮城教育大学および立命館大学大学院にて教育・研究を行われている勝又 栄政さんをお迎えし、「LGBTQに関する基礎知識や当事者体験談を通して「当事者が語る、率直な思い」、「多様性を認め合う社会とは?」と題して社会学部高橋先生の授業「社会文化システム概論B/ダイバーシティ概論」にて公開授業形式で行った。

「トランスジェンダー」であるご本人自らのお話を幼いころから現在男性として過ごしていくまでに体験された半生と社会や法制度に対して対峙してきたことを率直にお話いただいた。

一方で、研究者として統計データや資料を用いて客観的に「社会的マイノリティ」の方々に対する社会の状況についてもお話していただき、私たち自身が「無意識で『性』について考えている」ことを知ることができた。

実名で活動をされている方が少ない中で、勝又さんが後輩のためにお話しいただいたことは、聴講者においても貴重な体験となった。

### 【受講者アンケート 抜粋】

- LGBTQの当事者の方にとって、誰かに話しても認められず親にさえ相談できないという1人で抱えざるをえない状況になることが1番苦しいのだなということを感じた。現代社会は、多様な個性や生き方を尊重する風潮ではあるものの、未だ否定的な意見も多く散見される。全ての方が肯定的な意見も持つことができる問題ではないからこそ、一人一人が少しでも理解を示せるように多様な性の存在や現状を知ることが大切だと思った。
- 私は性的少数者では無いからこそ、よりを気づけて全ての人に接さなければならぬと日頃から思っていたが、私が考えることでは到底及ばないほどの肩身の狭い思いをマイノリティの人たちはしてきたことを知って、少しは多様性の認められる世の中になったと勝手に思っていたけど、もっともっと全ての人々が自由に暮らせる世の中になればいいなと思ったし、自分たちで変えていかないとはいけ

ないと思った。

- 今までLGBTQの人たちは少ないのだと思っていたから10人に1人という割合の多さにびっくりした。思っているよりも少数派ではなく、みんながカミングアウトできていないだけなのかと思った。また、想像以上にセクシュアリティについての悩みは重かった。LGBTQの人たちもシスジェンダーの人たちも生きやすい世の中にしていくためにも全ての人たちが性についての理解を深めていく必要があると思った。
- 勝又さんとお母様の話を聞き、人はそれぞれに様々な思いや事情があり、例え家族だとしても互いに受け止めるのに時間や労力を必要とする事もあるのだと認識した。拒絶への恐怖を持ちながらカミングアウトしてくれた人に自分は何ができるかを改めて考えていきたい。
- 日本はもっと多様性を受け入れて行くべきだと感じた。LGBTQを受け入れてもっとみんなが生きやすい世界になればと心から思った。また、女の子は男の子がすき、男の子は女の子が好きというのを当たり前と考えるようにしようと感じた。
- 本日の講義でLGBTQの方が抱えている問題について深く理解することが出来ました。偏った意見を持たずに、多様性を尊重していくべきだと本日の講義通して再認識することが出来ました。今後、LGBTQの方と関わるような機会があれば、その方に寄り添って受け入れることが大切だと感じました。

### 【SDGsカフェ】



### 【白山キャンパス講演会】



## 15 「SDGsカフェ～にじいろ編～」

講師	勝又 栄政さん
開催期間・日時	2024年7月19日(金) 11:30～12:40
会場	東洋大学 白山キャンパス 301教室
目的	誰もがジェンダーに関しての悩みやモヤモヤを打ち明けられる場所にすると共に、ジェンダーに関して学び直す。講師である勝又氏の実際の現状を聞き、課題を見つめ直し、私たちに何ができるのかを明確にする時間にする。この企画を行うにあたって、「ジェンダーに過剰に反応する現状を変える」ということを核に、ジェンダー以外の目標のターゲットからジェンダーの目標へと繋げて、理解・共感を目指す。
参加者数	8名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】SDGsアンバサダー7名、一般学生1名

## ■ 活動内容 (概要)

本学の卒業生である勝又栄政氏を講師としてお迎えし、アイスブレイクを行ったのち、勝又氏に講演会で話す内容を簡単に話していただいた。

その際、近年、ジェンダーに関する話題が急増したが、人々は「LGBTQ+の人々を発見した」のではなく、「男女二元論でできた社会を発見した」という私たちが見えていなかった部分を教えてください、「性はグラデーション」という考えをもってほしいというメッセージもいただいた。

また、その後の質問会では、「トランスジェンダーの方がされて嬉しいことは？」という質問に対して、「何をしていたとしてもそっとしておいてほしい、本質を理解してほしい」と回答するなど、勝又氏の熱意を感じる時間となった。

## 【運営メンバー】

前井、瀬野、宮本、奥村

## 【当日の流れ】

- 11:15～11:30 事前に回答してもらった質問を紙に書く。
- 11:30～11:40 開会のあいさつ・勝又さんの紹介(自己紹介)
- 11:40～12:00 アイスブレイク(自己紹介・イベントに参加したきっかけ)
- 12:00～12:15 勝又さんによる講義
- 12:15～12:40 匿名の質問会
- 12:40 閉会のあいさつ

## 【感想 抜粋】

- 私は、あまりジェンダーについて考えてこなかったが、今回のイベントを通して男女二元論について考え直す良いきっかけとなった。(参加者)
- こういう企画に参加することが初めてだったので、新しいことを知ることができて良かった。(運営)

- ジェンダーに対する私たちのあり方を改めて再確認できたと共に、私たちができるアクションを学ぶとても良い機会になった。(運営)

男女二元論が前提の社会では、LGBTQ+の人々は社会という名の普通から取りこぼされた人々になる、という話がとても刺さった。LGBTQ+の人々の自殺願望をデータで見て、生きて私たちに伝えてくれるということの貴重さを体感した。勝又氏の「男女二元論的な社会に目を向け、意識的に行動する」ということを忘れずに、この考えを広めながら活動していきたい。

(国際学部国際地域学科3年 SDGsアンバサダー 前井 美乃莉)



近い距離で語り合おう!

SDGsカフェにじいろ編 開催決定  
ゲスト 勝又栄政さん

公開講演会  
トランスジェンダーから見える世界と共生と同日開催!!

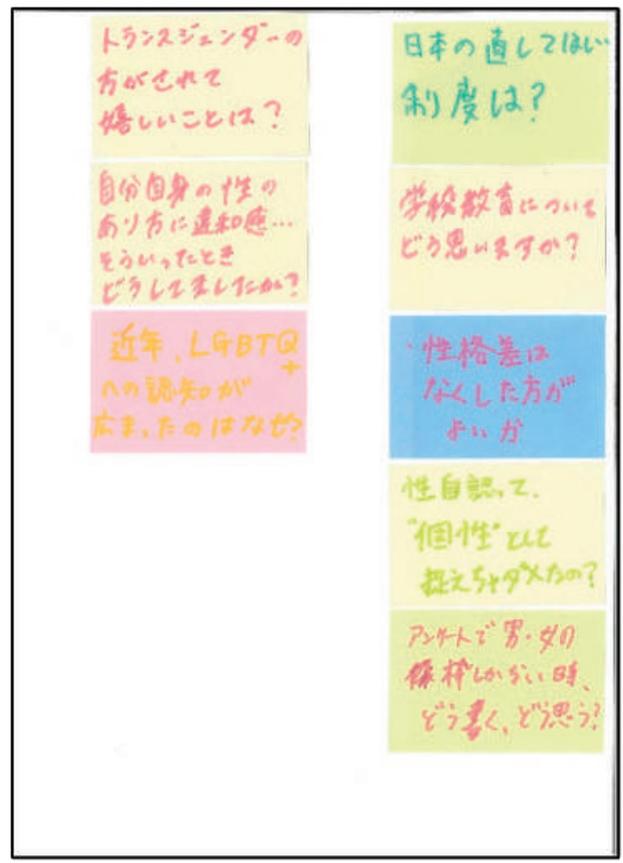
赤羽台 7/16(火)  
昼休み12:10~13:00  
締切7/9

白山 7/19(金)  
11:30~12:40  
締切7/12

▼ 詳細はこちら



主催 東洋大学ボランティア支援室  
企画運営 SDGsアンバサダー



トランスジェンダーの方がおられて嬉しいことは?

日本の直してほしい制度は?

自分自身の性のあり方に違和感... そういったときどうしてましたか?

近年、LGBTQ+への認知が広まってきたのはなぜ?

学校教育についてどう思いますか?

性格差はなくなった方がいいか

性自認で、「個性」として捉えようとしたら?

ネット上で男・女の区別が曖昧なとき、どう書く、どう思う?



## 16 赤羽台団地まつり

開催期間・日時	2024年7月27日(土)～28日(日)
会場	ヌーヴェル赤羽台敷地周辺
内容	①出店ブースの設営・撤収補助 ②出店ブースの運営補助 (輪投げやダーツ、スーパーボールすくい、焼きそば、フランクフルト等) ③その他、イベントの運営補助
参加者数	27名(ボランティア参加数)
主催	ヌーヴェル赤羽台団地

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学赤羽台キャンパスに隣接するヌーヴェル赤羽台団地では、毎年恒例の団地まつりを開催しています。今年で56回目となるお祭りは、団地在住者に加え近隣の方々も巻き込んで大規模に開催されました。

#### 【学生の感想】

- 他学部の学生やたくさんの地元の方と交流することができ、楽しかったです。また、様々なお手伝いをさせて頂き、充実した時間を過ごすことができました。私は、ヨーヨーのブースを担当したのですが、家族や友達と動画を撮りながらみんなでヨーヨーを楽しむ様子がとても微笑ましく、素敵な空間を共有出来たことが嬉しかったです。
- 自治会のみなさんがいなければ、お祭りを開催し運営することができないということを感じました。また、このようなお祭りを続けていくためには、ボランティアや自治会の後継者が必要であると思いました。
- 自分が誘ったゼミの友だちと、自分とサークルが同じ後輩(お互い同士は初めまして)が、お祭りの屋台運営を通して友人になっていたことに驚きました。
- ボランティアに参加するのが初めてであったので、不安でした。しかし、スタッフの方々が優しく関わってくださり、他学年の学生とも楽しく会話しながら地域交流・貢献できました。
- 指示待ちになるのではなく、こちらから積極性を持って盛り上げていこうと思い、行動することが、成功に繋がると実感しました。

【ボランティアの様子】



## 17 「クールアースフェア2024」出展

開催期間・日時	2024年8月10日(土) 10:00~15:00
会場	文京区役所・文京シビックセンター地下2階区民ひろば、1階ギャラリーシビック
目的	文京区におけるカーボンニュートラルへの取り組みに鑑み、東洋大学における学生によるカーボンニュートラルへの取り組みの紹介を通じた環境への啓発活動、文京区内三大学における合同企画を通じた連携
参加者数	アンバサダー運営15名、来訪者334名
協力	(企画主催) 文京区環境政策課 (共同企画準備協力) 東京大学GX学生ネットワーク、お茶の水女子大学SDGs推進研究所 OCHA-SDGs学生委員会

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーは、「東洋ecoゲームパーク~カーボンニュートラルってなんだろう?~」と題し、日常生活の中でカーボンニュートラル実現を目指し行動してもらうきっかけを楽しみながら考えてもらうという出展を行った。

カーボンニュートラルチーム作成の環境への取り組み事例をまとめたポスター展示のほか、CO2削減に向けた行動選択を行うボードゲームや、文京区におけるゴミの分別事例に基づきアンバサダーが独自開発した「ゴミ分別っ!ストラックアウト!」というストラックアウトゲームを行った。また、フードロス対策として外装にエラーがあるものの品質には問題がないハリボーグミも配布した。

これらとは別に、文京区三大学共同企画として東洋大学SDGsアンバサダー、東京大学GX学生ネットワーク、お茶の水女子大学SDGs推進研究所 OCHA-SDGs学生委員会による大学間クイズラリーも実施した。三大学においてそれぞれクイズを考え、各大学のブースに配置し、それぞれのクイズを解きながら三大学のブースを全て回ってもらった上で景品獲得という流れであったが、企画準備の段階より大学間で協力しながら連携し合う姿はSDGsにて重要とされる「パートナーシップ」を意識させられるものとなった。

当日は8月上旬の土曜日ということで多くの来場があり、特に子ども連れでの来場も目立つ中、ゲームを主体とした出展であったことから特に大盛況であったように思える。また、文京区環境政策課課長自ら足を運んでいただいたほか、文京区のローカルテレビの取材も受けるなどした。なお、ゲームやクイズに参加した子どもたちからは「楽しかった」「地球のためにできることをしようと思った」「お手伝いでゴミ分別を頑張りたい」という声をいただいた。

出展全体を通じ、普段は学内で活動することが多いアンバサダーメンバーがハキハキと来訪者と会話を交わし、カーボンニュートラルやSDGsについて活発に意見交換をするなど、深い交流を行う姿が多々見られた。また、他大学や企業、行政や団体による環境への取り組みについての出展は、各種アクターがそれぞれの得意分野を存分に活かしカーボンニュートラルへ向け取り組みを進める上で、「学生」たる我々アンバサダーが今後活動していく上で参考となる知見や見解を得る機会となったと言える。

次ページに、運営として参加したメンバーの声を記載する。

「主に文京区内の企業や学校が環境に対してどのような取り組みをしているのか知る機会になった。とても有意義な時間であった。」(国際学部2年 SDGs アンバサダー)

東洋大学の所在する文京区は2050年までに「ゼロカーボンシティ」を目指す旨宣言しているほか、「学校法人東洋大学SDGs行動憲章」においてもカーボンニュートラルはSDGsへの行動の主軸の1つとして挙げられていることを鑑み、東洋大学SDGsアンバサダーは今後もカーボンニュートラルや環境への取り組みを「学生」の目線から広げていくべく邁進していく所存である。

(国際学部国際地域学科3年 SDGs アンバサダー 松本 和夫)



## 18 株式会社ドミノ・ピザ CSRスタディーツアー

開催期間・日時	2024年9月6日(金) 10:00~12:00
会場	(株)ドミノ・ピザ ジャパン ストアサポートオフィス(本社)
目的	社会貢献を行う企業に訪問し、社員の方にお話を聞きながら取組を学び、また社内見学をすることで、様々な角度から企業を知り、視野を広げる。
参加者数	20名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生17名、引率3名
協力	(株)ドミノ・ピザ ジャパン 松原 歩様 山田 江梨様、林 大介先生

### ■ 活動内容(概要)

近年、SDGsに代表されるように、社会課題への関心やそれに対する取り組みが世界中で高まっている。以上の展開は行政やNPO法人にとどまらず、多くの民間企業においてもCorporate Social Responsibility (CSR) を念頭に置いた活動が行われている。今回は、そういった民間企業におけるCSRの現場を知るため、品川区の「(株)ドミノ・ピザ ジャパン」ストアサポートオフィス(本社)に訪問し、実際に活動に取り組まれている社員の方にお話を伺った。



本企画は講演会とピザを食べながら交流をする2部構成で行われた。前半の講演会では、会議室に集まり、コミュニケーション&コーポレーションフェアーズ部の松原様に1時間(株)ドミノ・ピザのCSR活動のお話を伺い、その後30分間質疑応答を行った。最初に社会貢献をする上で「常に良いことをすることが、ビジネスの力になる」という考えを教えていただいた。その考えのもと「無料ピザで地域支援」、「ドミノ基金アワード」と言った、実際に(株)ドミノ・ピザの取り組みについてのお話を伺った。最初の「無料ピザで地域支援」は、コロナ禍でのエッセンシャルワーカーや、クリスマスに児童養護施設にピザを無償提供をするという取り組みである。提供をする団体の上限を設けていたが、申請をした全団体への提供を行ったとのことだ。この取り組みは、厚生労働省など各所から賞賛を受けていた。高価なピザを困っている人に、プレゼントし笑顔にする良い活動だと思った。続いて、「ドミノ基金アワード」という取り組みについて教えていただいた。特定の商品や日にちの売り上げの一部が寄付されたり、顧客自身で100円未満の端数を寄付にあてる選択ができるようになっている。その集まったお金が、エントリーした社会貢献団体に寄付をされるというシステムになっている。実際には、メンタルヘルスを行う団体や、絶滅危機の植物を守る青森県の高校生の団体などに送られた。全国各地の団体がエン

トリーでき、(株)ドミノ・ピザのような大企業だからこそできる、社会問題解決に対する素晴らしいアプローチだと思った。

講演会后、ご厚意でピザと飲み物を用意していただき、食事をしながら交流を行った。(株)ドミノ・ピザは「ピザでつながる」という考えを大事にしている、今回は学生と社員の方が近い距離でつながる機会となった。その際、私はビジネスと社会貢献の関係についてお聞きした。松原様から「社会貢献をすることで、地域とのつながりが増え、選んで貰えるブランドになる。この考えを社内で共有することで、社員のモチベーションにもつながる」と教えていただいた。最終的に社会貢献をすることは、地域と企業をWin-Winな関係にすると学んだ。

今回CSRスタディーツアーに初めて参加をさせていただいた。(株)ドミノ・ピザが、このような取り組みをしているとは知らなかった。今後、他企業の活動も調べ、より良い活動をしている企業を顧客として選び、またそこで働きたいと感じた。また、企業は社会貢献をして当たり前のような時代が来てほしいと思った。

(情報連携学部情報連携学科4年 SDGsアンバサダー 井上 旭)



## 19 Toyo 1day ボランティアプログラム 「『根津神社祭礼 町内神輿渡御』ボランティア活動」

開催日時・活動場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年9月14日(土) 12:00~18:00 2024年9月15日(日) 9:00~18:00</li> <li>活動場所：文京区 向丘地区</li> <li>※事前学習会を以下の日程で実施</li> <li>日程：2024年8月25日(日) 13:00~14:30</li> <li>会場：Zoomによるオンライン会場</li> </ul>
目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 東洋大学白山キャンパスが設置されている文京区の地域行事への参加・参画を通じて、学生が地域の方との交流を通じて地域への愛着・理解を深め、今後自発的に地域に関心を持ち、関わっていくことになるためのきっかけをつくること。</li> <li>2) 担い手不足による伝統行事の持続可能性・伝承といった問題を、自ら考え、解決するための自分なりの考えを持てるようになること。</li> </ol>
参加者数	9月14日(土)：18名 9月15日(日)：18名 プログラム参加者計：30名
受け入れ先	文京区 蓬萊町会
企画運営	東洋大学公認ボランティアサークル「学ボラ」

### ■ 活動内容 (概要)

「Toyo 1day ボランティアプログラム」として、今年度初めて実施されたこのプログラムは、本学公認ボランティアサークル「学ボラ」がこれまで関係性を紡いできた、文京区蓬萊町会の受け入れのもと行われたプログラムです。

学ボラは、部員数100名を超えるボランティアサークルですが、部員の興味関心に応じた活動領域ごとに「班」が組織され、さまざまなボランティア活動が展開されています。そのうちの一つ「文京区班」は、コロナ禍以前より蓬萊町会とともに地域活動に関わっており、コロナ禍のあとも関係性が途切れることなく、今年度の根津神社祭礼における蓬萊町会の町内神輿渡御の活動にも参加が決まっていました。

根津神社の祭礼は、二年に一度執り行われている祭礼で、今年度の祭礼は文京区23町会の神輿が揃う機会でもありました。そうしたこともあり、多くの学生ボランティアに今回の町内神輿渡御に関わっていただきたいという申し出が蓬萊町会より学ボラに寄せられ、学ボラからボランティア支援室に、学ボラ部員以外の学生ボランティアに呼びかけを行いたいとの相談が寄せられたことにより、この度の「1day ボランティアプログラム」として、事前・事後のセッションを含めた、プログラムづくりを進めました。

以下、「学ボラ」所属学生からの報告です。

蓬萊町会との打ち合わせ、ボランティア支援室の運営メンバーとの打ち合わせを何度も重ねながら企画を進めました。町会との打ち合わせのなかで特に印象に残った言葉があります。町会長が「学生の皆さんには、思い出にしてほしい」という言葉でした。町会長が学生ボランティアを単なる労働力として見るのではなく、1人の人間として学生を呼んでいることに喜びを覚えました。この言葉がこの企画の軸になったと思います。ただ単に学生がボランティアを遂行するためのプログラムではなく、学生がボランティアを楽しめるように、「楽しかった思い出」となるようなボランティアプログラムにしようと思い、企画を構成していきました。

このプログラムは、(1) 事前説明会 (2) 活動当日 (3) ふりかえりの3部構成としました。

事前説明会は、参加者の不安を解消するために開催しました。具体的には、蓬萊町会や当日の活動の説明を行いました。オンライン開催でしたが、蓬萊町会の方にも同席していただき、参加者と町会の方とが交流できるような機会を設けました。当日の流れや、当日お世話になる町会の方と事前に交流することで参加者の当日の不安を解消することを努めました。

活動当日は、参加者の緊張をほぐすために最初にアイスブレイクを行い、場の雰囲気や和ませられるように努めました。また、当日の体調不良者の対応など、学生が問題なくボランティアをできるような体制をとりました。

ふりかえりでは、Google formに回答いただくことにより、当ボランティアプログラムを、各参加者にふりかえっていただきました。参加者自身が文章でふりかえりを残すことで、次のボランティア活動に繋がられるようにしました。

活動当日は、9月でありながら真夏のような暑さの中、神輿渡御を行いました。学生と町会の方々が協力しながらお神輿を担ぐ姿を見ることができて嬉しく思いました。また、町会の方が学生にかけてくださった「学生さん、ありがとう」の言葉が本当に嬉しかったです。その日に初めて会った人同士が、1つの行事を達成できるというのは、ボランティア特有の体験であると思いました。また、ふりかえりの回答を通して、このボランティアを通じて参加者が、地域が抱える問題の発見や問題への取り組み方について考えるきっかけになったように思えます。

(経済学部総合政策学科2年 東洋大学公認ボランティアサークル「学ボラ」 豊田 <sup>ひなり</sup>陽梨)





活動内容・各企画概要

## 20 「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO2024」への出展

開催日時・会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年9月18日(水) 11:00~18:00</li> <li>会場：大阪公立大学 i-site なんば</li> </ul>
目的	<p>以下について、他大学ボランティアセンターの取り組みと、ボランティアセンター学生スタッフ(学生コーディネーター)の実践事例を通じて学ぶこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「大学ボランティアセンター学生スタッフ(学生コーディネーター)」の役割について。</li> <li>2) それぞれの大学ボランティアセンターの工夫と課題について認識し、本学における実践に活かすこと。</li> </ol>
参加者数	本学からの参加13名
参加大学(センター名) ※本学除く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪公立大学(ボランティア・市民活動センター)</li> <li>・立命館大学(サービスマーケティングセンター)</li> <li>・関西学院大学(ボランティア活動支援センター ヒューマンサービス支援室)</li> <li>・神戸学院大学(ボランティア支援室)</li> <li>・神戸女子大学(ポアアイボランティアセンター)</li> <li>・東京都立大学(ボランティアセンター)</li> <li>・愛知淑徳大学(コミュニティ・コラボレーションセンター)</li> </ul>
主催	関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク(KAGAVOCO)
出展主体	東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

### ■ 活動内容(概要)

ボランティア支援室学生サポートスタッフは、2024年9月17日から19日にかけて、夏合宿を実施しましたが、夏合宿の主たる目的は、9月18日に大阪公立大学 i-site なんばにおいて開催された、「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO2024」への参加ならびにブース出展を行うことにありました。

関西学生ボランティアコーディネーターネットワーク(以下「KAGAVOCO」)は、2011年に京都で開催された、「全国ボランティアコーディネーター研究集会」のボランティアとして携わった、関西圏の大学ボランティアセンターの学生スタッフにより結成されたネットワークです。阪神・淡路大震災時、多くの大学生ボランティアが活躍した関西圏では、大学ボランティアセンターに学生スタッフや、学生コーディネーターが位置付けられている事例が多く、学生スタッフが日頃の取り組みについて情報交換や相談ができるようなネットワークとしてKAGAVOCOは機能し、それぞれの取り組みの紹介や、テーマを設定し意見交換を行うセッションなどをこれまで開催してきました。

「KAGAVOCO ボランティアセンター EXPO」は、各大学のボランティアセンターならびに学生スタッフの取り組みを互いに紹介し合い、それぞれの強みを確認し、自大学のセンター運営に役立てていくための企画として、毎年夏に行われています。この度KAGAVOCOより、関西圏のみならず全国の大学ボランティアセンターに、EXPOにおける活動紹介の依頼があり、本学からも支援室の学生スタッ

フである学生サポートスタッフが参加。活動紹介を行うとともに、EXPO参加大学のボランティアセンター学生スタッフとの交流を深め、他大学の工夫の凝らされた実践事例について学びました。

以下、KAGAVOCOボランティアセンターEXPOにおいて、本学の取り組みについての発表に関わった学生サポートスタッフと、他大学の学生スタッフとの交流を通じてさまざまな事例についての気づきを得た、学生サポートスタッフからの報告です。

### ● [KAGAVOCOボランティアセンターEXPO2024]における発表に関わってみて

KAGAVOCO事務局から、本学の取り組みの発表にあたり、ボランティア支援室の紹介ならびに組織形態の説明、サポートスタッフの活動を目的・対象・効果や工夫した点などを含めていただくよう依頼があり、そのことに沿って私たちは準備を進めました。

私たちは参加人数が多かったため、三人一組になり交代制で発表を行いました。10分の持ち時間で事前に作成したスライドを分担し、活動発表の際には実際にその活動を体験したメンバーに話を振りながら進めました。私は準備段階で、初めてお会いする方に向けて発表することの難しさを感じていました。難しさの一番の理由は、自組織をよく知る必要があるということにあります。日頃活動している中では話す機会の少ない組織の核の部分をどう分かりやすく、かみ砕いて説明できるかに注力することが難しいと感じた反面、良い機会ともなったと思います。組織のミッションひとつを説明するのにもなぜこのミッションを掲げるのか、何を目指しているのかなどを話すため、自組織と向き合える機会となりました。サポートスタッフ1・2年生全員が発表に関わり、自組織の理解を深めたことで士気があがったようにも感じました。

発表後には5分ほど質疑応答の時間が設けられ、神戸女子大学の方より、私たちが5月に行った「ボランティアサークル合同新歓」\*1において利用したフローチャートや、ボラカフェ\*2などの取り組みが新鮮で是非参考にしたいと声をかけていただき、この取り組みが私たちのアピールできる強みであることを再確認できました。強みであることを知れたため今後も続けていくモチベーションの一つにもなったと感じています。また、リーダーを置かずに全員で取り組むという、私たちが大事にしている部分も良い取り組みだというフィードバックをいただき、強みであることを確認できました。

今回が初めて自組織を他大学の方に発表する機会となりましたが、自組織と向き合い自信をもって話すことができた上に強みにも気づかされ、貴重な経験ができたと感じています。

### ●他大学ボランティアセンター学生スタッフとの交流を通じて(その1)

他大学ボランティアセンター学生スタッフの方々は、「学生だからこそできることを全力でやりたい!」と強い意志を持って取り組んでいて、その意思を肌で感じられたことは貴重な経験でした。そしてとても刺激の多い交流会でした。

自組織では広報や組織体制を整えているところであったため、各々に学びたい取り組みがありました。実際、広報活動に力を入れているところ、ボランティアコーディネートに力を入れているところ、団体と地域との関わりに力を入れているところなど、それぞれの強みがはっきりしていたことで、聞きたいことをすぐに聞く環境が充実していたと思います。

発表後の質疑応答の時間では、目の前でフィードバックをいただけたことから学生同士の距離が近い中で交流ができました。自組織内のグループ化を進行している中で、直接話を伺えたことは今後の活動を大きく前進させられる出発点になったと思います。今回の交流で終わりではなく、今回の交流を境に今後も良い付き合いができればと思います。また、お互いに学びたいことを助け合いながら共有できる関係性を構築したいです。

(社会学部メディアコミュニケーション学科2年、ボランティア支援室サポートスタッフ 横山 芽生)

### ●他大学ボランティアセンター学生スタッフとの交流を通じて (その2)

当日はさまざまな大学の取り組みを聞いて回りましたが、どの大学も広報で悩んでいることが明らかになりました。社会貢献活動は、いまだ大学生にメジャーなものでは無く敷居が高いものだと誤解されがちであります。そのことから社会貢献活動に関する内容にアクセスが少ない現状があり、各大学のボランティアセンターも例外ではありませんでした。公式のSNSを持ち若者に寄り添った広報をする大学や、報告書を作成し冊子状にして自分たちの活動を広めようとする大学、元来のアナログな広報であるチラシ掲示を推し進める大学など。大学によってさまざまな方法があるものの、どの大学も満足いく結果が表れているわけでは無く、広報の課題は今後も続く大きなものであると感じました。また、発表を聞くまでは想像もしていなかったアイデアや、今まで想像はできていたけれど実現にまで至らなかったようなアイデアが各大学の発表から得られ、今後の活動の幅が広がるとともに、参加をして多くの同年代の意見を聞いたことで自分たちの活動のモチベーションの向上にもつながりました。

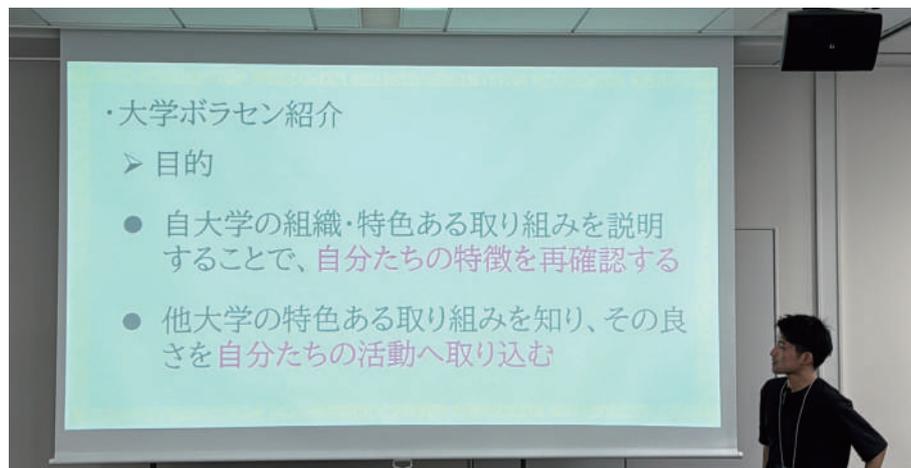
私としても今回多くの大学の活動事例を聞いたことは大変価値のあるものだと感じており、今回の学びを今後の活動の糧にしたいと感じました。また、KAGAVOCOを主につくり上げていたのは学部2、3年生の方が多く、学生の身でありながら主体的に企画・行動する姿にサポートスタッフとしてはもちろんのこと、個人的にも刺激をもらいながらイベントに参加できました。

今後は今回参加したKAGAVOCOで聞いたアイデアの一部の採用や、着想を得た上で企画の作成や制度の見直しをするとともに、各大学で課題となっていた広報についても積極的に取り扱うようにしたいと考えています。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 都築 郁昭)

\*1：詳細は本書P31からの報告を参照。

\*2：詳細は本書P115からの報告を参照。





活動内容・各企画概要

## 21 赤羽地域交流企画「盆踊り」

主催	東洋大学SDGsアンバサダー赤羽台チーム、赤羽圏域高齢者あんしんセンター
開催期間・日時	2024年9月28日(土) 14:30~16:30
会場	赤羽北区民センター 2階 第1ホールA
目的	東洋大学と赤羽地域の交流の機会を作り、継続的な繋がりを目的とする
参加者数	約45名 【内訳】学生15名程、地域職員15名程、地域住民15人程度
協力	東洋大学ボランティア支援室、赤羽高齢者あんしんセンター、赤羽北高齢者あんしんセンター、浮間高齢者あんしんセンター、桐ヶ丘やまぶき荘あんしんセンター、西が丘園あんしんセンター、東十条・神谷高齢者あんしんセンター、みずべの苑高齢者あんしんセンター

### ■ 活動内容 (概要)

本企画は、赤羽圏域高齢者あんしんセンターの職員の方々が、『「大学と地域の連携」を強化するための企画をしたい』と東洋大学ボランティア支援室に、ご連絡をさせていただき実施に至った。学生側の運営、東洋大学SDGsアンバサダー赤羽台チームが担当を希望し、この二者で2024年6月頃から9月のイベント当日まで、話し合いを重ね準備を進めた。

毎月1回をベースに学生3~5人、地域住民3~5人、地域職員5~10人、ボランティア支援室職員1人で、東洋大学赤羽台キャンパスボランティア支援室で1時間程話し合いをした。イベントのメインである「盆踊り」は地域職員からの提案で、全世代が楽しめる企画にしたいという意図であった。話し合いの中では、会場・開催日時・イベントを盛り上げるための追加企画などを協議した。会場は、当初赤羽台キャンパスを希望していたが事務課より「学生が地域に出て行くという観点より、地域で実施すべきではないか」という提案をされ、赤羽北区民センターでの実施となった。開催日時は「北区花火大会」の日に合わせて、盆踊りイベント後に参加者で花火を観に行こうという運びになった。そして、追加の企画として「ビンゴ大会」「着付け体験」「フォトスポット」の実施が決まった。

イベント当日は、夏休み明けすぐということもあり学生の参加者数が心配されたが、15名ほどに参加して頂き地域の方々との人数比や会場の大きさもあり、無事に運営することができた。以下に参加した学生の声を紹介する。

- 北区の方と交流する機会がなかったので今回の交流を通して地域の温かさや魅力を知れました
- 女性限定で行うことが出来た着付け体験では、さまざまな着付けに関する知識を教えてくださいました。
- 中々馴染のない踊りで、曲がかかった序盤は戸惑いつつも、終盤に行くにつれて楽しく踊れました。
- 初めての盆踊りだったので、とても印象に残りました。楽しみながら地域のコミュニティ活性化に貢献できたことが特によかったです。これからのイベントにもぜひ参加してみたいと思います。

このように参加した学生の感想から、「大学と地域の連携」につながるきっかけを作ることができたと思われる。イベント後には、「東洋大学赤羽台祭」に地域の方々に来て頂いたり、また学生が「赤羽圏域地域包括ケア連絡会」に参加したりと、継続的なつながりができている。また、来年度もイベントの実施のため話し合いを始めようとしている。

**盆踊り**

「赤羽地域×東洋大生」企画

**9/28 (土)**

14:30~16:30

赤羽北区民センター  
2階 第1ホールA

会場情報はこちらから  
ご参照ください

**タイムスケジュール(予定)**

- 14:00 着付け
- 14:30 盆踊り
- 15:00 ビンゴ大会
- 15:30 盆踊り
- 16:30 お開き

**イベント情報**

- 着付け体験 (女性先着10名)
- 盆踊り
- ビンゴ大会-豪華景品が!

盆踊りのあと、  
みんなと一緒に北区の  
花火大会に行こう!

着付け体験は女性先着10名、  
男性は体験を優先しています。  
着物・浴衣・袴・帯・法被を  
お持ちの方は、ぜひご活用または  
ご持参してご来場ください。

**参加申込**

右のQRコードより  
ご応募ください

**主催・お問い合わせ**

赤羽北高齢者あんしんセンター  
TEL: 03-5948-5940  
東洋大学SDGsアンバサダー (赤羽台チーム)



活動内容・各企画概要

## 22 Toyo 1day ボランティアプログラム 「ビーチクリーンアップ in YUIGAHAMA Beach～SDGs14『海の豊かさを守ろう』～」

開催日時・会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時：2024年9月29日(日) 10:00～12:00</li> <li>会場：由比ガ浜海水浴場</li> </ul> <p>※事前交流会「海に行く前の準備体操」を以下の日程で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日程：2024年9月13日(金) 20:00～21:30</li> <li>会場：Zoomによるオンライン会場</li> </ul>
目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 海洋汚染の現状を知り、その対策としての行動を参加学生が自ら実行できるようになるためのきっかけとすること。</li> <li>2) 参加学生が、ボランティア活動の意義や楽しさを実感できるようになること。</li> </ol>
参加者数	33名(うち、本学学生24名)
インタープリター	相良 菜央さん (一般社団法人I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター) 代表理事)
共催	多摩大学学生社会ボランティアコーナー
企画運営	東洋大学SDGsアンバサダー、多摩大学学生有志
協力	一般社団法人I.C.E.R.C Japan (国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター)

### ■ 活動内容 (概要)

昨年度、多摩大学学生社会ボランティアコーナーとの共催で開催した、「ビーチクリーンアップ in YUIGAHAMA Beach」を、今年度も両大学の共催プログラムとして実施し、本学においては「Toyo 1day ボランティアプログラム」と位置付け開催しました。

昨年参加経験者の学生を中心に5月よりミーティングを重ね、今年度は事前交流会をオンラインで実施する試みも行いました。特に昨年参加した学生たちは、その体験を

通じて、マイクロプラスチックが海洋ごみとして存在していることを目の当たりにしたこともあり、その問題を参加者間で活動とディスカッションを通じて共有しようと準備を進め、実施に至りました。

以下、本学学生からの報告です。



昨年度に続き、今年度も多摩大学の学生と協力し、5月から9月にかけて約10回のミーティングを重ね、開催に向けた準備を行いました。ミーティングでは、開催場所について前年度同様に海で行うか、新たに川でリバークリーンとして行うかのどちらが適切かを議論し、その結果、観光客や海水浴客にゴミを拾う姿を見てもらい、「ゴミを拾うことが当たり前」という意識を広めたいという思いから、由比が浜での実施を決定しました。

今年度の大きな変更点は、参加者の事前交流会を設けたことです。交流会はZoomで約1時間行い、活動の目的について触れた後、自己紹介そして、共通点探しを行いました。この交流会により、参加者同士の親睦が深まり、当日のビーチクリーン活動がよりスムーズに進行したと感じています。事前に顔を合わせたことで、当日がさらに楽しみになり、自然と参加者全員が一丸となって活動に臨めました。

活動の目的の一つは、海洋汚染の現状を知り、その対策としての行動を参加学生が自ら実行できるようになるためのきっかけを提供することでした。実際にビーチでゴミを拾い、特にマイクロプラスチックの存在とその影響を実感することで、参加者は環境問題への認識を深めました。

当日もアイスブレイクの時間を活動の前に作りました。準備体操として、東北ラジオ体操、グループ内での自己紹介を通じて「海にまつわる思い出」を語り合う場を作り、交流の場が盛り上がりました。

ビーチクリーンの最中、参加者たちは真剣にゴミを拾い、グループによっては時間を忘れるほど熱中して作業を進めていました。参加者からは時間が短いと感じるほど充実した時間だったという声がありました。また、「マイクロプラスチック」の小ささと多さを実感することができたという意見も多かったです。活動後、相良さんからは海の生き物がプラスチックごみによって受けている被害についてのレクチャーがあり、また、世界中の海に広がるマイクロプラスチック問題についても触れられ、参加者たちはその深刻さを改めて実感し、どのように積極的に行動していけるかを考えるきっかけとなりました。

ビーチクリーン後には、グループディスカッションを行い、参加者たちは自身の感想を共有し、今後実際にどのように行動していきたいかについて話し合いました。単なるゴミ拾いで終わるのではなく、グループワークやディスカッションを通じて学びを得ることができたという声が多く聞かれました。また、ゴミが多く存在している現実を目の当たりにし、そのゴミに気づく人はどれくらいいて、その中で実際に拾う人がどれくらいの割合かを考えるきっかけとなったという意見がありました。多くの人々が気に留めることなく見過ごしている現状を改めて認識し、その改善に向けた自分たちの行動がどれほど重要かを再確認できました。さらに、この活動を通じて、ゴミの回収だけではなく、海や環境への意識をどう深めていくかという大きなテーマについても考えさせられました。

また、ボランティア活動の意義や楽しさを実感することもこの活動の重要な目的の一つでした。参加者たちは、共通の目的に向



かって協力し合いながら活動を進める中で、ボランティア活動のやりがいや楽しさを感じ、今後もこのような活動に参加したいというきっかけになったのではないかと考えます。

今年度は、昨年よりも多くの参加者が集まり、参加者同士が親しくなる様子が見られました。運営側として、昨年からのつながりが広がり、より多くの学生

が関わるようになったことを実感し、達成感を感じました。新しい活動を続けて次につなげるということは今まで私自身、ハードルが高く感じていましたが、同じ東洋大学のメンバー、そして多摩大学のメンバーたちの熱い思いで、無事に開催できたことを非常にうれしく思います。今後もこのつながりを維持し、次回以降の活動につなげていきたいと思います。

昨年度に引き続き、今年度も本活動が実施できたのは、企画運営メンバーの協力、相良さん、ボランティア支援室の職員の皆様の支援があったからこそです。最後に、当企画にご協力いただいた相良さん、ボランティア支援室の皆様にご挨拶申し上げます。来年度以降も継続してビーチクリーンを開催できるよう、次の代にこの活動を引き継いでまいります。

(国際学部国際地域学科3年 SDGs アンバサダー 佐々木 愛歌)



## 23 秋季能登半島募金

開催期間・日時	2024年10月2日(水)～2024年10月11日(金)
会場	東洋大学 白山・赤羽台・朝霞・川越キャンパス
目的	2024年1月1日に発生した能登半島地震に対し、東洋大学では1月より復興支援として学生・教職員によるボランティア派遣や募金活動を継続的に実施してきた。その中で、SDGsアンバサダーは率先してボランティアや募金活動に参加したりするなどして、東洋大学生の復興支援活動への参画の中心たる存在としての役割を担ってきた。 しかし2024年9月中旬、未だ地震災害からの復興の途上にあった能登半島において局所的な豪雨災害が発生した。地震、豪雨の二重被災という状況を踏まえ、復興にはさらに多くの支援が必要であることが考えられる。このことから今回の豪雨災害に対する緊急支援として東洋大学の学内・全キャンパスにてSDGsアンバサダーが軸となり、学生を中心に災害救援募金を実施することとする。
参加者数	各キャンパス合計40人
協力	能登半島地震ボランティア参加者 東洋大学SDGsアンバサダー

### ■ 活動内容 (概要)

白山キャンパスでは1号館1階エレベーター前と6号館地下1階廊下で10月2日と10日の昼休み(12時10分から13時)の時間、10日は昼休みの時間と17時から18時の時間帯で行った。赤羽台キャンパスでは10月8日の昼休みにWELLB3階渡り廊下で行った。朝霞キャンパスでは10月4日、8日、11日の3日間、昼休みに2号館1階食堂前で行った。川越キャンパスでは10月8日、10日の2日間昼休みに学生ホール食堂棟1階で行った。各キャンパスの募金活動場所では学生が募金箱と看板を持ち運営に協力していただいた。



募金活動では東洋大学内の学生、教職員の方から多くの寄付金が集まった。今回の秋季能登半島募金では全キャンパス合計151,632円であった。

2024年1月に発生した能登半島地震から8か月後に発生した能登豪雨災害では地震復興の最中に起きた二重被災である。募金活動中に学生や教職員に向けて二重被災であることを伝えたことで初めて知ったという人も少なくなかった。活動を通じて現地に赴いてボランティア活動は出来ないが遠く離れた私達にも出来る事があるということを改めて実感した。

今回、訳15万円という多額の寄付が集まったことは東洋大学内の学生、教職員の方たちの協力があったことで実行できたことです。協力していただいた方に感謝申し上げます。

(国際学部国際地域学科2年 SDGsアンバサダー 塩澤 尚)



## 24 SDGs アンバサダーボランティア支援室ツアー

開催期間・日時	2024年10月24日(木) 12:20~12:50
会場	東洋大学 白山キャンパス ボランティア支援室
目的	東洋大学SDGsアンバサダーには、毎年50人以上の新規認定者がいるが、次年度継続者数が20人程であるので、その対策として「ボランティア支援室ツアー」を実行した。なお、これらの企画は、今年度の新規認定者だけでなく、来年度の新規認定者がSDGsアンバサダーに入って、1年間仲間たちとお互い積極的に活動できるよう、かつ再来年以降も継続できるようにという、実験的段階の意図もある。
企画・運営	東洋大学SDGsアンバサダーD&Iチーム 【運営メンバー】伊藤、山田、大木、前井、瀬野、宮本

### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室のある「雨水会館」は白山キャンパスの敷地から離れているため、場所を知らない学生も多い。そこで、白山キャンパスの8号館からボランティア支援室のある雨水会館までの道のりを案内するために8号館サブウェイ前を集合場所とした。8号館からボランティア支援室まで一般参加者とともに案内し、支援室に到着後に山田さん(SDGsアンバサダー)を司会にメンバー内の親睦を兼ねてアイスブレイクを行った。内容は、二人一組になって①自分の名前、②学年学部学科、③アンバサダーでの所属チーム、④興味のあるSDGs目標、⑤将来の目標を順に自己紹介をした上で、他己紹介を行った。

アイスブレイクの後に、瀬野さん(SDGsアンバサダー)よりボランティア支援室についての説明を行った。主に①誰でも利用できること、②ボランティアについての相談ができるということなど説明を行った。

その後、伊藤さん(SDGsアンバサダー)によるボランティア支援室の利用者インタビューや大木さん(SDGsアンバサダー)から今後のアンバサダーの活動の「おにぎりアクション」「SDGsワークショップ」などのお知らせを行い、終了した。

本日は「ボランティア支援室の場所」と「誰でも利用することができる」ことを知ってもらえることを目標としており、参加者が今後の活動で支援室を利用するきっかけとなれば良いと思っている。さらに、運営アンバサダーが企画の経験を積むことにより他の企画へ繋がる土台になることを期待している。

### 【当日の流れ】

- 12:15 サブウェイ前集合
- 12:20 開始(雨水会館へ移動)
- 12:20~12:35 アイスブレイク
- 12:35~12:40 ボランティア支援室の紹介
- 12:40~12:50 ボランティア支援室利用者インタビュー

### 【感想 抜粋】

- 一から内容を考えるのは大変だったが、1年生のうちに運営のやり方を知ることができて良かった。もし次回があれば、複数回の開催を検討した方が良いと感じた。(運営 山田)
- 無事にツアーが終わってよかった。この企画を軸に来年度のSDGsアンバサダーの新規認定者の歓迎会企画として、続けたいと思う。(運営 伊藤)
- 参加者それぞれが関心を持ったSDGsの内容を聞いていると、自分の生き立ちと関係のある人がいて、自分自身の勉強にもなりました。(一般参加者)

## 25 TUEP 主催赤羽台祭イルミネーション企画

開催期間・日時	2024年11月2日(土) 16:00~18:00
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス
目的	学内の社会貢献団体との連携活動のため
参加者数	SDGs アンバサダー4名

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学の学生団体TUEPが主催する、赤羽台祭イルミネーション企画の当日サポートスタッフをおこなった。

学生団体TUEP (Toyo University Eco Projects) は、SDGs (持続可能な開発目標) を軸に発足した学生団体であり、大学の教職員や様々な企業と連携しながら活動を行なっている組織である。

本イベントでは、Landport株式会社のソーラーランタン“CARRY THE SUN”を赤羽台キャンパスの階段に設置し、フォトスポットとして灯りを点らせ、貸出もおこなった。また、ランタンは当日販売もおこなっており、売り上げはパキスタン支援に繋がる仕組みになっている。

SDGs アンバサダーは当日のサポートスタッフとして、イベント開始前15時より現地でランタンの搬入と搬出、設置と点灯をおこなった。当日は雨だったこともあり、当初置く予定だったなかみち広場へはランタンの設置が少数しかできなかつたものの、階段を利用する一般客が足を止めたり写真を撮ったりする姿が見られた。特に子供からの人気が高く、ランタンを手を持ちたり暫くランタンに魅入って動かなくなる様子が見られた。また、主催であるTUEPのメンバーとも準備や片付けの際に会話をすることが多く、両団体ともに積極的にコミュニケーションをとりながら活動することができた。



## 26 本回収から子どもたちの笑顔に ～「夢の本箱」 in 赤羽台祭～

開催期間・日時	2024年11月2日(土) 11:00～16:00 11月3日(日) 11:00～16:00
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス WELLB HUB-2 20208教室
目的	読み終えた本で、子どもの支援を行なっている「夢の本箱」という活動の学生・地域住民へ周知と実施
協力	文京区社会福祉協議会

### ■ 活動内容 (概要)

11月2日(土)、11月3日(日) 東洋大学赤羽台祭にて、東洋大学SDGsアンバサダー赤羽台チーム主催のもと「本回収」企画を実施した。当企画は、文京区地域公益活動ネットワーク「夢の本箱」を、赤羽台祭で実施したいという学生の声から実現した。

「夢の本箱」は文京区社会福祉協議会の取り組みで、読み終えた本の寄付を募り、株式会社ブックオフが換金し、地域子ども食堂等の団体資金に役立てるシステムとなっている。今回、赤羽台祭で実施をした目的は学生、地域住民への「夢の本箱」の実施と、周知である。当企画を知ること、新たな取り組みが生まれることも期待している。

東洋大学SDGsアンバサダー赤羽台チームは、2023年度の赤羽台祭で「衣服の回収」を実施した。そこでの経験を活用し、地域への周知と事前回収を実施した。地域への周知は、北区社会福祉協議会協力のもと、桐ヶ丘中央商店街、ヌーヴェル赤羽台に学生が作成したポスターを掲示した。赤羽台祭当日に来場できない人のために、10/24(木)～11/1(金)に、東洋大学赤羽台キャンパスWELLB HUB-2 1階入り口と東洋大学白山キャンパス 浦水会館 1階 ボランティア支援室の2カ所に、箱を設置し事前回収を実施した。

赤羽台祭当日は、黄色の装飾をしたポストを作り来場者に本を入れていただいた。地域住民、学生、教職員、東洋大学図書館からの協力を得て、合計88冊の本の寄付を集めることができた。

当企画の実施により、様々な形で社会貢献ができると学ぶことができた。次年度の赤羽台祭では、一層レベルアップした企画の実施を目標としたい。



東洋大学SDGsアンバサダー  
TOYO UNIV. SDGs AMBASSADOR

# 本回収から 子どもたちの笑顔に

## 東洋大学赤羽台祭 11/2(土)・11/3(日)

場所：東洋大学赤羽台キャンパス  
WELLB HUB-2 2階 20208教室  
開催時間：午前11時～午後4時

夢の本箱に  
関する取り組みに  
ついてはこちら



読み終えた本を寄付してください

集めた本は  
「夢の本箱」へ  
寄付します

※東洋大学のキャンパス内にある文庫の取り扱いです。ここでの内容は本文範囲です。

●読み終わった本を「夢の本箱」へ入れてください ※扉の裏面に以上にご記入

●株式会社ブックオフのHPサイト「キモチと。」から無料で回収の依頼を行うことができます

→ 寄付したい本を撮ります

→ 募金された資金は区内の社会福祉法人を通じて、地域で子ども食堂等の活動を行っている団体の運営に役立てられます

**企画目的**

学校給食がなくなる長期休暇期間中に子どもの食や居場所づくりを支援している団体がいます。皆さんが読み終えた本をリサイクルし、その資金で「食」や「居場所」の提供を助け、子どもたちに笑顔をお届けしませんか？

**回収できないモノ※**

- ・週刊誌
- ・コミック誌
- ・教科書や参考書
- ・汚れている本
- ・非売品

※バーコードのついている売却可能な本が回収対象です

**事前回収場所**

期間：令和6年10/24(木)～11/1(金)  
場所：東洋大学  
白山キャンパス 雨水会館 1階 ボランティア支援室  
赤羽台キャンパス WELLB-hub2 1階 入り口

運営：東洋大学SDGsアンバサダー  
お問い合わせ先：(ボランティア支援室) niyolsup@toyo.jp

本でつなく文京の未来

# 夢の本箱

読み終わった本をご寄付ください

バーコードのついている売却可能な本が対象です



本箱の設置場所や活動について詳しくはホームページもご確認ください

文京区では年間、1000人以上のお子さん（小中学生）が経済的な理由により就学援助を受けています。そのなかには、学校給食が欠かすことのできない栄養源となっているお子さんもいらっしゃいます。夢の本箱では、学校給食がなくなる長期休暇期間中など子どもたちが空腹で過ごすことのできるように「食」や「居場所」を提供する地域の団体等を支援するため、皆様からの本のご寄付をお待ちしています。

**支援の仕組み**

●読み終わった本を「夢の本箱」へ入れてください ※扉の裏面に以上にご記入

●株式会社ブックオフのHPサイト「キモチと。」から無料で回収の依頼を行うことができます

→ 寄付したい本を撮ります

→ 募金された資金は区内の社会福祉法人を通じて、地域で子ども食堂等の活動を行っている団体の運営に役立てられます

**問合せ先**

文京区地域公益活動ネットワーク TEL: 03-3812-3040  
(事務局) 文京区社会福祉協議会 夢の本箱担当まで 月曜から金曜 9時～17時 (土日、祝日は休み)

文京区地域公益活動ネットワーク  
福祉社会福祉法人は、地域に密着して役立つ「地域公益活動」に取り組んでいます。文京区地域公益活動ネットワークは、区内にある社会福祉法人が相互に連携し、地域の様々なニーズに応えていくための活動や事業を実施していくネットワークです。



## 27 2024白山祭 SDGs アンバサダー出展

開催期間・日時	2024年11月2日(土)～2024年11月3日(日)
会場	東洋大学 白山キャンパス 1709教室
目的	より多くの人にSDGs アンバサダーの活動を認知してもらうため。
参加者数	【SDGs アンバサダー】14名 【来場者数】2日間合計362名



### ■ 活動内容 (概要)

SDGs アンバサダーは第60回白山祭に出店を行いました。昨年度に引き続きの出展となります。今年度は1日目178名、2日目184名の方がSDGs アンバサダーブースに来場していただきました。両日とも昨年度を上回る来場者数で、より多くの人へ活動内容を知ってもらう良い機会となりました。今年度の出展は、展示以外にも、来場者の方へ体験してもらえるブースを多く展開しました。また、今年度は様々な方面へ活動の幅を広げたほか、ウォーターサーバープロジェクトなど新しい活動の開始、新しい企画が誕生したため、内容の濃い展示が行えました。ゲームを体験したり、アンケートに答えたりした来場者には、文京区社会福祉協議会フミコムの紹介で三菱食品より寄贈いただいたフードロス削減の「ハリボー」を配布し、来場者へ身をもってSDGsへの関心を高めてもらいました。以下は各企画ごとの報告です。

#### ●ポスター展示

今年度は、3つのチームの活動報告に加えて、ウォーターサーバープロジェクトSPRINGの報告、アンバサダー主催企画のポスターを展示しました。その他にも、能登半島地震ボランティアの活動に行ったメンバーが載っているポスターを掲示し、東洋大学としての取り組みも伝えることができました。ポスターを見ている来場者へは、実際に活動を行ったメンバーが説明を行い、学生目線でのSDGsアクションの取り組みを説明できました。来場者からは、「学生からパワーをもらった」「学生の力はすごい」といった感想をいただきました。また、「SDGsに対する関心が深まった」「説明がわかりやすかった」といった意見も見受けられました。今後も展示を行う際には積極的に来場者へ声掛けや説明を行い、自身の取り組みを伝えていきたいと思っております。



#### ●段ボールベッドの展示

今年度は準備日に段ボールベッドを作成し、展示を行いました。段ボールは近所のスーパーよりいただき、活用しました。アンバサダーの防災まちづくりチームでは日ごろから災害に関するイベントや企画に参加しています。そこで学んだ段ボールベッド



の作成方法をもとに、1から段ボールベッドを作成しました。制作中は試行錯誤をしながら段ボールを組み合わせて、みんなで工夫しながら制作しました。当日実際に段ボールベッドで寝た来場者の方からは、「初めて段ボールベッドを使った」「段ボールなのに強度があってすごい」といった感想が寄せられました。今回の展示を通じて、防災まちづくりチーム以外のアンバサダーの学生も防災知識を高められたとともに、来場者の方へ実際に災害が起きた時の一部分を体験いただけるいい機会になったと感じています。



### ●ゴミ分別ストラックアウト

昨年度実施したゴミ分別ゲームを改善し、ストラックアウト形式にして実施しました。文京区のごみ分別ルールをもとに、可燃、不燃、資源に分別します。ストラックアウトといったゲーム形式にしたことで、一般の来場者の方はもちろん、学生や子どもの来場者の方にも楽しんで参加していました。

### ●SDGsの木

昨年度に引き続き、来場者に今後したいSDGsアクションを付箋紙に書いてもらい、SDGsの木に貼ってもらいました。来場者に身をもってSDGsを考えてもらうきっかけづくりとしてとてもいい企画だったと感じています。

今年度の白山祭への出展は来場者に参加してもらったり、体験してもらったりする企画や展示を充実させて実施しました。大学内での取り組みや大学生ならではの活動を多くの人に知ってもらう良い機会になったと感じています。来場者からの感想や期待を糧に今後もSDGsアンバサダーとしての活動をより一層充実させていきたいと考えています。来場者アンケートからは、「学生の取り組みを知れてよかった」「このような活動は知らなかった」「SDGsについてわかりやすく教えてくれて興味を持った」「今後の生活でも意識したい」といった感想が寄せられました。今回の学祭に来場された方が、普段目にする事のない段ボールベッドや、気軽に楽しめるゴミ分別ストラックアウトなどを通して、よりSDGsへの関心を向けてくれたら幸いです。

(経営学部会計ファイナンス学科2年 SDGsアンバサダー 奥村 碧斗)

### 【参加学生からの感想】

今年度の大学祭では、幅広い年代の来場者にご参加いただきました。特に、小学生から高校生、地域の方々まで多くの方々に来ていただけたことが印象的でした。中でも、廊下に掲示していた能登ボランティアのポスターに興味を示し、教室内に足を運んでくれた方が多く、能登への関心の高さを感じました。

また、昨年度に引き続き段ボールベッドの展示は、実際に体験できることで多くの来場者に好評を得ました。今回は、キットではなく、自分たちで一から段ボールを集めて作成したため、よりリアルに被災時の状況を想像していただけたのではないかと思います。手作りであることを伝えると不安がる方もいましたが、実際に座ったり寝たりすると、その丈夫さに驚く声が多く聞かれました。

さらに、ごみ分別ストラックアウトゲームにも多くの人に参加し、盛り上がりを見せました。文京区のごみ分別に基づいたこのゲームは、ごみの分別を楽しく学び、興味を示してもらうために作成した、オリジナルゲームです。参加者からは「今まで曖昧に分別を認識していたことが分かった」や「家に帰って自分の住む地域の分別を再確認してみようと思った」などの感想をいただきました。

来年度の大学祭においても、体験型のコンテンツを取り入れつつ、SDGsアンバサダーの取り組みをより分かりやすく、楽しく学べる展示をしていけるよう努めてまいります。

## 28 Toyo-MeWプロジェクトによる白山祭出展

講師	Toyo-MeWプロジェクト
開催期間・日時	2024年11月2日(土)、3日(日) (準備日: 同年11月1日)
会場	東洋大学白山キャンパス1703教室
目的	生理や月経に対する理解を促進させるような催し物を複数出展し、Toyo-MeWプロジェクトの目指すところである「月経や生理についてのタブーの解消」をに向けた啓発を行うこと
参加者数	計 約200人 (1日あたり100人程度)

### ■ 活動内容 (概要)

白山キャンパス1号館の一室を借用して展示を行った。そのブースでは、生理や月経に対する理解を促進させるような催し物を複数出展し、Toyo-MeWプロジェクトの目指すところである「月経や生理についてのタブーの解消」を期待できるような企画を行った。

今回、Toyo-MeWプロジェクト創設初となる『白山祭』に出展しました。企画チームは同年の3月・4月頃から手続きや企画立案を行い、実施は11月と、長期間にわたる準備が必要なイベントとなりました。当初の予定から多少のズレはありましたが、最終的にはMeWの理念に沿ったブース出展ができ、来場者からのコメントを通じて「タブーの解消」という団体目標に近づけたと感じています。個人的にも、多くの反省点がありましたが、それと同じくらい良いフィードバックも多く得られ、非常に満足のいく企画となりました。

本企画では、MeWで行ってきた活動の展示や月経・生理に関連する物品の展示、モヤモヤ共有会、親と子の月経ギャップ、ティーの販売などを行いました。MeWで行ってきた活動の展示では、吸水ショーツの実証報告や8月に参加したMeCare主催のイベントで使用した資料を活用し、MeWがこれまで得た知識や経験を外部に発信する場となりました。生理に関連する物品の展示では、従来の生理用品と最新の生理用品を並べることで、男女ともに新たな発見を得られるブースを作りました。特に、男性にとって生理用品に触れる貴重な機会となり、団体の強みを活かすことができたと感じました。また、「親と子の月経ギャップ」のブースでは、大人と子供の生理経験を目視で比較できるように展示を工夫し、親子間で異なる月経観を発見できる場となりました。

白山祭の出展は、Toyo-MeWプロジェクト内で完結するものではなく、白山祭実行委員からの期日やルールを守る必要があったため、調整が大変でした。しかし、学外に対して多くの発信ができたことは非常に良い機会だったと感じています。今後は、学内外問わず、団体の活動を積極的に発信していきたいと考えています。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 Toyo-MeWプロジェクト 都築 郁昭)



## 以下運営メンバーによる本企画の感想

初めての白山祭なので、どのくらいの人がかかるのか全然予想が付きなかったが、想定したよりも多くの方に来ていただけて嬉しかった。展示物を作成するにあたり、他のメンバーとの交流や新たな知識を得るきっかけになったのも良かった。

個人の反省点としては、MeWで実施している様々な企画や今も進行しているプロジェクトのことを、来ていただいたお客さんに自分の言葉で説明できなかったことだ。もっとMeWの活動を把握しておくべきだったと反省した。しかし、一般の方と月経に関する話を話す機会はなかなか無いので、新鮮な経験ができたことは良かった。

また、全体的に見て、各ブースの担当者がいない時間があったり飲食に関するルールがしっかり把握できていなかったりという反省点はあったが、東洋大学生や一般の方々に月経について考えたり新たな発見をしたりする機会を提供出来たのではないかと感じたので、準備は大変だったが出展できて良かったと思った。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科1年 Toyo-MeWプロジェクト 細井 瑞希)



## 29 「bon×bon festa AKABANEDAI」

開催期間・日時	2024年11月10日(日) 11:00~16:00
会場	ヌーヴェル赤羽台/北区立赤羽台けやき公園
目的	地域住民のコミュニティ形成を促進させるため、団地屋外空間や区立公園などの地域資源を活用して、「ヒト」のつながりや「コト」の創出を活発化させ、赤羽台エリアの活性化と魅力向上を図ること。
参加者数	19名以上(ボランティア参加数)
協力	ヌーヴェル赤羽台自治会、桐ヶ丘中央商店街協同組合、東洋大学赤羽台キャンパス マルエツ赤羽台店、(一社)東京北区観光協会、(公財)北区文化振興財団、北区版アーティストバンク

### ■ 活動内容(概要)

当日はヌーヴェル赤羽台と北区立赤羽台けやき公園のエリア内で、いくつかのブースが設置されました。スタンプラリーや公園でのクラシクトレイン、屋台といったブースに分かれそれぞれでボランティアを行いました。内容としてはスタンプラリーの運営、会場内の案内、屋台の手伝い、ステージの補佐等が振り分けられました。

会場内では五か所ほどのスタンプラリーとスタッフの方によるスタンプが設置され、六個のスタンプを集めた方に対し景品を渡しました。活動はインフォメーションスペースで行い、ガチャガチャの交換とチラシの配布、大まかな会場の案内をしました。ステージでは、出演者の誘導、演奏等で使用した楽譜置きや椅子の収納、また当日は天気が不安定だったため楽器等を雨から守るほか椅子の清掃を行いました。

屋台やトレインブースではボンボンフェスに参加した一般の方と関わることができ、家族でイベントを楽しむ姿が印象的でした。無料で似顔絵を描いてくれるスペースが特に人気で当日はヌーヴェル赤羽台の居住者の方を含め、東洋大生、他にもいろいろなところからの参加があり大盛況のイベントでした。

URの方や協賛のフィレールの方、地域住民の方とコミュニケーションをとり楽しみながらボランティアに参加することができ貴重な機会でした。

(社会学部メディアコミュニケーション学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 横山 芽生)



## 30 おにぎりアクション2024in 東洋

開催期間・日時	2024年11月11日(月)～11月14日(木) 12:00～14:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 6号館1階学生部前
目的	<p>①開発途上国における社会課題や食品ロスへの是正に向け、直接的な支援策として活動を行う機会とする。</p> <p>②東洋大生が、文京区のカーボンニュートラル実現の目標や開発途上国への支援をはじめ、「社会課題」に関心を向け「自分ごと」としてアクションを行っていくためのきっかけを提供し、東洋大学全体としての社会貢献活動への取り組みを前進させる。</p> <p>③「SDGsアンバサダー」の存在や活動について東洋大学全体に広報する機会として捉え、東洋大生に対しSDGsアンバサダーが今後行うSDGs・社会貢献活動に参加してもらう礎を作り出す。</p> <p>④東洋大学生協や学生部などとの協議を経て、各所との関係性を維持・構築を目指す。</p>
参加者数	<p>125名 ※主な内訳は、以下の通り。</p> <p>【内訳】</p> <p>11日：39人</p> <p>12日：16人</p> <p>13日：24人</p> <p>14日：46人</p>

### ■ 活動内容 (概要)

毎年10月16日は「世界食糧デー」である。

世界の食糧問題は、食糧不足から起きるものではなく、食糧の分配の問題でもある。

「食の不均衡」問題への解決のために、先進国の栄養過多と途上国の飢餓という2つの問題を同時に解決することを目指し、NPO法人TABLE FOR TWO International (以下TFT) がビジネスモデルを考案。

大学の学食や企業の社食に独自のヘルシーメニューを開発することを促進し、その売上の20円をアジア・アフリカ等の途上国に給食として届けることを続けてきた。(なお、TFTはUniversity Associationと呼ばれる大学連合があり、全国の多数の大学に支部が設置されている)

このTFTが「世界食糧デー」に向けた取り組みの一環として、「おにぎりアクション」というフォトアクションを毎年秋に展開している。(2024年は10月3日から11月16日の期間に設定)

このアクションは、期間内にSNSにおにぎりの写真を投稿することで、スポンサー企業が途上国に給食を届けるというもので、世界の飢餓問題への関心を意思表示するための「フォトアクション」と呼ばれる社会変革活動の1つである。

費用・時間ともにほとんどかけずに参加することができ、一方で食糧問題について少しでも考えることのできるきっかけともなる。

今回は、SDGs WEEKsの期間中である2024年11月11日から14日までの間に、昼休みおよび3限の時間帯に「おにぎりアクション」への参加の呼びかけを行うため、6号館学食階段下にフォトスポットやおにぎりアクションについての展示ブースを設置する。運営メンバー11名の他、一般SDGsアンバサダーやSDGs実践講座の受講生等からも当日ボランティアを募集する。

4日間で運営メンバー11名のほか、6名の当日ボランティアの方に手伝ってもらった。フォトスポットで写真を撮り、投稿までしてくれた参加者は4日間で述べ125名にまで上り、それ以外にも人通りの多い場所で呼びかけを行ったため、社会貢献活動に参加するきっかけやSDGsアンバサダーの認知度の向上につなげることができた。

**おにぎりアクション  
2024 in 東洋**

おにぎりを持って  
6号館1階に集合！

**2024.11.11(月)~14(木)**  
白山キャンパス6号館1階学生部前 各日とも12:00~14:00

おにぎりで貧困問題を解決！  
#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。  
白山キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。  
ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー  
東洋大学ボランティア支援室  
お問い合わせ：ボランティア支援室  
(mlvolsep@toyo.jp)



## 31 緊急連絡訓練くじイベント

開催期間・日時	2024年11月21日(木) 12:15~13:00
会場	東洋大学 白山キャンパス 1号館1階 6号館1階学生部前
目的	大災害時対応マニュアル ( <a href="https://x.gd/2mVeR">https://x.gd/2mVeR</a> ) の普及
参加者数	約120名
協力	東洋大学 情報企画課・東洋大学 ボランティア支援室

### ■ 活動内容 (概要)

イベント内容は、緊急連絡のアンケートに回答&大災害時対応マニュアル (<https://x.gd/2mVeR>) を指定の場所で提示することで、くじを引ける、というものです。

大災害時対応マニュアルの普及を目的とし、企画内容の検討からポスター制作、TOYOアプリのdiscover内での周知、当日の運営などを、情報企画課とボランティア支援室の方々と連携して行いました。

昨年は30名ほどの参加だったようですが、開催当日は120名以上の学生さんと教職員さんに参加いただきました。

同時にアンケート調査も実施し、大災害時対応マニュアルの存在を知らない方が7割以上いることがわかりました。この結果から、今後学内で災害が起こった際、学生である私達がどのように行動すれば良いのか周知を行う必要性が高いと確認できました。

以上のことを踏まえ、防災アプリのメンバー内で再度話し合いを行い、新しいアクションを起こしていこうと考えています。

(社会学部第2部社会学科2年 SDGsアンバサダー 長井 美沙希)



# 地震時

日頃から考えよう

## どうする？

自分の安全を守って

／ 1番重要 ／



学内放送を  
待つ！！

具体的には

STEP 1

- ◆おしゃべりや騒ぎを止める。
- ◆机の下などに隠れる。
- ◆窓、扉などには近づかない。
- ◆天井やガラスの落下、火災に注意する。
- ◆ドアを開けて出口を確認する。

STEP 2

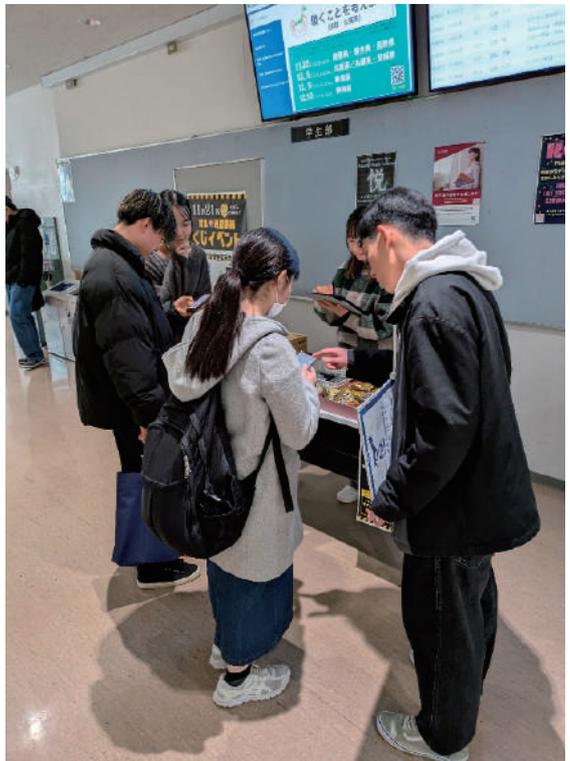
- ◆避難経路を確認して安全な場所に移動する。



東洋大学

大災害時  
対応マニュアル





## 32 災害救援ボランティア講座

講師	災害救援ボランティア推進委員会 宮崎 賢哉さん 他
開催期間・日時	2024年11月23日(土) 9:00~17:00 ~24日(日) 9:20~17:00
会場	池袋防災館 東洋大学 白山キャンパス 4B13教室・甫水会館4階特別会議室
目的	1) 東洋大学の学生災害ボランティアリーダーを育成する一環として、災害ボランティア活動についての基礎的な技能・知識を習得できること。 2) 地域住民の方と共に学ぶ機会を創出し、地域防災としての課題を共有すること。 3) 講座の企画過程において、地域防災に関わるさまざまな組織・主体と連携し、平時からの関係性を構築する機会とすること。
参加者数	21名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生19名、一般2名
協力	災害救援ボランティア推進委員会、文京区社会福祉協議会、小石川消防署、富坂警察署、文京区役所 危機管理室防災課、NPO法人国際ボランティア学生協会

### ■ 活動内容 (概要)

首都直下型地震の発生が懸念される首都圏において、今年1月1日に発生した令和6年能登半島地震などの大規模地震災害への対策はもちろん、近年は豪雨や台風などの風水害による被害もたびたび発生し、災害への備えが急務となっている。

そこで、東洋大学の学生が、災害発生時に「学生ボランティアリーダー」として活躍できるように、さらに災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象として、様々な実践的取り組みを通して地域防災について公開講座として社会人の方々へも開放をした。

初日は座学とグループワークを中心として防災に関する講演を各分野の講師の方からそれぞれの視点からのお話をいただき、2日は池袋防災館での実技を含む講座を行った。

グループワークでは、学生・一般参加者が同じグループで議論を行い、参加者の経験を聞きながら自身の学びを深めることができた。

この講座を受講すると「セーフティリーダー (SL) 認定証」が発行され、最終日に各自へ配布された。

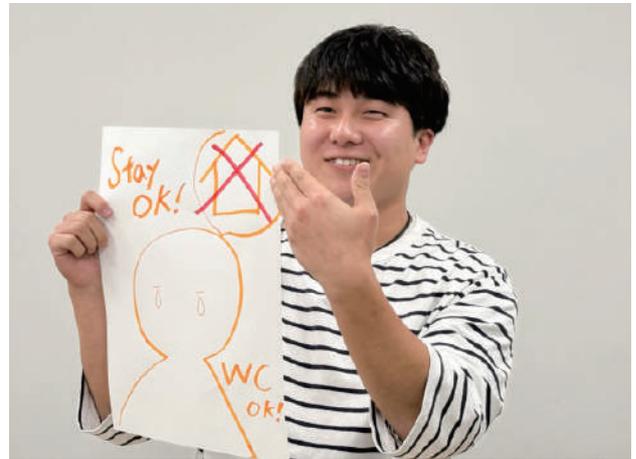
### ・感想 (抜粋)

- ・講師の方々は、実績充分であり自己啓発につながりました。住まいの自治会活動、会社の災害対策に生かしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・1日目の講義では各先生方のこれまでの経験や研究がスライドを通して凝縮されており、自分の考



えを改められ、とても有意義な時間になった。2日目の実践では災害が身近にあるということを知れて、考えを深められた。

- 二日間の日程でしたが、本当に学ぶことが多く、参加してよかったと思いました。特にグループワーク等でその場面に応じてどんな行動が必要かを考えるのは難しいなと感じました
- 私は今まで備蓄や避難ができれば十分だと思っていたが、実際は避難所の運営や救助になると正解はなく、常に厳しい環境下でより多くの共助を行うことが大切なのかを本講座を通して強く自分の不十分さと共に痛感した。
- 考えるグループワークが多くてよかったです。実際にボランティア活動をする際に役立てたいです。



## 33 学生団体見本市 フミキャン2024

開催期間・日時	2024年11月30日(土) 10:00~12:00
会場	文京区民センター3階(文京区本郷4-15-14)
目的	文京区内で活動する社会貢献活動等に従事する学生団体間の連携の強化
参加者数	文京区内に在籍する学生団体16団体 (東洋大学7団体)
協力	文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション 学生ソーシャルアクション連絡会

### ■ 活動内容(概要)

文京区内には19大学が所在し、日々各々の大学にて学生団体が各種活動を行っている。そこで、文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション(以下フミコムと記載)では、「学生ソーシャルアクション連絡会」を結成し、年2回ほど学生団体間での交流や情報交換の機会を設け、連携の強化を図っている。

その中で東洋大学は特に学生団体や各種団体の数が多く、この「学生ソーシャルアクション連絡会」

においても毎度精力的に参加している。今回は全16団体中7団体が東洋大学に籍を置く団体であり、「東洋大学ボランティア支援室学生サポートスタッフ」「東洋大学SDGsアンバサダー」「Toyo-MeWプロジェクト」「東洋大学ボードゲーム地域交流団体 ぼどのわ」「Smile F LAOS」「バリアフリーサークル「歩み」」「東洋大学 学ボラ」が参加した。

フミキャンにおいては出展に参加している16団体が日頃の活動、今後やりたいことの2点を軸に発信を行い、出展団体同士の交流のみならず、当日同時開催されていた「活動見本市2024」参加者たる企業や各種団体系も交わり、文京区という地域に根差し各種活動を展開するアクター間で深い交流を行った。日頃の活動や今後の展望を紹介しあう中で、質問で会話を深める姿や活動上のコラボレーションの提案がなされるなど活発に交流がなされていたように思えた。また、学生間交流についても活発なものであり、中央大学や東京科学大学(旧東京医科歯科大学)を拠点に活動する各種団体との交流を行った。

今回のように学外における他大学や企業、団体との交流を行う機会は、日々の活動を客観的に捉える、活動上参考となる知見や見解を得る、連携やコラボレーションを通してより深く活動に従事するきっかけを得る機会として特に重要であると実感している。

また、こういった機会を鑑み、東洋大学に在籍している学生団体として、普段から気を引き締めつつ活発に活動に従事していこうと改めて感じる機会となった。

(経営学部会計ファイナンス学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ・SDGsアンバサダー 奥村 碧斗)





## 34 「SDGs Weeks EXPO 2024 (エコプロ2024)」への出展

開催期間・日時	2024年12月4日(水)～6日(金) 10:00～17:00
会場	東京ビックサイト
目的	東洋大学SDGsアンバサダーによるSDGsやエコに関する取り組みの紹介と、他団体の取り組みについて学ぶ
ブース来訪数	371名

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーは、昨年度に引き続き12月4日(水)から6日(金)の3日間にかけて、東京ビックサイト・国際展示場(江東区)にて開催された「エコプロ2024」に出展しました。

日本最大級のエコ・SDGsの展示会ということで、本学SDGsアンバサダーのSDGsへの取り組みを広く紹介すると同時に、他団体における環境保全や防災、SDGsへの取り組みを知り、連携の機会を作ることを目的とした出展であり、ブースにおいてはSDGsアンバサダーについての紹介や学祭出展の様子、広報局による広報誌展示のほか、カーボンニュートラルチームの主幹活動である「東洋大学SPRINGウォーターサーバープロジェクト」を軸に、「文京区クールアースフェア2024」や「富士樹海清掃ボランティア」の参加報告など、環境に関する取り組みについての紹介を行いました。出展においては赤羽台チーム作成のSDGsクイズや富士樹海清掃ボランティアで取得した鹿の角による交流を併せて行い、小中学生を中心に広い世代から好反応を頂きました。

なお、ブース来訪者は1日目で93名、2日目で161名、3日目で117名もの方に足を運んでいただき、3日間の合計で371名、前年比で約210%と多くの方々に来訪いただきました。

また、他大学や企業、団体のブースに赴き、交流を深めました。特に琉球大学、法政大学、関西大学、東京大学、信州大学、近畿大学、聖学院大学、文化学園大学といった他大学とは活動紹介や今後の連携の提案を通じ、同じ学生として環境やSDGs達成に向けた取り組みを行う上でのパートナーシップを再確認したほか、NEXCO中日本/東日本や本学のウォーターサーバーを提供して下さっているウォータースタンド株式会社といった企業における最先端の環境への取り組みについて学びを深めることができました。

今年度においても、エコプロの出展はこれからのSDGsアンバサダーの活動を見据えた上で大変貴重な経験となったように思います。学生アクターのみならず、企業、行政、各種団体と、各種ステークホルダーやアクターによる我が国最先端の環境・SDGsへの取り組みについて理解を深められたことは、具体的な事例も併せSDGsアンバサダーの活動上の指針やヒントとなったほか、アンバサダーのメンバー



各位が具体的な活動ビジョンを抱ききっかけとなりました。また、我々の出展に対する来訪者からの反応は、大変貴重なフィードバックとして受け止めることができ、客観的にアンバサダー活動を振り返る機会となりました。

今後も東洋大学SDGsアンバサダーは、このエコプロ2024出展の経験を活かし、活発的に学生発のSDGsアクションを展開していきます。

以下、参加学生からの感想です。

- どんなブースでも熱心に話を伺うと、向こうも喜んでいろいろお話ししてくださるし次に繋がりたいと思えるお話を聞ける、ということを再確認できたエコプロだった。
- 子どもが多かったので、ポスターや配布物にフリガナがあった方が良かったと思います。英語版の配布物があった方が良かったと思います。ウォーターサーバーを持って来ないのであれば実物の写真があった方が良かったと思います。
- 東京ビックサイトに行ったことがなかったので、今回エコプロというアンバサダーの活動の一環としていくことができたのはよかった。
- 他団体のブースを見て、今後はアップサイクルの方面の企画もやってみたいと思った。
- 配布物があると興味がそそられるかもしれません。体験型のものがあると良いと感じました。
- 社会を学ぶことが好きなので、来年から社会人になることも含めて、学ぶことが出来た。

(国際学部国際地域学科3年 SDGsアンバサダー 松本 和大)



## 35 東洋大学SDGsアンバサダー×学ボラ×Salamat 3団体交流会

開催期間・日時	2024年12月8日(日) 教室 13:00~17:50
会場	東洋大学 朝霞キャンパス 5106教室とアリーナ
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 白山キャンパス内の社会貢献団体同士がお互いの活動を知るとともに、運動を通してお互いの仲を深めることを目的。</li> <li>• この企画をもとに、今後、白山キャンパス内の他の社会貢献団体との交流会の礎をつくる意図がある。</li> <li>• SDGs目標3の「すべての人に健康と福祉」と17の「パートナーシップで目標を達成しよう」の実行。</li> </ul>
参加者数	34名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】アンバサダー8名、学ボラ11名、Salamat15名
協力	東洋大学学ボラ、Salamat

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーと学ボラ、Salamatの3団体で交流会を行った。具体的な交流会の内容として、活動紹介、クイズ大会、運動会を実施した。

活動紹介は各々の団体の設立したきっかけとその歴史、活動内容について発表した。

学ボラは中越地震の災害支援団体として発足し、2009年から地域支援という形で現在では、白山・赤羽台・川越キャンパス周辺地域との交流や環境活動などを行っている。

Salamatは2007年のフィリピン研修の時に、3人の学生たちが「フィリピンの現状を日本に伝えたい」という思いから創設した組織であり、現在では、OB・OGが作ったダイケアセンターの運営支援を行っている。

その後、お互いの交流を深めるためにクイズ大会を行った。詳細として、3団体をバランス良く5チームに分けて行い、クイズの形式はJeopardyと似ている形式のクイズで、プレイヤーがいくつかのカテゴリーを選んで回答していく。そのカテゴリーの中に200から1000ポイントがあり、ポイントが高いほど問題の難易度が難しくなる。どのチームが高いポイントを取れるかで競い合った。

主なジャンルとして、アニメ・国旗・世界遺産・K-POP・野球・歴史・音楽・ポケモン・ディズニーである。

- アニメの名言集やオープニングなどをあてる
- 国旗の画像をみてこたえる
- 世界遺産の写真をみて答えたり選択式で選択する
- K-POPの主に絵文字をみて曲名やアイドル名を答える
- 野球の基礎知識や最近話題になっている選手などをあてる
- 歴史については世界史・日本史どちらも出て問題に答える

- 音楽はボーカロイド、洋楽、邦楽など様々なジャンルで聴いたり、みたりしてあてる
- ポケモンをみてポケモンの名前を答える
- ディズニーはディズニーキャラクターの画像をみてあてる

クイズ大会での狙いは、様々なジャンルの中でお互いの趣味などの得意分野を知ることができて、親睦を深めるのが狙いだ。優勝したチームには、優勝賞品としてハリボーを贈呈した。

運動会では、予め個人個人に参加したい競技を決めさせた。その主な競技種目として、フットサル・バドミントン・バスケットボール・ドッジボールの4つで、チーム決めに関しては、最後のドッジボール以外は団体混合で運動会を行った。

- フットサルでは、朝霞キャンパスの体育館のゴールを借りて、16人を2チームに分けて試合を行った。ルール上、試合に参加できる人数がチームごと5人のため、残りは交代しながら行うことになった。
- バドミントンでは、体育館で6コート作り、チーム分けに際しては、経験未経験を配慮して24人を4チームでダブルス編成した。これらを元に4チーム総当たりで試合を行った。
- バスケットボールでは、2コート作れたので、20人を4チームに分けて総当たりを行った。
- ドッジボールでは、団体ごと総当たりで行った。人数は全員均等ではないので、人数の多い団体に合わせて、他の団体から人を呼ぶ形で試合を行うことになった。

運動会が終わった後、終わりの挨拶を行い、記念撮影をして無事に交流会を終えることができた。

本日の3団体交流会は、初めての試みでしたが、アンバサダー・学ボラ・Salamatが無事にお互いの団体同士が親睦を深めることができよかったです。当日、様々なトラブルや変更点があっただけでなく、運営の人たちが臨機応変に対応できて本当に良かったです。それだけでなく、一般参加者が運営や設営を手伝ってくれたりもしたので、改めてそれぞれのボランティア精神を身に占めて感じる事ができました。

これを礎に、SDGsアンバサダー中心に白山キャンパス内の他のボランティア団体あるいは社会貢献団体と交流し、お互いの活動を知ることにより、新たな企画を生まれることを期待しています。それが、SDGs目標17の「パートナーシップで目標を達成しよう」の実践に繋がるということを信じてます。

### 【運営メンバー】

SDGsアンバサダー：塩澤、伊藤（一）

学ボラ：豊田、伊藤（統）

Salamat：日馬、長濱、吉野

### 【当日の流れ】

12：40 朝霞キャンパス集合

13：00～13：05 開会の挨拶

13：05～13：30 団体紹介

13：30～14：20 クイズ大会

14：20～14：40 休憩、着替え、移動、競技準備など

14：20～17：45 運動会

17：45～17：50 閉会の挨拶

14：40フットサル試合開始→15：10終わり→バドミントン15：20スタート→16：05終了 →全体休憩（15分）→16：20バスケスタート17：10バスケ終了→ドッジ17：15スタート17：40 終了

17:50 運動会終了

### 【感想 抜粋】

運営メンバーには大変感謝している。何ヶ月前から計画を練っていて紆余曲折ありましたが成功した。私は他のメンバーにおんぶにだっこで頼ってばかりでしたが、このメンバーで交流会運営ができて本当に良かった！（アンバサダー運営 塩澤）

タイムスケジュール作りが甘かったなと反省している。

だが、それ以外はみんなが笑顔で楽しめながら交流できたので、本当に良かった。

運営メンバーの人たちに、改めて無事成功できたことに感謝申し上げたい。（学ボラ運営 豊田）

運営として3団体の交流会の運営をしたが、それぞれの団体の壁を越えて楽しく交流する姿を見ることが出来て良かった。運営をした身としてとても嬉しく思う。（Salamat運営 吉野）

今回の交流会を踏まえたうえで、所属を問わずにみんなでボランティアできる機会を作ること。既存のボランティアを所属関係なく参加したい人が参加できるようにする。（例えば、学ボラのみが参加しているプレーパークで、他団体の人も参加できるようにするという感じ）（学ボラ運営 伊藤（統））

大人数のイベントを主催するのは大変だったと思います。運営さんには感謝したいです。（アンバサダー・一般）

運営の方々お疲れ様でした。今回のような大型案件をやり切ったのはすごいと思いました。

もっと大きなこと待ってます。今後、東洋大学ボランティア連盟の創設し

→共通ユニホームの作成。

→災害時などボランティア要請などがしやすくなる。

→新入生歓迎期間に合同イベントを行いやすくなる。

などできたらなと考えました。（Salamat・一般）

今まで全く関わりのなかった人達と交流したり、普段他団体でどういった活動をしているのか知れて楽しかったです。（学ボラ・一般）

大人数のイベントを主催するのは大変だったと思います。運営さんには感謝したいです。（アンバサダー・一般）

コラボ活動を試みたり、お互いの報告会や説明会の内容を各グループでも共有してみたりしたい。（Salamat・一般）



## 36 生理痛体験イベント ～あなたが知らない私の痛み～

講師	Toyo-MeWプロジェクト(企画代表者:都築郁昭) 東洋大学国際共生社会研究センター
開催期間・日時	2024年12月9日(月) 14:45~16:15
会場	東洋大学白山キャンパス 2号館スカイホール
目的	実際に生理痛を体験してもらう機会を創出し、「月経や生理における“タブー”の解消」に向けて理解を促進する
参加者数	50名程度(うち体験者31名)
協力	大阪ヒートクール株式会社

### ■ 活動内容(概要)

今回のイベントは、Toyo-MeWプロジェクトが一年間の企画運営を経て完成させたロングランイベントであり、企業との合同企画で実施された。さらに、大学の各種機関や多数の学生が参加したこともあり、規模としては非常に大きなものとなった。本イベントでは、Toyo-MeWプロジェクトが掲げている「月経や生理における“タブー”の解消」に貢献することができたと感じ、参加者に月経や生理に対する意識を高めてもらい、社会における偏見を減らすことができたと考えている。

本イベントの特筆すべき点は、参加者の大半が男性であったことである。月経や生理というテーマは、男性にとって日常的に馴染みのない事柄であり、従来の当団体におけるイベントでは女性の参加者が多く、男性に向けてメッセージを発信することが難しかった。しかし、今回は男性が積極的に参加してくれたことで、これまでの課題を乗り越える一歩を踏み出すことができた。男性に対して月経や生理に対する理解を深めてもらう機会を提供できたことは、非常に大きな成果であった。

また、月経や生理というテーマはタブー視されることが多く、男性がそのイベントに参加することは簡単ではない。そのため、なぜ男性の参加が難しいのかを考え、男性にとっての価値や意義を理解することが非常に重要であると感じた。男性のニーズを把握し、それに応じた形で情報を発信することが、今後さらに重要になると考える。

今回のイベントでは、従来のイベントで得られた経験や反省点を生かし、男性参加者が心地よく参加できるような環境作りや、情報発信の方法に工夫を凝らした。その結果、男性参加者にとっても有益な情報や体験を提供し、月経や生理に対する理解を深めることができたと感じている。この成長は、今後の活動においても非常に意義があり、今後のイベントにおいてもさらなる改善と発展を遂げるべきであると考えている。

今回のイベントを通じて、参加者が一歩前進できたことに自信を持ち、社会全体での意識改革が進むことを願っている。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 Toyo-MeWプロジェクト 都築 郁昭)

以下当日に参加したメンバーからの活動感想

今回の生理痛体験イベントは、生理痛や月経をイメージだけで終わらせるのではなく、体験を通じて理解を深めることができる機会であったと考える。体験した方の感想を聞き、個人差があるからこそ、生理痛を体験する意味があると思った。

このようなイベントは、より一層理解を深める機会になるため、今後もこのような活動を通じて、月経がある方に寄り添い、広く理解していただけるよう努めていきたい。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科1年 Toyo-MeWプロジェクト 渡邊 涼音)

## 37 SDGsカフェ「私たちは生きづらいのか ～若年層の生きづらさを考えてみよう～」

講師	陶 嘉禱 (ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)
開催期間・日時	2024年12月17日 (火) 18:15～19:45
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス ボランティア支援室分室
目的	SDGs アンバサダーの学生のみならず、全学生を対象にSDGsについて学びの機会をつくること。また、本企画に参加することでSDGsアンバサダーに興味を持っていただき、社会貢献活動に参加する学生を増やせるようなきっかけづくりのための場を設定すること。
参加者数	22名
協力	東洋大学SDGsアンバサダー (赤羽台キャンパス所属学生)

### ■ 活動内容 (概要)

最近、若者が生きづらさを抱えている人が増えています。生きづらさとは社会との関係において生じるものです。「生きづらさ」を減らしていく過程こそが、誰1人取り残さない社会を目指すことだと考えます。「生きづらさ」を解消するには、当事者意識を持ち、SDGsアクションを起こすことが必要です。

今回の企画は、本学ボランティアコーディネーターの陶さんをファシリテーターに迎え、「若者を取り巻く環境から自己理解・他者理解を深めること」がテーマでした。「生きづらさ」とは何か、どのような「生きづらさ」があるのかについてまず個人で考え、自分ごととして問題と向き合いました。その後、なぜ今日子ども・若者が生きづらいと感じているのか、「問題」はどこにあり、誰が当事者なのかグループワークを通して、様々な視点から「生きづらさ」について考えました。個人ワークとグループワークを繰り返すことで、自己理解と他者理解を深め、当事者意識を持つことができたと思います。

また、本企画はSDGsアンバサダーの学生が主催となり、東洋大生に向けたSDGsを学ぶ機会をつくる「SDGsカフェ」の1つとして行いました。

以下、プログラムについての報告です。

#### 1. アイスブレイク ～個人ワーク①～

「生きづらさ」と言えば、直感で思いつく言葉を書き出すというお題について、個人で思いついた言葉を付箋に書き出しました。学生は感情などをありのままに書き出していました。

#### アイスブレイク ～グループワーク①～

4人から5人のグループに分かれ、それぞれが付箋に書き出した言葉を模造紙に



貼りながら、共有しました。共有の際に、簡単に思いついた理由も話し合いました。その後、グループで全員が書き出した言葉を分類しました。付箋の枚数が50枚を超えるグループもあり、どのグループも話し合いが盛り上がっていたようでした。話し合いで出た内容から、人間関係、難民、経済面、日常生活、気温、推しがいないなど、様々な生きづらさがこの世の中にあると感じさせられました。

そして最後にグループごとに分類分けした言葉を貼った模造紙を持ちながら、発表しました。グループごとに分類の仕方が異なっていたり、自分の班では出なかった意見を聞いたりすることで、「生きづらさ」について色々な角度から考えることができたと思います。

## 2. 陶さんによる説明

「日本の子どもの幸福度」や「子ども・若者が抱える諸問題」などに関するデータを見てなぜ若者は「生きづらさ」・「生きにくさ」を抱えるのかについて、陶さんのお話を聞きながら考えました。日本の子どもの幸福度が先進国38カ国中、20位であることに驚きました。他の学生も驚いていたようでした。それだけ、生きづらさを抱える子どもが多いということだと考えます。



子ども・若者は、虐待・いじめ・障害・自殺・貧困・ひきこもり・性的マイノリティ・精神疾患・ヤングケアラー・不登校・ひとり親家庭など様々な問題を抱えていることが分かりました。問題が顕在化している場合とそうでない場合があり、顕在化していないと生きづらさにつながりやすいのではないかという感想もありました。

子どもが抱える問題も社会状況に合わせて年々変わってきていると感じました。その例として、貧困問題や長期欠席などの問題があります。かつて貧困の問題は高齢者の問題でしたが、近年は若者の問題としても注目されるようになりました。また、小・中学校における不登校や病気による長期欠席者数は増加しています。長期欠席することにより、学力の遅れや友人が関係の希薄化などの問題が発生し、悪循環であると思いました。

## 3. ~グループワーク②~

陶さんのお話を聞き、若者が悩んでいる生きづらさの原因をひと通り理解した後、「なぜ子ども・若者が生きづらいと感じているのか」、「問題はどこにあるのか」この2つの問いを中心にディスカッションしました。その上で、「生きづらさ」について思い出した言葉を追加していきました。追加していくなかで、新たにSNSが生きづらさをもたらしていることにいくつかのグループが気づきました。自分の言動は常に誰かを傷つけるリスクがあることを念頭におく必要があると話しました。

## 4. ~個人ワーク②・グループワーク③~

個人ワークでは、一度自分自身と向き合って、以下のことを考えました。

- 自分は「事者」なのか?
- これまで自分は生きづらいと感じたことがあるのか?それはなぜなのか?
- 自分の生活に対して「幸福度」「満足度」の点数は変わったか?

- これまで自分の周りに、同年代で「生きづらそう」な人を見聞きしたことがあるのか？
- 自分の「生きづらさ」、他者の「生きづらさ」と向き合えばいいのか？

そしてグループワークでは、自分の経験や見聞きの経験を含め、グループ内で「生きづらさ」に対する考え方を共有しました。他者の「生きづらさ」を感じた経験を聞く機会は今までなかったため、非常に興味深かったです。また、生きづらさを感じにくい人もいたことから、性格と生きづらさは関連していると考えたグループもありました。

今回の企画を通して、他者理解と自己理解の大切さを学びました。他者理解においては、現状や問題を知り、生きづらさが表面化しにくいこと、背景が複雑であることを理解することが必要だと感じました。また、学生はグループワークを通して、話を聞く姿勢が相手の話しやすさにつながると感じる事ができたと思います。グループワークはアドバイスするよりも、気持ちの受容と共感が大事だと気づききっかけにもなりました。

自己理解においては、自分の気持ちを大切に、何に困っているのかなど「問題」の所在を明確にすることで、自分と向き合えるようになっていくと考えました。自分自身がどうなりたいのか、どうなってほしいのか把握しておくことが大切だと感じました。

## 5.上野千鶴子(2019)「平成31年度東京大学学部入学式祝辞」の映像視聴

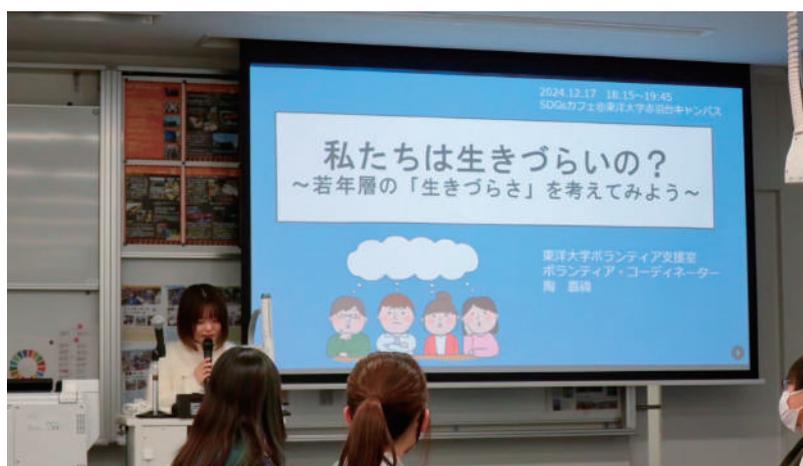
最後に、平成31年度東京大学学部入学式での上野千鶴子教授による祝辞の映像を視聴しました。性差別による生きづらさを考えさせられる内容でした。

以下、参加者アンケートより、一部参加者による本企画参加への感想も記載します。

- 生きづらさについて改めて考えることができた。これまで考えてきた事を言語化する良い機会になった。
- 私自身生きづらさを抱えてきたことが多く、しかしその生きづらさがほかの人からしたら大したことじゃないんじゃないかと思って、流していた時もあった。しかし、今回は1人じゃなくても、学年学科を超えて生きづらさについて向き合う機会ができた。普段打ち明けられなかったことでも、この場なら共有でき、そしてSDGsアクションはこれからの私たちの行動や言葉で少しずつ変わっていくのだと実感できたからです。また、自分の抱える生きづらさや違和感は、人に話していいという安心感ができたからです。
- 生きづらさの要因は様々であった。一方で生きづらさを感じない人もいるという気づきもあった。発達障害や認知症も広義の精神疾患に含まれるということも学んだ。生きづらさとどのように向き合い、生活していくかで幸福度や満足度が大きく変わってくると思った。
- 今回のSDGsカフェを通してどんな人でも、また広く見た今の社会で生きる人々の本当にある生きづらさは表面化されず、気づかずにいることが多いからこそ、解決されずに現在に至ってしまっていることが課題であると感じた。
- 今回のワークショップから、生きづらさについて周りとは話す機会が無いことにより、1人でそれを抱えてしまうのではないかなと思いました。そのため、今後自身の生きづらさについて互いの悩み相談等の場で話し、言語化、共有することで少しずつお互いに向き合えるようにしていきたいです。
- グループワークの中で「これまで自分の周りに、同年代で『生きづらそう』な人を見聞きしたことがあるのか？」という問いに、私は周り的人で、生きづらそうな人が1人しか頭に浮かばなかった。本当はもっといるのだと思うが、気づいていないというのが実態であると感じた。今後大学生活や社会生活を送っていく上で、私は生きづらさを人に伝えられる社会になって欲しいと思った。「自分の悩みは他の人の悩みより深刻じゃない」という考えを持つ人が、「自分の悩みは人に伝えていい」受

容する社会になるために、まずは私たちが行動することが大切だと思った。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 SDGsアンバサダー 小杉 真由)



## 38 小学生のためのオープンキャンパス in 東洋大学白山キャンパス

開催期間・日時	2024年12月21日(土) 11:00~14:30
会場	東洋大学 白山キャンパス 6312教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 実際に大学へ訪れて企画を行うことによって、小学生にとって、大学が「ただ勉強するだけ」の場であるといったイメージを一新させること。</li> <li>• 自分たちが学部学科等大学の教育課程の説明をすることで、大学での学びの社会の有用性を小学生に感じてもらうこと。</li> <li>• 興味ある分野の学びを広げてもらうこと。</li> <li>• 保護者、周りの人から聞いた大学のイメージしかない小学生自身が、大学を直接見ることによって視野を広げるきっかけにしてもらうこと。</li> </ul>
参加者数	12名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生5名、一般6名、エクステンション課職員1名
協力	共育会 朝比奈 信弦さん

### ■ 活動内容 (概要)

東洋大学SDGsアンバサダーでは、次世代を担う子どもたちに大学教育やSDGsの取り組みを体感してもらうことを目的に、小学生向けオープンキャンパスを実施しました。本イベントは、小学生とその保護者が大学の雰囲気を楽しみながら学び、環境問題や持続可能な社会についての理解を深める場として企画を行いました。東洋大学は歴史がある総合大学であり、学部学科も多い特性を生かして、小学生が楽しく参加できるプログラムを考案しました。小学生と大学生の違いや東洋大学の歴史を簡単なクイズ形式で説明したほか、実際に大学内をツアー形式で歩き、大学について理解を深めてもらいました。広報は、「文京区子育てLINEオープンチャット」を活用し、小学生のお子さんを持つ保護者の方へ行いました。以下は当日の企画内容になります。

#### 【当日の企画内容】

##### 1. 大学紹介 (学部・学科紹介クイズ) :

- 東洋大学の学部・学科や特徴をクイズ形式で紹介。小学生にも分かりやすい内容で構成。
- SDGsに関連したクイズも実施。

##### 2. キャンパスツアー :

- 白山キャンパス内の建物や教室を案内。
- 東洋大学の歴史や施設の魅力を伝える内容。

##### 3. 学食体験 :

- 6号館地下食堂にて東洋大学の学食メニューを体験。

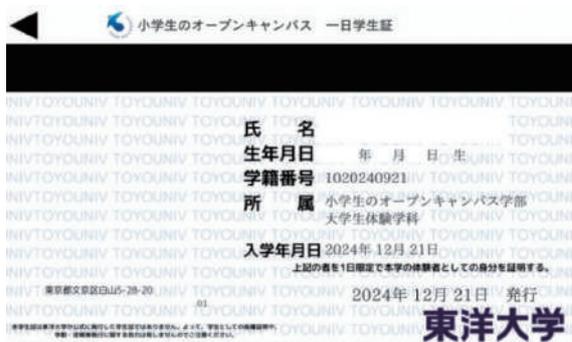
##### 4. ゴミ分別ストラックアウト

- SDGsの一環として、ゴミ分別の重要性を楽しく学ぶゲームを実施。
- 子どもたちの環境意識向上を図る。



今回の企画では大学生による直接の大学案内キャンパスツアーやゴミ分別に関するゲームを通じて、子どもたちが主体的に学べるよう工夫しました。特にスライドにはフリガナを振るなど工夫を施しながら準備を行いました。内容面では、大学生とは何か、SDGsとは何かといった基礎的なことから、大学生の時間割やライフスタイル、SDGsの発展的なクイズを実施してより充実させた内容で実施できたと感じています。また学食体験では、実際に東洋大学の食堂を利用し、大学生

生活を具体的にイメージできる内容を取り入れました。キャンパスツアーでは大学生活を実際に体験してもらえるように、図書館の中まで案内する、教室の中まで見学するなどルートを考案しました。その他にも、参加者に楽しんでもらうために、オリジナルの「1日限定学生証」や「終了証」を作成し楽しみながら参加していただきました。今回の企画では、子どもたちが「大学」という場所に親しみをもち、学びや今後の未来への興味を育む第一歩となる機会を提供できたと考えています。今後も他キャンパスでの開催も検討し、第2回も開催を検討しています。



### 【参加者アンケートより】

子どもが楽しく学べるよう、工夫して内容を組み立てていただいております。親ともども、楽しい時間を過ごさせていただきました。

今回参加し、子どもが「どうやって大学を選んだらよいの?」「中学、高校と何が違うの?」など、かなり興味を持ったようで、参加してよかったと思っております。



子どもは、実際に大学生の方々とお話ししたことが、刺激になったようで、夜間学部についても、関心を寄せておりました。また、校舎内を案内いただいたのが、一番印象に残っており、楽しかったとのことでした。

(経営学部会計ファイナンス学科2年 SDGsアンバサダー 奥村 碧斗)



## 39 Toyo 1day ボランティアプログラム 「その木はどこから来てどこへいくのか？」 ～子ども向け環境教育ワークショップを企画し、実行しよう～

企画・運営	東洋大学SDGsアンバサダー（川越キャンパス）
協力	一般社団法人東京学芸大学Explayground推進機構 木育研究所
ナビゲーター	小瀬 博之先生 (東洋大学総合情報学部総合情報学科教授、こもれびの森里山支援隊スタッフ)
ファシリテーター	坂本 駿樹さん、安藝 圭優さん(木育研究所)
開催期間・日時	2025年2月8日(土) 10:00~13:00
会場	東洋大学川越キャンパス1号館1102教室、ならびに「こもれびの森」
目的	①「こもれびの森」に“ある”木々の知識を付けること。 ②日常生活の中の木々は、「どこから来て、どこへ行くのか」自分の考えを持つこと。 ③活動を通して身につけた知識をどのようにして「伝えるか」の方法について自分の考えを持つこと。
参加者数	8名



### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、今年度新たな1dayボランティアプログラムとして、川越キャンパスの「こもれびの森」をフィールドとし、日本の森林問題を考え、環境教育を実践するためのプログラムを企画しました。

この企画は、本学SDGsアンバサダーが2023年12月に開催した「エコプロ」\*において、同じく出展をしていた木育研究所の方との出会いがきっかけとなって生まれたものです。

木育研究所は、2022年に東京学芸大学Explayground推進機構の活動から生まれた任意団体で、国産材の良さを伝えるとともに、木を題材にした教育で子どもたちの体験の機会を増やし、創造力や思考力、自己肯定感を高めることを目的に活動を続けています。

今回、森林問題に関するワークショップを行うにあたり、学内資源を活用するという観点から川越キャンパスを開催地としました。キャンパス内の「こもれびの森」の巡見にあたっては、本学教員で「こもれびの森 里山支援隊」のスタッフとして活動する小瀬博之先生にご案内いただき、森の植生やナラ枯れをはじめとした森の状況について解説いただきました。その後、木育研究所のファシリテーションのもと、森の巡見において学んだことをふりかえり、日本の森林の問題と、環境教育の考え方について参加者全員で共有しました。

また、本プログラムの参加学生のうち、希望者は3月16日(日) 10:00~11:30に実施された、東京都武蔵野市環境啓発施設「むさしのエコリゾート」の主催事業「環境の学校」において、木育研究所が枠を持った環境教育ワークショップのボランティアに参加することができるものとし、本学学生1名(プログラム参加学生3名)が参加しました。

以下、川越キャンパスSDGsアンバサダー学生からの報告です。

「こもれびの森」の巡見は、ワークショップに向けて実地で森への理解を深めることを目的としました。小瀬博之先生の案内の元、こもれびの森を散策しながら森の歴史や植生、里山支援隊の活動内容、森で起こっているナラ枯れについて学びました。

巡見はまず小瀬博之先生による歴史の解説を受け、自然再生エリアを一周しながらエリアごとの特色を知ることから始まりました。その際、配布された資料にある地図を眺め、自分たちが今どこにいるのか確かめつつ、上空から見た植生と実際の光景を照らし合わせながら移動しました。また、当日は里山支援隊の方々の活動日であり、実際の活動内容を見ることができました。自然再生エリアの後は四号館に向かってこもれびの道を歩き、学生目線で森を見ました。ナラ枯れや、新学部棟の建設に伴う道の整備について、赤い印のつけられた希少な植物についてなど、道を歩いていて見える景色から関連して解説していただきました。

他にも、似た木の見分け方やいい香りがする木の紹介など、私たちが巡見を通して森への親しみを増したように、人に森へ興味を持ってもらうきっかけ作りについてもご教示いただきました。こもれびの森の巡見により、ワークショップの前段階として森の基礎知識をつけ、森で起こっている事象を身近に感じることができました。

本ワークショップは、「その木はどこから来てどこへいくのか」というテーマのもと、身近な環境課題について考え、解決に向けた具体的な行動を議論することを目的としました。特に、森林資源の利用や木材の流通、持続可能な活用方法について理解を深めることに重点を置きました。

ワークショップの導入では、森林に関するクイズやナラ枯れなどの環境問題について、木育研究所の方に解説していただきました。その後、参加者はグループに分かれ、身近な環境問題に対するアプローチについて議論を行いました。議論では、気候変動のような世界規模の問題から、ごみの分別といった日常的な課題まで、幅広いテーマが取り上げられました。解決策としては、家族や友人への呼びかけなどの身近なアクションから、自治体による住民向けの施策といった大規模な取り組みまで、多様な意見が挙げられました。

本ワークショップを通じて、参加者は森林資源や環境課題についての理解を深めるとともに、具体的な解決策を考える機会を得ました。議論を重ねる中で、個人の行動から行政の施策に至るまで、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることが再認識されました。

(総合情報学研究科 総合情報学専攻 修士1年 嶺岸 聖也)

(理工学部 都市環境デザイン学科 2年 秋元 利恵)

\*前身は「エコプロダクツ展」。日本経済新聞社が主催する「SDGs WEEK EXPO」の一翼を成す、日本最大級の環境見本市。今年度もSDGsアンバサダーは同展示会に出展。詳細はP95からの報告を参照。



## 40 いのちを守る安心なトイレプロジェクト ～災害時、トイレのせいで大切な命をなくさないために～

講師	スターライト工業株式会社 北村 健さん
開催期間・日時	2025年2月13日(木) 13:00～16:15
会場	東洋大学 白山キャンパス 4B12・4B13教室
目的	防災意識向上が求められる現在。本学における防災設備、学生・教職員の防災意識は、まだ足りていないと思われる。そこで災害時のトイレの問題を基に、防災について改めて考える時間を作ることを目的とする。
参加者数	20名 ※主な内訳は、以下の通り。【内訳】学生17名、職員3名
協力	スターライト工業株式会社、東洋大学SDGsアンバサダー、東洋大学ボランティア支援室

### ■ 活動内容 (概要)

本企画では、関西に本社を構え、プラスチック技術の開発を行うスターライト工業(株)のご担当者を本学白山キャンパスにお招きし、同社が推進する災害時用トイレの啓発活動「いのちを守る安心なトイレプロジェクト」の一環として、学生・教職員向けに防災ワークショップを実施した。

#### 【企画の実施に至った経緯】

本企画は、本学SDGsアンバサダーが2024年6月に実施した「キャンパス防災設備点検ツアー」および、同年12月に出展した「エコプロ2024」を契機として立案されたものである。

防災設備点検ツアーでは、白山キャンパス内の防災設備を見直した結果、多くの課題が浮き彫りとなった。特に、食糧の備蓄は概ね整っていたものの、管理面の問題やトイレ設備には改善の余地があると判断された。

こうした課題の解決策を模索する中で、エコプロ2024においてスターライト工業(株)の展示ブースを訪問し意見交換を行った結果、本学における防災ワークショップの実施が決定した。

#### 【本企画の内容】

本企画は「講義パート」と「実演パート」の二部構成で実施された。

講義パートでは、単なる講義形式ではなく、4～5名のグループディスカッションを取り入れることで、参加者が主体的に課題を考察できる機会を提供した。講義および実演を通じて、特に以下の点が印象に残る内容となった。

- ・災害時のトイレ問題は深刻であるにもかかわらず、テレビなどのメディアでは視聴者への配慮から取り上げられる機会が少なく、多くの人がその重要性を認識していない。
- ・「トイレの乱れは、秩序の乱れ。」トイレ環境が整っていないと不衛生な状態になり、利用を避ける人が増える。その結果、飲食を控えることでエコノミークラス症候群や持病の悪化を引き起こし、最悪の場合、災害関連死につながる可能性がある。

・災害時に確保すべきは「食糧・水・トイレ」。電気がなくても生きていけるが、トイレの問題は直接的な健康リスクにつながるため、優先的に備えるべきである。

実演パートでは、「携帯トイレの体験」と「災害時用トイレの組み立て」を実施した。

携帯トイレの体験では、凝固スピードや臭いの変化を確認し、実際の使用感を体験した。組み立て体験では、本学で備蓄されている災害時用トイレと、スターライト工業（株）の最新型トイレを比較し、それぞれの使い勝手や機能性について議論を行った。

エコプロ2024の際、スターライト工業（株）の担当者から「東洋大学の災害時用トイレは、業界の中ではまるで縄文時代だね（笑）」と言われたエピソードが印象的だった。このような現状を多くの人に知ってもらう良い機会となった。

講師を務めていただいた北村様には、後日、本学が実施した「宿泊サバイバル体験」の様子も見学していただいた。今後も協力しながら、防災啓発活動を継続していきたいと考えている。

（情報連携学部情報連携学科4年 SDGs アンバサダー 井上 旭）



## 41 ゼロからぼら活! ～一緒に探そう、あなたの一歩～

開催期間・日時	2025年2月16日(日) 10:00～15:00
会場	文京区民センター3階 3A会議室
目的	文京区のボランティア展覧会に、「NOTO × TOYO 青いビブス」のメンバーがブースを出展し災害支援ボランティアについての体験を来場者に説明をした。
参加者数	50名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】運営学生5名、来場者45名
協力	NOTO × TOYO 青いビブス、東洋大学ボランティア支援室、文京区社会福祉協議会

### ■ 活動内容 (概要)

本企画では、文京区社会福祉協議会が主催する展覧会に招待され、「NOTO × TOYO 青いビブス」としてブースを出展した。

ブースでは、夏季能登半島地震ボランティアや能登豪雨ボランティアの活動報告ポスターを用い、来場者に説明を行った。

特に、江戸川区や足立区などの社会福祉協議会の職員と、災害時のボランティアセンターの在り方について意見を交わした。

また、他の出展ブースを訪れ、今後の活動に生かせるアイデアを得る貴重な機会ともなった。

(音訳・点訳・ユニバーサルデザイン・子供支援〔国内外〕・途上国支援・「本」に関するボランティア等)

さらに、3月に実施予定の映画上映会の宣伝にも注力した。キャンパス周辺で活動する団体の皆さんに周知することができたため、多くの来場が期待される。

(情報連携学部情報連携学科4年 SDGs アンバサダー 井上 旭)



**ゼロからぼら活!**  
一緒にさがそう あなたの一歩

「ゼロからぼら活!」とは…  
さまざまな団体さんがブースを出展し、普段の活動を体験できるだけでなく、団体さんの活動について深く知ることができるなど、1日いろいろなことをゼロから体験し、学ぶことができるイベントです!  
「ゼロぼら」を通して活動の楽しさを知り、「あなたの一歩」を見つけませんか?

出展団体 ブース内容 50名@

- ①音訳団体「音訳体験」
- ②カーレットジャパン協会「カーレット体験」
- ③共用品推進機構「ユニバーサルデザイン」
- ④サークル六人会「点訳体験」
- ⑤セーブ・ザ・チルドレン
- ⑥東洋大学主「災害ボランティア活動」
- ⑦文京区社会福祉協議会ボランティア担当「自宅ボランティア体験」
- ⑧文京区社会福祉協議会ボランティア担当「特技ボランティア」
- ⑨個人の日・共創ワークショップ「お絵描きワークショップ」
- ⑩ワールド・ビジョン・ジャパン「水汲み体験」

令和7年  
**2月16日** 日 10:00～15:00 (出入り自由)

対象 小学生以上 費用 無料

会場 文京区民センター3階 3A会議室(文京区本郷4-15-14)

申込 フォームからお申込みください。

問合せ 文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション ボランティア担当 ☎03-3812-3114  
・10:00～15:00まで開催しておりますので、お好きな時間にお越しください。  
・小学生以上の方はどなたでも参加いただけますので、お気軽にご参加ください!

## 42 東洋大学ボランティアカフェ 「シゴトにつながる?まちづくりボランティア! ～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう!～」

ゲスト	上平 葉乃さん (社会福祉法人文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション「フミコム」ボランティア担当) 篠崎 裕貴さん (文京区役所 (地域連携ステーション「フミコム」に派遣中))
開催期間・日時	2025年1月10日 (金) 11:00～12:30
会場	東洋大学白山キャンパス 6号館6303教室、ZOOMによるオンライン会場 (但し、オンラインによる参加申込者はいなかったため、ZOOMは開場せず)
目的	1:まちづくりのボランティアの意義を理解するとともに、関わり方を知ってもらうこと。 2:まちづくりのボランティアに関わってみようと思う学生を増やすこと。
参加者数	13名 (本学学生12名、他大学学生1名)
企画運営	ボランティア支援室サポートスタッフ

### ■ 活動内容 (概要)

「まちづくり」という言葉には、建築や都市計画といったハード面の視点と、地域コミュニティ形成や地域福祉といったソフト面の視点があり、人によって捉え方が異なります。また、まちづくりのボランティア活動を通じて得られる経験は、将来的にさまざまな職業に活かせる可能性があります。

今回のボランティアカフェ (以下、「ボラカフェ」と表記) では、地域コミュニティづくりを推進する社会福祉協議会や区役所の職員の方々をゲストに迎え、まちづくりのボランティア活動の魅力や、その経験がどのように仕事につながるのかについてお話を伺いました。また、後半では参加者同士のディスカッションを行い、「まちづくりに貢献するとは?」「自分がまちづくりにどんな形で関わられるのか?」を考える機会を提供しました。

参加者は小グループに分かれ、各グループでは、「まちづくりにはこんな関わり方がある」「仕事の中でも地域づくりの視点を持つことが大切」といった意見が活発に交わされました。参加者同士でゲストスピーカーの方のお話の感想を話した際は「まちづくりという言葉の意味が広いことに気づいた」、「コミュニティづくりの視点が、意外にも自分の将来の仕事に活かせると感じた」、「ボランティアとしての関わり方に興味がわいた」などといった意見がみられました。また、ゲストスピーカーへの質問も多く、参加者が積極的に学びを深めようとする様子が見られました。



今回のボラカフェを通じて、「まちづくりとは何か?」について、参加者それぞれが考える機会となりました。また、まちづくり活動と仕事のつながりについても理解が深まり、「自分も何か行動を起こしたい」という意欲を持った参加者も多くいました。今後は、実際に地域で活動している団体と協力し、まちづくりのボランティア体験会やフィールドワークの機会を提供することも検討していきたいと思います。

(法学部企業法学科3年 ボランティア支援室サポートスタッフ 大木 羽蘭)



## 43 東洋大生がワークショップで考えるSDGs 「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」

講師	認定NPO 法人開発教育協会 (DEAR) 松川 清美さん
開催期間・日時	2024年5月11日 (土) 10:00~12:00
会場	ハイブリッドでの開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン (Zoom)</li> <li>対面: 東洋大学白山キャンパス雨水会館302教室</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 初心者から上級者まで楽しく学ぶ機会をつくること</li> <li>学生自身が、どのようにSDGsと生活が関わっているのかを学ぶ</li> <li>どのような行動をするとSDGsの達成につながるのかを考え、話し合う場をつくる</li> </ul>
参加者数	19名 ※主な内訳は、以下の通り。 <b>【内訳】</b> 学生15名、DEAR職員2名、ボランティア支援室職員2名
協力	認定NPO 法人開発教育協会 (DEAR) 中村 健さん 東洋大学SDGsアンバサダー

### ■ 活動内容 (概要)

「東洋大生がワークショップで考えるSDGs」の実施は、今年度で5年目となった。今回も主に初めてSDGsを学ぶ学生や、新たに「SDGsアンバサダー」に登録された学生を対象に実施された。講師は、NPO 法人開発教育協会 (DEAR) の松川清美さんにお越しいただいた。

ワークショップは「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」とのテーマをもとに、①オリエンテーション、②クイズ、③写真で知るパーム油、④ロールプレイ、⑤わたしたちにできること、⑥ふりかえり、という流れで実施された。各項目でチャットや、グループでの話し合いが行なわれ、終始発言のしやすい雰囲気であった。最初のオリエンテーションの際、講師より参加にあたって「立派なことを言わなくてOK」や「話を聞く・否定をしない」、「楽しもう」といった今回のワークショップにおける約束事項を確認した。

また、参加学生同士の自己紹介では、各自が自宅にあるお菓子を持ってきて、それを皆さんに紹介をした。そうしたオリエンテーションを経て、オンラインではあったが、緊張感が少しずつとけていった。その後、身近なモノの共通点クイズを通して本題である「パーム油」が導入された。さらにプランテーションの写真などを通して、参加者の「パーム油」への理解を深めた。

以上を踏まえたうえで、参加学生のうち6人がパーム油に関わる人になりきって、講師の説明上ロールプレイが行なわれた。ロール役の6人を中心にプランテーション開発について議論が進められた。役を担当しなかった学生も、その後のグループディスカッションで自分の意見を話し合い、考えが深められた。

最後に、振り返りが行なわれた。「もっと知りたいこと」や「自分だったら何ができるのか」という講師からの問いを各自で考え、グループで共有をした。多くの学生が当事者意識を持ち、具体的な考えを持っていた。また、「ダイヤモンドランキング」という考え方を講師より紹介していただいた。SDGsに

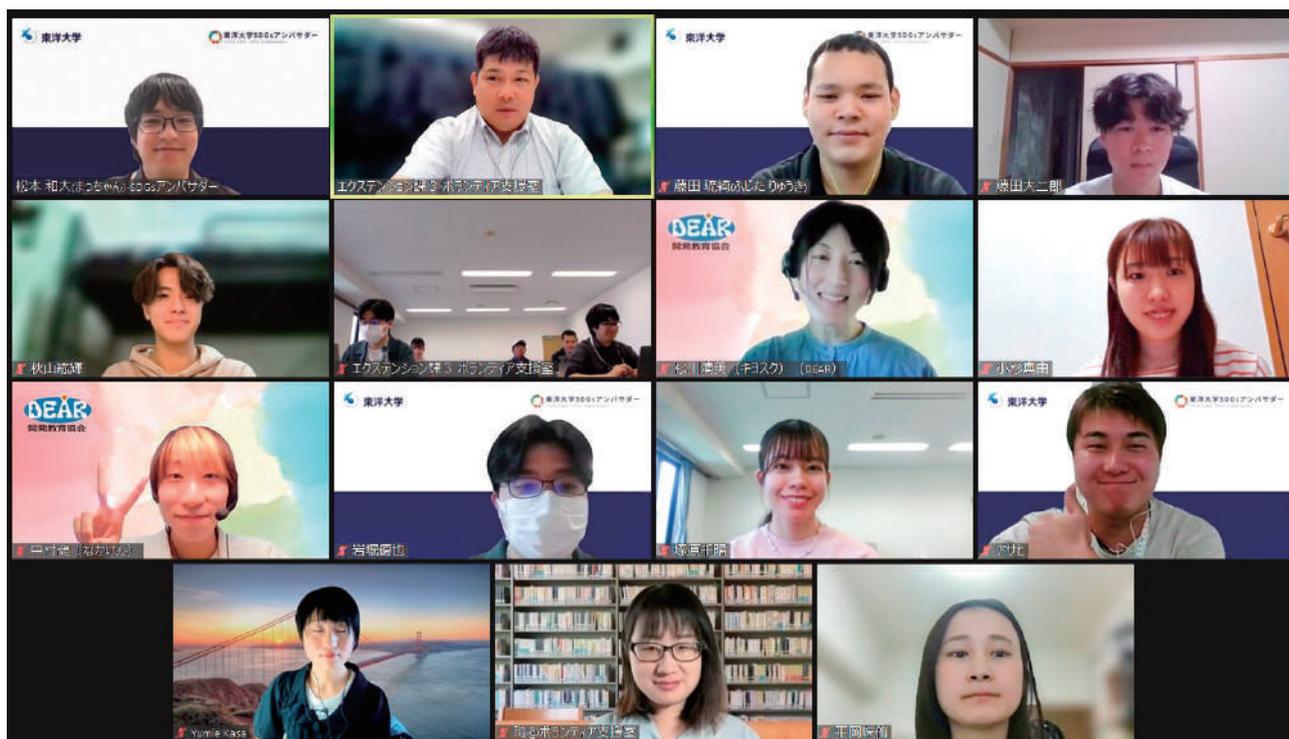
は今回のパーム油のように、答えが明確にわからない問題がある。そういった問題へのアプローチ方法も学ばせていただいた。

このたび、東洋大学SDGsアンバサダーとして、ワークショップの運営に携わった私自身も、初めての参加であった。ワークショップの作り方として、チャットやグループワークで学生が発言しやすい雰囲気作りがとても勉強になった。また、参加者の一員としても、他の参加学生と活発に意見の交流ができ、楽しくパーム油について学ぶことができた。実際にワークショップを受けた感想としては、「パーム油は東南アジアだけの問題ではなく、日本にいる私たちにも消費者として関わっている」ということを学んだ。さらに、ワークショップを通して、これまで自分のもっていなかった視点、自分事として捉えていなかったことも多くあると気づかされた。今後は、SDGsに関する知識を身に付けていながら、実践に携わっていきたいと考えた。

アンケートでも、参加された学生より多くの感想をいただいた。下記、一部抜粋で記載する。

- 環境問題や人権問題についてあまり考えたことがなかったので、いい時間だった。
- SDGSの理解が深まった。自分とは違った意見を知ることができた。
- パーム油について理解を深められる機会となり、こんなにも身近な物に使われているのだということを知れました。その中で、さまざまな角度から問題があることを知り、営者側の立場や、子どもの気持ち、先住民の気持ち、そこに生息する動物や植物の立場になって考えることができました。
- クイズでは色々な意見を聞いて楽しかった。ロールプレイはとにかく面白かったし、皆さん演技がうまくて、内容が入ってきやすかった。
- オンラインなので距離が生まれるかなとも思ったけれど、チャットでの発言機会が多かったことや、グループで話をすることでお互いの距離も近く参加することができた。
- 普段はどちらかという「森林伐採」などといった環境問題の視点から考えることが多かったけれど、今回アロキアムを演じたこともあり、人権や労働問題にも目を向けることができた。
- 実際に問題に対してさまざまな立場から意見を聞くことで、具体的なイメージを持つことができ、より深く問題に対して意欲的に取り組むことができた。

(情報連携学部情報連携学科4年 SDGsアンバサダー 井上 旭)



## 44 文京区「文京区地球温暖化対策地域推進計画見直しに向けた大学生ワークショップ」

開催期間・日時	2024年8月9日(金) 16:00~18:30
会場	文京シビックセンター3階 会議室A・B
目的	文京区が目指す「ゼロカーボンシティ」を実現するためには、区民や区内事業者などが気候変動対策の重要性を理解し、自ら脱炭素行動を実践することが求められる。そこで、区民および区内大学生を対象としたワークショップを開催し、「文京区で目指すべきゼロカーボンシティの姿(将来像)」や「自分たちが取り組むこと」について話し合い、その意見を計画に反映する。
参加者数	3名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生3名(本学からの参加者・SDGsアンバサダー)
協力	文京区資源環境部環境政策課

### ■ 活動内容(概要)

東洋大学が所在する文京区は2050年を目処に「ゼロカーボンシティ」を実現する旨宣言しており、各種取り組みを行っている。その中で今回は文京区に所在する東洋大学、東京大学、お茶の水女子大学、文京学院大学、東京科学大学(旧東京医科歯科大学)、跡見学園女子大学の各大学に所属する学生が招待され、文京区が「ゼロカーボンシティ」を目指す上での行動指針である「文京区地球温暖化対策地域推進計画」の見直しに向け、それぞれ4つのグループに分かれて意見交換やアイデアを創り出した。

「ゼロカーボンシティ」実現を目指す上で、住んでいたり、学んでいたり、働いていたりする街がどのようなものになってほしいか、生活上不便と感じていることや環境に負荷をかけていると思われることがどう変化したら解消されるかといった、私たちの暮らしに基づいて考察を深めるワークショップであった。通勤、退勤時の交通集中による道路の渋滞(=温室効果ガスの排出)や電車の混雑、ごみのポイ捨てなどの課題が挙げられ、交通集中による混雑や渋滞の解決策として新たな交通手段を生み出すことが挙げられた。ごみのポイ捨てに関してはごみを処理すると対価として、文京区内で使用できるポイントを付与する処理機を導入するというアイデアが出るなど、活発な議論が行われた。

最後にグループワークで出た意見を全体で発表しそれぞれのグループワークごとの意見を共有した。「東京ドームシティ全体にソーラーパネルを設置する」など、学生目線ながらもユニークな意見が多数見受けられた。

大学生ワークショップに参加して文京区の環境に関する取り組みや、文京区のその後の形を考える良いきっかけになったと感じた。文京区は老若男女問わず多様な人々が存在していることを改めて感じ、多様な人に満足してもらう街を作るとは困難なことと感じた。

今回のワークショップでは文京区内の大学生と意見交換を行った。そしてアイデアを0から創り出した。また文京区の職員さんとも関わることも出来た。この経験は普段関りが無い人と話し合いを進め、意見を交換することが出来た場であり自分が考えることが出来なかった意見や異なる視点からのものの見方などを知ることが出来るとても有意義な時間であった。

(国際学部国際地域学科2年 SDGs アンバサダー 塩澤 尚)

## 45 SDGs カフェ 「ワークショップで学ぶSDGsの概念理解」

ファシリテーター	日比野 勲 (ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)
開催期間・日時	2024年11月14日 (木) 18:15~20:15
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス ボランティア支援室分室
目的	SDGs アンバサダーの学生のみならず、全学生を対象にSDGsについて学びの機会をつくること。また、本企画に参加することでSDGs アンバサダーに興味を持っていただき、社会貢献活動に参加する学生を増やせるようなきっかけづくりのための場を設定すること。
参加者数	30名
企画運営	東洋大学SDGsアンバサダー (赤羽台キャンパス所属学生)

### ■ 活動内容 (概要)

SDGs (持続可能な開発目標) が注目されるのは、地球規模の諸問題がいよいよ深刻さを増し、「このままの暮らしを続けていけば、地球は立ち行かなくなる」という危機感を多くの人が感じ取っているところにあると考えられます。このため、SDGsを理解し、社会変革や地球規模の問題解決のためのさまざまなアクションを展開する上においては、いくつかの概念や考え方・視座をもてるようになることが望ましいとされています。

こうした、SDGsを理解するための教育実践として「ESD (Education for Sustainable Development = 持続可能な開発のための教育)」が存在します。ESDは、環境教育や開発教育、人権教育、平和教育といった、現代的な課題解決のための人づくりを目指した教育領域を包括する概念として、2010年代より教育領域として確立\*されてきました。

今回の企画は、本学ボランティアコーディネーターの日比野さんをファシリテーターに迎え、ワークショップを通じてESDを体験し、SDGsのものの見方・考え方をいくつか提供するという試みでした。

また、本企画はSDGsアンバサダーの学生が主催となり、東洋大生に向けたSDGsを学ぶ機会をつくる「SDGsカフェ」の1つとして行いました。

以下、プログラムについての報告です。

#### 1. アイスブレイキング「ピカソ」～手元を見ずに目の前の人の顔を書いてみよう～

アイスブレイキングとして実施した「ピカソ」では、2人1組になって、自身の手元を見ずに似顔絵を描くというアクティビティを行いました。

グループメンバーは初対面の学生同士が多かったため、「相手の顔をずっと見ないといけないことへの気まずさを感じた学生や完成度や相手に失礼な絵にならないか不安だった」という意見の学生もいれば、「手元を見ずに描くことで、見たままを描くことができ、考えて描くというよりもより新鮮で考え込まれたものにはならないと思った。」「楽しみ! やってみたい! とプラスの感情が働いた」といつもとは違った自己紹介を踏まえて緊張がほぐれているようでした。

## 2. ワークショップ①「仲間さがし」

参加者が、ファシリテーターに色分けされたタックシールを額に貼られた中で、「仲間」を探すというワークショップ。グループのメンバー間で協力し合いながら、仲間探しをしますが、直接的に額に貼られているシールの色を伝えてはいけないという条件下で行われました。

グループ内で「寒そうな色、暑い色」「信号の色でわかれた」など、どのグループもチームワークを発揮しながら「仲間づくり」が行われました。

「仲間づくり」が行われた後、アクティビティをふりかえる場面において「あなたは『仲間』を、どのような存在として捉えましたか?」という問いかけが、参加者に対し出されました。額に貼られたシールの色で、無意識的に「仲間」を分けてしまっていなかったかどうかを問われ、このワークショップの真のねらいが明らかにされました。

このワークを通じて出た感想として「自分と似たような者のみを受け入れる社会になれば、少しでも浮いた人間は簡単に淘汰される。見た目や所属が近いもので集まっていれば、外から見た人は遠慮して入りづらくなってしまおうと感じた」「色のように具体的な枠になった瞬間に一気に仲間意識が出来るのだなと思った」と、日頃当たり前に感じてしまうことを、見つめ直す機会となりました。

## 3. ワークショップ②「日本以外から来ているモノを探せ!」

ワークショップが行われているこの場において、身の回りにあるもので「日本以外」から来たものはどれだけあるのかを、できるだけたくさん探すというワークショップ。

見つけたものを書き出してみると、日常生活では欠かせないものが、外国からの輸入品に頼っていることがわかりました。また、輸入に頼っていることがわかったからこそ「もし日本が鎖国をしたらどうなるのか?」輸入品が持続的に届かず、普段当たり前に口にしていた食材を食べることができなくなってしまうことや、テクノロジーに関して、スマホやパソコンなど現在では当たり前で使用しているものが使用できなくなり、不便な生活になってしまうのでは?という意見が出ました。このワークショップでは、世界と持続的な社会にするにはどうしたらいいのかを考えることができました。

## 4. ワークショップ③「未来へのタイムライン」

この日の参加者である学生が生まれた、2000年代初頭から2024年の現在、その先の未来を2050年までのスパンで想像し、2024年の現在から、「望まれる未来」と「最悪な未来」の2通りのシナリオを想像し、そこに至る過去・現在からの道筋をタイムラインに書き出してみようというワークショップ。

参加した学生から「私たちの行動によって社会が変わっていくと感じた。過去と現在と未来はつながっていると思った」「一つの選択ではなく選択肢の積み重ねで社会は作られていると気づいた。既に私たちが選んだ選択が未来を作っていると実感し少し怖いと思った」「私たちの選択の一つひとつは小さいことでも、それが社会をつくっていくと思う」という感想がでました。

このワークショップでは、私たちが今選択していること、アクションをしていることは良いこと・悪いことに関わらず、未来につながっていると気づくことのできた機会となりました。そして、私たちが悪いことを考えるときがない、現実的ではないと考えるのではなく、多くの人がある今回のワークショップや機会を通して、より良い未来を共通の認識で望むことが、これからのアクションをしていく上で大切になるのではないかと思います。

## 5. ここまでの過程のふりかえり、まとめ

今回のワークショップ全体を通して、参加した学生からは「何事も自分ごととして考えることの重要性を感じた。現在起こっている様々な問題も自分ごととして捉える事でアクションを起こすことができ

たり、他者の立場に立つことができ、差別や偏見・孤独といった問題も生まれなくなるのかなと思った。」という感想が出ました。

学生として、また、SDGsに関わるボランティアとして、どんな社会を築いていきたいのか、一人ひとりの「気づき」「課題の意識化」がアクションに繋がるということが、参加した学生に届いたようでした。

そして、「心に火をつける人」という意味が込められた「ファシリテーター」という言葉。参加した私自身も、これからもっと学生がファシリテーターとして、今後「なんとなく社会にいいことをしている」から「特有の概念を理解して関わるSDGsへ」と、これからのアクションで、周りの人たちの心に火をつける原動力となるような人になりたいと思いました。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 SDGsアンバサダー 瀧澤 景子)

\*: 日本ESD学会が2017年に設立されており、学問としてのESDはこの時点で確立されていると考えられる。



## 46 SDGs ワークショップ 「障がい学生と作るインクルーシブキャンパス ～ゼロから学ぶソーシャルサポート～」

講 師	東洋大学キャンパスソーシャルワーカー 梅田 典子さん
開催期間・日時	2024年12月11日(水) 14:45～16:15
会 場	東洋大学 白山キャンパス 1710教室
目 的	この企画の目指すところは、ワークショップ内で当事者の話を聞き、障がいを体験することで実態を深く理解し、障がい者支援を自分事として捉えることを目指す。また、ソーシャルワーカーという職種の役割や、大学内で貸出している福祉器具を学び、学内外で障がい学生の支援がしやすい体制を整える。
参加者数	28名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 企画運営学生・一般参加学生・講演協力当事者学生 計19名 学生部職員4名 ボランティア支援室職員2名 その他教職員3名
協 力	<ul style="list-style-type: none"> <li>東洋大学学生部学生支援課 小室 さおりさん、大塚 桃子さん (キャンパスソーシャルワーカー)</li> <li>山田 瑞希 (社会学部)</li> <li>川畑 怜央 (文学部)</li> </ul>

### ■ 活動内容 (概要)

私たち東洋大学SDGsアンバサダーダイバーシティ&インクルージョン(D&I)チームは、障がいのある学生の置かれている状況や大学によるサポートの現状・課題を知り、学生同士で学び合うことを通して、今後インクルーシブキャンパスを作るための行動に繋げるために、今回のワークショップを企画した。ワークショップでは、キャンパスソーシャルワーカーの梅田さんにより障がいについての理解をレクチャーしていただいただけでなく、当事者学生2名からご自身の経験談を話していただいたため、大変多くの学びと気づきを得られた。また、当事者学生を交えて、学生同士のグループディスカッションも行われ、さまざまな議論や感想が共有されていた。以下、ワークショップの各パートの詳細を記載する。



### 【障がい理解「障がいとは?」】

① DE&Iの考え ⇒ 障がいのある人と支え合うために、私たちにどのような考えが必要なのかソーシャルワーカーの方からお話していただいた。講師の梅田様には、「DE&I」という多様性と包括性に加

えて公平性が必要であること、その理由についてお話していただき、個々の状況に合わせて成長機会を選択することの大切さを学んだ。

- ②当事者のお話を聞こう ⇒ 視覚障害を持つ山田さんと聴覚障害を持つ川畑さんに当事者の実態や気にかけてほしいこと等をお話いただいた。具体的には、山田さんには東洋大学はバリアフリーに特化した大学であることや、積極的に話しかけてほしいということをお話いただいた。川畑さんには、話すときは真正面から顔を見て話すと言わりやすいと教えていただいた。
- ③障がいを体験しよう ⇒ 発達障がいを持つ方がショッピングモールでどのように感じているのかを体験できる映像を視聴し、当事者のリアルを学んだ。近年、身体的特徴のある障がい者だけでなく、精神疾患等の「見えない障がい」を持つ人もいるため、困っている人を見かけたらすぐに助ける、という姿勢を持つことの重要さを学んだ。

### 【グループワーク】

- ①当事者のお話を聞いて ⇒ 当事者の方のお話を聞き、感じたこと・思ったことをグループに分かれて共有し合った。当事者の方と同じサークルに入っている人も、当事者同士でコミュニティができてしまうという話は聞いたことがなかったと言っていて、改めて有意義なワークショップであると感じた。また、自分は普段気付かない東洋大学内のバリアフリーについて知ることができて、当事者の方の話を聞くことの大切さを学んだという声も多かった。
- ②自分にできること ⇒ 私たちが障がい者にできることを学んだため、困っている人を見かけたら積極的に声をかけようという意見が多かった。また、当事者の方の話を聞いていると、歩きスマホや歩道で広がる等の誰もが迷惑に感じることをやめてほしいという声が多かった。そのため、当たり前のことを当たり前に行うことを心がけて、この心がけを広めていきたいと思った。また、自分がいつ障害を負うか分からないし、誰もが突然なり得るものであるため、常に自分事で捉えるという意見が多かった。

### 【東洋大学の障がい学生支援/キャンパスソーシャルワーカーについて】

学内で行われている障がい学生支援やソーシャルワーカーの役割についてお話いただいた。障がいを持つ学生に器具を貸す、学校生活に手助けをするのみならず、コミュニティを広げるお手伝いを行う、誰もがキャンパスライフを過ごしやすいようにするにはどうすればいいのかを常に考える、という役割を果たしていると知った。多様性という考えが浸透するなか、未だDE&Iの考えの認知度は低いのかも知れないが、このような方々のおかげで少しずつ社会が変化しているのだなと感じた。

### 【運営メンバー振り返り】

- 身近に障がいを持った人がいなかったため、改めて理解を深めることができました。自分たちと同じ学生が抱えている悩みや不安を知ること、今後自分自身がどう行動すれば良いか、何をしたら助けになるのかが明確になったワークショップでした。今後もこういったイベントを企画し、参加者を募るとともに、より一層感心を寄せていきたいと思えます。
- 障がいを持つ学生と深く関わったことはありませんでしたが、運営メンバーとして今後障がい者を支えるための意思を強く持つことができたと思えます。川畑さんが、参加者の思いを聞いて「本当に感動しています」と言っていたのが印象的でした。このワークショップはD&Iチームの年内最後の企画であり、緊張もありましたが、ミーティングで意見を出し合い、広報活動も積極的に行い、チーム力をとり高めるきっかけとなったと思えます。

最後に、参加者アンケートよりワークショップに参加した学生による感想を一部紹介する。

- 今日学んだことをまわりに伝えていくことが大切だと感じました。
- 自分達が思っていた以上に障がい学生の方々が困っているということを知りました。
- 障がいに直面している人々を特別視しない大切さを改めて学んだ。
- 普通に生活しては考えつかない日常生活のバリアがあると知ることが出来た。
- 道端にある点字ブロックなど、設置されている意味を考えながら行動して、それが使用したい人が適切に使用できる環境を整えるよう行動したいと思った。
- 歩きスマホや、前を見て歩かないなど当たり前のことを当たり前にできるようにすることを皆見直すべきだなと思います。
- 配慮と偏見という言葉を意識して、自分の思い込みで行動するのではなく、話して初めて成立するものだという事を知りました。
- 自分の中にも他者に対する偏見が無意識にあり、親切心や配慮が健常者と障がい者を分けていると感じている人もいると知れた。
- 感覚過敏の子どもの映像を視聴し、私はこれまで聴覚障害や視覚障害などの身体障がいばかり目を向けており、知的障がいや精神障害に関してほとんど触れてこなかったなと感じた。そのため、今後は目に見えにくい障がいにもアプローチしていきたいと思った。

(国際学部国際地域学科3年 SDGs アンバサダー 前井 美乃莉)



## 47 樹海清掃ボランティア

開催期間・日時	2024年5月26日(日) 13:00~15:30
会場	国道139号沿い 青木ヶ原樹海
目的	自然の中にどれだけのごみが落ちているのか、現実を知ること。 環境保全の重要性を理解すること。 富士山と青木ヶ原樹海のおりなす自然を理解すること。 学生同士が協力し合う大切さを知り、交流を図ること。
参加者数	学生47名 教職員4名
協力	認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

### ■ 活動内容 (概要)

認定特定非営利活動法人「富士山クラブ」のご協力のもと、青木ヶ原樹海清掃を実施しました。各グループ15~16人が3グループに分かれ、国道沿いの歩道と樹海のごみ拾いを行いました。グループ内で、燃えるごみを集める人や空き缶などの不燃ごみを集める人などと役割分担をし、お互いに声をかけ合いながら、協力して多様なごみを拾いました。

落ちていたごみの多くは、たばこの吸い殻や空き缶やお菓子のパッケージ、中身の入ったペットボトルです。中には、タイヤや毛布など、「なぜこんなものまで?」と思わず疑問を抱いてしまうような、通常この場所にあるはずのないごみも落ちていました。それだけではなく、シカが落としていった角が落ちていたり、青木ヶ原樹海が見せる自然を感じる場面もありました。

全体で拾得したごみの量は合計で130kg以上です。この量は昨年2023年5月に実施した際の100kgを上回る量です。昨年綺麗にしたはずの樹海が1年で元に戻ってしまうという悲哀な現実がありました。

ごみの量は年々減少するべきであり、またこの活動自体は本来無いことが好ましいことです。この活動を機に、富士山と青木ヶ原樹海的环境保全の大切さを改めて理解できるきっかけとなりました。

### 【参加者の声】

- 普段からポイ捨てされているゴミをみても今ほど意識することはなかった。これからは見かけたらゴミを拾って捨てることができる人間になりたいです。
- 何かのために行動することは心がスッキリする。
- 少しでもごみが落ちていると、「捨てていいんだ」という気持ちになってしまう人間の心理を知った。
- 学年、キャンパス、学部のあらゆる垣根を越えて、協力しながら目標を目指すことにとってもやりがいを感じ、チームワークの大切さも学んだ。
- 今回少しのエリアを掃除するだけで130kgものゴミが集まったことに驚いた。ゴミを拾うことも大事だけど、自然を守るためには人間の意識を変えることがまず大切だと思った。
- 初めてのボランティアで1人で参加のため緊張したが楽しめた。
- ゴミの管理を徹底することの重要性を感じた。意図せずに行ったのか、故意に行ったのか分からないがゴミが自然の中に散らばってしまうことは生態系を壊してしまうことに繋がる。そうならな

いようにするために、私たちのようなボランティアがゴミ拾いをし、活動をさらに発信していくことが重要だと思った。



## 48 被災地のまちづくりを考え、発信する スタディーツアー

学生代表	須藤 千秋 (法学部法律学科2年)
担当教員	子島 進先生 (国際学部教授)・田中 美彩都先生 (国際学部講師)
開催期間・日時	2024年9月10日 (火) ~12日 (木)
会場	福島県いわき市・浪江町
目的	本活動は、過去数年にわたり、福島県浜通り (双葉郡、いわき市) の被災地支援を目的に農業・漁業の再生に目を向け活動してきた。今回も、オリーブやコットンの畑での作業体験をメインに、浪江小学校 (震災遺構)、漁港でのセリ、および東京電力廃炉資料館を見学する。ゆっくりと再生の道を歩みつつある浜通りであるが、昨年には処理水の海洋放出が始まるなど、新たな問題にも直面している。自分の目で見て体験し、再生に向け変化を続ける同地域の「これから」を考える。
参加者数	17名 【内訳】学生15名、教員2名

### ■ 活動内容 (概要)

初日は、いわきオリーブプロジェクトの畑を訪れ、枝の片付けと施肥作業を行った。作業終了後、プロジェクトリーダーの松崎康弘さんから、「オリーブの里づくり」についての意気込みをうかがった。夕方、宿の古滝屋に起点 (コットンのプロジェクトを継承する企業) を経営する酒井さんのお話をうかがった。

2日目は久之浜漁港でのセリを見学した後、浪江町にある震災遺構「請戸小学校」を訪問した。いわきへの帰路の途中、双葉町や大熊町に立ち寄り、現在の復興状況を確認した。午後は酒井さんのコットン畑で作業を手伝った。夕方は、古滝屋で漁業関係者を招き、漁業の復興について学んだ。

3日目には、福島裕さんの畑を訪問した。本学の卒業生であるカタリ・ビジュアルさんと井上しおりさんが自らのボランティア活動について話をしてくれた。

以上のように、体を動かしながら、再生に向け変化を続けるいわき・双葉郡の「これから」を考える機会を得ることができた。



## 49 「里親子デイキャンプ」

担当教員	小野 道子先生 (東洋大学社会学部社会福祉学科准教授)
開催期間・日時	2024年10月26日 (土) 8:00~16:00
会場	千葉県ふなばし三番瀬海浜公園
目的	里親は都道府県知事など (指定都市や児童相談所設置自治体含む) が委託する事業であり、里親子への支援は基礎自治体ではほとんど行われておらず、地域支援を受ける機会はありません。東洋大学社会学部社会福祉学科では、千葉県里親会と連携して、千葉県の里親家庭の子どもたちと1日外遊びをし、里親の方々には里親同士の交流やレスパイト (休息) をとってもらう活動をこれまでも育成会の支援を受けて実施してきた。今年度も、公園でのデイキャンプを通して千葉県の里親子がリラックスできる空間づくりを行った。子どもたちには様々なレクリエーションなどの遊びを、里親の方々には子育てに関する座談会による交流の場を提供した。
参加者数	129名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】ゼミ生36名、ボランティア学生39名、里親子49名 (里子27名、里親22名)、大学職員など5名
協力	特定非営利活動法人乳幼児家庭養育の会、千葉県里親会、東京都里親会

## ■ 活動内容 (概要)

- 8:00 赤羽台キャンパス、白山キャンパスに集合。バスに乗車。
- 8:10 各キャンパスを出発
- 9:30 ふなばし三番瀬海浜公園着。受付準備や昼食準備に取り掛かった。
- 10:00 里親子が到着次第順次受付をし、大学生と子どもの引き合わせを行った。
- 10:30 開会式
- 10:40 午前レクリエーション (玉入れ、じゃんけん列車)
- 当日は雨予報であったが雨が降ることはなく、涼しくて過ごしやすい1日だった。
- 11:30 サンドイッチ作り
- 10種類のメニューを用意し、参加者がそれぞれのブースを巡って好みのサンドイッチを作る方式を取った。
- 12:00 昼食
- それぞれが用意したレジャーシートを使い、ペアごとにサンドイッチとデザートのパフェを食べた。デザートのパフェはサンドイッチ同様、事前に用意したコーンフレークとホイップクリームの入ったコップに、お好みのフルーツ等の具材を選んでもらう形を取った。
- 13:00 午後レクリエーション (氷鬼、借り人競争)、自由遊び、座談会
- 予定していたレクを無事に終えることができ、余った時間で子どもたちは大学生と鬼ごっこをしたり、用意したシャボン玉、ボールなどのおもちゃで遊んだりした。里親の方々とは座談会で交流を図った。
- 14:30 閉会式、片付け
- 15:00 ふなばし三番瀬海浜公園出発
- 16:00 各キャンパス到着、解散

里親子デイキャンプは東洋大学育成会、里親会の方々のお力添えをいただき当日を迎えることができた。今年度は昨年度と同様ボランティア学生からも当日の運営担当者を配置した。また、新しい取り組みとして昼食は手作りのサンドイッチとした。サンドイッチ作りはレクリエーション以外での交流の機会となり、子どもたちと学生との距離を縮めるきっかけになったと感じる。午後のレクリエーションの時間、里親の方々には座談会にご参加いただき、学生の学びだけでなく里親同士の交流の機会に繋げることができた。当日の運営は予定通りに進めることが難しい部分もあったが、臨機応変に対応して時間調整を行い、無事に里親子デイキャンプを終えることができた。デイキャンプを1年の楽しみにしてくれている方も多くいることを改めて実感することができ、責任感を持って活動していくと同時に、来年度は学生の役割分担、配置をよく考えながら今年度より更に主体的な行動ができるよう心がけていきたい。里親子の皆様にはお楽しみいただき、学生には楽しみつつ里親子について学ぶ貴重な体験ができた企画となったと感じている。来年度も皆様のご支援をいただき今年度以上に盛り上がる里親子デイキャンプにしたい。

### 〈学生の感想〉

- ボランティアであることを忘れるくらい、自分も純粋に楽しむことができた！あつという間だった。
- 昨年度よりより良いものを目指すために色々変更していたのが良かった。
- 初めての参加で不安も大きかったけど、時間が経つにつれて子どもたちと仲良くなれたのが良かったし、子どもたちが楽しめていた様子で嬉しかった。
- 集団行動が苦手な子どもにはレクを無理強いせず、「その子が1番楽しめる方法は何か」についての配慮がなされていて勉強になった。
- 昼食時に、里親子さんの何気ない会話からも里親制度の課題や養育の難しさを学ぶことができて、貴重な機会だった。
- ゼミ生がお子さんや保護者さんとの接し方が上手で、児童養護の知識も豊富な方ばかりでとても勉強になった。
- 里親子さんとの交流ということで少し身構えていたが、「1つの家族」として何の違和感もなく接することができて良かった。出会ったことが無いと変な想像から固定観念ができてしまうので、実際に会って話すことの大切さを改めて実感した。
- 子どもに対して「ダメダメ」と言うのは良くないけど、話を聞かなかつたり勝手にレクから離脱したりしてしまう。甘やかしすぎもよくないなあ、難しいなあと感じた。
- 里親子さんに関わるうえで、子どもたちのやりたいことを考えて接していくことが思い出作りに繋がるのだと改めて感じた。

### 〈里親さんの感想〉

- 里子とたくさん遊んでもらえて、里親は座談会などでリラックスできた。
- 養子縁組さんとの交流でとても母子共々有意義な時間となった。
- 安全な場所で子どもが自由に走り回れた。長時間、一緒に走って遊んでくださる大人（学生さん）の存在がありがたかった。
- 一年で一番楽しみにしているイベントです。里親里子でとても楽しめています。
- 子どもを預けて、里親同士で交流出来たから大満足。
- 皆さんの苦勞話を聞いて自分だけではないのだと励まされた。

### <里子さんの感想>

- 最高に楽しかった。帰りたくなかった。
- 来年も呼ばれるといいな。
- 学校や習い事以外の新しいお友達と出会えることは、楽しかった。
- 担当の学生のことが毎回大好きになる。
- 集団が苦手な子どもの遊びに付き合ってくれてありがとう。



※学外者が写っている為、ぼかしを入れています。

## 50 合宿型ボランティアプログラム 「2024ワークキャンププログラム 田人コース / 福島県いわき市」

講師	下條 真輝さん
開催期間・日時	オンライン説明会 2024年9月1日(日) 21時~22時 ワークキャンプ 2024年9月14日(土) ~2024年9月16日(月) (2泊3日)
会場	福島県いわき市田人町
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティア活動を通じて、環境、地域に貢献</li> <li>• 活動地域の魅力や良さを体験・発見</li> <li>• 参加者同士のチームワークを高める</li> </ul>
参加者数	11名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】学生10名、一般1名
協力	東洋大学ボランティア支援室 特定非営利活動法人NICE 日本国際ワークキャンプセンター 田人里山再生委員会

### ■ 活動内容 (概要)

福島県いわき市田人町に田人ワークキャンプ・ビレッジ構える下條真輝さん(しもさん)と由美子さん(ゆみちゃん)は昔ながらの田人の風景と暮らしを守っていくために「田人ワークキャンプ・ビレッジ計画」を始めました。「地域の中の人と外の人とで一緒に作る町にしたい」というコンセプトがあります。ワークキャンプ・ビレッジの宿泊施設は下條夫婦が田人の人たちやボランティアの人たちと協力して、大工さんや電気屋さんなどとも協力しながら建てられた渾身の作です。キッチンなども手作りで、さらに水の確保については、雨水から飲み水に変わる装置を採用していたり、トイレの水などは湧き水を引いてきたりと自然と共に生きる知恵が見受けられます。さらにしもさんは「田人ワークキャンプ・ビレッジ計画」以外にも地元の子供向けに開催している「自然体験教室」や田人のブランド米計画などを手がけています。このように田人を盛り上げる若手、しもさんが手がけるワークキャンプに参加しました。

#### <1日目>

田人ワークキャンプ・ビレッジに到着して、自然体験教室に参加しました。そこにはしもさんの活動を見に来た子ども若者支援を手がける方もいらっしゃいました。お昼ご飯はみんなでピザ作りをしました。ピザは手作りの釜を使用して自分たちで焼きあげる本格的なものです。その後日干しレンガを子供たちと協力して造りました。水、土、石灰、藁を混ぜ、形を作り、乾燥させるとできあがります。しもさんが日干しレンガを薦める理由は土できている日干しレンガは土に還ることができるからです。廃棄する際は日干しレンガ砕いて水を含ませれば土に還ります。環境に優しい心がけをしているわけです。レンガ造りが終わった後は子供たちとおやつを食べたり、ボールで遊んだりして交流をしました。夜ご

飯は子供たちが帰った後は子ども若者支援を手がける方と一緒に好み焼きと焼きそばを作り、交流を深めました。

### <2日目>

朝ご飯は鶏炊き込みご飯と味噌汁を作りました。田人観光いちご園に行きました。このいちご園はイチゴ狩りにより田人に訪れる人を増やすため小松菜農家からいちご農家に転向し、その結果毎年多くのお客さんが来ることとなりました。ここでは12月から始まるイチゴ狩りに向けたいちごの苗植えといちごの苗植えで出る大量のダンボールの処理をしました。ここで働いている人たちにも手厚くもてなされ深く交流ができました。休憩時間はイチゴ削りやシャインマスカットなどを振る舞っていただきました。また、お昼ご飯ではいちご園の方が買ってきてくれたお弁当やおにぎりを一緒に食べました。夜ご飯はいちご園の関係者がいらっしやり、その地域に根付いたつながりが色濃く映し出されました。夜ご飯はカレーとベトナムの留学生が作った本場の春巻きが並びました。

### <3日目>

朝ご飯は味噌汁と納豆でした。その後草取りをし、泊まった建物内の掃除をしました。その後、チャーハンを作りお昼ご飯にしました。最後にふりかえりをみんなですてワークキャンプが終わりました。

### 感想

田人の人たちと一緒にご飯を囲み、仲間たちと一緒にご飯を作り、一緒に寝て、一緒に活動することができ、普段はなかなかできない、人の温かみが感じられるキャンプだった。



## 51 「能登半島地震の経験から、首都圏における大規模災害にどう備える?～首都直下型地震に備える!東洋大学宿泊サバイバル体験～」

企画・運営	東洋大学IVUSA
協力	東洋大学SDGsアンバサダー（防災・まちづくりチーム）
インストラクター	宮崎 賢哉さん (防災教育・災害救援コーディネーター、社会福祉士)
開催期間・日時	2025年2月14日(金) 18:00～2月15日(土) 12:30 (1泊2日)
会場	メイン会場：東洋大学白山キャンパス1号館1507教室 ※その他、同館1501教室～1506教室を、宿泊場所ならびに控室として使用。
目的	1.参加者の防災・減災のための備えの意識の向上を図ること。 2.防災・減災のために自発的に行動できる学生リーダーの育成。 3.参加者が、東洋大学の災害時対策についての理解を深めること。 4.東洋大学白山キャンパスにおける、大規模地震時の行動についての動きを、実際の場面においてスムーズに行えるようになること。
参加者数	16名

### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア支援室では、学生課外活動育成会の支援を受ける形で、首都直下型地震対策の一環として、大学に学生が滞留する必要性が生じた際、どのようなことに留意し対策を行う必要があるのか、そのことのシミュレーションとして、例年「宿泊サバイバル体験」と題し、大学の教室に宿泊した災害時訓練を実施しています。

大規模地震災害の発災後に、大学内で一泊を過ごすことになった際の就寝スペースづくり、簡易トイレの設置（実際には使用せず）、アレルギー等に配慮した食事の準備などを参加者間で話し合いながら進めていきました。

また、今年度は2024年1月1日に能登半島地震が発生し、本企画の運営に携わったIVUSAの能登半島地震の現地ボランティア活動や、SDGsアンバサダーの学生が参加した本学の夏季能登半島地震ボランティア活動の報告を行い、現地を自身の目で見て、肌で感じたこと、現地の方から見聞きした暮らしへの影響や防災のための教訓に関する話題を共有しました。

以下、企画に携わった学生からの報告です。

#### 【1日目】

##### ○タイムテーブル

18:00～18:30 オリエンテーション

18:30～19:10 学生団体活動紹介、アイスブレイキング

19:10~22:30頃 宿泊サバイバル体験プログラム(宮崎賢哉さんによる講義、夕食づくり・簡易トイレづくり・就寝スペースづくりといった、滞留生活のための作業)

オリエンテーションを経て、学生団体活動の紹介とアイスブレイキングで参加者間の交流を深めました。その後、宮崎賢哉さんによる講義では、首都直下型地震の被害想定具体的な災害知識を学びました。災害時には帰宅せず大学に留まること、交通機関が長期停止する可能性、群衆雪崩などの二次被害を防ぐための行動指針など、重要な情報を共有しました。

講義後、参加者はグループに分かれ、学内で地震が発生した想定で、簡易トイレとベッドの設営、食料の確保・配布を行いました。段ボールやビニール袋を使い、限られたスペースで男女別のゾーニングや、緊急時の通路を考慮した配置に苦労しました。トイレの構造や設置場所についても、臭いや衛生面、プライバシーに配慮した議論に時間がかかりました。設営作業に集中するあまり、夕食の準備が遅れるグループもありました。



また、計画停電の想定訓練で停電が発生せず、時間もずれ、備品盗難も発生しました。この経験から、災害時は情報が錯綜し不確実性が増すため、情報の真偽と最新性を確認し、複数の可能性を考慮した柔軟な行動と高い警戒心が不可欠だと学びました。平時からの備えと臨機応変な対応を考える必要があることを実感した1日でした。

(経営学部 会計ファイナンス学科3年 IVUSA 幡 悠仁)

## 【2日目】

### ○タイムテーブル

- 7:00~ 7:30 起床、寝具の片付け、朝食準備
- 7:30~ 8:30 朝食
- 8:30~ 9:00 宮崎賢哉さんによる段ボールベッドの講義
- 9:00~11:30 IVUSA、SDGsアンバサダーワークショップ
- 11:30~12:00 まとめ

起床後、各自寝具類の片付けが終了した後、朝食準備に移りました。アルファ米を使用した朝食であったので1時間ほど食べるのに時間を要し、防災食は時間がかかることを実感しました。

朝食をとった後、インストラクターの宮崎さんが、就寝時に使用した段ボールを使用した段ボールベッドづくりのデモンストレーションを披露してくださいました。段ボールベッドは人を支える土台となる段ボールを並べて出来るもので段ボールの中に支えとなる段ボールを組み込むことで強度を上げる工夫がみられました。

次に学生間ワークショップを行いました。IVUSA主体のワークショップは、白山キャンパス内の危険箇所、安全な場所をグループごとに見つけ出す、オリエンテーリング型の企画でした。AEDの場所を探すというミッションが与えられましたが、がなかなか見当たらず探すことに苦労しました。普段使う機会がないものでも緊急時に使うことになるのでAEDの場所を探すことは大切ということを実感できま

した。

次いでSDGsアンバサダーによる、大規模災害時の帰宅に関するワークショップを行いました。大学のある文京区白山から世田谷区下北沢までの帰宅をしようとする中で、情報を頼りに移動を進めようとする状況が設定され、グループごとに東京都の白地図が配布され、刻一刻と変化する事象が都度スライドに投影され、その情報をもとにグループでミッションに対応していくという流れで実施しました。投影された事象はデマ情報も含まれているため、グループ間で真偽を確かめ合っていました。最後に目的地である下北沢駅まで帰宅するのか、しないのかグループごとに共有した。なぜ自分は帰宅するのか、しないのか理由を考えて行動するということを全体で学びました。

ふりかえりにおいては、各自シートを用い2日間宿泊サバイバルを通じての気づきと理由をグループ内で共有し、体験の気づきから行動しようとしたことを全体で共有しました。宿泊サバイバルで得た経験を活かし災害が発生した時の動きや考え方、準備の大切さを学ぶことができた機会となりました。

(国際学部国際地域学科2年 SDGsアンバサダー 塩澤 尚)



## 52 「ボランティアやっただけで終わらせないための『対話のシカタ』」

主催	東洋大学ボランティア支援室
企画・運営	東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ
ファシリテーター	大内田 絢加さん (フリーランス)
開催期間・日時	2025年2月4日 (火) 16:00~18:00
会場	東洋大学白山キャンパス 甫水会館301教室
目的	<p>①学内外でボランティアなどの課外活動を通じて得た知識、経験をその場限りで終わらせることなく、自分の今後のキャリアの糧へと昇華するための、自分自身のふりかえり方、他者や仲間との対話の仕方を学び、自発的に活動を「創造」できるようになること。</p> <p>②学生自身が「自分の考えを発信する力」、「自分の考えを他者へ伝える表現力」、「自分が考える活動を行う力」を身につけ、授業や課外活動への積極的な参加や、就職活動に向けて自身をふりかえるきっかけとすること。</p>
参加者数	15名

### ■ 活動内容 (概要)

ボランティア活動や、社会問題解決のための活動において、活動をしたままにせずに「ふりかえる」ことは、自身にとってその活動に参加したことの意味や、活動を通して関わりをもった他者との関係性の確認、社会との接点の確認などといった観点から、非常に大切なプロセスの一端を担います。

「ふりかえり」とは一般的に、「自分のありかたや事実をかえりみて、改善点を見出すこと」とされ、PDCA (Plan, Do, Check, Action) やKPT (Keep, Problem, Try) などのような手法がビジネスの現場などにおいても活用されますが、そこには「評価」の眼差しがどこかに含まれ、よし悪しや方法論のみに終始しがちでもあります。

本ワークショップでは、参加者それぞれのボランティア活動、あるいはそこに関わってみようとしたエピソードを題材に、その活動における事象がなんだったのかを「観察」し、そこでどのような感



情が湧き上がってきたのかをじっくり時間をかけて向き合い、その活動を通じて自分自身が大切にしていたこと（ニーズ）に気づくというプロセスに沿いながらふりかえり、互いの気づきをグループワーク形式で「きき合う」という流れで進めました。

以下、ボランティア支援室サポートスタッフからの報告です。



東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ（以下サポートスタッフ）と、大内田氏を交えて行われた本ワークショップは当日申し込みも合わせ15名で行われました。「ボランティアをやって終わり!の一步先へ」をテーマとし、「ふりかえり」を中心に、その後の対話のアクティビティに至るまで、楽しみながらワークショップが行われました。

まず、「チェックイン」として「自分の今ここにある気持ちに到着してみる」という、呼ばれたい名前や、学部学年、今の気持ち、参加の理由についてグループのメンバー間で共有しました。次いで振り返りでは、「評価→思考→手段→強要」の順序が日常的に行われていると仮定したうえで、「観察→感情→ニーズ→リクエスト」の要素\*を取り入れたうえでボランティアを行う動機、大切にしたいこと、最初の一步を考えながら個々人で記入し、グループ内で「対話」が行われました。

参加者の感想からは、「ふりかえりの仕方や、気持ちの伝え方がグループワークを通して学べた」という意見や、「どのような思いでボランティアに取り組んでいるか伝えられた」という意見が挙げられ、学びの観点からは好評でした。さらに「大内田氏が親しみやすい方であったため、気楽な気持ちで参加できた」という感想や、付箋を通して互いの発表した内容に感想を伝え合う活動の中では「ボランティアの経験の共有と感想をもらえて嬉しかった」等の感想も挙げられました。

個々人の今後の活動に向けた課題としては「緊張せずに話したい」「もう少し企画の時間が長いほうが好ましい」等の意見が挙げられました。

対話・感情を扱う時間が日常でどれくらいの頻度であってほしいかの感想については、今後このような活動が月に一度行われてほしいという要望が参加者の6割近くから寄せられ、本企画は好評だったと総括できます。

（社会学部社会学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 宮本 義史）

〈参考〉

\* NVC (Nonviolent Communication=非暴力コミュニケーション) とは、1970年代に、アメリカの臨床心理学者マーシャル・B・ローゼンバーグ博士によって体系化され、提唱された、平和的な関係性を構築するための対話手法。具体的には、観察 (Observation)、感情 (Feeling)、ニーズ (Need)、リクエスト (Request) の4要素に注目しながら、自身の内なる対話や、相手の言葉の奥の意図の推測、相手との対話を行っていくものとされている。(参考:NVC Japan: <https://nvc-japan.net/nvc/>)



## 53 被災地のまちづくりを考え、発信する スタディーツアー(春)

学生代表	矢野 秀朝 (国際学部国際地域学科2年)
担当教員	子島 進先生 (国際学部教授)
開催期間・日時	2025年2月16日(日)～18日(火)
会場	福島県いわき市・浪江町
目的	本活動は、過去数年にわたり、福島県浜通り(双葉郡、いわき市)の被災地支援を目的に農業・漁業の再生に目を向け活動してきた。今回も、オリーブやコットンの畑での作業体験をメインに、浪江小学校(震災遺構)、小名浜漁港の冷凍工場などを見学する。ゆっくりと再生の道を歩みつつある浜通りであるが、処理水の海洋放出が継続するなど、新たな問題にも直面している。自分の目で見て体験し、再生に向け変化を続ける同地域の「これから」を考える。
参加者数	19名 【内訳】学生18名、教員1名

### ■ 活動内容(概要)

初日は、起点(コットン・プロジェクト)が新たに拠点とする大野第二小学校(廃校)を訪れ、かたづけと清掃を行った。その後、代表の酒井さんによる事業の概要を聞いた後、コットン畑を見学して古滝屋に向かった。夕方は、古滝屋でミーティングを開き、漁業の復興過程について、子島が簡単な説明を行った。

2日目は福島県漁連の案内で、小名浜漁港の冷凍工場、放射線検査、そしてセリを見学した。その後、浪江町にある震災遺構「請戸小学校」を訪問した。いわきへの帰路の途中、双葉町や大熊町に立ち寄り、現在の復興状況を確認した。夕方、小グループに分かれ、この2日間の経験について討論した。

3日目は、オリーブ畑で草や枝を取り除いたり、肥料を撒いたりといった作業を行った。終了後、プロジェクトリーダーの松崎康弘さんから、「オリーブの里づくり」についての意気込みをうかがった。また、オリーブ商品をその場で購入した。

以上のように、体を動かしながら、再生に向け変化を続けるいわき・双葉郡の「これから」を考える機会を得ることができた。





## 54 NICE 東洋大学ワークキャンプ@栃木2025

講師	NPO 法人トチギ環境未来基地 (TCC)
開催期間・日時	2025年2月24日(月)～2025年2月26日(水)
会場	栃木県益子町
目的	「栃木県益子町に位置する里山での環境整備」 「地域に新たな風を吹かす」 普段別の場所で生活するボランティアが活動地域にやってくることで、活動地域に新たな風をもたらすことを期待する。ボランティアの行動は、自身の主体性に基づいての行動となります。ワークキャンプはみんなで作っていくもののため、自ら積極的に考え、何かできることはないかと行動することを期待する。
参加者数	10名 ※主な内訳は、以下の通り。【内訳】学生10名
協力	特定非営利活動法人 NICE 日本国際ワークキャンプセンター

### ■ 活動内容 (概要)

3日間の活動を通して、参加した学生たちは里山の環境保全に貢献し、自然との共生や協力の重要性について深く学んだ。本報告書では、各日程の活動内容と成果をまとめる。

初日の活動では、里山における竹林の環境整備の活動を行なった。既に刈られている竹林の竹を、乾いているもの(枯れているもの)・青いもの・青く葉が付いているものの三種類に分けた。そのうち乾いている竹は隣接する畑で焼いて竹炭にしていた。この作業では、山の斜面にある竹を拾い集めることや重く長い竹を集積場に持っていくなど、かなり体力的にきついものとなった。しかし、参加学生は所定の時間よりも30分ほど早い時間で作業をこなし、順調なスタートを切った。また、その日の夜は学生のみで食事等の準備をしたが、互いに話し合い協力する姿が見えた。この際には、買い出し班や調理班など即座に役割を分担し、チームワークの大切さを実感できる日となった。



二日目の活動では、初日の活動とは場所が変わり、竹が密生している竹林が作業場となった。この日の活動では、生えている長い竹を各自で伐採し、広い範囲の竹林を開けさせた。昼食では野外炊飯を行い、その際にも役割の分担等で主体性が垣間見えた。最初は、竹を伐採することに驚きを共にしていた学生ではあったが、活動が終わるころには慣れた様子で竹を切れるまでになっていた。

三日目の活動では、棚田で使用する道に生えた小さく細い竹を伐採する作業を行った。前日の活動で伐採した竹よりも小さいものではあったが、その数は比にならないほど多く、作業の大変さは異なっ

た形で表れた。午前中のみ活動とはなったが学生たちはその忙しさの中でも集中して作業を行い、得られるものが多い経験となった。

活動の初日から最終日まで、学生たちはボランティア活動を通して協力の重要性を学び、実践することができた。初めはボランティアに対して漠然とした考えを持っていた学生も、活動を終える頃には「栃木県益子町の里山」の環境保全に対して深く考えるようになった様子が見受けられた。活動を通じて、里山の大切さや自然との共生について考えを巡らせることができ、充実した三日間を過ごすことができた。

### 【参加者アンケートより 抜粋】

- 特に印象があったのは現場スタッフとの交流で、伐採した竹で色んな物を作り東京でそれを販売してその収入を地域のために使っているとの話を聞いて、道を作り竹を切って環境問題を解決しつつ地域発展のための資金も作れるのってとてもいいアイデアだなと思って感動したから。また、参加者のメンバーと協力してご飯を作ったり話し合いをしたり、作業したりととても楽しく濃い3日間だったなと感じたから。
- これまで自然豊かな土地へ旅行に行っても地元の方との交流や生活について知る、という体験をした事が無かったため非常に印象的なプログラムとなった。特に、初日では体力が持たずただ疲れ果てた活動も徐々に慣れていき、竹の伐採という活動を経て森林保護の重要性を自分自身で発見出来たのがよかった。このプログラムを通じ今まで他人事のように感じていた竹や害獣、森林保護という社会課題を身近に、そして自分事として捉えるようになった。
- 今までには貧困や教育の分野で社会課題に取り組んでいましたが、今回の活動を経て全てのジャンルの社会課題に関わっていきたいと思いました。
- 私が住んでいる地域は空き家が大変問題となっている地区なのでそういった部分に関わることをしてみたいです。
- 日本にあのような場所があるということと、人手不足によりなかなか片付けきれない竹が沢山あるという現状を知ることが出来た。

(福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年 ボランティア支援室サポートスタッフ 都築 郁昭)





## 55 東洋大学SDGs Weeks 2024 × 「里親月間」特別企画

講師	吉成 麻子さん (NPO 法人乳幼児家庭養育の会) 斎藤 直巨さん (一般社団法人グローハッピー)
開催期間・日時	2024年10月17日 (木) 5限 16:30~18:00
会場	東洋大学 赤羽キャンパス 20208教室
目的	里親制度や子どもとの関わりについて理解を深め、それに基づいて私たち学生だからこそできることを考える。
参加者数	53名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 授業履修者32名、一般学生21名 (社会福祉学専門演習Ⅰ・Ⅱ小野ゼミ所属学生)

### ■ 活動内容 (概要)

10月は厚労省の里親推進月間であり、里親子デイキャンプを実施予定であることから本講演を企画した。

「私たちが学生だからこそ」どのように里親制度へアプローチできるかをグループで話し合っ、検討した。その場面では質疑応答が活発に行われた。

吉成さん、斎藤さんからは里親当事者の声として、里親と暮らす子どもたちの現状をお話しいただいた。里親制度のマッチングの問題点、児童相談所との連携における課題等に対して理解を深めた。

また講演を通して、「里子だけど、特別じゃない」という言葉が登場した。里親制度は特別じゃなく、家族のカタチの一つであることを発信していく手がかりについてお話しを通して探す貴重な機会となった。

学生たちからは、「実際に里親家庭で育つ里子さんの話を聞くことで、彼らが抱える悩みや想いを知ることができた」、「里親制度に関する理解が深まり、自分たちに何ができるのかを考えるきっかけになった」、「里親子という存在を周りの人に伝えて認知度を高めていきたい」など様々な感想が寄せられた。

(小野ゼミ学生)



## 56 子ども・若者の生きづらさと居場所支援 ～支援現場からみた公的支援の課題～

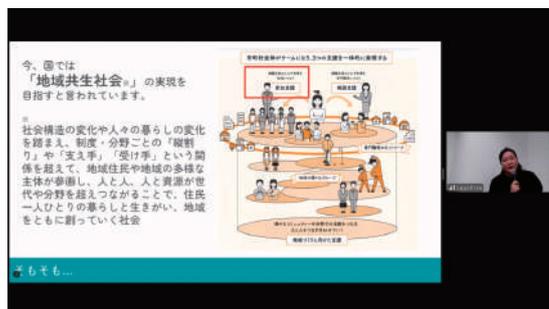
講師	我妻 澄江さん、根本 真紀さん
開催期間・日時	2024年12月2日(月) 10:40～12:10
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス 20208教室
目的	公的支援がありながらも十分に機能していない現状について、支援現場に精通している講師から子ども・若者の話を伺い、公的支援の課題について理解を深める。
参加者数	107名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】(授業履修者88名 [対面70名・Web18名]、一般学生19名 [対面5名、Web14名])

### ■ 活動内容 (概要)

- ・我妻氏、根本氏よりそれぞれ30～35分ずつお話を聞かせて頂き、それぞれにコメントをもらい、質疑応答の時間を設けた。
- ・我妻氏より「COCOROごはん」を始めた経緯について、またコロナ禍でも子ども食堂を継続した理由、食べに来ている子どもたちの家族関係や生活等の背景について説明を頂いた。根本氏からは、大学生としても実は身近な「まさか(貧困)」について、そのような状況に陥った時に、実は助けを求めにくいことなどについて話を頂いた。若者は「相談」に来ることは少なく、「初期費用ゼロの物件あります」等の方が困りごとを言いやすいという意外なエピソード等現場ならではの話を伺った。
- ・質疑応答では、「闇バイト等の勧誘もある中、困っている子供たちにどうやって『信頼できる団体』と思ってもらえるのか」「月1回子ども食堂を実施しているが、子どもたちがなかなか来てくれない」等が挙げられた。

学生の感想は以下の通り(いくつかピックアップしました)

- ・「幸せな人は犯罪をしない」「居場所を作ることによって犯罪に巻き込まれない」というお言葉が特に印象深かった。単なる食事支援だけに留まらず居場所を作ることによって犯罪から遠ざけてあげられ社会との繋がりも多くなるのだとわかった。
- ・当事者が抱えている課題は子どもの頃の経験が影響していることが多く、複雑な問題が絡み合っている。ただ家を用意するだけでなく、精神的なサポートも必要なため、支援も一筋縄では行かないことを学んだ。
- ・福祉を学んでいる中で、ホームレスやワーキングプア、虐待を受けてきた人というように、似たような課題を抱えた人々を分類し、総称して呼ぶことがあります。もちろんそのように人々の課題やニーズを発見し、制度や体制を整えていくことは重要ですが、実際に支援する際は、ホームレスとして支援するのではなく、その人として認め、支援していくことが非常に大切なのではないかと考えることができました。



## 57 CSR論公開講義「企業と人権」

講師	秋山 映美さん (株式会社クレアン)
開催期間・日時	2024年11月26日 (火) 9:00~10:30
会場	東洋大学 川越キャンパス 522教室
目的	SDGs (持続可能な開発目標) を含む「2030アジェンダ」の基礎であるとともに、企業等の組織の社会的責任 (CSR) の原則と中核主題にもなっている人権への取組について、基礎と取組事例を学ぶこと。
参加者数	77名 ※主な内訳は、以下の通り。 【内訳】 対面 76名 Web 1名 (授業履修者76名、一般学生1名)

### ■ 活動内容 (概要)

総合情報学部システム情報コースの専門科目「CSR論」の一環で、秋山映美さんをお招きし、「企業と人権」というテーマでご講義いただいた。

冒頭にテーマに関わるクイズを3題出題して、学生が回答を確認しながら解説を行った。

本題は、序盤では人権について、日本と世界の人権の認識、人権の進化性、企業による人権侵害に対する批判、企業の人権に関する計画・原則、企業と人権のかかわりについての説明があった。中盤では、人権に関係するもの10項目、ハラスメントにあたるもの10項目、差別に当たるもの／差別を引き起こす行為6項目のそれぞれの該当の有無について、手を挙げさせながら受講者の反応を見て、それぞれについて解説をおこなった。終盤では、先入観、偏見、無意識などの気づかずにやっている差別、カカオ、コットン、コーヒー、エビなどの商品の原材料の産地・加工工場で見られる児童労働や強制労働などの人権侵害と人権に対する取組について事例を挙げながら紹介した。また、広告・表現などによる人権侵害についても事例を紹介した。

受講者はおおむね集中して講義を受けており、企業と人権に対する意識を高めることができたと思われる。

(授業終了時のアンケートを参照のこと)



## 58 学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割

講師	NPO法人 さいたまユースサポートネット 学習支援事業統括 山本 香苗さん
開催期間・日時	2024年11月19日(火) 13:00~14:30
会場	東洋大学 赤羽台キャンパス HELSPOホール
目的	学習支援教室が行う学習支援活動の実際と、地域子ども支援と子育て支援の役割を知ること、児童虐待をはじめとする地域で子どもと子育て家庭が直面する様々な問題に対する有効な支援のあり方を考察することを目的とする。
参加者数	256名 ※受講アンケート数より

### ■ 活動内容 (概要)

本講演では、NPO法人さいたまユースサポートネットが、生活困窮者世帯の子どもを対象として無料で行う学習支援活動の実際をお話しいただく中で、子どもたちが、単に学習の問題にとどまらない、様々な困難に直面している現状を理解することができた。

学生からは「相対的貧困は本当に気づきにくいものだと思うからこそ、たくさん事例を知って勉強し、気づける人になりたい」「一面的な情報のみで判断することで、ご本人が抱える悩みや課題が見えてこなくなってしまうと改めて感じ、あらゆる視点で切り込んでいくことが重要であると思った。将来、自分自身が支援を展開していく際に意識していくべきだと思う。」等、自分事として問題を捉え、自分に何ができるか、自身の今後の進路につなげて考える意見が多く聞かれ、大変意義のある学びの機会となった。



# 能登半島地震ボランティア活動記録

2024.03.11-04.02	4大学合同ボランティア
2024.04.28-05.01	GW能登半島地震ボランティア
2024.08.04-09.03	<2024>夏季能登半島ボランティア
2024.10.11-10.14	能登半島豪雨災害ボランティア (第1クール)
2024.11.01-11.04	能登半島豪雨災害ボランティア (第2クール)
2024.11.04-11.07	能登半島豪雨災害ボランティア (第3クール)
2025.02.13-03.24	<2025>春季能登半島地震ボランティア
2025.04.28-05.02	<2025>GW能登半島地震ボランティア

## 活動概要

能登半島での被災地支援活動に参加することで地域課題を住民の方々と共有し、長期的視点での地域活性化を目指す。

### 「東京の大学」が支援を続ける意義

能登と東洋大学の現在



### 学生による現地でのボランティア活動（がれき撤去・清掃など）

2024年3月から、東洋大学の学生や職員あわせて220名が、現地でボランティア活動に参加しました。これらの活動は、地域の団体を通じて寄せられた住民の皆さまの要望に応えるかたちで実施されました。



### 石川県「関係人口」政策の支援

- ・ 仮設住宅に住む方との交流会実施
- ・ 輪島市「祭り」の担い手不足に大学生の力を
- ・ 学生によるSNS発信で観光客誘致



### 風化防止・情報発信の拠点

- ・ 現地では、報道減少により関心が低下していることが問題視
- ・ 現地活動者を講演会に招き、講座を実施
- ・ 文京区での報告会実施（青いピブス）



## 4大学合同ボランティア

開催期間・日時	2024年3月11日～4月2日
場所	石川県志賀町
目的	本学・金沢大学・金沢星稜大学・早稲田大学の合同チームでボランティア活動を実施する。
参加者数	本学学生12名 教職員4名
協力	志賀町ボランティアセンター

### 【参加者の感想】

・初めて災害ボランティア活動を経験しました。特に印象に残ったのは1日目の、民家の裏山にある倉庫の瓦礫撤去でした。私は最上部の瓦礫が山積みになっている部分から瓦礫を分解し、下にいる人に渡す役割を担ったのですが、ニュースやSNSで見た以上に損壊が激しく、様々なものが複雑に重なっていました。その大半は協力して片付けることができましたが、47人がかりで1日作業しても終わらなかったことには驚きました。

中学生や高校生から高齢者まで、幅広い年齢層の方々が活動に参加されていましたが、どなたもいち早く復興できるよう、一心不乱に取り組んでいたのが印象的でした。

## GW 能登半島地震災害ボランティア活動(輪島市)

開催期間・日時	2024年4月28日～5月1日
場 所	石川県輪島市門前町(禅の里交流館)
目 的	被害の大きかった輪島市門前町において、瓦礫撤去や炊き出しを中心に、ボランティア活動を行う。
参加者数	本学学生8名 教職員4名
協 力	公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

### 【参加者の感想】

・今回のボランティアを通して、震災の恐ろしさを痛感しました。私は震災による甚大な被害を受けたことはありません。しかし、今回門前町で瓦が落下していたり潰れたりしているお宅をこの目で見て、地域の方々とお話をさせていただき、震災はいつどこで起こるかかわからず、日常を突然奪うものだと痛感しました。そのため、家に帰りすぐ防災グッズの確認をし、いざとなったときの避難場所を調べました。今回の経験がなければ、震災の対策をしっかりとしようだなんて全く思わなかったと思います。この経験をどこまで伝えられるかわかりませんが、発信していきたいと思います。

## <2024>夏季能登半島地震ボランティア

開催期間・日時	2024年8月4日～9月3日
場 所	NPOピースウィンズジャパン/珠洲市ボランティアセンター 羽咋郡志賀町・富来町学童保育 輪島市河井町 重蔵神社 輪島市門前町 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 輪島市災害ボランティアセンター
目 的	震災から半年以上経っても未だ課題が山積みである現状を目にし、GWに引き続き全20クール、総勢111名によるボランティア活動を行いました。
参加者数	本学学生83名 教職員28名
協 力	珠洲市ボランティアセンター、ピースウィンズジャパン、志賀町・富来町学童保育、輪島市ボランティアセンター、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会、輪島市重蔵神社

※公益財団法人日本財団より「令和6年能登半島における地震・大雨被害に関わる支援活動」の支援を受け、活動を行いました。

## 【参加者の感想】

• 活動を進める中で、地域の強い団結力や住民たちの前向きな姿勢に感銘を受けた。復興支援だけでなく、地域全体の活力を取り戻そうとする努力が印象的であった。また、物理的な支援だけでなく、精神的なケアもボランティア活動の大きな意義であることを、この4日間で強く感じる事ができた。

## 能登半島豪雨災害ボランティア

開催期間・日時	2024年10月11日(金)～10月14日(月) 2024年11月1日(金)～11月4日(月) 2024年11月4日(月)～11月7日(木)
場 所	輪島市重蔵神社近辺
目 的	豪雨被害による泥かき作業、がれき撤去作業、避難所サポート、その他被災地ボランティアニーズ対応などを通して支援を行う。
参加者数	本学学生16名 教職員4名
協 力	輪島市重蔵神社

## 【参加者の感想】

• 能登半島でのボランティア活動を通じて、復興支援の現場に立ち会い、地域が抱える深刻な課題と地元の方々の温かさに触れることができました。活動では、泥かきや物資の仕分けなどを行いながら、被災者と一緒に活動するボランティアの方々との絆を感じ、助け合いの精神がいかに大切かを実感しました。その一方で、被災地の復興はまだ道半ばであり、物資や人手、重機などが大きく不足している現状や、行政の対応が行き届いていないという課題も痛感しました。

## &lt;2025&gt;春季能登半島地震ボランティア

開催期間・日時	2025年2月13日(木)～3月24日(月) 全9クール
場 所	珠洲市内各地、輪島市重蔵神社近辺
目 的	能登半島地域の持続可能な復興を目指し、地域との継続的なつながりを築くため、2コースに分かれて除雪作業や家屋整理、交流会など支援をおこなう。
参加者数	本学学生39名 教職員11名
協 力	珠洲市ボランティアセンター、(株)アデ、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン、能登の國・輪島 重蔵神社、輪島市ボランティアセンター、公益社団法人「青年海外協力協会」(JOCA)、災害支援ピースポート

## 【参加者の感想】

• 私たちが開催したお茶会では、住民にとってそれが単なるイベント以上の意味を持っていた。東京から人が来ただけで、住民の皆さんは喜んでくれていたが、さらに私たちがイベントを企画したことに対して、感謝の気持ちで涙ぐむ方もいた。私たちにとっては単なるボランティア活動に過ぎなかったが、住民の方々にとっては、そのひとときが心を温め、支えとなる大切な時間であったのだと感じた。

• 人的支援が長期休暇中に限られるため、"必要な"物資、募金と共に、今回始まる文通プロジェクトのように、現地の方々とのコミュニケーションを切れ目なく継続するということが大切。

能登半島地震ボランティア活動の詳細は、以下のサイトよりご確認ください。

<https://sites.google.com/toyo.jp/volunteer/top/noto2024report>

何から手を付けたら良いかわからない

どこへ行っても「来てくれてありがとう」と声をかけてくれた

被災者からの「見放されている気がする」という声

# 継続的な支援が必要

学童の子どもたちから「帰らないで」の声

瓦礫の山のなかから「指輪を見つけてほしい」との依頼  
無事見つけ出し、依頼者を喜ばせることができてよかった

地域全体の活力を取り戻そうとする姿

- 夏季能登半島ボランティア活動  
2024年8月4日～9月3日 全20クール
- 能登半島豪雨災害ボランティア活動  
2024年10月11日～11月7日 全3クール
- <2025> 春季能登半島地震ボランティア  
2025年2月13日～3月24日 全9クール

昨年1月に発生した能登半島地震と9月に発生した能登半島豪雨の支援活動として、本学では募金活動のほか、現地でのボランティア活動を実施してまいりました。被災された方々からの「能登に心を寄せてほしい」という願いに少しでも寄り添えるよう、今後も支援活動を続けてまいります。

中日新聞に本学の活動が掲載



<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 珠洲コース

第1クール 8月12日～15日



藤田拓海 (経営学部3年) 大島剣也 (理工学部2年) 阿部涼生 (理工学部2年)  
石田大河 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 市橋敏之 (井上円了哲学センター事務室・室長)

### 感想

- ・災害が原因で精神的に辛くなっている人も見てきたが、同じ境遇の人や私たちのようなボランティアがいることで、少しでもその辛いが癒されるのだと思った。
- ・この経験を通して、人々の温かさと共に、まだまだ続く復興支援の重要性を改めて感じました。今後も自分ができることを考え、積極的に社会に貢献していきたいと思えます。
- ・これからも、能登だけでなく、他の地域などでもボランティアを募集しているところがあれば、そこで頑張って参加してみたいという風に出ました。
- ・家電配達や倒壊の泥除去作業を通して、復興が進まない現状や人手不足の深刻さを痛感し、継続的な支援の重要性を強く感じました。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 珠洲コース

第2クール 8月16日～20日



藤田琉綺 (国際観光学部4年) 長谷部紳 (総合情報学部3年) 谷内姫奈 (国際観光学部3年)  
藤野涼太 (総合情報学部1年) 加藤凌輝 (法学部1年) 引率 青木勇 (L75777777課・主任)

### 感想

- ・能登の地震についてのニュースなどは、もう東京ではほとんど目にしなくなったのに、現状はまだまだ回復していないことが衝撃的だった。
- ・テレビやニュースなどでは見られない生の声を聞いたり、自分の目で被災地の様子を見たりしたことで、自分が被災した際の取るべき行動を理解することができた。
- ・私たちは大学生としてこの現状に対して、東京にいながらも支援できることは多くあると感じました。今回のボランティアで得た知見と課題を用いてこれからも能登の復興に貢献していきます。
- ・まだまだ厳しい状況が続く中で、前を向いて積極的に活動している地域の方々と交流できたことで、こちらも元気をもらうことができた。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 珠洲コース

第3クール 8月20日～24日



井上純輔 (情報連携学部4年) 小室誠人 (理工学部1年) 大河内秀音 (福祉社会デザイン学部1年)  
小山竜輝 (健康スポーツ学部1年) 引率 岡田裕 (教務部・部長)

### 感想

- ・首都圏で受け取ってきた情報とは違って、補修されて辛うじて通れるようになった道路や、どこかしらで家が崩壊されている町、更に未だ無くなならない給水所など、今回は現地に行かなければ知りえない情報を知ることができた。
- ・自分は今回現地で活動したが、支援の方法やもっと効果的なやり方(支援環境の整備など)をさくっと実行していきたい。
- ・一緒に参加したボランティアの方の中に自費でボランティアに参加した高校生がおり、その熱意に驚いた。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 志賀コース

第1クール 8月4日～8日



朝原優真 (社会学部4年) 中村凛香 (法学部3年) 金森絢音 (デザイン学部3年)  
松本美衣奈 (文学部3年) 小坂結希 (文学部2年) 引率 鈴木卓広 (大学院教務課・主任)

### 感想

- ・ニュースでは大人たちにスポットが当てられることが多いのですが、子供たちの大変さも伝えられていければ、もっと支援の輪も広がると感じました。
- ・どこに行っても「来てくれてありがとう」と言っていたことで、大学生として少しでも何かの役に立てたのかもしれないと感じた。今後も能登を気にかけて、災害後に現地に赴く重要性を伝え続けていきたいと思う。
- ・作業中、テントの中に熱がこもっている状態をみて、暑さ対策についても大変だなと感じました。ちょっとした問題を解決するためだけでも、人手が必要で、私たちにできることが沢山あると思いました。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



# 志賀コース

## 第2クール 8月18日～22日



阿部夏香 (社会学部1年) 西山朝登 (総合情報学部3年) 古川弥幸 (総合情報学部2年)  
佐々木湖乃美 (福祉社会学部1年) 引率 蛭田英徳 (情報システム部・次長)

### 感想

- ・今回、このボランティアに参加したことで私は多くの「人の強さと支え合い」を実感しました。重蔵神社と学童で経験したこともそうですが、この五日間で出会った人・物・事の全てを忘れずに心に留めて、これからからの人生に役立てていきたいと考えます。
- ・私は学童保育で子どもたちに受け入れてもらえるかどうかが一番不安だったが、子どもたちは警戒せず私を受け入れてくれたので、何事もなく会話に入ったり、一緒におもちゃで遊ぶことができました。
- ・ボランティア活動を行う中で、現地の方から「能登のことを発信してくれるだけで助けになる」、学童の生徒たちから「帰らないで」とも言われた。とても人の温かみを感じ、とてもやりがいのある、楽しいあつという間の5日間だった。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



# 志賀コース

## 第3クール 8月25日～29日



章立慧男 (社会福祉学研究科大学院) 塚越光凱 (理工学部2年) 山内陽斗 (生命科学部1年)  
池田朝花 (国際観光学部1年) 伊藤理子 (国際観光学部1年) 引率 長沼洋一 (国際観光学部教務課・課長)

### 感想

- ・今回のボランティア活動を通して、今、自分が大学で勉強できていること、元気に生活できていることに再び感謝すると共に、ボランティア活動に参加するというような、自分から社会に貢献することでたくさんの学びを得られることを知った。このような機会を頂きとても感謝しています。
- ・また子どもたちと楽しい時間を過ごし、彼らの笑顔に出会えることを心から楽しみにしています。この経験を通して得た多くの学びを、今後の生活や人間関係に活かしながら、さらに成長していきたいと思えます。
- ・この経験を通して、画面越しではなく実際に自身の目で確かめ、どうすべきか考えることが、適切な援助につながることを確信することができた。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



# 重蔵コース

## 第1クール 8月4日～8日



伊東航洋 (文学部3年) 茂木乃愛 (経営学部3年) 仁科菜鈴 (ライフデザイン学部3年)  
小世将輝 (総合情報学部2年) 引率 高山直樹 (社会貢献センター・センター長) 笠原昌江 (ITシステム部・次長)

### 感想

- ・能登の被災者の方々の言葉の中で、「見放されてしまっている気がする」といった話を聞き、復旧の状況や報道の減少から見ても、そう感じざる終えないと思った。だからこそ、今回の能登での活動で得られたこと感じたこと、実際の現状などを自分の周りの人に伝えていきたいと感じた。
- ・多くの若年層が、2年しかいない仮設住宅で将来に対する不安や苦しみを抱えながら生活している現状を目の当たりにし、今政府が行っている支援は、当事者目線とは言えず表面的だと感じた。
- ・ボランティア活動は、個人や団体だけではやれることが限られてしまう。しかしながら、それが線にそって円になることで大きな力を生み、被災された方々のためになる。これからも、能登半島地震を風化させないために、復興等の活動に対して関心を持ち考え続けていきたい。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



# 重蔵コース

## 第2クール 8月8日～12日



長谷川暖 (国際学部3年) 大山双葉 (社会学部3年) 板垣早笑 (国際観光学部3年)  
吉田妃那 (社会学部2年) 引率 藪長千乃 (国際学部・教授) 植松孝行 (社会学部教務課・課長補佐)

### 感想

- ・震災から半年以上経っても、想像していたよりも復興が進んでいない状況に驚愕した。倒壊したビルや住宅がそのまま放置されている日常の中で、少しでも町の方々に希望を見出すことができたらと思いました。
- ・前回も感じたことだが、実際に現場に来て聞いて見て体験しなければ分からないことがたくさんあった。今回の活動を通して1番感じたのは、やはり活動を継続的に行うことが一刻も早く復興するための鍵であるということだ。機会があれば今後も積極的に活動に参加したい。
- ・活動後に感謝されたり、活動の成果を自分自身で確認できたりして、自分がやってたことは誰かの役に立つのだなと実感できた。ボランティア活動に参加したこと、もって困っている人の役に立ちたいという思いが強くなった。また機会があればぜひ参加したい。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 重蔵コース

第3クール 8月12日～15日



仲里すみれ (国際学部3年) 鶴見咲希 (国際学部2年) 沓沢季子 (福祉社会デザイン学部1年)  
丸山奈々 (福祉社会デザイン学部1年)  
引率 小瀬博之 (総合情報学部・教授) 浅見直弘 (初等中等教育課・課長補佐)

### 感想

・今回のクールではお祭りの三夜踊りに参加することができました。幅広い世代の方が踊っていて、一体感があり、輪島の地域の繋がりが見えて嬉しかった。輪島の伝統文化に触れることができ、私自身も更に輪島に対して想いが強まった。今回は短い期間のボランティア活動だったが、また能登半島や輪島に支援のかたちで関わりたいと思った。  
・支援物資配布に必要なのは、支援物資だけでなく、配布までの重労働ができる人手も必要であることも新たに気づいた。災害ボランティアに参加したのは初めてであったが、実際に被災者の方と交流することで現地の状況や課題点を知ることができた。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 重蔵コース

第4クール 8月16日～20日



奥村碧斗 (経営学部2年) 馬場菜 (社会学部1年) 寺崎真未 (健康スポーツ科学部1年)  
羽瀨和可奈 (経済学部1年) 引率 志村健一 (福祉社会デザイン学部・教授) 笠原昌江 (イノベーション・次長)

### 感想

・初日から重労働だと思ったのですが、とてもいい経験になったと思います。風も通っていたので、作業はしやすかったけれど気分が少しずつ疲れてきて大変でした。  
・地震直後の話を重蔵神社の能門さんから聞いた。食料が無く住民が餓死するかもしれないという言葉に特に衝撃を受けた。また、災害が起きた場合に個人や自治体がそれぞれどう動くか、何が最優先の支援かを決めておくことがより迅速な避難行動に繋がると思った。  
・今回は地元の人と交流する時間があったり、地域の人と交流する時間があったり様々な経験ができてとても良かったと感じています。まだ支援が足りない現状を見たので、周りの人と話をしたり、これからもボランティアに参加していきたいと感じられました。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 重蔵コース

第5クール 8月20日～24日



五十嵐紅葉 (社会学部2年) 池田栄雪 (国際観光光学部2年) 細井瑞希 (福祉社会デザイン学部1年)  
下小田実夢 (文学部1年) 引率 黒崎知洋 (図書事務課・課長) 椎名康行 (イノベーション課・課長)

### 感想

・今回実際に輪島市に行き、震災の恐ろしさ、また、能登がどれだけ良いところを知ることができた。またボランティアに行きたい、能登へ観光にも行きたい。  
・また避難場所での生活をしなければいけない人が何十人もいることに憤りを感じた。なぜ政府からもっと支援が来ないのか疑問に思う。キリコ祭りはとても楽しいお祭りだった。地元の人々も楽しそうに参加していて、癒しになったのかなと思った。  
・地震の被害を受けた建物は今もそのままになっている場所が多々あり、何から手を付けたらいいかわからないくらい復興が進んでいない現実が驚いた。能登に住んでいる方々は、変わってしまったふたつと、なかなか元に戻っていかないので、とどき希望が見いだせなくなってしまうのではないかと感じた。1日で早い復興を早く意味が現地にきて分かった。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 重蔵コース

第6クール 8月24日～28日



井上旭 (情報連携学部4年) 稲垣叶乃 (文学部2年) 田島菜摘 (社会学部1年)  
福田悠 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 鎌田隆二 (教職支援課・課長) 鈴木康浩 (イノベーション課・課長)

### 感想

・今回の活動を通じて、災害は他人事ではなく自分事として考えることができるようになった。いつ起きてもおかしくない自然災害のときに、今回の経験を生かしたら良いと思った。また、改めて日常生活の尊さを、感じました。  
・高齢化が進んでいる街ではあるが、復興が順調に進んでいるわけではないことや、ボランティアの裏側など行くことでしか得られない貴重な経験を積むことができた。  
・実際に自分の目で能登を見て、参加する前のイメージと違っていた事が多く、情報や知識を聞くだけでなく自分の目で見て中に入る事が大切だと実感しました。また災害ボランティアを通して、微力ながら復興の手助けができた事を嬉しく感じ、学生の期間や将来やりたい事の幅が広がりました。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## シャンティコース 第1クール 8月4日～8日



松縄大輝 (文学部3年) 北野雄大 (社会学部2年) 千田初音 (法学部1年)  
新妻知怜 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 曾根健吾 (学長事務課・課長補佐)

感想

- ・瓦、ステージ運びがとてもキツかった。私たち大学生でさえもとても疲れたのに、地元の高齢者が同じ仕事量はとてもではないが難しいと感じた。まだまだボランティアは足りないなと思った。
- ・私たちが宿泊していたコテージでは水が使えず、また、3分の2の浴房が不具合で使えないという状況であり、「被災する」ということの大変さを他のどの班よりも身近に感じた非常に貴重な体験であった。
- ・ニュースでは「徐々に復興しています」といった報道がされているが、私たちが活動した場所は、全くではないがそう言い難い状況であった。ボランティアニーズは絶えず、私たちにもまだまだできることはあると思った。
- ・現地の方は飲み物をくださったり、色んな面白い話を聞かせてくださって気丈よく振る舞っているように見えたが、物が無くなったときは寂しかった。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## シャンティコース 第2クール 8月26日～30日



渡辺武雄 (国際観光学部3年) 塩澤尚 (国際学部2年) 板場海咲葵 (国際学部1年)  
伊藤光砂 (国際学部1年) 引率 清水和樹 (学長事務課) 波多野瑠 (朝農事務課)

感想

- ・仮設住宅に住めることでとりあえずは良かったと考えていた。しかし、2次避難で他県に行ってしまった隣人と話すことが出来ないことや、そのせいで今後新しく家を建てたとしても隣人が皆居なくなってしまう時の不安や後悔など様々な懸念がこの先もずっと続くことを知り、ボランティア活動や復興は長期的に続けていかなければならないと再確認した。
- ・能登半島ボランティアに来る前は地震は他人事だと思っていましたが、いろいろな復興作業を通して、他人事だと思わなくなりました。ボランティア活動では、瓦礫を運ぶのだろうと想像していましたが、サロン活動やゲストハウスを作ったり、色々なボランティアがあることを知りました。現地の方々はとても優しく、門前について沢山教えてくださり勉強になりました。またボランティアがあれば応募したいです！

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## シャンティコース 第3クール 8月30日～9月3日



伊藤瑞起 (理工学部2年) 田淵啓悟 (福祉社会デザイン学部1年) 石川けいと (生命科学部1年)  
倉持仁奈 (生命科学部1年) 引率 ジェイムズショート (法学部・教授) 椎名康行 (ITファシリティ課・課長)

感想

- 今回のボランティア活動の最大の目的は、自分自身の目で地震の被害にあった地域を見ることであり、その目的は達成することができた。自分自身が大学生という立場で初めてのボランティアだったが、仲間とコミュニケーションをとりながら、最終日までに最高のチームになれて本当によかった。
- ・活動を進める中で、地域の強い団結力や住民たちの前向きな姿勢に感銘を受けた。復興支援だけでなく、地域全体の活力を取り戻そうとする努力が印象的であった。また、物理的な支援だけでなく、精神的なケアもボランティア活動の大きな意義であることを、この4日間で強く感じる事ができた。
- ・子供たちとの交流が今日一番楽しかった。単純に自身も楽しめ、子供達にとってもそう感じられる時間になったのではないかなと思う。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 輪島コース 第1クール 8月4日～8日



RYU SHINBI (総合情報学部3年) 小山碧 (総合情報学部3年) 吉田実菜里 (総合情報学部1年)  
藤城岳貴 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 鈴木裕一 (川越教学課・課長)

感想

- ・指輪を探し出して欲しいという依頼があり、正直、あの瓦礫の山の中から見つけるのは無理ではないかとも思っていたが、多くの人たちとの協力で見つけ、依頼者の方を喜ばせることができてよかった。
- ・ボランティア活動を通して、直接見て聞くことになり、小さな支援だけでなく多くの助けになり、持続的な支援と関心が被害地域の再建に役立つということを知りました。
- ・能登の状況に関する報道は減少してきており、どんどん過去のことのようになってきていますが、まだまだ復興には程遠く、課題が山積みだという現状を、現地に行った身として情報を発信していきたいです。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 輪島コース 第2クール 8月8日~12日



平塚奏美 (国際学部3年) 鳥塚慈瑛 (経済学部3年) 樋口明寛 (理工学部2年)  
鈴木里和 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 笠原春明 (経営企画本部事務課・事務局長)

### 感想

- ・毎日体を動かしていたので全身が筋肉痛になっていましたが、活動が終わったあとに現地の人たちとの会話を通してボランティアに対する生の声を聞けるのはとても貴重でありがたかったです。
- ・5月に訪れたときと比べてあまり変化がなく、まだ復旧の手が付けられていない住宅や施設も存在していること、被害を受けた場所への主要な経路が絶たれていることなどから、能登の復興の難しさを痛感しました。
- ・社会福祉を学ぶ人間として、社協の方々が無償で動いていらっしゃる姿を生で見ることができ、とても勉強になった。またこのようなボランティア活動があれば参加したいと思う。
- ・今回の災害ボランティアに参加して、メディアが報道しない現地の状況を自分の目で確かめることができ、少しでも力になれたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 輪島コース 第4クール 8月16日~20日



伊藤友哉 (総合情報学部3年) 西山はな (文学部3年) 瀧澤景子 (福祉社会デザイン学部2年)  
古川結菜 (文学部1年) 引率 河部剛士 (広報課・主任)

### 感想

- ・現地に行けなくても、重蔵神社にはInstagramがあり、Amazon欲しいもののリストがリンクに貼られており、復興のために支援をすることができるといって嬉しかったです。
- ・今回の活動を通して、自分も誰かの助けになれたと自信を持てた。少しでも力になれればと参加したこの活動が、反対に私に強い力と元気を与えてくれた。
- ・テレビやSNSで発信されている情報はほんの一部であり、実際の状況をもっと発信して多くの人があるべきだと感じた。今回、直接現地にボランティアとして参加することで、能登の現状を知ることができた。
- ・自分が知っている情報はほんの一部ではないと実感させられた。実際に現場に行き、生の声を聞かないと知ることのできない情報をたくさん知ることができてよかった。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 輪島コース 第5クール 8月20日~24日



梅田真梨亜 (国際学部4年) 森田真有 (生命科学部1年) 安部優衣菜 (経営学部1年)  
伊藤風結 (社会学部1年) 引率 齋藤隆一郎 (TOVOが-センター事務局・主任)

### 感想

- ・今回、直接現地にボランティアとして参加することで、能登の現状を知ることができた。
- ・全体的に復興の速度は遅いと感じた。あまりニュースでは報道がされなくなった今、SNSで情報を得ることはできるが、やはり実際に訪れてみて予想とは異なることが多かった。やはり自分で見て聞いて体験することが大切だと実感した。
- ・ニュースや画像で見ることができると、それには限界があり、暮らしていくなどは現地の人にしか分からないと改めて感じた。
- ・ハンマーでブロック塀を叩き割ったり、バールでブロック塀を持ち上げたりと大変なことはたくさんあったが、対象者の方に感謝してもらえ、充実した日々を過ごすことができた。能登復興に少しでも貢献することができていれば嬉しいし、また災害ボランティアの案内があれば応募しようと思う。

<2024>夏季能登半島地震ボランティア



## 輪島コース 第6クール 8月24日~28日



LUO JIAJING (社会学部4年) 岩堀優也 (情報連携学部4年) 宮本義史 (社会学部2年)  
森明瑛 (福祉社会デザイン学部1年) 引率 松尾渉 (TOVOが-センター事務局)

### 感想

- ・今回のボランティア活動では、瓦礫の撤去や避難所の設営など、直接的な支援活動に参加することで、被災者の方々に貢献できたことが嬉しかった。また、他のボランティアメンバーと協力する中で、多様な視点や考え方を学び、共同作業の大切さを実感した。
- ・まだまだニーズに対して対応しきれない状態で、「今後数年かけてボランティア活動が必要になってくる」と現地のボランティアの運営の方も仰っていたので、またこのような機会があれば前回と今回培った経験や知識を活かして参加していきたい。
- ・4泊5日で色々な人と出会えて、地震の時の経緯を聞いたり、8ヶ月経っても復興がなかなか進まない現状を知ることができました。少しの積み重ねで復興して欲しいです。
- ・このような復興に携われる機会を下さった東洋大学並びにボランティアセンターのスタッフさん、地域の皆様へ感謝申し上げます。

能登半島地震ボランティア  
活動報告

※第3クールはお盆時期の為、未実施

<2024>能登半島豪雨ボランティア



# 能登半島豪雨ボラ



第1クール 10月11日~14日



井上旭 (情報連携学部4年) 藤田琉輔 (国際観光学部4年) 佐々木愛歌 (国際学部3年)  
塚原千晴 (経済学部3年) 島塚慈球 (経済学部3年) 伊藤楓真 (経済学部3年) 伊東航洋 (文学部3年)  
引率 高山直樹 (社会貢献センター長) 笠原昌江 (ICFアドバイザー・次長)

**感想**  
 ・偶然の巡り合わせで、8月にボランティアに入ったお宅に伺った。私のことを覚えていてくれた。  
 ・長期休みだけでなく、行くことができる人が行ける時に活動をして、継続的な支援をしていくことが、能登を復興させるためには必要なのかもしれない。  
 ・重労働でとても疲れた。短時間でも想像以上に体力を消耗した。しかし、このようなボランティアの活動は成果が目に見えるので充実感があった。  
 ・メディアでは地震や津波が起きた事実と被害の規模がメインに報道されているが、その後の処理についての経過報告は少ない。そのあたりをもっと報道すると、国民が忘れることなく継続的に記憶に残り、ボランティアに興味を持つ人が増えるのではないかなと思った。  
 ・洪水の被害をメディアを通してよく見ることはあるが、多くは復興の後半の段階で取材されていると感じた。また地震と洪水の両方を経験してみても洪水からの復興が大変なと感じた。  
 ・長期休みだけでなく、継続的な支援をしていき、行くことができる人が行ける時に活動をして、少しでも力になることが能登を復興させるためには必要なのだと考えた。

<2024>能登半島豪雨ボランティア



# 能登半島豪雨ボラ



第2クール 11月1日~4日



川井田紗寧 (社会学部3年) 高橋杏樹 (社会学部3年) 伊東航洋 (文学部3年)  
秋山藍輝 (生命科学部1年) 森田真有 (生命科学部1年) 引率 高山直樹 (社会貢献センター長)

**感想**  
 ・ボランティアで県外からきている方々と皆々家の泥かきを行った。1時間程度の活動でもたくさんの土壌を除去したが、全てを元通りにすることはできなかった。復興するには、まず、ある程度元の状態に戻さなければ先に進むことはできないけれど、人手が足りないと感じた。泥で汚くなり住めなくなってしまっている住人のかたはとて明るくこちらが元気をもらった。まだまだ復興には時間がかかるとは思うが、なんとでも地元の人達が心温かいと思った。  
 ・テントの中の物資が散らばっていたり、整理されていなかったりしたため、分別に分けることが大変だった。また、整理されていない配布することもできない物資は、個人で運ぶのではなく、企業や団体ごとで運ぶことが被災地のためになるのではないかなと思った。本日は福祉での配給があったため、地域の方々と少しお話をすることができたのがとても良かったです。  
 ・東洋大学の国際観光学部の方と合わせて11人で活動する中で、コミュニケーションをとり、効率よく作業することの大切さに気づきました。  
 ・東洋大のゼミグループと協力して泥を入れたり、運ぶ作業が本当に楽しくて、つらい体力仕事もやりがいを感じました。今回やった区画も全て終わらず、1日やっていた10分の1にも満たしませんでした。これだけで何万軒も同じように被害を受けている場所もあって、果てしない努力と力が必要であると感じると共に復興が何年かかる理由が理解出来ました。

<2024>能登半島豪雨ボランティア



# 能登半島豪雨ボラ



第3クール 11月4日~7日



大木海人 (理工学部4年) 長谷部紳 (総合情報学部3年) 木下雅人 (法学部1年) 遠藤眠人 (経済学部1年)  
引率 椎名康行 (ICFアドバイザー・課長)

**感想**  
 ・土砂の中には色々な細菌が含まれている可能性があるため、マスクや手袋などの感染対策をして作業を行いました。本日は泥かきを行いました。重労働ではありますが、徐々な距離を歩けるようになってきました。雨をまわったときにまた道路が陥没していたり、建物が見えなくなった状態が見られ、能登の現状を知ることができました。  
 ・あの土地を整復するのは、かなりの時間を要するため、人が定期的に足りないと感じた。夏休みにおこなった能登半島地震ボランティアよりも、豪雨被害ボランティアのほうが終わりが早いものかもしれないと感じた。想像していたよりも、被害は大きなもので土壌に入れて積み重ねるといふ単純作業でも疲労感が溜まった。気づいたこととしては、輪島市全体で夏よりも建物の解体が進んでおり、更地となっている部分が増えていた。  
 ・今回は他の会社の方と同じグループでの方々の協力もあり、スムーズにできたと思います。依頼主の方にも感謝され、達成感があり一層感じられました。もっと頑張ろうと思いました。  
 ・泥はけはともかく、なかなかの肉体的労働にはあったが、コミュニケーションを取りながらの作業を行うことで、助け合いながら作業を行う、協力して活動する重要性を改めて実感した。依頼者の方にも物凄く感謝して頂いたことから、活動のやりがいと達成感を感じることができた。また、現場で活動されている方々から震災当時の貴重な体験を聞くことができた。非常時には率先して行動することの重要性や地域のつながりの強さを保つことに繋がるのだと認識できた。

<2024>春季能登半島地震ボランティア



# 珠洲コース(春季)



第1クール 2月21日~25日



遠藤優大 (経済学部2年) 馬場菜 (社会学部1年) 多田早希音 (福祉デザイン学部1年)  
山崎ゆらら (文学部1年) 加藤凌輝 (法学部1年) 引率 青木勇 (ICFアドバイザー・主任)

**感想**  
 ・私たちが開催したお茶会は、住民にとってそれが単なるイベント以上の意味を持っていた。東京から人が来てくれただけで、住民たちは喜んでくれていたが、さらにその人たちがイベントを企画してくれたことで、感謝の気持ちで深くもわらうことができた。  
 ・特にウイズ大会はかなり盛り上がった様子で学生と住民の距離が一気に縮まり、住民の方同士で新しい友人が作れたように見えた。災害後の新しいコミュニティ形成に大きく貢献できたように思う。  
 ・またまた地域の復興には時間がかかるとは思うが、私たちが活動することで心の復興を少しでもお手伝いできたのではないかなと感じました。  
 ・いらして下さった方々が楽しんでいるのか不安な中、交流をしていたが、帰りに「楽しかった」と言っていた下さりうれしかったです。  
 ・ボランティアに参加する方々は温かい方々が多く打ち解けることができました。活動自体も大成功で大満足です。みなさんのおかげで楽しい5日間でした。

<2024>春季能登半島地震ボランティア



# 珠洲コース(春季)

第2クール 2月27日~3月3日



豊澤礼菜 (文学部2年) 金井祐樹 (理工学部2年) 千田初音 (法学部1年) 阿部涼生 (理工学部2年)  
倉持美優 (健康スポーツ科学部1年) 引率 市橋敏之 (井上円了哲学センター事務室・室長)

感想  
・コミュニケーションを通して、被災地だからといつまでも下を向いているのではなく、前向きでポジティブな発言や考えをすることができ、自分たちも明るく接することが大切だと気づいた。  
・私は普段便利な生活をしているので、水電気がガスやトイレが使えない生活はできればくないと思うけど、そのお宅のおばあちゃんはどうなにか不便でも家にとったという話が印象に残った。  
・テレビなどでは過去の事として放映されているが、現地の人にとっては今も尚現実であり、今後も向き合っていくことであるため、決して私たちが風化してはいけないと感じた。  
・ボランティア活動の中でたくさんの人の出会いや交流があって、人の温かさを感じた5日間だった。次もボランティアの募集があった際にはぜひ参加したいと考える。この活動で自分が得たことをたくさんの人に発信していきたい。  
・部隊したブロックの数が多く今日中に終わらないと聞いていたが、仲間と話し合い工夫をしながら作業を行なったおかげで、かなりスムーズに作業を進めることができた。仲間との会話も増えたのでとても嬉しかった。

<2024>春季能登半島地震ボランティア



# 珠洲コース(春季)

第3クール 3月6日~10日



大崎美空 (文学部3年) 塚越光帆 (理工学部2年) 鈴木和里 (福祉社会デザイン学部1年)  
伊藤高優 (社会学部1年) 小室誠人 (理工学部1年) 引率 蛭田英徳 (情報システム部・次長)

感想  
・今回の活動を通して、単に作業をするだけでなく、現地の方の気持ちに寄り添うことの大切さや学び、今後も被災地支援に関わる際は、別件だけでなく、安全面や被災者の気持ちも意識しながら取り組むたい。  
・夏に活動を行ったときよりも作業内容はそこまで多くなく、体力的には楽だったが、想像以上に寒く、着手をしても手ががりで、動けなくなってしまった。作業内容だけでなく、その日の気候にも気を配るようにした方が良かった。  
・この数日間車窓から見えた傾き倒壊した家や、仮置き場で見た積み上がった家財にも、きっと誰かの思い出やストーリーがあると考え、とても言葉に出来ない感情になった。  
・珠洲市内の避難所がすべて閉鎖されたことは復興に向けた大きな一歩ではないかと考える。避難所が閉鎖されたということからは、珠洲市のすべての住民が仮設住宅なり元の家を再建するなり自分の住処を得られたことも意味すると思う。ここから少しずつ元通りになるといいと思う。  
・震災ははやくに過ぎたことではないけれど、震災をきっかけに仮設住宅に入居したことで、人間関係が広がったとのプラスの意見もあった。その一方で、近くに住んでいる人の中には、ノイローゼのようになってしまっている人もいて、極端に閉鎖感があるのを感じた。

<2024>春季能登半島地震ボランティア



# 輪島コース(春季)

第1クール 2月13日~17日



丸山奈々 (福祉社会デザイン学部1年) 千村ララス (国際学部1年) 柳鶴奏晴 (総合情報学部1年)  
郡可悠生 (生命科学部1年) 引率 笠原昌江 (LCSカレッジ部・次長) 浅見直弘 (初等中等教育課・課長補佐)

感想  
・支援物資の配布に500人以上の方が訪れ、皆さんが嬉しい様子を見て、私も嬉しい気持ちになりました。  
・文通プロジェクトはとても良い活動だと思う。現地と他の地域が繋がっている感覚は孤立防止になると思うから。他にも何らかの形で繋がりを感じられる支援をしたい。  
・家主のお母様から能登地震に関するお話を伺いました。能登には大企業がないから街を支える企業がない、市役所職員が50人も退職してしまった、働く世代の中間層がほとんどいなくなってしまった、水害が1番大変だったことなどを知り、とても勉強になりました。  
・食料配布をした際、現地の人たちから「ありがとう」と言われることが嬉しいと同時に、力になっていきたこと実感できました。

<2024>春季能登半島地震ボランティア



# 輪島コース(春季)

第2クール 2月22日~26日



永瀬広大 (社会学部4年) 比嘉聡 (社会学部4年) 高橋杏樹 (社会学部3年)  
川井田紗凜 (社会学部3年) 引率 高山直樹 (福祉社会デザイン学部教授・社会貢献センター長)

感想  
・ヒースポットが主催しているユニクロの「ヒートテック」を物資配布するボランティアに参加した際、地域の人達が集まった時に「久しぶり」などと声を掛け合っている姿などを見て、1つの居場所になっているのを感じました。まだまだ復興に向けては厳しい部分もありますが、こうした取り組みを通して得られる地域のコミュニティなども大切にして行くことで何かに繋がることがあるかと思いました。  
・野口健さんに「僕がいる時にいつもいらしゃいませ。お疲れ様です！」と声をかけていただき嬉しかったです。  
・震災や災害からしばらく経った今でも、被災者が数多くいらして、支援物資を頼りに生活しているということがわかった。  
・今日は、この前よりもたくさんの人が支援物資を受け取りに来た。色んな人とお話ししながら活動が出来た。みんなとても親切な人が多かった。

能登半島地震ボランティア  
活動報告



# 2024年度 ボランティア支援室 各企画資料

予告

## 2024年度 東洋大学SDGsアンバサダー 新規登録募集



SDGsアクション仲間大募集!

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするときに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。2024年度では、「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ&インクルージョン」の3テーマを中心に活動していくほか、各キャンパスならではの活動（大学祭等）も行う予定です。

### 2024年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込

【申込期限】4月下旬

【申込方法】Googleフォーム (<https://forms.gle/GNSRqmUM2eb9c5776>)

お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室

☎03-3945-7927

✉mlvolsup@toyo.jp



登録申込フォーム

### 2024年度東洋大学SDGsアンバサダー ボランティア団体合同新歓

【日時】4月3日(水)～5日(金) 10時～17時

【場所】白山キャンパス・雨水会館3階301室

現役のアンバサダー学生による個別相談を受け付けています！ぜひお越しください！

別途新規アンバサダー募集説明会も行予定です！要確認！

## 2024年度 東洋大学SDGsアンバサダー 新規登録募集



SDGsアクション仲間大募集!

東洋大学では、SDGs活動の一層の活性化、充実および発展を図るために、学生個人または学生団体に対して「東洋大学SDGsアンバサダー」の称号を与える制度を2021年度よりスタートしました。

SDGsアンバサダーは、主体的にSDGsを学び、SDGs17個の目標に関連した問題提起や企画立案をするときに、学内外を巻き込んで、学生ならではのSDGsアクションを起こしています。2024年度では、「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「ダイバーシティ&インクルージョン」の3テーマを中心に活動していくほか、各キャンパスならではの活動（大学祭等）も行う予定です。

### 2024年度東洋大学SDGsアンバサダー新規登録申込

【申込期限】4月24日

【申込方法】Googleフォーム (<https://forms.gle/GNSRqmUM2eb9c5776>)

お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室

☎03-3945-7927

✉mlvolsup@toyo.jp



登録申込フォーム

### 2024年度東洋大学SDGsアンバサダー 募集説明会

【日時】4月16日(火)、18日(木) 12時20分～12時50分

【場所】白山キャンパス: 雨水会館1階学習室(対面)  
赤羽台キャンパス: 5階ボランティア支援室(対面)  
なお、白山と赤羽台はWEBでつながります。

現役のアンバサダー学生による個別相談を受け付けています！ぜひお越しください！

東洋大学 SDGsアンバサダー  
ボランティア支援室

東洋大学SDGsアンバサダー  
#ダイバーシティ  
#カーボンニュートラル  
#防災・まちづくり  
#広範囲

## 守備範囲、地球。

【説明会】 ※予約不要

日時: 4月8～12日 場所: 川越キャンパス  
12:15～13:00 コミュニティセンター311号室

＜現役のアンバサダーが説明します！ぜひ昼食をご持参のうえお気軽に参加ください＞

お尋ねはお近くのアンバサダーまたはボランティア支援室まで。

## 知的障がいのある人たちの 社会参加を支援する

## スポーツボランティア 説明会を開催します

- 日時: 4月19日(金) 11時～12時  
13時～14時  
(同じ内容となり、各回の説明会後に個別相談に応じます。)
- 会場: WELLB-HUB 5階 ボランティア支援室  
予約不要です。気軽に参加してください。

ユニファイド・スクール、東洋大学 & スペシャルオリンピックス日本・東京  
問い合わせ: shimura@toyo.jp

# b-lab 見学ツアー

**無料**  **4/30  
開催**



**中高生の居場所**  
グループワーク  
館内見学

**b-labとは?**

2015年4月にオープンした教育センター(複合施設)の中にある区内初の中学生向け施設です。b-labは、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地です。リビングのようにくつろげたり、みんなでわいわい勉強したり、新しい友だちと出会ったり、バンド活動やダンス、バスケがでたり、やりたいことに思いっきり打ち込んだり・・・そんな施設を見学しながら

**中高生の居場所について  
皆さんで考えてみませんか?**

**スケジュール**

- 館内見学
- 質疑応答
- b-labやユースワークに関すること
- ディスカッション
- フォトコム見学
- ※希望者のみ
- ※昼食後13時～見学開始
- ※現地集合、現地解散
- ※交通費は自己負担

**募集要項**

- 日時 4/30(火) 10:00～11:30
- 募集期間 4/6(土)～4/21(日)
- 定員 20名(応募者多数の場合抽選)
- 同行 エクステンション課職員
- 場所 文京区蒲島 文京区青少年プラザ b-lab (ビラボ)
- 応募方法 QRコードから申込

【お問い合わせ】 東洋大学ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp



## Toyo 1dayボランティアプログラム2024



**2024年5月3日(金)、4日(土)**  
代々木公園イベント広場(東京都渋谷区)  
活動時間  
前半: 7:45-15:00 後半: 12:45-20:00  
Fri 3-Sat 4, May 2024  
Yoyogi Park (Event Plaza), Tokyo  
Activity Time  
1st: 7:45-15:00 2nd: 12:45-20:00

**フェスティバル運営ボランティア活動**

あなたも日本とカンボジアの友好の架け橋に！  
カンボジアに行ったことがある人も、そうでない人も、学生も社会人も、いろいろな国の人も混じって、皆で盛り上げよう！  
**事前学習会: 2024年4月26日(金) 12:20～12:50**  
白山キャンパス雨水会館301教室、またはオンライン

**【お問い合わせ】 東洋大学ボランティア支援室**  
TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp



**まだ間に合う！  
ボランティアで実る  
あなたのキャンパスライフ  
ありかも！**



**まだ間に合う！  
ボランティアサークルで  
週に3キャンパスライフ  
ありかも！**

### とびこめ！ボランティアの森！ ボランティア団体 合同新歓2024 in 白山

**【日時】**  
2024年5月7日(火) 16:00-20:00  
2024年5月8,9日(水、木) 12:00-17:00

**【会場】**  
東洋大学白山キャンパス 雨水会館3階301,302教室

**【参加の方法】**  
直接、会場にお越しください。

**【参加予定団体】**

- 学ボラ ・IVUSA
- バリアフリーサークル歩み
- NPO法人チャリティーサンタ文京支部
- NPO法人湘南自然学校 ・学生団体おりがみ
- 地域づくりウィンタースの会 ・NPO法人Woodsふくろうの部屋
- 文京区 地域連携ステーション フォコム (相談コーナー)
- ボランティア支援室学生サポートスタッフ (相談コーナー)

※事前の予約なく、変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

**※雨水会館1階には、社会貢献センター/ボランティア支援室があります！  
たくさんのボランティア・NPO等の活動情報を揃えています！  
ボランティア活動に興味のある方は、ぜひこちらにもお立ち寄りください！**

**お問い合わせ先: 東洋大学ボランティア支援室 (担当: 日比野)**  
(TEL) 03-3945-7927 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp

### はばたけ！ボランティアの森 赤羽台キャンパス ボランティア合同新歓2024

**【日時】**  
2024年5月16日(木) 11:00-16:00

**【会場】**  
東洋大学赤羽台キャンパス WELLS HUB-2 5階 ボランティア支援室分室

**【参加の方法】**  
直接、会場にお越しください。

**【参加団体】**

- 学ボラって
- バリアフリーサークル歩み
- きりがく ・ボードゲーム地域交流団体ほどのわ
- NPO法人チャリティーサンタ
- ボランティア支援室学生サポートスタッフ
- ボランティア支援室 (ボランティア相談コーナー)

※事前の予約なく、変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

**※会場となるWELLS HUB-2 5階のボランティア支援室分室には、たくさんのボランティア・NPO等の活動情報を揃えています！  
ボランティア活動に興味のある方は、ぜひ気軽にお立ち寄りください！**

**お問い合わせ先: 東洋大学ボランティア支援室 (担当: 日比野)**  
(TEL) 03-5924-2184:赤羽台(火・木のみ)、03-3945-7927:白山 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp

## 東洋大生がワークショップで考えるSDGs

### 「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」

5月11日(土) 10:00~12:00  
オンライン開催

SDGs初心者から  
上級者までお楽しみいただけます!

- 申込方法: Googleフォーム (<https://forms.gle/ACC8WoX7wx7QXuVF7>)
- 申込期限: 5月6日(月)まで
- 募集人数: 20名ほど(お申し込み多数の場合は抽選)
- お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室  
TEL: 03-3945-7927 MAIL: [mlvolsup@toyo.jp](mailto:mlvolsup@toyo.jp)



#### ●ファシリテーター:

認定NPO法人開発教育協会(DEAR) 松川 清美 氏  
親になり子どもが巣立っていく社会とそれを形作る政治に関心を持ち、こどもみらいlaboという市民グループを設立。その活動をDEARで取材していただいたことをきっかけに2023年にDEAR職員となる。会報誌や教材などの編集、広報、イベント運営などを担当。



SDGs(持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットで構成されている2030年までの国際目標です。SDGsは私たちの生活とどのようにかかわっているのか、そして私たちは日常生活の中でどのような行動をしたら、SDGsの達成につながるのかを一緒に学んで、考えて、話し合ってみましょう!

## アンケートにご協力ください!



東洋大学SDGsアンバサダー  
ウォーターサーバープロジェクトチーム  
“SPRING”です!

今年度、冷水器交換のため、白山キャンパスに新たにウォーターサーバーが設置されます! 学生生活が充実したものになるために、みなさんの声をお聞かせください!

こちらのQRコードを読み込んでください

日本語版はこちら 中国版在这里 English version



受付期間: 2024年4月15日(月)~5月6日(月)

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室  
Email: [mlvolsup@toyo.jp](mailto:mlvolsup@toyo.jp)



## SDGsアンバサダー交流会

日程 5/11 13:00~15:00

場所 東洋大学白山キャンパス 4号館体育館アリーナ

種目 バスケットボール、バドミントン、ドッジボール  
【人数によって種目の変更があります】

申し込み 5/9までに  
右上のQRからお申し込みください!  
[@TOYO.JPから申し込み可能です]

## ウォーターサーバーぐるぐるスタンプラリー

~ウォーターサーバー設置記念イベント~  
2024.5/20(月)▶6/1(土)

スマホで簡単!スタンプを集めて景品をゲット!!

STEP 1 スマホで下記の参加QRコードを読み取る  
Scan the participation QR code below with your phone.

STEP 2 4か所あるウォーターサーバーを巡る  
Find 4 water dispensers in the campus.

STEP 3 掲示されているキーワードを入力してスタンプを集める  
Collect stamps by entering posted keywords.

STEP 4 4つスタンプを集めたら景品をゲット☆  
After you collect 4 stamps, you should go to Hosui bld. 1st floor.

景品  
【引き換え期間】2023年5月20日(月)~6月1日(土) (土日祝を除く)  
12:30~13:30 / 16:30~17:30  
※6月1日(土)のみ12:30~13:30受け取り可

【引き換え場所】東洋大学白山キャンパス 雨水会館1F ボランティア支援室  
【景品内容】シチュー、ハリボーグミ、東洋大学グッズ等

【お問い合わせ】東洋大学ボランティア支援室  
Email: [mlvolsup@toyo.jp](mailto:mlvolsup@toyo.jp)

ボランティア支援室  
名企画資料



# 富士樹海 清掃ボランティア

日本一の高さを誇る富士山。2013年に世界文化遺産に登録されました。しかし、富士山周辺への不法投棄は後を絶たず、ゴミは増え続け、人の手によって美しさを失いつつあります。2024年5月、あなたも富士山を守る活動へと参加してみませんか？

開催日時: **5/26(日)13:00~** (集合:8時45分 白山キャンパス) 出発地を選択  
(集合:8時45分 赤羽台キャンパス) できます!

申込期間: **4/22(月)~30(火)まで** ※申込状況によって、出発地を隔らす場合があります。

参加対象: **学部生** 募集定員: **50名**  
参加費: **無料** ※申込定員を超えた場合は抽選となります

事前説明会: **5/17(金) 18:00~**

申込フォーム: <https://forms.gle/19LEjGp3eLT0w4YHA>



申込はこちら

<スケジュール> 予定

- 9:00 白山キャンパス出発
- 9:00 赤羽台キャンパス出発
- 10:30 昼食(飯倉飯りービスエリア)
- 12:00 天然記念物「鳴沢氷穴」の観光
- 13:00~15:30 富士樹海到着 / 清掃活動
- 19:00 白山キャンパス・赤羽台キャンパス到着  
(交通状況により前後する可能性があります。)



鳴沢氷穴

- ◆企画◆ SDGs アンバサダー
- ◆協力◆ 東洋大学学生課外活動育成会 環境 NPO 富士山クラブ

# あじさいまつり ボランティアスタッフ募集!

白山キャンパス隣にある「白山神社」にて、下記の日程で「あじさいまつり」が開かれます。  
今年度は第40回の記念の年を迎えて多くの来場者を予想しており、実行委員会よりボランティアの募集がありました。近隣にお住いの実行委員及び来場者皆様とお話ができるイベントです。  
多くの皆さんの申込をお待ちしております。

会場: 白山神社 (白山キャンパス 4号館裏)  
日時: 2024年6月

- 8日(土)10:00~16:30 (ボランティア活動時間 8:00~17:00)
- 9日(日)10:00~16:00 (ボランティア活動時間 9:00~17:00)
- 15日(土)10:00~16:30 (ボランティア活動時間 8:00~17:00)
- 16日(日)10:00~15:30 (ボランティア活動時間 9:00~17:00)

ボランティアができる日を申込フォームで選んでください。

募集人数: 各日 10~15名程度 ★応募者多数の場合は抽選です

募集対象: ボランティアに興味・関心のある学生

事前説明会: 6月5日(水) 昼休み 12:20~12:50

白山キャンパス雨水会館3階又は Web (ハイフレックス)

※参加必須 (都合が悪い方はオンデマンドで受講してもらいます)

申込締切: 5月30日(木)まで

申込方法: 下記 URL (google form) または QR コードより申込みください。

<https://forms.gle/BoyzCB1XJohWruK7>



ボランティア募集

# あじさい まつり

日時

**6.8(土) 9(日) 15(土) 16(日)**  
いずれか1日でも可能です

場所

白山神社  
文京区白山キャンパス4号館裏

詳細

詳しくはこちら

お問い合わせ ボランティア支援室 mlvolup@toyo.jp

# TOYO PARASPORTS DAY

ブラインドスポーツ編

**6.9** 2024  
SUN  
13:00-15:00  
東洋大学赤羽台キャンパス

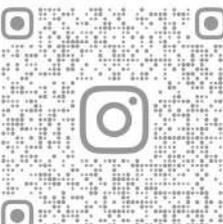
最新情報  
お申込みは  
こちら!

主催: TOYO PARASPORTS DAY 実行委員会  
お問合せ: s15102101001@toyo.jp (竹田)

SDGs ambassador

SDGsアンバサダー  
Instagram  
開設しました!!!

SDGs啓発  
発信



活動報告

@TOYO\_SDGS\_AMBASSADOR

[SDGsアンバサダーとは]

Follow us!

SDGsアンバサダーは、東洋大学の学内外において、様々なSDGsアクションの企画運営を通じてSDGsの普及や推進を行う組織になります。

なおアンバサダーは学内における関連部署にて承認を受け、学長より称号の付与という形で認定を受けた組織です。そのため、サークルや学生団体とは異なり、「学内組織」という形で活動しております。

学生目線でSDGsへの「きっかけ」を作り出し、広げていく組織です。学内外で行われる様々な企画に参加したり、企画を作り出したりしています。

東洋大学社会貢献センター



配食料  
品を  
します

食品ロスをなくそう!

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

**GET**

6/11(火) 12(水)  
12:00~13:30

→ 白山キャンパス 配布場所変更!  
6/11 1号館1階エレベーターホール  
6/12 5号館地下2階上上り了ホール前

イブニング生はこちら  
17:00~18:00  
→ 雨水会館1階ボランティア支援室

※なくなり次第終了します

お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mlvolsup@toyo.jp

※エコバッグ等を持参してください(2Lペットボトルもありません)

配食料  
品を  
します

食品ロスをなくそう!

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

**GET**

6/18(火) 20(木)  
12:00~13:30

→ 赤羽台キャンパス  
WELLB-HELSP0間渡り廊下(3階)

食品ロスを減らそうというSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します!ぜひご協力をお願いします!

※なくなり次第終了します

お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mlvolsup@toyo.jp

※エコバッグ等を持参してください(2Lペットボトルもありません)

配食料  
品を  
します

食品ロスをなくそう!

文京区・京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

**GET**

7/3  
12:10~13:30

→ 川越キャンパス  
1号館1階 1101教室

食品ロスを減らそうというSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します!ぜひご協力をお願いします!

※なくなり次第終了します

お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mlvolsup@toyo.jp

※エコバッグ等を持参してください(2Lペットボトルもありません)

ボランティア支援室  
各企画資料

# 配食料 品を します

食品ロスをなくそう！

文京区および京北中学・高等学校からの寄附食料品配布会を実施します

## GET

7/17 水  
12:10~13:30

朝霞キャンパス  
2号館2階エントランス

食品ロスを減らそうというSDGsの観点から、廃棄期限の迫る防災備蓄品を希望者に配布します！ぜひご協力をお願いします！

配布物：保存水（500ml）、ハリポー他

※なくなり次第終了します

※ **エコバッグ等** を持参してください

お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mlvolstup@toyo.jp

## ボランティア入門講座 IN 赤羽台

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナーです。  
ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で参加していただいても構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

### 講師紹介



**日比野 勲**  
(Hibino Isao)

東洋大学ボランティア支援室  
ボランティアコーディネーター  
多摩大学学生社会ボランティアコーナー  
ボランティアコーディネーター  
東京工科大学メディア学部 非常勤講師



**井上 旭**  
(Inoue Asahi)

東洋大学 情報連携学部情報連携学科4年  
東洋大学ボランティア支援室サポータースタッフ  
東洋大学SDGsアンバサダー



**岩井 成美**  
(Iwai Narumi)

東洋大学 福祉社会デザイン学部社会福祉学科2年  
ボートゲーム体験交流サークル部員のおむすび

日時：2024年7月4日（木）13:00-14:30

※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。

会場：東洋大学ボランティア支援室赤羽台分室（WELLB HUB-2.5F）、オンライン

参加申込：下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。

お問い合わせ先：東洋大学ボランティア支援室（東洋大学エクステンション課）  
(TEL) 03-5924-2184：赤羽台（火・金） 03-3945-7927：白山  
(e-mail) mlvolstup@toyo.jp



# 防災クイズ&ゲームDay

みんなで楽しく学べる  
防災ゲームがいっぱい！

参加費 無料

2024 07.07日 10:00~15:30

場所：東京臨海広域防災公園 そなエリア東京

子どもから大人まで、誰でも自由に※参加できます！

※体験会はスケジュールや定員があります。詳しくは裏面またはホームページをご覧ください。

PickUp  
「災害の記録や  
記憶から学ぼう」

全国の災害の記録や記憶、教訓を伝える施設「災害伝承ミュージアム」と連携した防災ゲームや資料を特設コーナーで紹介します。紙本を使ったワークショップも開催します！

くわしくはこちら  
www.bousai-edu.jp  
または「防災ゲームDay」で検索！

主催：一般社団法人防災教育普及協会 共催：東京臨海広域防災公園管理センター  
協力：日本災害伝承ミュージアムネットワーク、名古屋市港防災センター、公益社団法人中越防災安全推進機構

## パラスポーツ体験会 in 東洋大学!

# PARASPORTS DAY

### 静寂の格闘技 ゴールボール

### 声や音、仲間を信じる ブラインドサッカー

2024年 7月7日 日

世界を舞台に活躍する選手4名が参ります！

会場 東洋大学 赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3.1階 多目的室1 JR赤羽駅 西出口から徒歩8分

時間 13:00-15:00 受付開始 12:30

お申込み・イベントの内容はこちらのQRコードから！

こんな方におすすめ！  
・現役パラアスリートのプレーを間近で体感してみたい人  
・新しいスポーツに取り組んでみたい人、パラスポーツに興味がある人  
・視覚障害について理解を深めたい人  
・運動があまり好きではない方も、ぜひ気軽にご参加ください！

主催：東洋大学SDGsアンバサダー お問い合わせ：s15102101001@toyo.jp (竹田)





## 火災臨場VR体験

内容:VRで火災体験ができます!  
 日時:7/8(月) 10~14時  
 時間:1人当たり30分想定です  
 場所:白山キャンパス1号館  
 ↓応募URL↓




問い合わせ 東洋大学エクステンション課  
 mlvolsup@toyo.jp



## みなさんの中にモヤモヤはありますか?

～月経理解は異文化理解～  
 日時:7/10(水) 12:20-14:30 (途中入退場あり◎)  
 場所:南水会館302  
 ※オンラインでも開催します(人数制限なし)

- Toyo-MeWプロジェクトって? -  
 「Toyo-MeWプロジェクト」は、月経をめぐるウェルビーイングを考えるプロジェクトです。2024年4月、私たちの想いが大学に届き、東洋大学全キャンパスで生理用品の無償配布が実現しました。

- Time schedule -  
 12:10 受付開始  
 12:20 MeW紹介  
 12:45-14:30 ワークショップ

お申し込みは  
 コチラから  
 (対面の場合)  
 定員人数に達し次第受付終了させていただきます。



Toyo- MeWプロジェクト/SDGsアンバサダーD&Iチーム

## LGBTQ + 基礎知識

### 当事者体験談

### 多様性を認め合う社会とは?

ソーシャルワークの基礎と専門職A/社会福祉の基礎/ソーシャルワークの基礎と専門職Iの授業の中で行います (担当:福祉社会デザイン学部 高山直樹教授)

# トランスジェンダー

## から見える世界と共生

# 7/16

火

4限 14:45-16:15

会場 東洋大学赤羽台キャンパス (WELLB・HELSP0) 20502教室

受講方法 <授業履修者以外の東洋大生> Web受講

申し込み締切 7/9(火)

詳細 こちらをご確認ください



詳細は こちらから

講師 勝又 栄政 氏

私は、出生時の性別は女性、性自認は男性のトランスジェンダー男性の当事者です。幼少期には、「普通」の男性・女性に当てはまらないことで生きづらさを感じていましたが、多様な性の存在を知り、少しずつ「自分にとって必要な生き方」を選択できるようになりました。今回の講演が、「性の当たり前」について考えると同時に、一人ひとりの「自分らしさ」を見つけるきっかけとなったら嬉しいです。

オンライン受講可能!

お問い合わせ 東洋大学ボランティア支援室 ☎03-3945-7636 (平日9:30-13:00, 14:00-17:00) mlvolsup@toyo.jp

## LGBTQ + 基礎知識

### 当事者体験談

### 多様性を認め合う社会とは?

ダイバーシティ概論(社会文化システム概論B)の授業の中で行います(担当:社会学部 高橋典史教授)

# トランスジェンダー

## から見える世界と共生

# 7/19

金

3限 13:00-14:30

会場 東洋大学白山キャンパス 6101教室

受講方法 <授業履修者以外の東洋大生> 対面orWeb

申し込み締切 7/12(金)

詳細 こちらをご確認ください



詳細は こちらから

講師 勝又 栄政 氏

私は、出生時の性別は女性、性自認は男性のトランスジェンダー男性の当事者です。幼少期には、「普通」の男性・女性に当てはまらないことで生きづらさを感じていましたが、多様な性の存在を知り、少しずつ「自分にとって必要な生き方」を選択できるようになりました。今回の講演が、「性の当たり前」について考えると同時に、一人ひとりの「自分らしさ」を見つけるきっかけとなったら嬉しいです。

オンライン受講可能!

お問い合わせ 東洋大学ボランティア支援室 ☎03-3945-7636 (平日9:30-13:00, 14:00-17:00) mlvolsup@toyo.jp

ボランティア支援室  
 各企画資料



SDGsカフェにじいる編 開催決定  
ゲスト 勝又栄政さん

公開講演会

トランスジェンダーから見える世界と共生と同日開催!!

赤羽台

7/16(火)  
昼休み12:10~13:00  
締切7/9

白山

7/19(金)  
11:30~12:40  
締切7/12

▼詳細はこちら



主催 東洋大学ボランティア支援室  
企画運営 SDGsアンバサダー



日本一の高さを誇る富士山。2013年に世界文化遺産に登録されました。しかし、富士山周辺への不法投棄は後を絶たず、ゴミは増え続け、人の手によって美しさを失いつつあります。2024年9月、あなたも富士山を守る活動へと参加してみませんか??

開催日時: 9/2(月)12:00~

申込期間: 7/19(金)~7/26(金) ※申込状況によって、出発地を減らす場合があります。

参加対象: 学部生 募集定員: 50名

参加費: 無料  
(申込者数が増える場合は抽選による参加となります。)

事前説明会: 8/1(木) 18:00~(オンライン開催)

申込フォームURL <https://forms.gle/gA2k4Cz9fNn0E312>

<スケジュール> 予定

8:30 朝霞キャンパス出発 (集合:8時15分 朝霞キャンパス発)  
9:00 川越駅出発 (集合:8時45分 川越駅発)  
10:30 昼食(集合桜サービスエリア)  
12:00 ~14:30 富士樹海到着 / 清掃活動  
17:30 川越駅到着  
18:00 朝霞キャンパス到着  
(交通状況により前後する可能性があります。)  
◆企画◆ SDGsアンバサダー  
◆協力◆ 東洋大学学生課外活動育成会  
協賛 NPO 富士山クラブ

(集合:8時15分 朝霞キャンパス発)  
(集合:8時45分 川越駅発)

← 出発地を選択  
できます!



申込フォーム

# Smile F LAOS

おいしいを支援に!

<b>menu</b>	<b>day</b>
ラオスコーヒー 豆/粉	7/23(火) 10:00-18:00
深煎り・中煎り	<b>place</b>
100g / 800yen 200g / 1400yen	東洋大学白山キャンパス 6号館1階 学生部前 1号館1階エレベーター前

ラオス産フェアトレードコーヒーを販売!  
収益はラオスの子供たちへの教育支援にあてています!

SMILE\_F\_LAOS

# 赤羽台 団地まつり

ボランティアスタッフ募集

7/27(土)

7/28(日)

夏の思い出づくり  
子どもが好き  
屋台を手伝いたい  
地域を盛り上げたい

文化庁映画賞・文化記録映画大賞 受賞  
DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

取材許可まで6年、撮影2年  
初めて日本の刑務所にカメラを入れた  
圧巻のドキュメンタリー

# PRISON プリズン・サークル CIRCLE

www.prison-circle.com

監督・制作・編集：坂上香 撮影：南中勇 坂上香 | 録音：森岡司 アニメーション監修：若狭みりさ | 音楽：松本祐一 鈴木治行  
製作：out of frame | 配給：東風 | 2019年/日本/136分/DCP/ドキュメンタリー ©2019 Kaori Sakagami

(C) 2019 Kaori Sakagami

ほくたちがここにいる  
本当の理由

東洋大学川原ゼミ  
映画上映会

参加費無料 完全事前予約制

## 7.30(火)

13:00~16:00  
(12:00開場)

13時以降のご入場は出来ません。  
予めご了承ください。

東洋大学赤羽台キャンパス  
HELSP0ホール

申し込みはこちら Instagram

一般向けQR  @KAWAHARA\_ZEMI\_TOYO 

※ 駐輪場・駐車場が無いので、公共交通機関をご利用下さい。  
また、事情により公共交通機関の利用が難しい場合は、メール又はInstagramにて  
ご相談下さい。 [メール:kawaharaj\_2024@gmail.com]

【学生向けチラシ】

# 東洋大学川原ゼミ 映画上映会

DIRECTED BY KAORI SAKAGAMI

## PRISON プリズン・サークル CIRCLE

www.prison-circle.com C2019Kaori Sakagami

主催 社会学部社会福祉学科 川原ゼミ  
会場 東洋大学赤羽台キャンパス in: HELSP0ホール  
日時 7月30日(火) 無料  
上映START13:00~上映終了16:00  
※(開場12:00)

取材許可まで6年、撮影2年  
初めて日本の刑務所にカメラを入れた  
圧巻のドキュメンタリー

ほくたちがここにいる  
本当の理由

△東洋生専用QR  

一般の方は別のQRから申し込み可 @KAWAHARA\_ZEMI\_TOYO

TOYO UNIVERSITY  
SDGS AMBASSADOR

# 交流会

1人での参加でも  
大歓迎!

日程:8/3(土) 12:00~15:00  
場所:白山キャンパス4号館メインアリーナ  
内容:パドミントン、バレーボール  
(夜にご飯会行う予定です!)

持ち物:上靴、動きやすい服装  
申込締切:8/2(金)

右のQRからお申し込みください!  
(@TOYO.JPから申し込み可能です)

問い合わせ 東洋大学エクステンション課 mlvolsup@toyo.jp



工作 クイズ ゲーム 展示 記念品プレゼント!

# クールアースフェア

~目指せ!ゼロカーボンシティ~ 2024

開催日程 8月10日(土) 10:00~15:00 入場無料  
開催場所 文京シビックセンター 地下2階・1階  
お問合せ 文京区資源環境部環境政策課 03(5803)1276

イベントの詳細はこちら 

印刷番号: 2024007

群馬県  
甘楽町

# 地域おこし協力隊 インターン参加者募集

濃厚な2週間  
10日間で **100,000**円支給

新たな土地を舞台として、勤めて

**地域おこし協力隊って？**



一定期間地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取組です。今回、甘楽町より特別に「東洋大生」枠が用意されました。

町長名による委嘱状が交付され、履歴書に記載可能な履歴となります。

**ガクチカ**

ここで得た経験を「ガクチカ」としてアピール！

**どんな人が向いている？**



- ・甘楽町に興味がある
- ・商品開発に携わりたい
- ・知らない土地で暮らしてみたい
- ・体を動かしたい
- ・地域の方と交流したい
- ・就活でアピールポイントにしたい

**インターン期間は？**



夏季休暇中 各クールごとに3名ずつ募集  
第1クール 8月12日(月祝)～8月26日(月)  
第2クール 8月31日(土)～9月13日(金)

宿泊所

詳細はこちら



お問い合わせ ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7605

# 夏休み！ 中学生のための宿題サポート ボランティア

8/ (月)	19	①9:00～	②13:00～	③9:00～
		12:00	16:00	16:00
(1時間休憩あり)				
8/ (火)	20	④9:00～	⑤13:00～	⑥9:00～
		12:00	16:00	16:00
(1時間休憩あり)				

**飯能市内の中学生を対象にした学習サポートボランティアです。子供支援に興味のある方、ぜひご参加ください。**

**募集対象** 中学校レベルの勉強を教えられる方

**募集人数** 各時間2名 1日4名募集  
複数回申込みいただいても構いませんが、申込者多数の場合は抽選となります。

**活動場所** 埼玉県飯能市 子育て総合センター

**申込方法** 右記のQRコードまたは、URLから申込。7/21(日)まで  
<https://forms.gle/WX4AGhbcJqNoqrak7>



**交通アクセス【飯能駅】**  
・西武池袋線「飯能駅」北口から徒歩20分  
・西武池袋線「飯能駅」北口から国際興業バス8分(徒歩の時間を含む)  
「埼玉医大」行、「埼玉医大国際医療センター」行、「こま武蔵台ユータウン循環」行のいずれかに乗車  
バス停「天覧山入口」で下車後、徒歩3分  
「西武飯能日高」行に乗車 バス停「OH!!!・天覧山下」で下車後、徒歩4分



お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室 (エクステンション課)  
TEL：03-3945-7658 MAIL：mlvolsup@toyo.jp



# ドミノ・ピザ CSRツアー

株式会社ドミノ・ピザ ジャパンが取り組む  
＜産直ドミノ基金®＞  
ニッポンの生産者の今と未来を応援  
<https://www.dominos.jp/sanchoku/charity>  
＜無料ピザで地域支援＞  
<https://www.dominos.jp/service/feedtheneed>  
について、担当者から話を伺うことをとおして、  
企業が取り組む社会貢献/CSRについて学ぶ

**活動日時：9月6日(金) 10時～12時 ※集合9時50分**  
**募集人数：30名**

活動場所：株式会社ドミノ・ピザ ジャパン ストアサポートオフィス  
〒141-0021 東京都品川区上大崎2-13-30 oak meguro 6  
<https://www.dominos.jp/corporate/outline>

集合場所などの詳細は後日メールにてご連絡します。

**8/25 締切り** お申し込みは [こちらから](#)



お問い合わせ 東洋大学ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp

あれから

# 13年 予告

被災地の  
まちづくりを考え、発信する  
スタディツアー (2泊3日)

**9/10～12**  
宿泊・交通費 **無料**

学生課外活動育成会企画・ボランティア支援室主催

東洋大学学生課外活動育成会企画

プログラム参加費 ※  
**無料**



※ただし交通費・嗜好品代は各自負担となります

**2024**  
**ワークキャンプ プログラム**

豊かな自然の中で 地域とかがわる **旅** に出ませんか？

田人コース / 福島県いわき市

主催 東洋大学ボランティア支援室

TOYO 1DAY ボランティアプログラム

根津神社祭礼  
ちようないみこしときよ  
根津神社は国の重要文化財！

町内神輿渡御  
ボランティア活動






根津神社氏子23町会が一同にお神輿を担いで練り歩くお祭り。その町会の一つに蓬萊町会があります。たった4年に一度しか行われないビックイベントで蓬萊町会の神輿に触れてみませんか？

**ボランティア内容**  
※日程によって内容は異なります。  
★9/14 (土) 12:00~17:00  
山車・子供神輿の交通整理等  
★9/15 (日) 9:00~18:00  
町内神輿・華神輿の担ぎ手  
※途中休憩あります。  
※15日は昼食支給があります。

**スケジュール**  
★不安を解消！  
事前説明会  
8/25 (日)  
13:00~14:30  
★応募締め切り  
9/1 (日)

本駒込 ~アクセス~  
集合場所 (東洋学生会館)  
兆徳

共催：東洋大学ボランティア支援室  
東洋大学「学ボラ」  
祭礼主催団体：文京区蓬萊町会  
祭礼実行委員会

1 申し込み  
1 学内情報サイト  
1 8年前の様子

海でくらすイルカ・ワジワジといった生きものたち...  
海がキレイだと、私たちも、生きものたちもハッピーになれる！

多摩大学ボランティア体験プログラム  
Toyo 1day ボランティアプログラム

**ビーチクリーンアップ**  
in Yuigahama Beach

~SDGs 14「海の豊かさを守ろう」~



実施日時：2024年9月29日 (日) 10:00~12:00  
場所：由比ガ浜海岸 (由比ガ浜海水浴場増設場100年隣付近)  
集合場所：9:30に江ノ島電鉄 (江ノ電) 由比ヶ浜駅改札口集合、または9:45に由比ガ浜海水浴場増設場100年隣付近集合  
※遅れる場合や場所がわからない場合は、080-2050-9742 (日比野) までご連絡ください。  
参加の方法：このチラシの右下にあるQRコードを読み取って、申し込みフォームに記入してください。

服装および持ち物：動きやすい服装、歩きやすい靴 (サンダル不可)、飲み物、帽子  
※海岸には日よけられる場所がないため、各自熱中対策に留意をお願いします。  
天候について：小雨決行 (雨具の用意をお願いします)、荒天中止  
※中止の場合、当日朝7時までに、申し込み時に入力いただいたメールにご連絡します。  
その他、当日までにメールで案内が届くことがありますので、メールをなるべくこまめに確認いただくよう、お願いします。

【お問い合わせ先】  
多摩大学学生会ボランティアコーナー (多摩大学産官学連携推進センター事務局)  
(e-mail) tcolla-jm@gr.tama.ac.jp (TEL) 042-337-7583  
東洋大学ボランティア支援室 (東洋大学エグゼクティブセンター 社会貢献センター内)  
(e-mail) mivolsip@toyo.jp (TEL) 03-3945-7297  
主催：多摩大学学生会ボランティアコーナー・東洋大学ボランティア支援室  
協力：I.C.E.R.C Japan (国際イカワジワジ教育リサーチセンター)  
企画運営：多摩大学学生有志、東洋大学SDGsアンバサダー

申し込みはこちらから！

「赤羽地域×東洋大生」企画

**盆踊り**

9/28 (土)  
14:30~16:30

赤羽北区民センター  
2階 第1ホールA

会場情報はこちらからご参照ください

**タイムスケジュール(予定)**

14:00 着付け  
14:30 盆踊り  
15:00 ピンゴ大会  
15:30 盆踊り  
16:30 お開き

**イベント情報**

着付け体験 (女性先着10名)  
盆踊り  
ピンゴ大会~豪華景品が！

盆踊りのあと、みんなと一緒に北区の花火大会に行こう！

※着付け体験は女性先着10名、男性は法被を準備しています。  
着物・浴衣・袴・法被を  
お持ちの方は、ぜひ着用またはご持参でご来場ください。

**参加申込**

右のQRコードよりご応募ください

【お願い】  
とんぼや音が響く様子はご遠慮ください

**主催・お問い合わせ**

赤羽北高齢者あんしんセンター  
TEL: 03-5948-5940  
東洋大学SDGsアンバサダー (赤羽台チーム)

ボランティア支援室  
各企画資料

ボランティア支援室



令和6年

## 能登豪雨に係る災害救援募金にご協力をお願いします

あなたの助けが必要です  
ご協力お願いいたします

寄付先・石川県「石川県令和6年能登豪雨災害義援金」  
・輪島市河井町「重蔵神社支援金」

※寄付結果については後日ホームページで公開いたします

Amazonの「ほしいものリスト」を活用した物資支援も行っています！  
【輪島市河井町 重蔵神社支援物資】



美味しいを支援に

## ラオスコffee販売会

10月9日 9:00~18:00

中煎り・深煎り豆/粉  
100g / 800円  
200g / 1400円

Smile F LAOS



白山キャンパス  
6号館1階

## 東洋大学 SDGs Weeks 2024 「里親月間」×特別企画



### 「私たち学生だからこそできること、 里親制度や子どもたちとの関わり」

「約4万2千人」という数字。この数字は日本において、それぞれの事情で親と離れて暮らす子どもたちの数値です。親の予期せぬ病気や虐待を受けて家庭に戻れないなど、実の親による子どもの養育が難しい場面が発生しています。そのため、実の親に代わって、温かい家庭環境の中で子どもを健やかに育てるために里親制度が存在します。10月は里親推進月間であり、厚生労働省や自治体でも里親制度の推進を図るイベントを行っています。私たち大学生も本講演を通して、里親のもとで暮らす子どもたちの状況について学び、私たち学生にだからこそできることを考えてみませんか？

日時: 10月17日(木)5限 16:30~18:00

講師: 吉成 麻子 様



養育里親。NPO法人乳幼児家庭養育の会、理事。  
2004年の里親登録以来、実子と里子あわせて20人あまりを養育(現在は小5から年長の里子4人を養育中)、  
すべての赤ちゃんが家庭で暮らせることを願っている。

講師: 斎藤 直巨 様



子育て研究者。里親。一般社団法人グロウハッピー代表理事。全国里親会広報委員。こども家庭庁 里親制度広報啓発検討委員。10人の養育を経験。現在は実子と里子の3姉妹を子育て中。子どもの声をもとに製作した子育てワークショップ「GH 12 Steps」を展開中。



担当教員: 小野 道子 准教授  
参加方法: 対面(赤羽台 20208教室)・オンライン・オンデマンド  
事前申込制: 以下のGoogleFormsから申込  
[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdCv1aWm4UwYzYCKM7Jdt81AsqrecV46RmoRp\\_QQqYNJ2mq/view/form?usp=sharing](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdCv1aWm4UwYzYCKM7Jdt81AsqrecV46RmoRp_QQqYNJ2mq/view/form?usp=sharing)  
申込締切: 10月15日

問い合わせ先  
東洋大学 ボランティア支援室  
03-3945-7927  
mivolsup@toyo.jp



## 里親子支援ボランティア

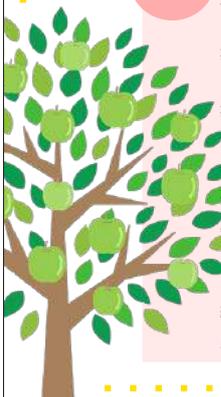
様々な事情があって里親家庭で暮らしている子どもたちがいます。里親家庭で暮らす子どもたちと一緒に、公園でレクリエーションや外遊びをしませんか？

# 里親子 デイキャンプ

この活動は子ども福祉を学んでいる学生たちを中心に10年余り続けられてきたものです。2018年度より育成会の支援を得て、一般学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する一般学生には、里親子がおかれている状況を理解するための事前学習を必ず受講していただきます。事前学習会に関しては、ポスター2枚目をご覧ください。

Check!

日時	2024年10月26日(土)9時30分~15時00分 小雨決行
場所	千葉県ふなばし三番瀬海浜公園 (千葉県船橋市潮見町40番)
集合場所	東洋大学 赤羽台キャンパス又は白山キャンパス (バスで現地まで行きます。)
集合時間	8時00分頃の予定
参加費	無料(昼食もご用意いたします。)
参加者	千葉県里親会・東京都里親会と関係者
運営	社会福祉学科小野ゼミの学生3・4年生
募集対象	東洋大学学生
申し込み	ポスター2枚目のQRコードより お申込みください。
締め切り	9月25日(水)
定員	約40名(定員を超過した場合、選考あり)



おにぎりでお困り問題を解決?! 写真を撮ってSNSにアップしよう!

# おにぎり アクション2024

10月28日(月) - 31日(木)

HELSP0 HUB-3 1階セブンイレブン入り口

給食5食分が世界の子ども達に届けられるよ!

企画: SDGsアンバサダー 東洋大学ボランティア支援室  
お問い合わせ  
mlvolsup@toyo.jp

東洋大学SDGsアンバサダー  
TOYO UNIV. SDGs Ambassador

## 本回収から 子どもたちの笑顔に

### 東洋大学赤羽台祭 11/2(土)・11/3(日)

場所: 東洋大学赤羽台キャンパス  
WELLB HUB-2 2階 20208教室  
開催時間: 午前11時~午後4時

夢の本箱に関する取り組みについてはこちら

読み終えた本を寄付してください

集めた本は「夢の本箱」へ寄付します

●読み終わった本を「夢の本箱」に入れてください ※区内20の所以上に設置

●株式会社ブックオフのHPサイト「キモ子ど。」から無料で回収の依頼を行うこともできます

ご購入いただいた本を調査します

●東洋大学のキャンパスがある文京区の取り組みです。ここでの区内は文京区内です。

●交換された資金は区内の社会福祉法人を通じて、地域で子ども食堂等の活動を行っている団体の運営に役立てられます

#### 企画目的

学校給食がなくなる長期休暇期間中に子どもの食や居場所づくりを支援している団体がいます。皆さんも読み終えた本をリサイクルし、その資金で「食」や「居場所」の提供を助け、子どもたちに笑顔を届けませんか?

#### 回収できないモノ※

- 週刊誌
- コミック誌
- 教科書や参考書
- 汚れている本
- 非売品

※バーコードのついている売却可能な本が回収対象です

#### 事前回収場所

期間: 令和6年10/24(木)~11/1(金)  
場所: 東洋大学  
白山キャンパス 雨水会館 1階 ボランティア支援室  
赤羽台キャンパス WELLB-hub2 1階 入り口

運営: 東洋大学SDGsアンバサダー  
お問い合わせ先: (ボランティア支援室) mlvolsup@toyo.jp

学生団体TUEP

## 赤羽台祭ランタンイベント サポートメンバー募集

### About TUEP

私たちTUEP(Toyo University Eco Project)はSDGsを軸に活動している白山キャンパスの学生団体です。

今回赤羽台祭にてソーラー充電式ランタンの貸出・販売や、社会福祉学科の小野道子先生にご協力いただき発展途上国に関する写真展示などを実施します。充実した企画にするためには皆様のお力が必要です!興味がある方はwebサイトから詳細をチェック!当日一緒に活動しましょう!

ソーラー式ランタン

ソーラー式ランタンの貸出・販売で使用するこのランタン(左の写真)は、購入することで灯りの足りない地域に購入した分と同じだけのランタンが寄贈されます。(ランタン販売元が行っているSDGsの取り組み)

募集要項

募集対象者: 東洋大生  
活動日: 2024年11月2日(土)  
(シフト交代制)  
募集期間: 7/22~8/15

TUEP webサイト  
オープンチャット

お問い合わせはこちら: toyo.tuep@gmail.com

昨年度活動実績

- 6月 SUBWAY×TUEP -ecoな夏至キャンペーン-
- 7月 七夕イベント企画 -リユース短冊-
- 11月 白山祭 -茶殻入りマスクケース配布-
- 12月 クリスマスフェスティバル -ランタン貸出-
- SUBWAY×TUEP -ecoな冬至キャンペーン-

# bonbonfesta akabanedai

ボランティアスタッフ募集

11/10  
11:00  
16:00

赤羽台 開催のイベント成功に向けて  
お手伝いしませんか?

ボランティア支援室

ボランティア支援室  
各企画資料

# おにぎりアクション 2024 in 東洋

おにぎりを持って  
6号館学食に集合！



2024.11.11(月)~14(木)  
白山キャンパス6号館学食階下 各日とも12:00~14:00

おにぎりですべての貧困問題を解決！  
#OnigiriActionで、おにぎりの写真をSNSに投稿すると給食5食分が世界の子どもたちに届けられます。  
白山キャンパスでは上記の日程でSNS投稿用のフォトスポットが設置されます。  
ぜひ皆さんで楽しみながら世界の貧困問題を考えるきっかけにしましょう！

企画：SDGsアンバサダー  
東洋大学ボランティア支援室  
お問い合わせ：ボランティア支援室  
(mlvolsup@toyo.jp)



## SDGsカフェ ～「ワークショップで学ぶSDGsの概念理解」編～

講師：日比野 勲さん  
東洋大学ボランティア支援室ボランティアコーディネーター  
多摩大学学生社会ボランティアコーディネーター  
東京工科大学メディア学部 非常勤講師

SDGsのための  
モノの見方・考え方を  
身に付けよう！

楽しく学ぼう  
テーマは「ESD」※  
お申し込み

アイスブレイクやふりかえりのパートも用意しています！  
初参加・他キャンパスの学生1人での参加も大歓迎です！！

さまざまな問題・課題解決のための、アクションの第一歩となるようなワークショップです！

対象：東洋大生(先着30人)  
※ESD(Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)

日時：2024/11/14(木) 18:15~20:00頃  
会場：東洋大学 赤羽台キャンパス  
WELLB HUB-2 5階 ボランティア支援室分室

東洋大学SDGsアンバサダーの学生と一緒に学ぼう！！  
東洋大学SDGsアンバサダーは、学生目線でのSDGsアクションをテーマに、今回のSDGsカフェのようなイベントを多数企画しています。  
Instagramでさまざまな情報を発信しているので、ぜひフォローをお願いします！

運営：東洋大学SDGsアンバサダー(赤羽台チーム)  
問い合わせ(ボランティア支援室)：mlvolsup@toyo.jp





## 東洋大学 SDGs Weeks 2024

教育と福祉 公開講座

### 学習支援教室が果たす地域子ども支援と子育て支援の役割

近年、家族形態の多様化や地域社会とのつながりの希薄化により、児童虐待や不登校、子育ての孤立といった問題が増加しています。  
NPO法人さいたまユースサポートネットの学習支援教室では、生活困窮者世帯の子どもを対象に無料で学習支援を行っていますが、教室に通ってくる子どもとその家庭は、単に学習の問題にとどまらず、当事者だけでは解決できない福祉的課題も多く抱えています。  
本講演では、こうした子どもや家庭が直面する問題や、さいたまユースサポートネットが提供する学習支援に留まらない総合的な支援内容、果たしている役割、課題等についてお話しいたします。  
子どもに関わる専門職に就く予定の学生、教職課程履修学生、子どもに関わるボランティア活動等に就いている学生、あるいは学習支援ボランティアに関心のある学生を対象といたします。

日時：11月19日(火)3限 13:00~14:30  
講師：山本 香苗 様  
(NPO法人さいたまユースサポートネット、学習支援事業統括)

担当教員：内田塔子(福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 准教授)  
参加方法：対面形式(HELSP0ホール)  
事前申込制：以下のGoogleFormsから申込  
<https://forms.gle/8s72Ef2N3NmAHlVPA>  
申込締切：11月16日

お問い合わせ先  
東洋大学 ボランティア支援室  
☎03-3945-7927  
✉mlvolsup@toyo.jp




# 11月21日(木) 12:15~13:00まで

## 緊急連絡訓練

を実施します。

目的：災害時の安全確認  
対象：全学生・教職員(非常勤講師を含む)

アプリからの緊急連絡に従い  
必ず回答をお願いします

緊急時に備え、アプリをダウンロードしてください





協賛企画 東洋大学SDGsアンバサダー

# 地震時

日頃から考えよう

## どうする？

### 自分の安全を守って

1番重要！

## 学内放送を待つ！！

具体的には

**STEP 1**

- ◆あわてて外に飛び出さない。
- ◆机の下などで身を守る。
- ◆窓、書棚などに近寄らない。
- ◆室内のガラスの破片、飛散に注意する。
- ◆ドアを開けて出口を確保する。

**STEP 2**

教職員及び非常放送の指示により行動する。



東洋大学

大災害時  
対応マニュアル



## 無料

もしもの備えに 2024

# 災害救援 ボランティア講座

11/23± 24日 2日連続開催  
両日参加必須となります

セーフティリーダー(SL)認定証が  
災害救援ボランティア推進委員会より交付されます

災害発生時に

### 学生ボランティア リーダーとして

大学や地域との救援活動に協力しよう！

首都直下型地震は、今後30年以内に70%以上の確率で発生するといわれています。また、近年は豪雨や台風などの風水被害もたびたび発生しており、災害への備えが急務となっています。そこで、東洋大学の学生が災害発生時に「学生ボランティアリーダー」として活躍できるよう、災害救援ボランティア講座を開講します。本講座では、2日間にわたり、災害時に救援ボランティアとして地域に貢献したい方を対象に、様々な実践的取り組みを通して地域防災について学びます。

災害時に何が起る？  
自分にはなにができる？  
行政が間に合わない...どうする？  
大切な人と生き残りたい！  
是非お申し込みください！

参加費	
一般	15,000円
学生	10,000円
のところで、すべての講座を受講した本学学生に限り0円にて受講いただけます (東洋大学助成による)	
場所	
東洋大学白山キャンパスおよび池袋防災館(11/24)	
定員	
20名	
※一般の参加者とともにいきます	
日時	
11/23	9:00~17:00
11/24	9:20~17:00 予定
申し込み	
以下URLよりお申込みください <a href="https://forms.gle/QJCT7aKYPTFhYcG9">https://forms.gle/QJCT7aKYPTFhYcG9</a> ※お申し込み多数の場合は選考を行います 締切 11/13(水)	

主催：東洋大学エクステンション課(社会貢献センター・ボランティア支援室)  
お問い合わせ：[mlvolsup@toyo.jp](mailto:mlvolsup@toyo.jp) 03-3945-7927



## 東洋大学 SDGs Weeks 2024

CSR論 公開講義  
企業と人権

企業活動の発展は社会全体の発展が前提である、という考えから、社会全体への責任として、CSR(企業の社会的責任)の適切な実施が求められています。

森林伐採や化学物質流出などによる汚染、児童労働や劣悪な労働環境、ダイバーシティ(多様性)推進の阻害となる無意識の偏見による人権侵害の発生、外国人技能実習生制度の構造的な人権侵害、広告による人権侵害など、企業活動がさまざまな人権に影響を与えているなか、企業はどのようにその責任を担うべきなのでしょうか。

近年では2015年9月の国連サミットで採択された国際目標としてのSDGs(持続可能な開発目標)を取り込む動きもあるなか、本講義では多くの企業のCSR実務に取り組まれている秋山講師に講演をお願いします。ぜひご参加ください。

**日時：11月26日(火) 1限 9:00~10:30**

講師：秋山映美氏(株式会社クレアン)

担当：総合情報学部 総合情報学科 小瀬 博之 教授

参加方法：川越キャンパス教室にお集まりいただき、講師に講義いただきます  
川越以外の学生はWeb(Google Meet)にて参加も可能です。

事前申込制：以下のGoogleFormsから参加申し込みして頂いた方へ、イベント前日までに当日の参加URLをお送り致します  
<https://forms.gle/bmS87i1zkbN2VWMx7>  
申込締切：11月17日





お問い合わせ先  
東洋大学 ボランティア支援室  
☎03-3945-7927  
✉mlvolsup@toyo.jp

## 東洋大学 SDGs Weeks 2024

貧困に対する支援/公的扶助論/低所得者福祉論 公開講座

子ども・若者の生きづらさと居場所支援  
~支援現場からみた公的支援の課題~

地域で大人と出会う第三の居場所としての「滝野川子ども食堂」、10代から20代の生きづらさを抱える若者たちの居場所支援等を行う「NPOサンカクシャ」。「トー横」「グリ下」に集う若者たちに通じる生きづらさを抱える子ども・若者に日々向き合い支援を行っておられるお二人から、支援で出会う子ども・若者やかれらが抱える生きづらさの背後にあるもの、公的支援の課題についてお話をいただきます。本学学生であれば特別にどなたでもご参加いただけます。是非ご応募ください。

**日時：12月2日(月)2限 10:40~12:10**

講師：根本真紀氏(生活困窮者支援を行うソーシャルワーカー)

・根本真紀氏は若者支援を行うNPO法人サンカクシャの居住支援スーパーバイザー等を行うソーシャルワーカー。サンカクシャでは、家族の暴力やネグレクト等で親がいない/親に頼ることができない若者に居場所や就労・住まいの支援を行っている。

講師：我妻澄江氏(一般社団法人COCOROごほん代表理事)

・保護司。COCOROごほんでは、主催する月2回の「滝野川子ども食堂」だけでなく、学習支援教室、長期休暇中の昼食付居場所支援、ファミリープログラムなど、地域の子どもの困りごとに対して、家庭に寄り添い細やかな支援を行っている。

担当教員：川原 恵子(福祉社会デザイン学部 社会福祉学科)

参加方法：対面形式(20208教室)・Web形式

事前申込制：以下のGoogleFormsから申込  
<https://forms.gle/JZJHzoZdDBV24jWu7>  
申込締切：11月29日  
\*使用言語日本語





お問い合わせ先  
東洋大学 ボランティア支援室  
☎03-3945-7927  
✉mlvolsup@toyo.jp

# セラピードッグ ふれあい体験

2024.12.5(木)

① 10:00~11:30 (学生のみ)  
② 13:10~13:55 (一般の部)  
場所: 東洋大学 赤羽台図書館1F グループ学習室  
定員数: ①②各15名  
※①②とも学生参加可能

動物セラピーで活躍しているわんこたちが、赤羽台キャンパスにやってきます。年の瀬に向かって何かとお疲れ気味なこの時期、ひとときわんこたちとふれあって、なごみの時間を過ごしてみませんか?

主催: 東洋大学人間科学総合研究所  
共催: 福祉社会開発研究センター・赤羽台図書館・社会福祉学専門演習(佐藤ゼミ)  
協力: 公益社団法人日本動物病院協会(JAHA)  
開催場所: 東洋大学赤羽台キャンパス図書館1階学習室(〒115-8650 東京都北区赤羽台1-7-11)  
問合せ先: 東洋大学人間科学総合研究所 (sodan7643@toyo.jp)  
申込先: <https://forms.gle/HavNAM2GbQfN583P9>  
申込締切: 2024年12月1日(日) 23:55まで



参加申込用QRコード

# 生理痛体験イベント

~あなたが知らない私の痛み~

主催: Toyo-MeWプロジェクト  
東洋大学 国際共生社会研究センター  
協賛: 大阪ヒートクール株式会社

日時: 2024年12月9日(月) 14:45-16:15  
場所: 白山キャンパス スカイホール  
定員: 学生20名、教職員20名  
問合せ: 都築 郁昭 (s1G102301922@toyo.jp)  
参加申込み: 右のQRコードより、フォームに記入ください。

申し込みはこちら/



## プログラム

14:30-14:50 受付開始(開場)  
14:50-15:00 Toyo-MeWプロジェクト・企業様説明  
15:00-15:45 生理痛体験(体験に伴う諸注意・研修)  
15:45-16:15 フィードバック

**Toyo-MeWプロジェクト**  
月経をめぐるウェルビーイングを掲げるプロジェクトです。学生たちの思いが大学に伝わり、2024年4月から東洋大学全キャンパスで生理用品の無料配布が実現しました。本イベントは、男子メンバーが身をもって月経を理解したいという思いで企画しました!

**大阪ヒートクール株式会社**  
生理痛体験装置やサーモグラフィーを提供し、IoT関連機器の研究開発・製造・販売およびコンサルティング業を行なっている。



# SMILE F LAOS

Smile F LAOS 11th

//おいしいを支援に//

**ラオスコffee販売会**

**[12月10日(火) 10時~18時]**

白山キャンパス  
6号館1階 学生部前

**MENU**

中煎り・深煎り  
100g/900円(豆・粉)  
200g/1500円(豆・粉)  
ドリップパック(10個セット)/150円

# SDGsワークショップ

障がい学生と作るインクルーシブキャンパス  
~ゼロから学ぶソーシャルサポート~

日程: 2024年12月11日(水)  
時間: 14:45~16:15  
場所: 東洋大学白山キャンパス1号館7階10教室(1710教室)

皆さんは、『キャンパスソーシャルワーカー』の存在を知っていますか? 大学で困ったことがあったら、抱え込まずに、気軽に相談に行きましょう!

**講師**  
東洋大学キャンパスソーシャルワーカー  
・梅田 典子(うめだ のりこ)さん  
・大塚 桃子(おおつか ももこ)さん

**内容**

- 障がいについての理解を深める!
- 障がいを体験してみよう!
- 東洋大学における障がい学生支援の取り組みを知る!
- 当事者のお話が聞けるかも?!
- 学生同士で問題意識を共有して話し合おう!

申込フォームはこちら  
定員: 20名程度  
(先着順でお受付します)

主催: 東洋大学SDGsアンバサダー(D&Iチーム)  
協力: 東洋大学ウェルネスセンターピアサポートルーム  
お問い合わせ: 東洋大学ボランティア支援室  
[mlvolsup@toyo.jp](mailto:mlvolsup@toyo.jp)



## 【ゆる雑▽】 ～見えない『壁』を見てみよう～

学内にあるボランティア登録団体の代表に、団体のこと・個人的なこと・活動にかける想いなどを聞いて、ゆる〜く雑談してみよう!!

### ゲスト紹介



成瀬 響之  
(Naruse Kyono)

#### 【バリアフリーサークル「歩み」

「障害の有無にかかわらず、意見交換・交流できる場をつくる」をコンセプトに活動を行っています。



遠藤 理歩  
(Endo Riho)

#### 【Toyo-MeWプロジェクト】

月後を取りまく環境改善を目的として、東洋大学全キャンパスでの生理用品無償配布を実施しています。

日時：2024年12月13日（金）13:00-14:00

※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。

会場：東洋大学白山キャンパス 雨水会館 1F 学習室

参加申込：下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。

お問い合わせ先：s1G102301922@toyo.jp(都築 郁昭)  
東洋大学ボランティア支援室学生サポートスタッフ



## ボランティア入門講座 IN 白山

ボランティアについて、参加者同士交流しつつクイズを交えながら楽しく学ぶオンラインセミナーです。冬休みや春休みに向けて、ボランティアが「何かちょっと気になってる」というくらいの感覚で参加していただいても構いません。気軽な気持ちで参加してみてくださいね。

### 講師紹介



日比野 勲  
(Hibino Isao)

ボランティアコーディネーター  
(東洋大学ボランティア支援室、多摩大学学生社会ボランティアコーディネーター、東京工科大学 非常勤講師)



豊田 陽梨  
(Toyoda Hinari)

東洋大学 経済学部総合政策学科2年  
東洋大学「チボラ」白山キャンパス副代表



中津 拓人  
(Nakatsu Takuto)

東洋大学 経済学部国際経済学科3年  
東洋大学SDGsアンバサダー  
ボランティア支援室学生サポートスタッフ

日時：2024年12月16日（月）11:00-12:30

※終了後、参加者間の交流を目的に、自由参加の交流会を実施予定です。

会場：白山キャンパス 雨水会館1階 学習室

参加申込：下のQRコードより、申し込みフォームに必要事項をご記入ください。



お問い合わせ先：東洋大学エクステンション課  
03-3345-7327 mlvolsup@toyo.jp  
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階

## SDGsカフェ



### 私たちは生きづらいのか？ ～若年層の生きづらさを考えてみよう～



講師：陶 嘉禎さん  
東洋大学ボランティア支援室  
ボランティアコーディネーター

若者を取り巻く環境から  
自己理解・他者理解を深めよう！  
当事者意識を持って  
SDGsアクションを起こそう！

#### 楽しく学ぼう

個人ワークやグループワークのパートも用意しています！初参加・他キャンパスの学生1人での参加も大歓迎です!!

#### 「問題」を考える

虐待・いじめ・障害  
自殺・貧困・ひきこもり  
性的マイノリティ・精神疾患  
ヤングケアラー・不登校  
ひとり親家庭等

#### お申し込み



対象：東洋大生(先着30人)

日時：2024/12/17(火) 18:15~19:45

会場：東洋大学 赤羽台キャンパス  
WELLB HUB-2 5階 ボランティア支援室分室

東洋大学SDGsアンバサダーの学生と一緒に学ぼう!!

東洋大学SDGsアンバサダーは、学生目線のSDGsアクションをテーマに、今回のSDGsカフェのようなイベントを多数企画しています。Instagramでさまざまな情報を発信しているので、ぜひフォローお願いします!



運営：東洋大学SDGsアンバサダー(赤羽台チーム)

問い合わせ (ボランティア支援室)：mlvolsup@toyo.jp



## 小学生のための オープンキャンパス @白山

# 東洋大学

## キャンパス

**参加費 無料**

東洋大学って、どんなところ？  
どんな学部がどんな勉強をしているの？  
大学で取り組むSDGsって？

現役の東洋大の学生が、小学生向けに1日限りのキャンパスツアーを行います。

2024年  
**12月21日(土)**  
午前11時～14時半(予定)

**申込み**

右のQRコードからLINE友達追加後、お申込みいただけます。詳しくは裏面をご確認ください。

**対象** 小学校1～6年生(保護者同伴)  
\*時間が長いので、3年生以上がお勧めです。

**募集** 8組(児童および保護者)程度

**家族数** または合計30人まで

**企画者** はじめまして!今回キャンパスを案内します“東洋大学SDGsアンバサダー”です。私たちはSDGs活動の充実・発展を図るため、学生発のSDGsアクションを実施しています。2024年度は東洋大学の大学生93名が認定されています。

**共催** 共育会(横浜市市民協働推進センター登録団体)

インスタのフォローもお願いします!!

ポラ室  
学生スタッフ  
による

東洋大学

# ボランティア 相談会

こんな方におすすめ

- ボランティアに興味がある方
- ボランティア情報が欲しい方
- ボランティアで人のためになりたい方

【開催概要】※白山キャンパス開催

開催日程：1/6(月) 6306教室 10:40～14:30 (2限・昼休憩・3限)  
 1/7(火) 6306教室 12:10～14:30 (昼休憩・3限)  
 1/8(水) 6305教室 12:10～14:30 (昼休憩・3限)  
 1/9(木) 6313教室 12:10～14:30 (昼休憩・3限)  
 1/10(金) 6320教室 12:10～14:30 (昼休憩・3限)

内容：ボランティアについて分からないこと、疑問など、なんでも相談対応します！

参加方法：申し込み不要です！  
当日開催場所にお越しください。

主催：東洋大学ボランティア支援室  
運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

【お問い合わせ先】  
東洋大学ボランティア支援室  
E-mail: mlvolsup@toyo.jp

ポラ室  
学生スタッフ  
による

東洋大学

# ボランティア 相談会

こんな方におすすめ

- ボランティアに興味がある方
- ボランティア情報が欲しい方
- ボランティアで人のためになりたい方

【開催概要】※赤羽台キャンパス開催

開催日程：1/7(火), 1/9(木), 1/14(火), 1/16(木)

開催場所：WELLB・HELSPD連絡通路(3階)

時間：12:10(昼休憩)～14:30(3限)

内容：ボランティアについて分からないこと、疑問など、なんでも相談対応します！

参加方法：申し込み不要です！  
当日開催場所にお越しください。

主催：東洋大学ボランティア支援室  
運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

【お問い合わせ先】  
東洋大学ボランティア支援室  
E-mail: mlvolsup@toyo.jp

# スペシャルオリンピックス

## 1.9 (木) 12:10～12:50

スペシャルオリンピックスを通じて  
スポーツトレーニングと  
その成果の発表の場である競技会  
を提供している国際的なスポーツ  
組織です

チャリーディングの発表もあります！  
ご飯を食べながら  
も大歓迎です！  
ぜひ来てください！

場所:東洋大学赤羽台キャンパス事前申し込み制  
WELLB HUB-2 5階 20508教室  
申し込みはこちらから⇒

主催:SDGsアンバサダー  
共催:認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京  
お問い合わせ先:(ボランティア支援室)mlvolsup@toyo.jp

Presented by 東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

## 東洋大学ボランティアカフェ

### シゴトにつながる？まちづくりボランティア！

～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう～

2025年1月10日(金) 11:00～12:30  
東洋大学白山キャンパス 6号館6303教室  
および オンライン開催 (ZOOM)

ボランティアカフェ(ボラカフェ)は、お茶やお菓子を片手に、気楽な気持ちでボランティアのことや、地域・まちづくりの話などが聞ける交流型トークセッションです。普段の授業では出会えないような、人や世界との出会いがあるかも？

お問い合わせ：東洋大学ボランティア支援室  
(東洋大学白山キャンパス 雨水会館1階)  
TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvolsup@toyo.jp  
URL: https://www.toyo.ac.jp

※開催日を含む1/6(火)～1/10(金)の期間、ボランティア支援室学生サポートスタッフによるボランティア相談会も、白山キャンパス6号館で開催中です！(右QRより)

ボランティアの報告を  
したいのですが...

東洋大学 交流が生まれました

# ボランティア コレクション

ボランティアが  
好きです

いや、私の方が  
好きです

東洋大学のボランティアに  
詳しくなりすぎて怖いです

**開催日時**  
2025年2月3日(月) 13:00~17:00

**会場**  
東洋大学白山キャンパス スカイホール

**プログラム**  
第1部：活動報告会  
第2部：お茶会（交流会）

**主催**  
東洋大学ボランティア支援室  
学生サポートスタッフ

**お問い合わせ**  
東洋大学ボランティア支援室  
mlvolsup@toyo.jp  
学生サポートスタッフ  
toyo.vc.sstaff@gmail.com

参加申し込みはこちらから！



川越の森で、ワークショップを通じて木と親しみ、後日そこの体験を  
素材に、子どもたちに向けて環境教育を行うボランティアプログラム！



その木は  
どこから来て  
どこへいくのか

子ども向け環境教育ワークショップを  
企画し、実行しよう！

2025.2.8 (SAT)  
10:00~13:00  
東洋大学川越キャンパス



申し込みはこちらから

主催：東洋大学ボランティア支援室  
多摩大学学生社会ボランティアコーナー  
協力：一般社団法人東京学芸大学Explayground推進機構  
木育研究所、一般社団法人kiki



2025年2月13日(木)  
13:00~16:15  
東洋大学 白山キャンパス



## いのちを守る 安心なトイレプロジェクト 春休みワークショップで 防災意識を高めよう！

講師：スターライト工業株式会社 北村 健 氏

災害時のトイレから  
防災を考える  
講義と実演の2部構成



<申し込みフォーム>  
応募締め切り：2025年2月6日(木)



先着50名程度  
学生・教職員の方で  
防災に興味のある皆さん  
お待ちしております！

お問い合わせ先：mlvolsup@toyo.jp  
(ボランティア支援室)



東洋大学課外活動研究会

## 能登半島地震の経験を経て、 首都圏での大規模災害にどう備える？ ～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～

2024年1月、「令和6年能登半島地震」が発生しました。石川県能登地方を震源とする、マグニチュード7.6の大規模地震。元日に発生したことで世間に衝撃を与え、「地震災害は、いつ起きるかわからない」という現実を見せつけることとなりました。被災した地域のうち、特に奥能登地方は道路事情による復旧の遅れが顕著となり、断水が長く続いたことによる厳しい被災生活を余儀無くされたという状況が発生しました。

首都圏においても、「首都直下型地震」の発生が懸念され、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると懸念されています。今回の体験型プログラムは、大規模地震災害が発生し、大学に留まることになった際にどのように対応するかをシミュレーションで学びながら、併せて関東大震災の教訓から、大規模災害への備えを学びます。

2/14 (金) 18:00~	<b>1 日目</b>	18:00-19:00 オリエンテーション 学生ボランティア団体活動紹介 (能登半島地震ボランティア活動含む) 19:00-20:30 避難スペース運営 20:30-22:00 体験プログラム ※夕食づくり(防災食の準備) 簡易トイレづくり他	<p><b>参加費</b> 無料</p> <p><b>定員</b> 20名 先着順</p> <p>対象：学部生のみ 大学院生、通信生の方は お申込みいただけません。</p>
2/15 (土) ~12:30	<b>2 日目</b>	7:30-9:00 体験プログラム ※朝食づくり、撤収 9:00-11:30 IVUSA、SDGsアンバサダーによるワークショップ 11:30-12:30 ふりがえりとわかちあい	

**申込方法**

申込方法：右のQRコードより申込フォームに入力してください。  
申込期間：2025年1月8日(水)~2月7日(金)  
※先着順での受付となり、定員に達し次第受付を締め切ります。  
※申し込み後キャンセルをする場合、すみやかにご連絡ください。



お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室  
TEL：03-3945-7927  
MAIL：mlvolsup@toyo.jp



ボランティア支援室  
各企画資料

東洋大学学生課外活動育成会企画  
**学部生対象**

プログラム参加費 ※  
**無料**



※ ただし交通費・嗜好品代は各自負担となります

**2024**  
**ワークキャンプ プログラム**

豊かな自然の中で 地域とかがわる **旅** に出ませんか？

益子コース / 栃木県茂木町・益子町

主催 東洋大学ボランティア支援室

**ゼロからぼら活!**  
一緒にさがそう あなたの一步

「ぼら活」で ボランティア体験!

「ゼロからぼら活!」とは…  
さまざまな団体さんがブースを出展し、普段の活動を体験できるだけでなく、団体さんの活動について深く知ることができるなど、1日でいろいろなことをゼロから体験し、学ぶことができるイベントです!  
「ゼロぼら」を通して活動の楽しさを知り、「あなたの一步」を見つけませんか?

出展団体 ブース内容 ※50百席

①音訳団体「音訳体験」	⑦文京区社会福祉協議会ボランティア担当「自宅ボランティア体験」
②カーレットジャパン協会「カーレット体験」	⑧文京区社会福祉協議会ボランティア担当「特技ボランティア」
③共用品推進機構「ユニバーサルデザイン」	⑨隣人の日・共創ワークショップ「お絵描きワークショップ」
④サークル六点会「点訳体験」	⑩ワールド・ビジョン・ジャパン「水汲み体験」
⑤セーブ・ザ・チルドレン	
⑥東洋大学生「災害ボランティア活動」	

ホームページはこちら ▶ 

令和7年  
**2月16日** 10:00~15:00 (出入り自由)

対象 小学生以上 費用 無料

会場 文京区民センター3階3A会議室(文京区本郷4-15-14)

申込 フォームからお申込みください。▶ 

問合せ 文京区社会福祉協議会 地域連携ステーション ボランティア担当 ☎03-3812-3114

・10:00~15:00まで開催しておりますので、お好きな時間にお越しください。  
・小学生以上の方はどなたでも参加いただけますので、お気軽にご参加ください!

あれから  
**14**  
年

**募集開始**

被災地のまちづくりを考え、発信する  
スタディツアー (2泊3日)

**2/16~18**  
宿泊・交通費 **無料**

学生課外活動育成会企画 ボランティア支援室主催

群馬県 甘楽町  
**地域おこし協力隊**  
**インターン参加者募集**

濃厚存2週間  
10日間で **120,000** 円支給

地域おこし協力隊って?  
一定期間地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行う取組です。今回、甘楽町より特別に「東洋大生」枠が用意されました。町長名による委嘱状が交付され、履歴書に記載可能な職歴となります。ここで得た経験を **ガクチカ** としてアピール!

どんな人が向いている?  
・甘楽町に興味がある  
・商品開発に携わりたい  
・知らない土地で暮らしてみたい  
・体を動かしたい  
・地域の方と交流したい  
・就活でアピールポイントにしたい

インターン期間は?  
春季休暇中 各クールごとに3名募集  
第1クール 2月18日(火)~3月4日(火)  
第2クール 3月4日(火)~3月18日(火)

宿泊所 

詳細はこちら 

お問い合わせ ボランティア支援室 mlvolsup@toyo.jp 03-3945-7605

東洋大学 学生課外活動育成会 支援事業

\*あなたはなぜそのボランティアをはじめましたか？  
\*なぜそのボランティアを続けていますか？

## ボランティアやっただけ で終わらせないための 「対話のシカタ」

「自分」×「他者」×「社会」の関わりを、  
ボランティア活動のふりかえりを通じて考える時間をつくります。

### ○日時・会場

白山キャンパス開催：2025年2月4日（火）16:00～18:00  
@東洋大学白山キャンパス 雨水会館3階 301教室

### ○参加費：無料

○参加の方法：右のQRコードより申し込みフォームにアクセスし、必要事項

を入力の上送信してください。（先着順、定員に達し次第締切）

○主催：東洋大学ボランティア支援室

○運営：東洋大学ボランティア支援室サポートスタッフ

○ファシリテーター：大内田絢加さん（フリーランス）



申し込みフォーム

【お問い合わせ先】 東洋大学ボランティア支援室  
(TEL) 03-3945-7927 (e-mail) mlvolsup@toyo.jp



大学生活でボランティアしたけど、その後じっくり  
振り返りたけどももしたことがないなあ・・・

## IKEA港北 CSRスタディーツアー

IKEA港北を見学して  
IKEA港北の店長にお話を伺います！

**募集人数** 20名

**活動日時** 3/21（金）10:00～12:30

希望者は12:30～スウェーデンレストランでランチ  
※ランチは自己負担となります。

**活動場所** I K E A 港北

<https://www.ikea.com/jp/ja/stores/kohoku/>

集合場所などの詳細は後日メールにてお知らせします。

サステナブルな暮らしとは？

イケアの地域活動とは？

環境への取組みとは？

様々な社会貢献活動の取組みを学びます。



2/28締切

↓お問い合わせ先  
ボランティア支援室  
mlvolsup@toyo.jp

申込はこちら



# 2024年度 ボランティア支援室 資料・記録

## ボランティア支援室 ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。

概要は以下のとおり。

### 1. 実施コース

- A. 概要説明・ワーク (注)・白山キャンパスボランティア支援室見学 90分コース
  - B. 概要説明・ワーク (注) 60～90分コース
  - C-1. 概要説明 30分コース
  - C-2. 概要説明 ※映像によるガイダンス 30分コース
  - D. Web紹介動画の利用 (YouTube動画でのご案内) 30分程度
- (注) ワークはディスカッション等を行います

### 2. 実施日時

授業期間に授業単位での実施

### 3. 申込方法

- ① ボランティア支援室サイト内のお申し込みフォームにご入力
  - ② 別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室 (白山キャンパス・甫水会館1階) に電子メールまたは直接提出
- ① ② のいずれかの方法でお申込ください。

### 4. 実施実績 (2024年度)

8件

### 5. 受講者の感想 (抜粋)

今回の動画を視聴して、ボランティア活動には自主性が大切であるということ、そして、ボランティア活動を行おうと動こうとしている人をサポートする為に、“ボランティアセンター”があるということを知ることが出来ました。ボランティアが社会を形成する上で重要な役割を持っており、重要度を理解している人が少ないことである。ボランティアコーディネーターの日比野さんの話を聞く上でボランティアは他者の利益のためでなく、自分のためになると感じた。

ボランティアに関する知らなかった情報を多く知ることができた。特にボランティアコーディネーターという資格を知らなかったため、ボランティアコーディネーターがどのような役割を担っているのかという説明が興味深かった。ボランティア活動を支えるため、ボランティア活動を紹介したり、人や団体同士を繋げる役割を果たしているボランティアコーディネーターはボランティア活動の発展のために必要不可欠であると感じた。

## 東洋大学ボランティア支援室 事務運営要領

### 第1 趣旨

この要領は、東洋大学ボランティア支援室要項（以下「要項」という。）第18条に基づき、東洋大学ボランティア支援室（以下「支援室」という。）の運営等に関し必要な事項を定める。

### 第2 専門スタッフの任用及び職務等 ※要項第7条関係

支援室の室員である専門スタッフの任用及び職務については、次のとおりとする。

#### 1. 任用

- (1) 専門スタッフの数は、1名とする。ただし、事情により2名で第3号の出勤日を分担し、勤務させる場合がある。
- (2) 身分は、原則として専任教職員（嘱託者を含む。）とする。ただし、専門的な業務を担うことから、業務請負契約に基づく者とする場合がある。
- (3) 勤務は、原則として平日（週5日）、10:00～18:00（7時間）とする。
- (4) 専門スタッフの呼称を「ボランティアコーディネーター」とすることができる。
- (5) 勤務に当たっては、行事等の必要に応じて、時差出勤及び土曜日、日曜日又は祝日に勤務する場合がある。日曜日又は祝日に勤務する場合、振替休日を取得させる。

#### 2. 主な職務

職務は、要項第4条に規定する業務内容に準じて、次のとおりとする。

- (1) 支援室の方針及び業務計画の企画、立案及び調整に関する業務
- (2) ボランティア派遣団体の開拓に関する業務
- (3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する業務
- (4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する業務
- (5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する業務
- (6) ボランティア活動に伴う事前説明会、講習会、報告会及び交流会等の企画及び実施に関する業務
- (7) 前各号のほか、支援室の実施運営に当たって必要な業務

### 第3 専門部会 ※要項第14条関係

専門部会の構成、役割及び運営については、次のとおりとする。

#### 1. 構成

- (1) 室長が、ボランティア支援室運営委員会（以下「運営委員会」という。）の委員（原則として、学生部長及び教務部長を除く。）のうちから数名を委嘱する。  
※専門部会員の発令は、作業部会として支援室事業の企画立案等、重要な役割を担い、かつ、開催頻度が多くなることから特例措置とする。
- (2) 室長（専門部会議長を兼ねる。）は、専門的な観点から、運営委員会委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

#### 2. 役割

- (1) 運営委員会からの専門的な事項についての調査審議
- (2) 支援室業務に係る企画立案等の作業支援
- (3) ボランティア活動の視察及びトラブル等が生じたときの調査訪問（事故対応を含む。）
- (4) その他必要な事項

### 3. 運営

必要に応じて開催する。

## 第4 評価委員会 ※要項第16条関係

評価委員会の構成、役割、評価方法及び運営については、次のとおりとする。

### 1. 構成

- (1) 本学の専任教員 若干名
- (2) 学外の関係機関等 若干名

### 2. 役割

支援室が実施したボランティア活動等業務内容の評価及びその結果に対する助言を行う。

### 3. 評価方法

別に定める支援室業務内容の現状及び課題の改善策への自己点検評価内容と、今後のプログラム計画内容を評価資料とし、各評価委員から個別に評価結果を記述してもらう。

### 4. 運営

- (1) 業務の進捗状況、将来計画等を踏まえ、必要に応じて開催する。
- (2) 室長の求めに応じて評価及び助言を行い、その結果を室長へ報告する。

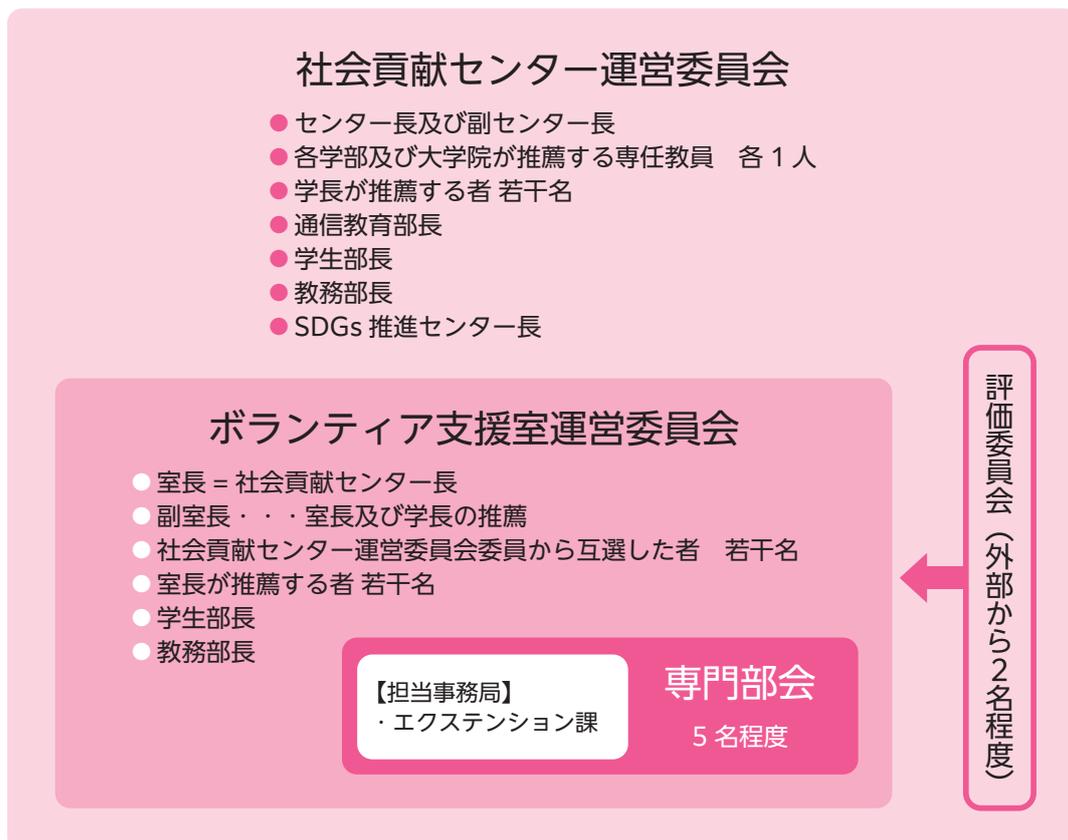
## 第5 改正

この要領の改正は、室長が運営委員会の意見を聴いて行う。

## 附則

この要領は、2021年4月1日から施行する。

## 組織図



## ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所 属	氏 名
室 長	高 山 直 樹

東洋大学ボランティア支援室要項第5条による  
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
文 学 部	堀 本 麻 由 子
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之
生 命 科 学 部	川 口 英 夫

東洋大学ボランティア支援室要項第9条2号による  
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

所 属	氏 名
室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
室 長 推 薦 (社会学部)	村 上 一 基
室 長 推 薦 (国際学部)	子 島 進
室 長 推 薦 (福祉社会デザイン学部)	内 田 塔 子

東洋大学ボランティア支援室要項第9条3号による  
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

## 専門部会委員名簿

所 属	氏 名
文 学 部	堀 本 麻 由 子
法 学 部	谷 釜 尋 徳
社 会 学 部	村 上 一 基
国 際 地 域 学 部	子 島 進
福 祉 社 会 デ ザ イ ン 学 部	内 田 塔 子
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之

東洋大学ボランティア支援室要項第14条および事務運営要領第3条1号(1)による  
(任期：2023年4月1日～2025年3月31日)

## (参考) 東洋大学 4キャンパスの学部配置

キャンパス	特 徴
白山 (東京都)	文系7学部(文、経済、経営、法、社会、国際、国際観光) 特に社会学部や国際学部、国際観光学部でボランティア活動が盛んにおこなわれている。 また、ボランティアサークルも多数存在。
川越 (埼玉県)	理系2学部(理工、総合情報) キャンパスと地元(鶴ヶ島市、川越市)との連携して正課内外で多くの活動が行われている。
朝霞 (埼玉県)	理系2学部(食環境科、生命科) 学部の特色を活かした地域への貢献活動を中心に展開されている。
赤羽台 (東京都)	情報連携学部、社会福祉デザイン学部、健康スポーツ科学部 情報連携学部：2017年に新設された新しい学部 福祉社会デザイン学部：2023年度開設 健康スポーツ科学部：2023年度開設 社会福祉、子ども支援、健康スポーツ等学科の学びは広く、それぞれにボランティア活動も行われている。

# 2024年度 ボランティア支援室運営委員会・専門部会活動記録

## 第1回：2024年4月4日(木)【書面会議】(運営委員会及び専門部会) 審議依頼事項

1. 東洋大学学生団体による社会貢献活動プロジェクトに対する助成事業選考【追加】について
2. 東洋大学SDGsアンバサダー募集について

### 報告事項

1. 2024年度SDGsアンバサダー(団体)手続きについて

## 第2回：2024年4月24日(水)【書面会議】(運営委員会及び専門部会) 審議依頼事項

1. 2024年度ボランティア支援室運営委員、専門部会委員について
2. 2024年度ボランティア支援室企画について
3. 2024年度学生課外活動育成会取扱要領について
4. 2024年度学生課外活動育成会企画一覧について
5. ボランティア支援室企画について
  - ・b-lab見学ツアー
  - ・カンボジアフェスティバル
  - ・東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」
  - ・はばたけ!ボランティアの森「赤羽台キャンパスボランティア合同新歓2024」
  - ・富士樹海清掃ボランティア【学生課外活動育成会】
  - ・SDGsアンバサダー「ウォーターサーバープロジェクト」事前アンケート・ボランティア支援室サポートスタッフ募集
6. ボランティア支援室専門部会委員スケジュール確認について(エクセルデータ)

### 報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(2023年度)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. SDGsアンバサダー募集について(中間報告)
3. 2024年度授業支援について

## 第3回：2024年6月7日(金) 12:20~(専門部会)

### 審議事項

1. 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
2. ボランティア支援室企画について
3. 社会貢献活動助成金(追加募集)について
4. 東洋大学「令和6年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業について
5. 能登半島地震ボランティア(夏季)について
6. その他

### 報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(4月)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. 学生課外活動育成会企画報告
  - ・樹海清掃ボランティア
3. ボランティア支援室企画報告
  - ・TOYO 1Day ボランティアプログラム「カンボジアフェスティバル2024」運営ボランティア活動
  - ・東洋大生がワークショップで考えるSDGs「身近なものから持続可能な開発について考えてみよう」
  - ・Toyo 1Day プログラム(見学会)「b-lab(ビーラボ)」「地域連携ステーション『フミコム』」訪問
  - ・SDGsアンバサダーについて
  - ・ウォーターサーバープレ設置について(SDGsアンバサダーウォーターサーバープロジェクトチームSPRING)
  - ・ウォーターサーバーぐるぐるスタンプラリー
4. 能登半島地震ボランティア報告
  - ・GW能登半島地震災害ボランティア活動(輪島市)
5. その他

## 第4回：2024年9月17日(火)【書面会議】(専門部会) 審議依頼事項

1. 東洋大学「令和6年能登半島地震」被災地支援ボランティア活動助成事業能登半島ボランティア助成金について
2. 2025年度予算要求について

- ・学生課外活動育成会費廃止に伴う、予算要求
  - ・能登半島地震支援活動に伴う予算要求
3. 2024年度SDGs Weeksについて
  4. 2024年度学生課外活動育成会企画について
    - ・2024年度夏季被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー
    - ・NICE日本国際ワークキャンプセンタープログラム(夏)
  5. ボランティア支援室企画について
    - ・群馬県甘楽町地域おこし隊インターン
    - ・夏季能登半島地震ボランティア活動報告会
    - ・SDGs Week EXPOエコプロ2024出展
  6. 全学総合科目SDGs実践講座～17ゴールへの第1歩～開始について

#### 報告事項

1. ボランティア支援室利用状況報告(2024年8月まで)(授業内ボランティア支援室ガイダンス申込状況)
2. ボランティア支援室活動報告
  - ・ボランティア入門講座
  - ・TOYO Parasports Day ブラインドサッカー編プレ実施(SDGsアンバサダーD&Iチーム)
  - ・食品ロスを減らそう!食料配布会
  - ・そなエリア東京フィールドワーク(SDGsアンバサダー防災・まちづくりチーム企画)
  - ・パラスポーツ体験会in東洋大学PARASPORTS DAY TOYO Parasports Day
  - ・①トランスジェンダーから見える“世界”と“共生”(白山)、②同タイトル(赤羽台)講演会
  - ・SDGs団体アンバサダーのSmile FLAOSコーヒー豆の販売会について
  - ・文京区クールアースフェア(SDGsアンバサダー参加)
  - ・SDGsアンバサダー合宿(SDGsアンバサダー企画)
  - ・富士山清掃ボランティア(課外活動育成会企画)

### 第5回：2025年2月5日(水)【書面会議】(専門部会)

#### 審議依頼事項

1. 「2024年度【春】国際ボランティア活動支援事業」の選考について
2. 2024年度社会貢献活動に対する表彰について(申請数報告)
3. 春期休暇中の各種企画について
  - ・能登半島ボランティア(春季)
  - ・群馬県甘楽町地域おこし隊インターン
  - ・ドキュメンタリー映画『凧が灯るころ～奥能登、珠洲の記憶～』上映
  - ・Toyo 1dayボランティアプログラム「その木はどこから来てどこへいくのか～子ども向け環境教育ワークショップを企画し、実行しよう～」
  - ・いのちを守る安心なトイレプロジェクト春休みワークショップで防災意識を高めよう!
  - ・「能登半島地震の経験を経て、首都圏の大規模災害にどう備える?～首都直下型地震に備える東洋大学宿泊サバイバル体験」(2024年度)
  - ・NICE日本国際ワークキャンプセンタープログラム(2024春休み)
  - ・被災地のまちづくりを考え、発信するスタディツアー
4. 2024年度学生の社会貢献活動表彰式社会貢献活動報告会について

#### 報告事項

1. 「2024年度【冬】国際ボランティア活動支援事業」の採点結果および活動報告
2. 社会貢献活動企画報告
  - ・SDGsアンバサダー学園祭報告
  - ・おにぎりアクション
  - ・災害救援ボランティア講座
  - ・文京区博覧会(SDGs団体アンバサダー出店)
  - ・【学生団体見本市】フミキャン(文京区地域連携ステーションフミコム主催)2024
  - ・SDGs Week EXPOエコプロ2024出展(SDGsアンバサダー出展)
  - ・能登半島地震、豪雨ボランティア活動ポスター展示(赤羽台、川越、朝霞)
  - ・能登半島復興支援の学生チーム設立
  - ・生理痛体験イベント～あなたが知らない私の痛み～
  - ・SDGsワークショップ「障がい学生と作るインクルーシブキャンパス～ゼロから学ぶソーシャルサポート～」
  - ・SDGsカフェ「私たちは生きづらいのか～若年層の生きづらさを考えてみよう～」
  - ・小学生のためのオープンキャンパスin東洋大学白山キャンパス
  - ・東洋大学ボランティアカフェ「シゴトにつながる?まちづくりボランティア!～まちづくりを「シゴト」にしている人に聞いてみよう!～」

# 2024年度東洋大学ボランティア支援室に対する内部評価結果

(学部：福祉社会デザイン学部 氏名：高山 直樹)

## I 判定 (S~C) : A

- S：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標の達成が極めて高いことが、根拠資料で証明されている。
- A：おおむね、ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動が行われ、目的・目標がほぼ達成されている。
- B：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成がやや不十分であり、改善すべき点がある。
- C：ボランティア支援室の目的、全学的な方針に基づいた活動や目的・目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多く、抜本的な改善が求められる。

## II 総評

本学の創立者井上円了は、学問は自己満足に終わるものではなく、その成果を応用し社会に役立てるものでなければならないとの志をもって、東洋大学を創設した。その理念を具現化するために社会貢献センターを位置づけ、活動を展開している。特に今年度は、能登震災復興支援に傾注したことは、特筆できる。学生、教職員含めて、約200名の参加者があり、活動を展開できたことは、当センターの事前視察および関係者とのつながりをつくってきたことによる。さらに学生たちの活動を支援するための環境づくりを丁寧に行ってきたこと、学生の主体的な活動を組織化できたことは評価に値する。

講師派遣事業は多くの講座を全国に展開し、本学の知を届けることができた。また地域活性化事業も再開し、学部・学科の特徴を活かしつつ、学生が主体となり、地域をアセスメントし、活性化のための分析、企画等の活動ができた。またSDGsを推進する一つの取り組みとしての、SDGsアンバサダーの活動が活発に行われ、約90名の学生のアンバサダーが「カーボンニュートラル」「防災・まちづくり」「パートナーシップ支援」等の5つのチームに所属し、SDGsの目標達成のために、発信、企画の活動を展開できた。

加えて、人生100年時代および卒業生、社会人を対象としたリカレント・リスキリングに関するプロジェクトが発足し、次年度より、具体的企画を実施できた。

以上のように、多くの活動が再開、展開された一方、活動に参画する教員や学生が各学部、学科に偏っている傾向もみられ、学部・学科の教員に対する社会貢献活動の理解の促進、教員の研究や教育の社会化の方向と社会貢献の有機的連動を図っていくことを意識化していくための具体的な方策が課題となる。また赤羽台キャンパスにボランティア支援室が週に2日開設され、SDGsアンバサダーや学生の拠点としての場所が確立できた。また川越、朝霞キャンパスにおいてもセンターの分室等が開設し、朝霞キャンパスにおいては朝霞市との地域連携プロジェクトが発足し、子ども支援活動、環境調査等を行うことができた。

### Ⅲ 概評及び提言

#### 1 理念・目的

##### <概評>

##### ① ボランティア支援室の目的を適切に設定しているか。

本学の建学の精神と社会貢献センターの理念・目的がつながっており、能登震災復興支援、生涯学習、講師派遣事業、地域活性化活動支援事業、SDGs アンバサダー等により目的を達成している。

##### ② ボランティア支援室の目的を明示し、社会や学内と共有しているか

本学ホームページで「ボランティア支援室年報」を公開しており、社会との共有を果たしているが、社会への宣伝等、広報課等との連携を深めていきたい。

##### ③ ボランティア支援室の目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

中長期計画が策定されており、社会貢献活動に関する中期計画が作成され、「人生100年時代の学びのサポート」「前世代型グローバル教育の提供」「東洋大学の知を世界に届ける」など、リカレント・リスクリング、大学院との連動、卒業生の活用などの具体的な施策が検討されており、大学の将来を見据えた形の社会貢献活動を掲げている。

##### <提言>

##### 長所

- ① 多様な学部・学科、研究科を擁し、多様な社会貢献活動を展開する基盤としての、研究・教育活動がある。
- ② 社会貢献活動と卒業生34万人の協働ができる基盤がある。
- ③ 本学理念に根差し、社会貢献を推進していく意欲があり高い資質を持つ事務局職員および体制がある。

##### 改善課題

- ① 活動が多岐にわたり、その活動を調整・支援していく事務局体制の強化が求められる。
- ② 川越および朝霞キャンパスにおける、社会貢献センターの分室の常設設置が求められる。
- ③ 社会貢献活動が教員の研究や教育の発展、社会化していくことにつながっていくという意識の醸成とそれを支える具体的方策（インセンティブ）をつくっていく必要がある。
- ④ 能登震災復興支援における学部・学科の独自性を発揮できる活動をつなげていく必要がある。

以上



2024年度版  
**東洋大学 ボランティア支援室年報**

---

発行 2025年7月1日

東洋大学 ボランティア支援室

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 甫水会館1階

TEL: 03-3945-7927 FAX: 03-3945-7601

